

尼崎市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 (生き生き!!あま咲きプラン) 策定のための アンケート調査結果報告書

令和8(2026)年3月

尼 崎 市

目 次

I	調査概要	1
1.	調査の目的	1
2.	調査概要	1
3.	報告書を見る際の注意事項	1
II	調査結果（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査）	2
1.	回答者の属性	2
2.	体を動かすことについて	10
3.	食べることについて	21
4.	毎日の生活について	24
5.	物忘れについて	31
6.	地域での活動について	35
7.	就労について	54
8.	たすけあいについて	58
9.	健康について	62
10.	高齢者に対するサービスについて	74
11.	今後の生活や高齢者施策全般について	96
III	調査結果（在宅介護実態調査結果）	105
1.	回答者の属性	105
2.	主な介護者について	107
3.	高齢者に対するサービスについて	112
4.	主な介護者の就労状況について	116
5.	生活状況について	122
IV	調査結果（介護人材実態調査〔訪問系、通所・施設系事業所〕）	124
1.	事業所票（訪問系、通所・施設系）について	124
2.	職員の採用、人材等について	127
3.	外国人労働者の受け入れについて	134
4.	事業運営等について	137
V	調査結果（介護人材実態調査〔居宅介護支援事業所〕）	142

1. 事業所について	142
2. 職員の採用、人材等について	144
3. 事業運営等について	149
 VI 調査結果（介護人材実態調査〔職員〕）	 152
1. サービス提供について	152
2. 働き方について	168

I 調査概要

1. 調査の目的

第10期計画（令和9年度から令和11年度）を策定するにあたり、高齢者等の生活状況や健康状態、地域の課題やニーズ等の把握や、介護人材確保・定着の状況を把握し、市における介護や福祉などの事業の充実に向けた基礎資料とすることを目的に実施した。

2. 調査概要

調査種別	配布数	回収数	回収率	前期回収率
① 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	4,000	2,416	60.4%	53.6%
未認定者	2,000	1,316	65.8%	58.6%
要支援認定者	1,000	629	62.9%	56.0%
要介護認定者	1,000	471	47.1%	41.0%
② 在宅介護実態調査	601	601	—	(回収数)601
調査種別	配布数	回収数	回収率	前々期回収率
③ 介護人材実態調査	※2 931	※2 424	※2 45.5%	55.1%
事業所票（訪問系サービス）	422	161	38.2%	48.7%
事業所票（通所・施設系サービス）	319	148	46.4%	62.8%
事業所票（居宅介護支援事業所）	190	115	60.5%	—
職員票（訪問系サービス ※1 一部除く）	1,570	225	—	—

○調査方法：①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査：郵送配布－郵送・WEB回収

②在宅介護実態調査：認定調査員による訪問ヒアリング

③介護人材実態調査：WEB回収

○調査期間：令和8年1月～令和8年3月

※1 訪問看護・訪問リハビリテーションを除く314事業所×5人として母数を仮設定。

※2 職員票は、市内訪問系サービスの全職員を対象としていないため、配布数・回収数・回収率から除外。

3. 報告書を見る際の注意事項

○回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示してある。

○百分率は小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このため、百分率の合計が100%にならないことがある。

○1つの質問に2つ以上答えられる“複数回答可能”の場合は、回答比率の合計が100%を超える場合がある。

○グラフ等の記載にあたっては、調査票の選択肢の文言を一部省略している場合がある。

○年齢別・介護度別等のクロス集計表については、その他を除いて、1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

なお、割合が同じ回答が複数ある場合は、3項目以上に網掛けをしている場合がある。

○サンプル数が少ないものについては、コメントを割愛している。

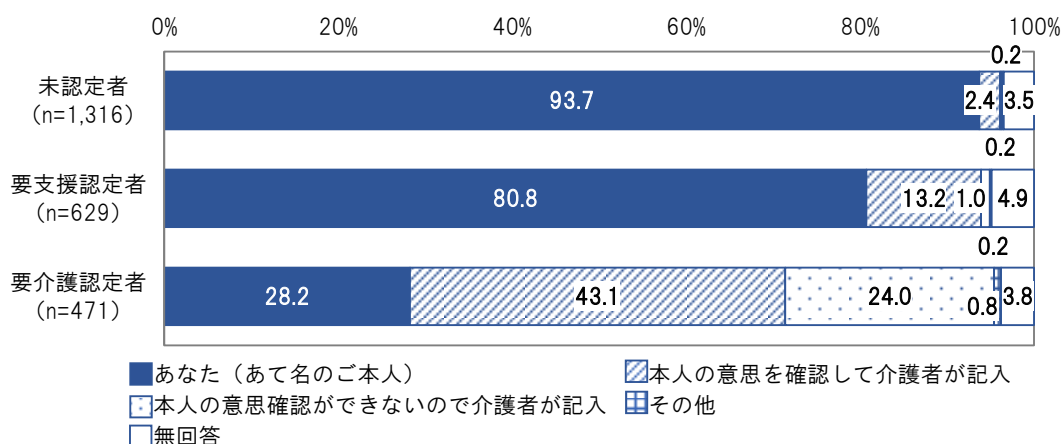
Ⅱ 調査結果（介護予防・日常生活圏域二一ズ調査）

1. 回答者の属性

（1）回答者

問 この調査票に回答しておられる方はどなたですか。（1つに○）

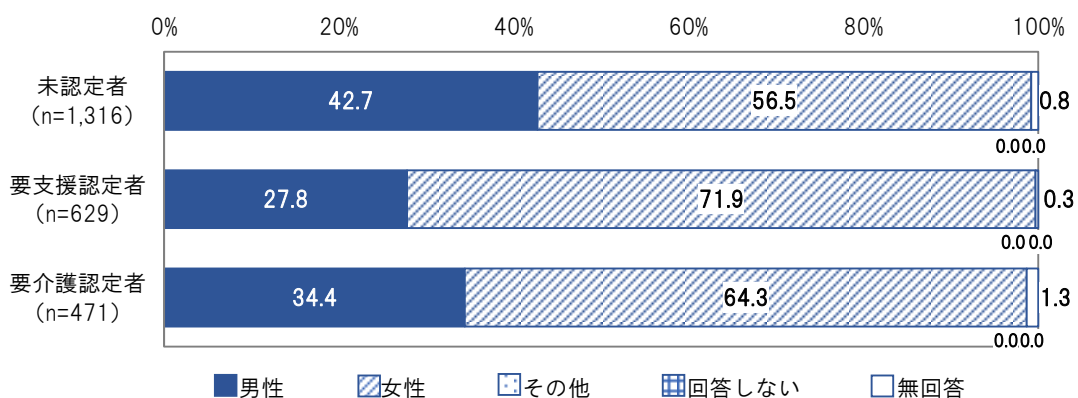
○調査票の記入者は、未認定者・要支援認定者では「あなた（あて名のご本人）」が大半を占めているのに対し、要介護認定者では「本人の意思を確認して介護者が記入」が4割以上を占めて最も高くなっている。



（2）性別

問 あなたの性別をお答えください。自分としての認識でお答えください。（1つに○）

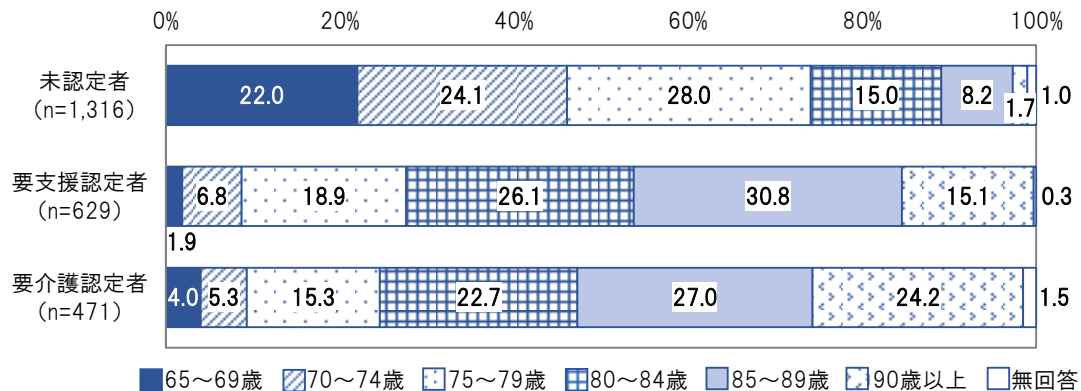
○性別は、未認定者では「男性」が4割を超え、「女性」が約半数となっているのに対し、要支援認定者・要介護認定者では「女性」が6割を超えて高くなっている。



（３）年齢

問 あなたの年齢をお答えください。（１つに○）

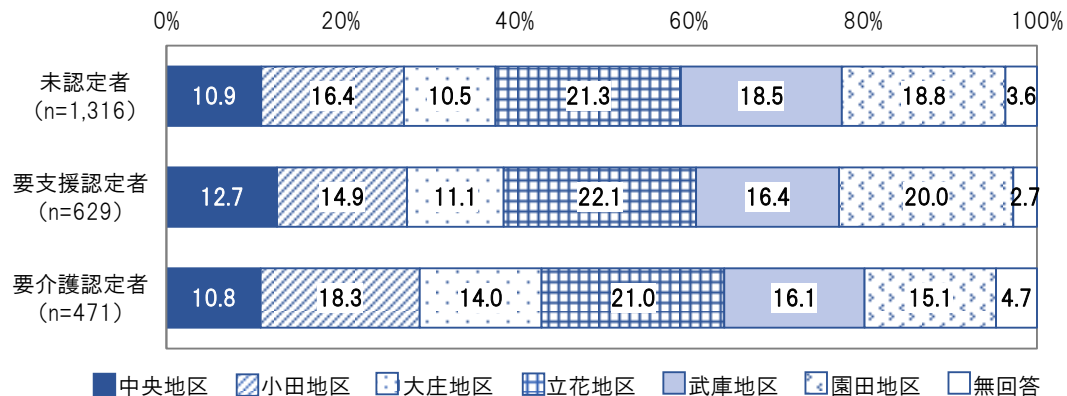
- 年齢は、未認定者では「75～79歳」が約３割と最も高く、次いで「70～74歳」（24.1％）となっているのに対し、要支援認定者・要介護認定者では「85～89歳」が最も高くなっている。
- 未認定者では『前期高齢者（65～74歳）』が約半数となっているのに対し、要支援認定者・要介護認定者では『後期高齢者（75歳以上）』が大半を占めている。



（４）居住地区

問 あなたの現在のお住まいはどこですか。（１つに○）

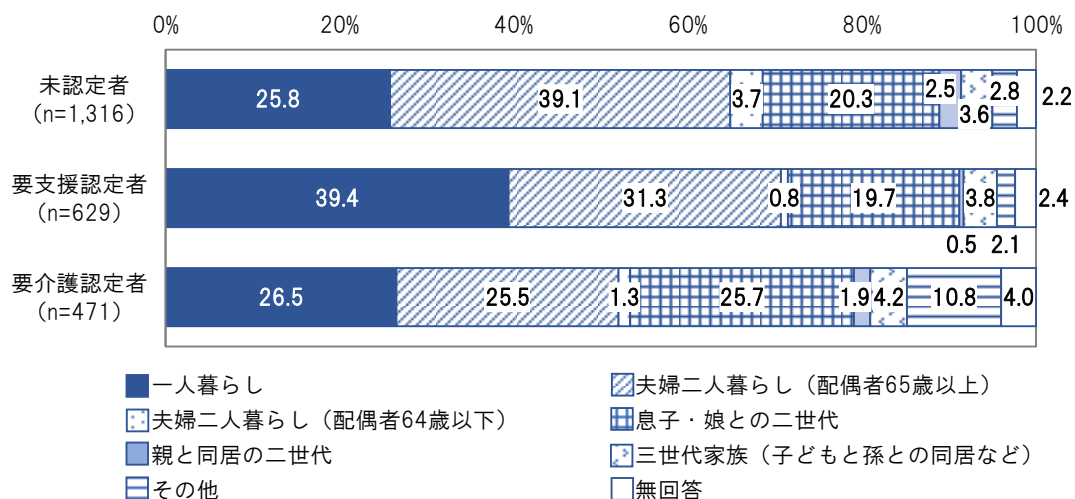
- 居住地は、すべての区分で「立花地区」が最も高く、次いで未認定者・要支援認定者では「園田地区」、要介護認定者では「小田地区」となっている。



（５）世帯構成

問 あなたの世帯構成についてお答えください。（１つに○）

○世帯構成は、未認定者では「夫婦二人暮らし（配偶者65歳以上）」が約４割で最も高くなっているのに対し、要支援認定者・要介護認定者では「一人暮らし」が最も高くなっている。特に要支援認定者では約４割を占めている。

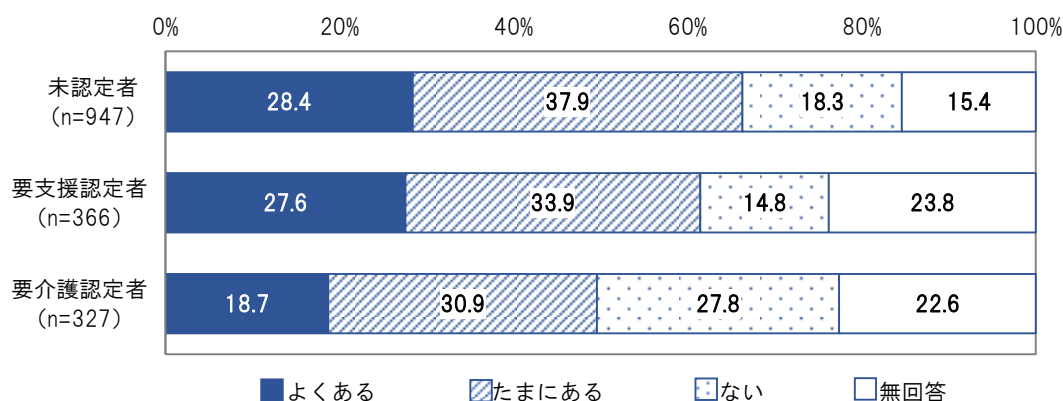


（５-１）日中一人になることの有無

（５）で「一人暮らし」と回答した人以外

問 あなたは、日中一人になることがありますか。（１つに○）

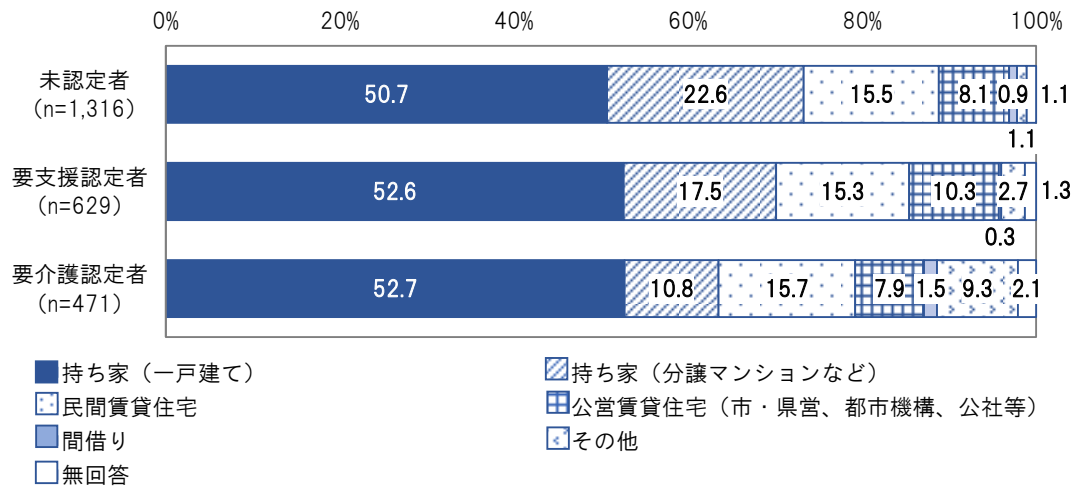
○同居世帯の高齢者のうち、日中一人になることについては、すべての区分で「たまにある」が３割を超えて最も高く、「よくある」と合わせた『日中一人になることがある』は、未認定者・要支援認定者では６割以上を占めている。



（６）居住形態

問 あなたのお住まいについて、お答えください。（１つに○）

○居住形態は、すべての区分で「持ち家（一戸建て）」が半数を超えて最も高く、次いで未認定者・要支援認定者では「持ち家（分譲マンションなど）」、要介護認定者では「民間賃貸住宅」が高くなっている。

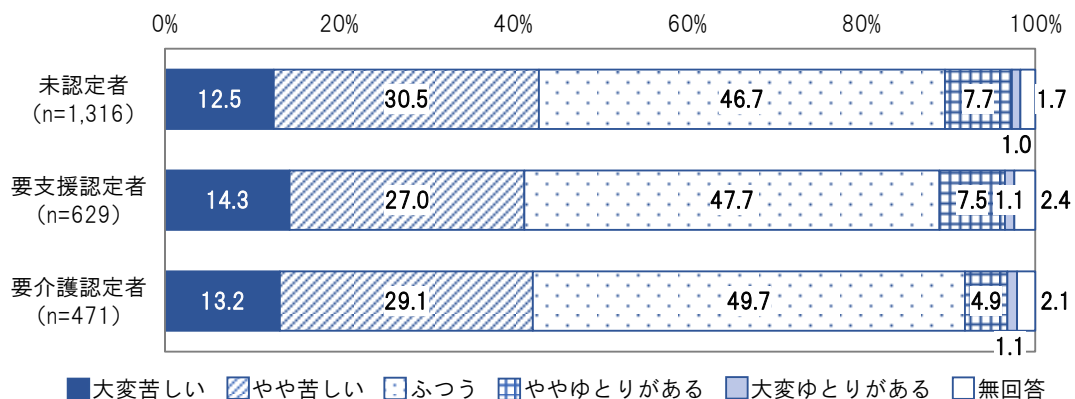


（７）経済的にみた暮らしの状況

問 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じますか。（１つに○）

○経済的にみた暮らしの状況は、すべての区分で「ふつう」が約半数を占めて最も高くなっている。

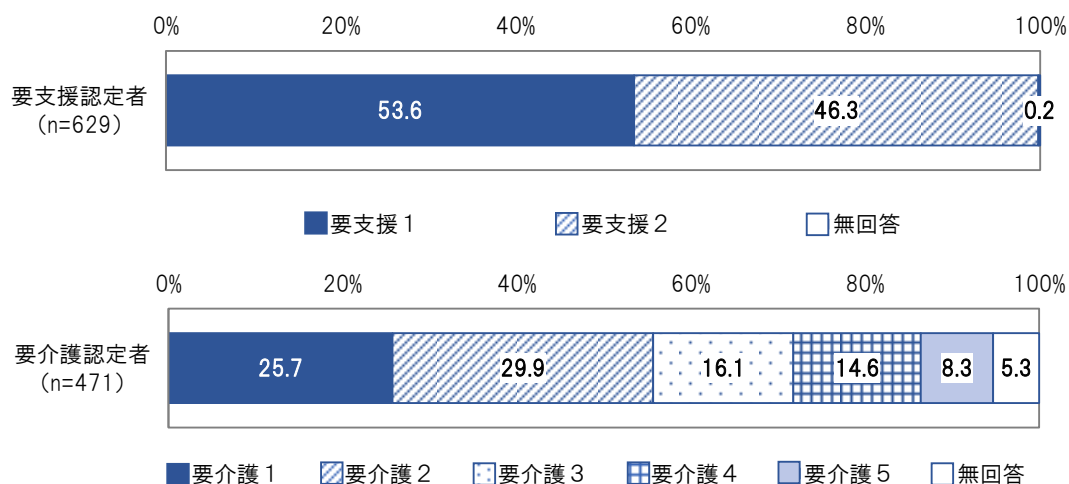
○「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた『苦しい』は、いずれの区分も４割を超えてやや高くなっている。



（８）要介護度《要支援・要介護のみ》

問 あなたの要介護度をお答えください。（１つに○）

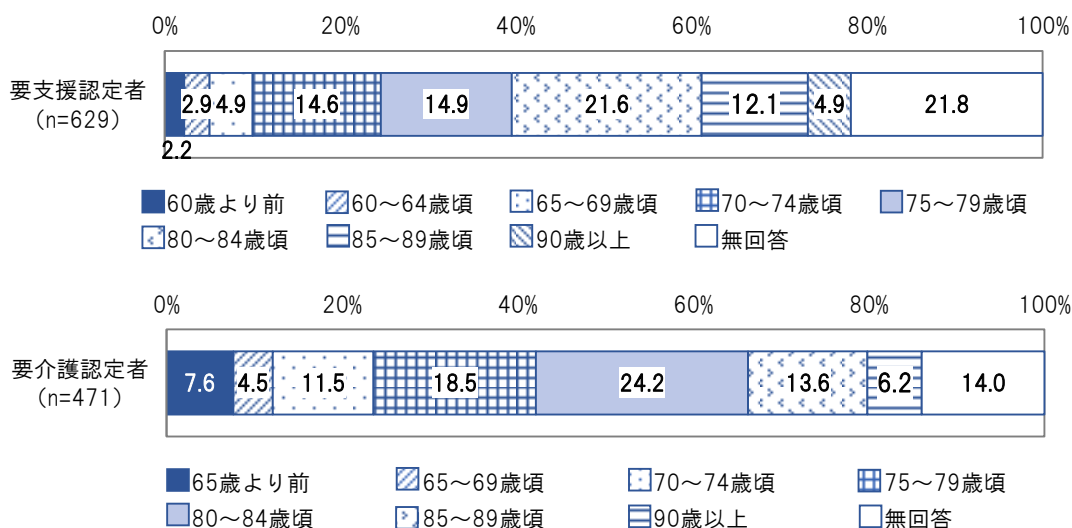
- 要支援認定者の要介護度は、「要支援１」が５割を超えている。要介護認定者の要介護度は、「要介護２」が29.9%と約３割を占めて最も高く、次いで「要介護１」（25.7%）、「要介護３」（16.1%）の順となっている。



（９）何らかの援助が必要になった年齢《要支援・要介護のみ》

問 あなたが日常の生活動作等で何らかの援助が必要になったのは何歳頃からですか。

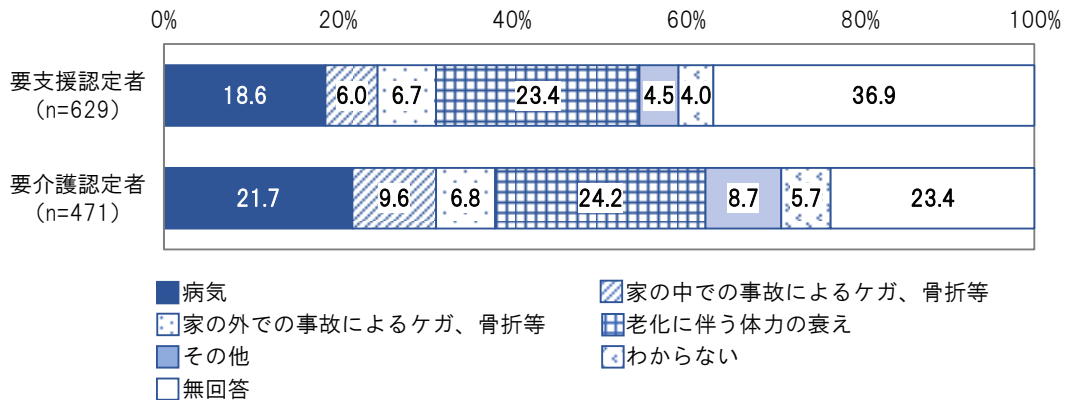
- 要支援認定者・要介護認定者の何らかの援助が必要になった年齢は、ともに「80～84歳頃」が最も高くなっている。また、70歳を境に割合が高くなる傾向がみられる。



（10）初めて要介護認定を受けた時から要介護区分が重くなった直接的な原因《要支援・要介護のみ》

問 初めて要介護認定を受けた時から、現在の要介護区分が重くなった方におたずねします。重くなった直接的な原因は何だとお考えですか。（1つに○）

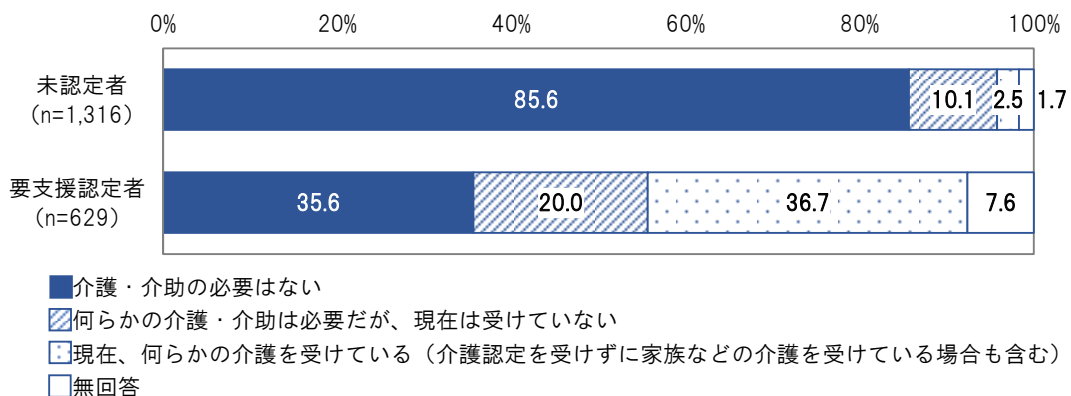
○初めて要介護認定を受けた時から要介護区分が重くなった直接的な原因は、ともに「老化に伴う体力の衰え」が最も高く、次いで「病気」の順となっている。



（11）普段の生活における介護・介助の必要の有無《未認定・要支援のみ》

問 あなたは、普段の生活で、どなたかの介護・介助が必要ですか。（1つに○）

○普段の生活における介護・介助の必要の有無は、未認定者では「介護・介助の必要はない」が8割を超えているのに対し、要支援認定者では「現在、何らかの介護を受けている」が約4割を占めて最も高くなっている。

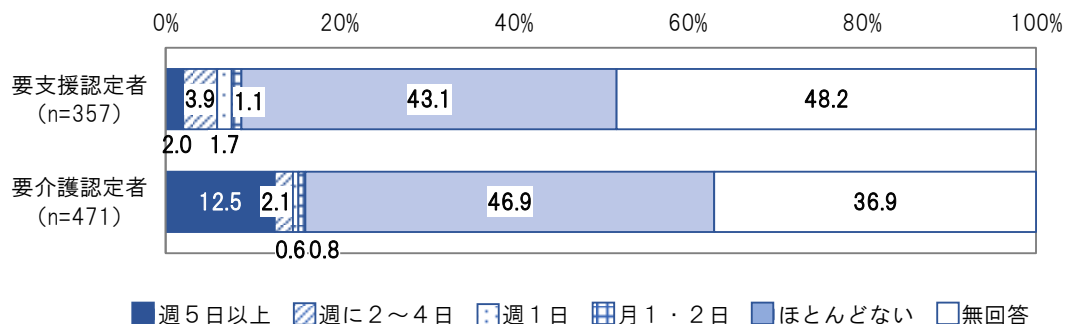


(12) 早朝や夜間に次の支援を必要とすることの有無《要支援・要介護のみ》

問 早朝や夜間に次の支援を必要とすることはありますか。その頻度はどのくらいですか。
(各設問、1つに○)

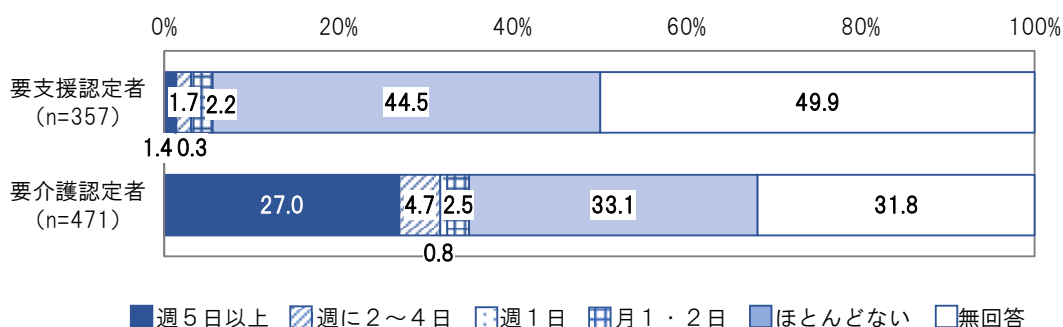
① 体位・姿勢を変える

○体位・姿勢を変えることへの支援の頻度は、「ほとんどない」が最も高くなっているものの、要介護認定者では「週5日以上」が1割を超えている。



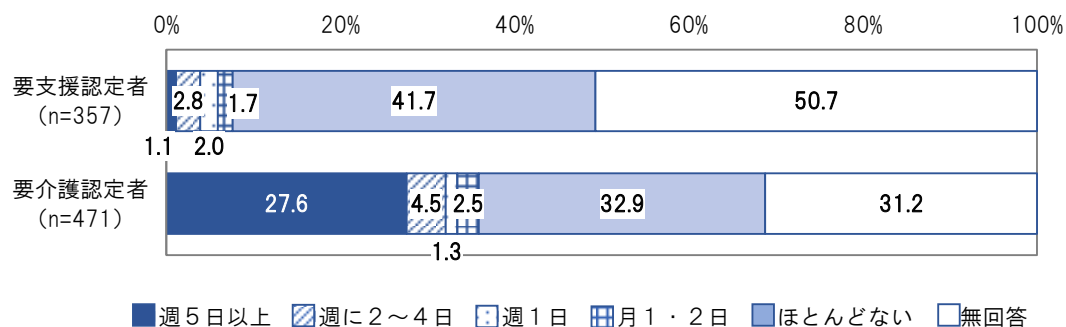
② 排泄の手助け

○排泄の手助けへの支援の頻度は、「ほとんどない」が最も高くなっているものの、要介護認定者では「週5日以上」が2割以上を占めている。



③ 認知症のための見守り

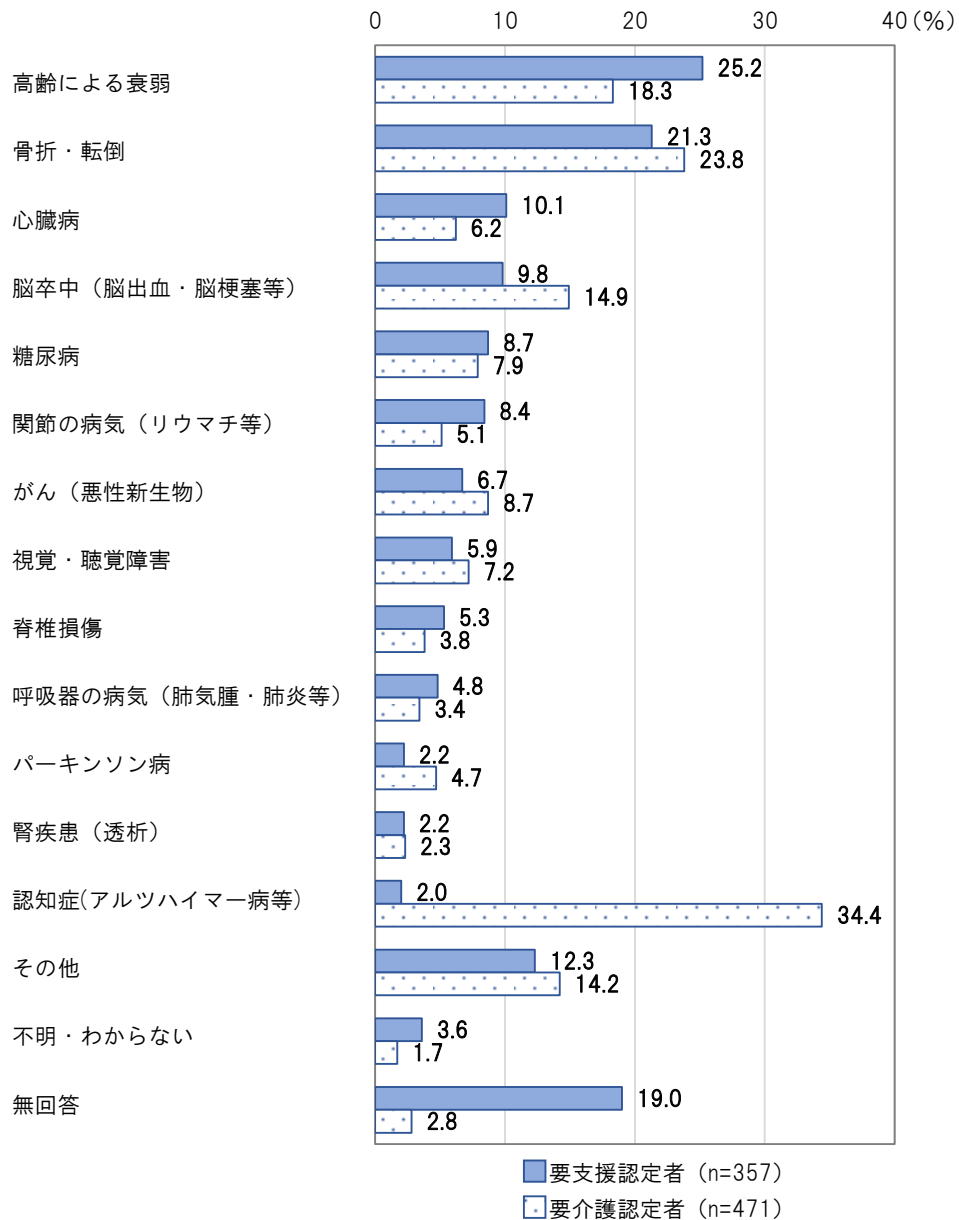
○認知症のための見守りへの支援の頻度は、「ほとんどない」が最も高くなっているものの、要介護認定者では「週5日以上」が2割以上を占めている。



（13）介護・介助が必要になった主な原因《要支援・要介護のみ》

問 介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

- 介護・介助が必要になった主な原因は、要支援認定者では「高齢による衰弱」が最も高く、次いで「骨折・転倒」、「心臓病」、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」の順となっている。
- 要介護認定者では「認知症（アルツハイマー病等）」が最も高く、次いで「骨折・転倒」、「高齢による衰弱」、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」の順となっている。



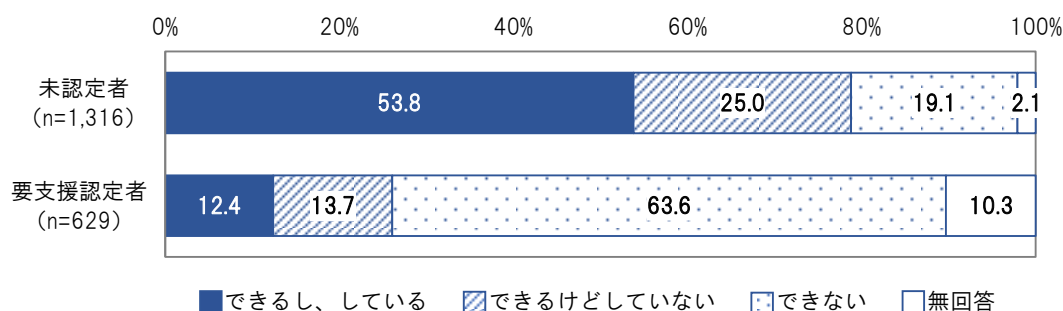
2. 体を動かすことについて

(1) 運動機能の状況《未認定・要支援のみ》

① 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか

問 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。(○は1つ)

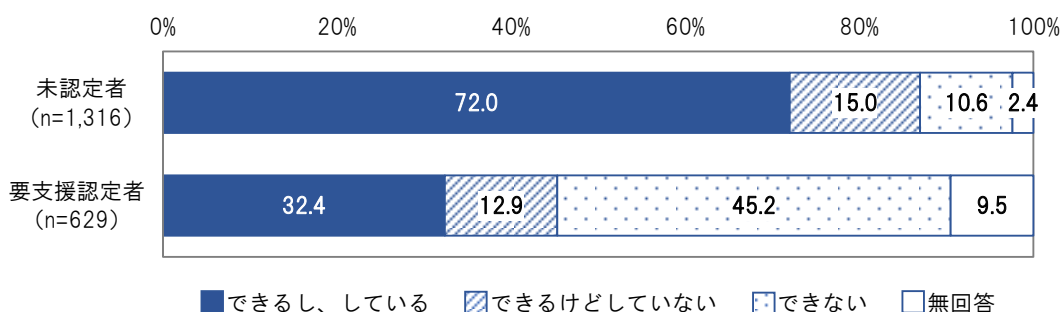
○階段を手すりや壁をつたわずに昇っているかは、未認定者では「できるし、している」が半数を超えているのに対し、要支援認定者では「できない」が6割を超えて最も高くなっている。



② 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか

問 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。(○は1つ)

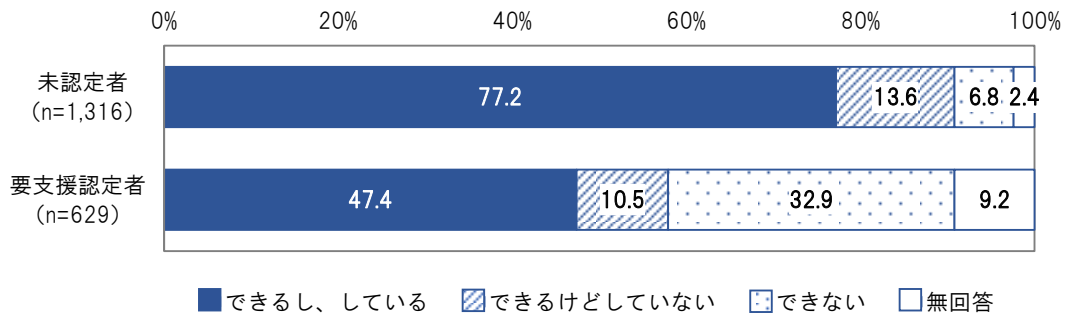
○椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているかは、未認定者では「できるし、している」が7割を超えているのに対し、要支援認定者では「できない」が4割を超えて最も高くなっている。



③ 15分位続けて歩いているか

問 15分位続けて歩いていますか。（○は1つ）

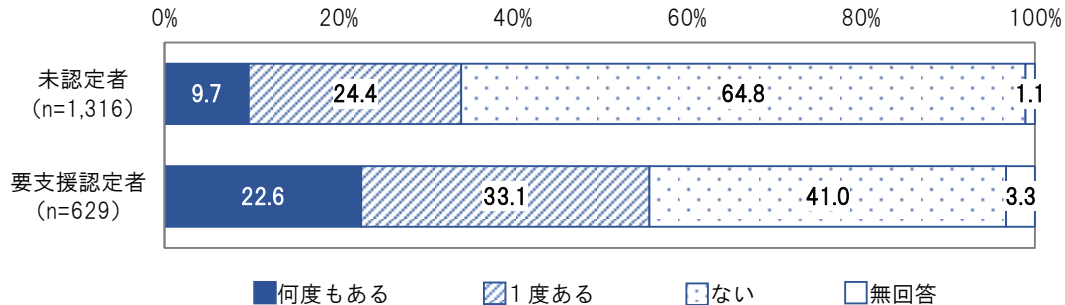
○15分位続けて歩いているかは、未認定者・要支援認定者ともに「できるし、している」が最も高くなっているものの、要支援認定者では「できない」が3割近くを占め、未認定者に比べて高くなっている。



（2）過去1年間の転倒の経験《未認定・要支援のみ》

問 過去1年間に転んだ経験がありますか。（1つに○）

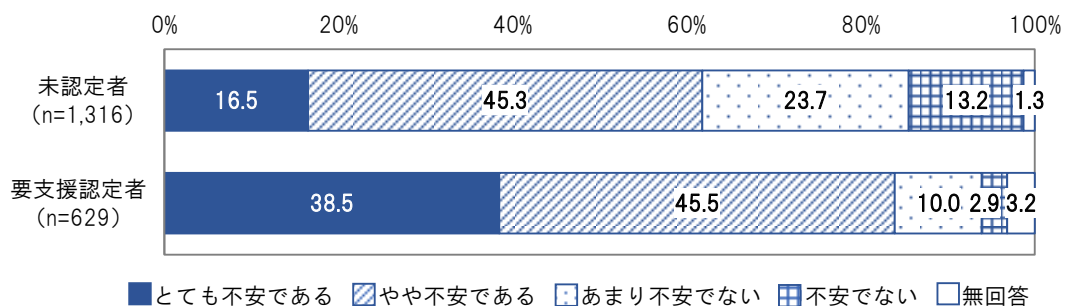
○過去1年間の転倒の経験は、未認定者・要支援認定者ともに「ない」が最も高くなっているものの、「何度もある」と「1度ある」を合わせた『ある』が、未認定者では約3割、要支援認定者では半数を超えている。



（3）転倒に対する不安の有無《未認定・要支援のみ》

問 転倒に対する不安は大きいですか。（1つに○）

○転倒に対する不安の有無は、「とても不安である」と「やや不安である」を合わせた『不安である』の割合をみると、未認定者では約6割となっているのに対し、要支援認定者では8割を超えて高くなっている。

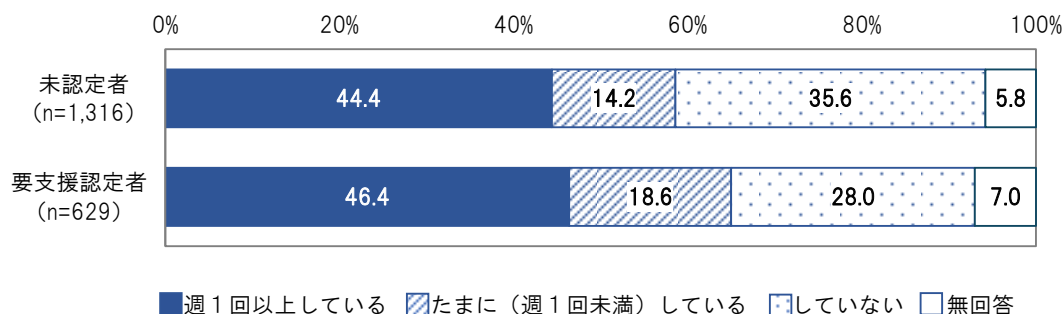


（４）定期的な運動の状況《未認定・要支援のみ》

問 定期的に運動をしていますか。（１つに○）

○定期的な運動の状況は、未認定者・要支援認定者ともに「週１回以上している」が４割を超え、「たまに（週１回未満）している」を合わせた『している』の割合ではともに約６割を占めている。

○一方で、「していない」は、未認定者で３割を超え、要支援認定者に比べてやや高くなっている。

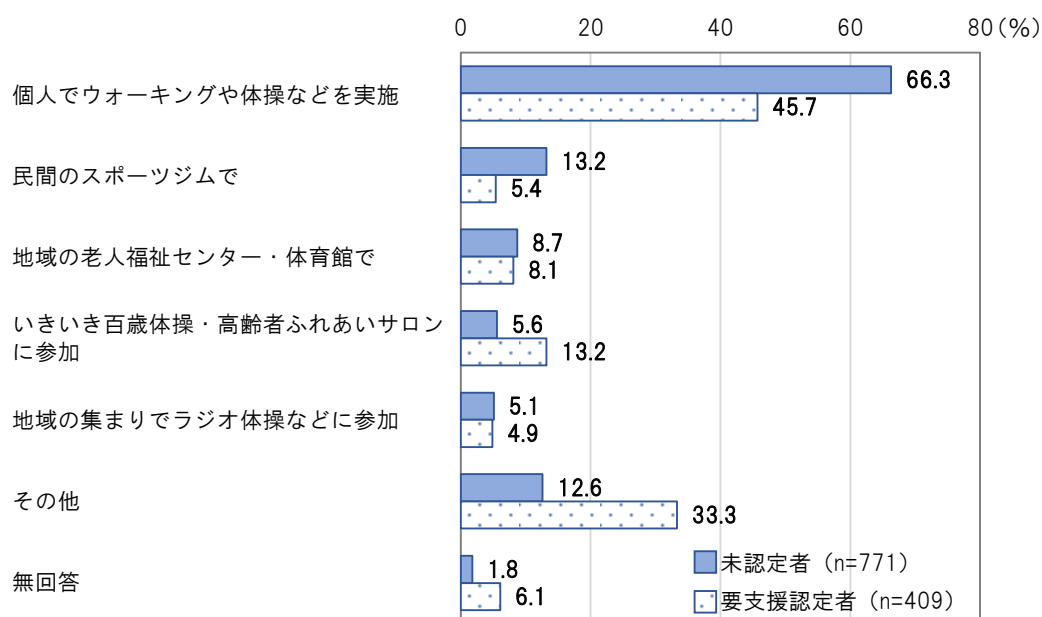


（４－１）運動の方法《未認定・要支援のみ》

（４）で『している』と回答した人のみ

問 運動はどうやって行っていますか。（あてはまるものすべてに○）

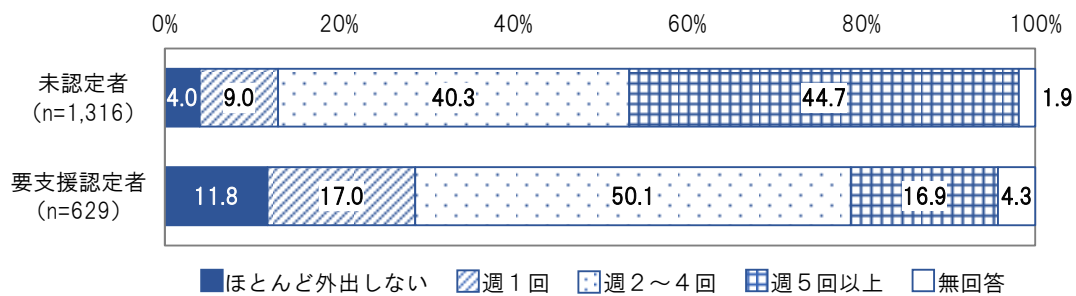
○運動をしている人の方法は、未認定者・要支援認定者ともに「個人でウォーキングや体操などを実施」が最も高く、次いで未認定者では「民間のスポーツジムで」、要支援認定者では「いきいき百歳体操・高齢者ふれあいサロンに参加」が高くなっている。



（５）外出の頻度《未認定・要支援のみ》

問 週に１回以上は外出していますか。（１つに○）

- 外出の頻度は、未認定者では「週５回以上」が４割を超えて最も高く、次いで「週２～４回」、「週１回」の順となっており、『週１回以上』外出している人が９割以上を占めている。
- 一方で、要支援認定者では「週２～４回」が４割を超えて最も高く、『週１回以上』外出している人は約８割となっており、「ほとんど外出しない」が１割を超えている。

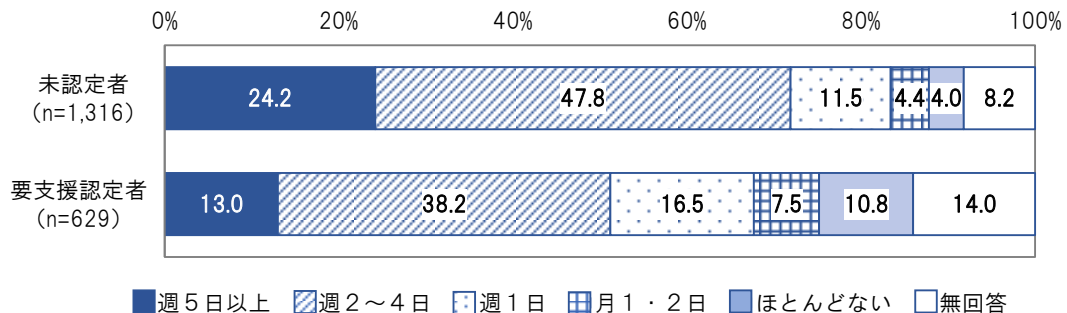


（６）目的ごとの外出頻度《未認定・要支援のみ》

問 あなたの現在の外出頻度について、以下のそれぞれの目的ごとにお答えください。（各項目、１つに○）

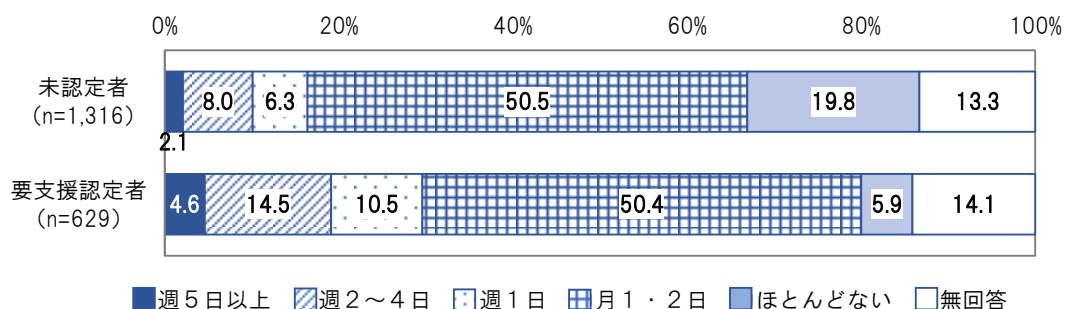
① 買い物

- 買い物は、未認定者・要支援認定者ともに「週２～４日」が最も高く、次いで未認定者では「週５日以上」、要支援認定者では「週１日」となっている。



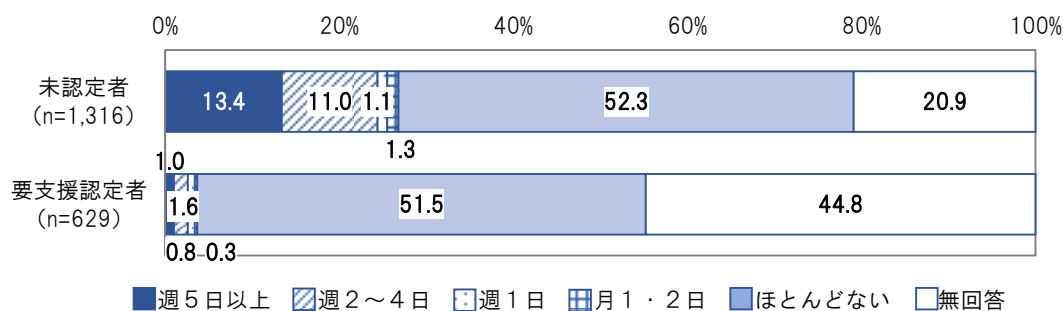
② 通院

- 通院は、未認定者・要支援認定者ともに「月１・２日」が最も高く、約半数を占めている。次いで未認定者では「ほとんどない」、要支援認定者では「週２～４日」となっている。



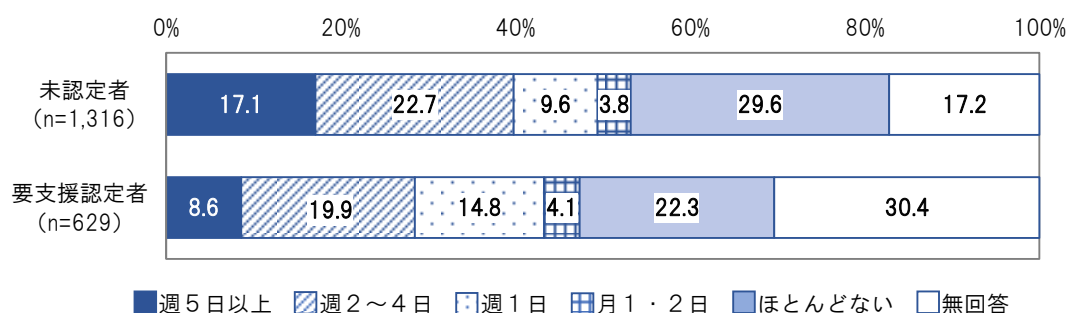
③ 就労

○就労は、未認定者・要支援認定者ともに「ほとんどない」が半数以上を占めて最も高く、次いで未認定者では「週5日以上」、「週2～4日」の順となっている。



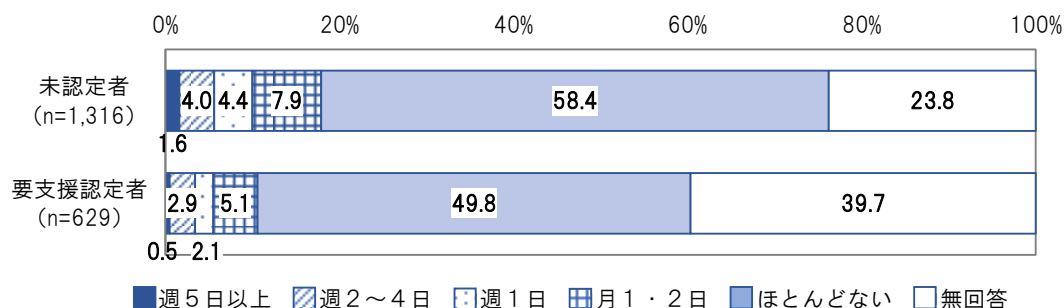
④ 運動

○運動は、未認定者・要支援認定者ともに「ほとんどない」が最も高く、次いで「週2～4日」となっている。



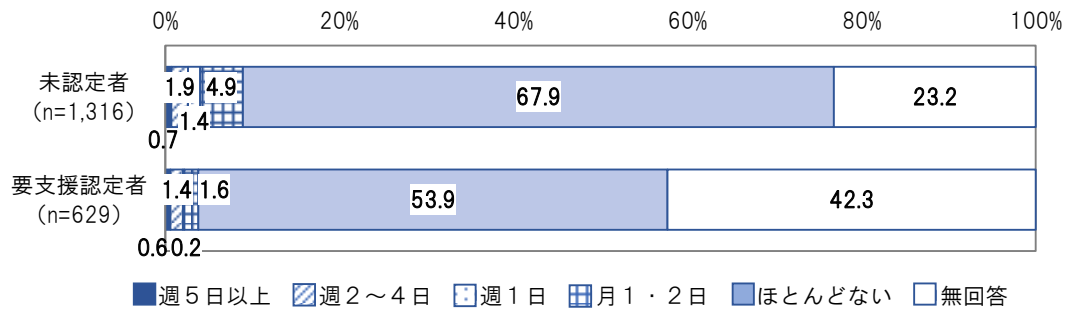
⑤ 教養活動

○教養活動は、未認定者・要支援認定者ともに「ほとんどない」が最も高く、次いで「月1・2日」となっている。



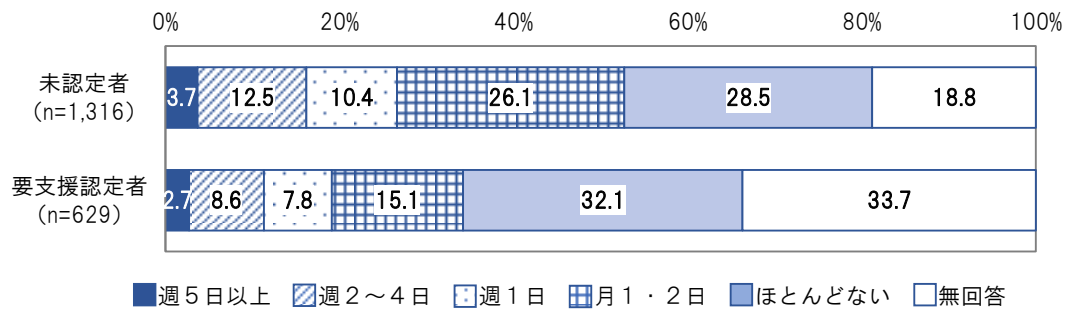
⑥ ボランティア活動

○ボランティア活動は、未認定者・要支援認定者ともに「ほとんどない」が最も高く、未認定者では7割近くを占めている。



⑦ 友人との交流

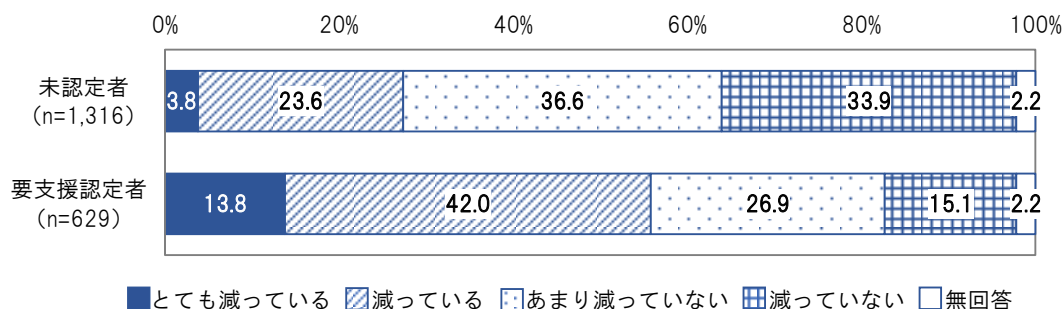
○友人との交流は、未認定者・要支援認定者ともに「ほとんどない」が最も高く、要支援認定者では3割を超えている。次いで未認定者・要支援認定者ともに「月1・2日」となっており、未認定者では3割近くとなっている。



(7) 昨年と比べた外出回数の増減《未認定・要支援のみ》

問 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。(1つに○)

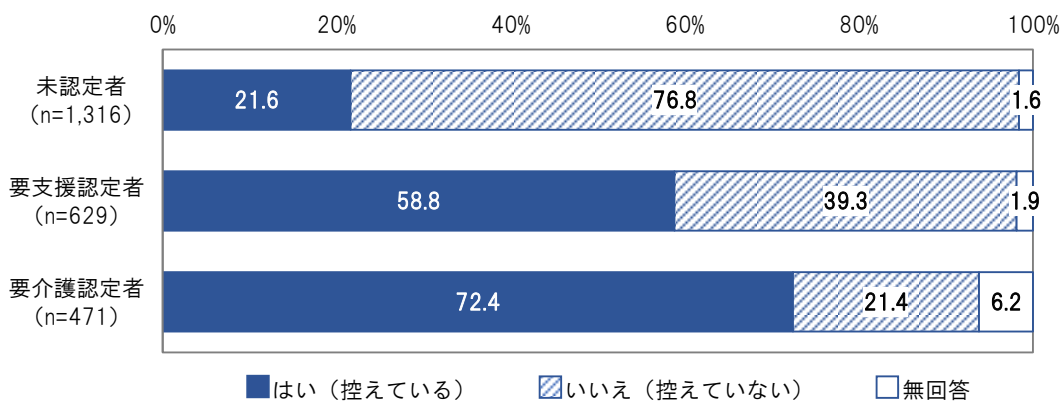
○昨年と比べた外出回数の増減は、未認定者では「あまり減っていない」が最も高く、「減っていない」と合わせた『減っていない』が約7割を占めているのに対し、要支援認定者では「減っている」が4割を超えて最も高く、「とても減っている」と合わせた『減っている』が約6割を占めている。



(8) 外出控えの状況

問 外出を控えていますか。(1つに○)

○外出控えの状況では、未認定者では「いいえ（控えていない）」が7割を超え、「はい（控えている）」を大きく上回っているのに対し、要支援認定者・要介護認定者では「はい（控えている）」が「いいえ（控えていない）」を上回っている。

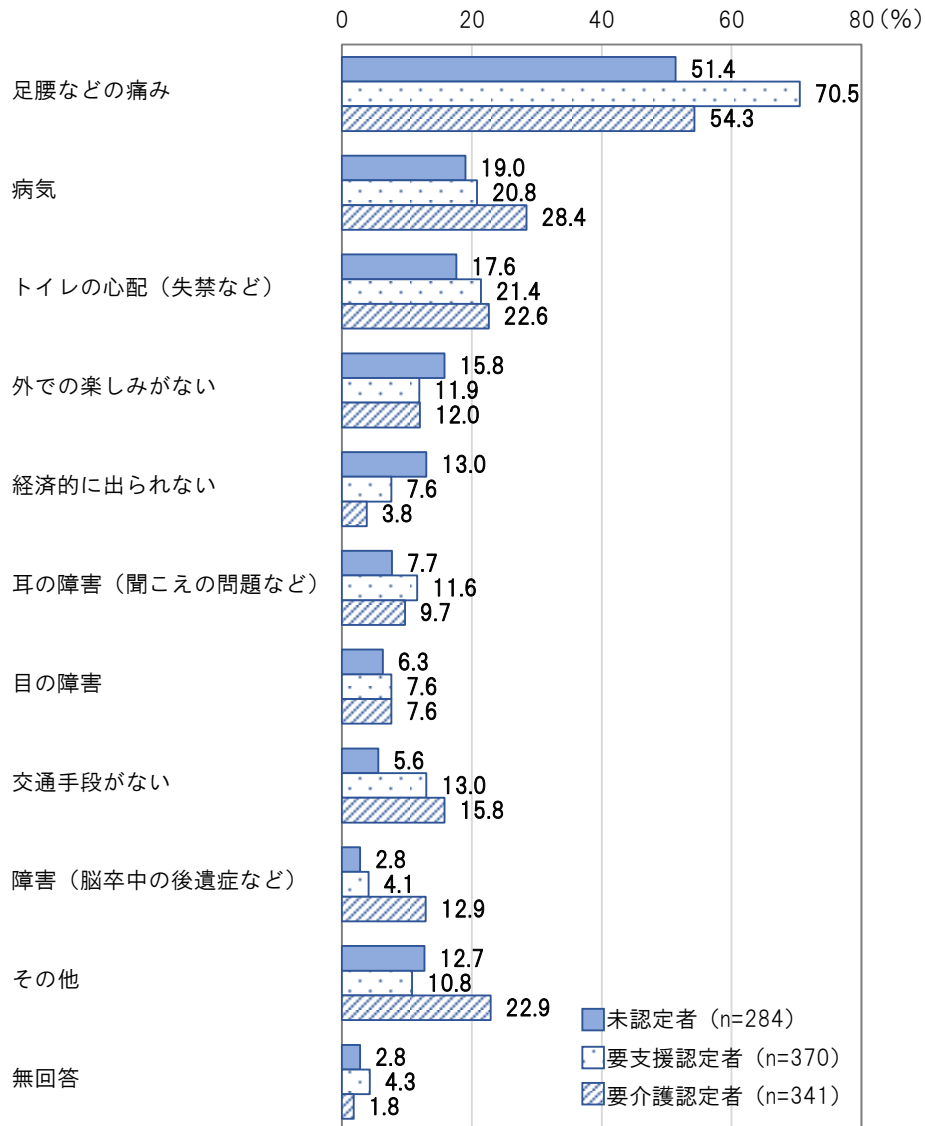


（８-１）外出を控えている理由

（８）で「はい（控えている）」と回答した人のみ

問 外出を控えている理由は、次のどれですか。（あてはまるものすべてに○）

○外出を控えている理由は、すべての区分で「足腰などの痛み」が最も高くなっているものの、次いで未認定者・要介護認定者では「病気」、要支援認定者では「トイレの心配（失禁など）」が高くなっている。

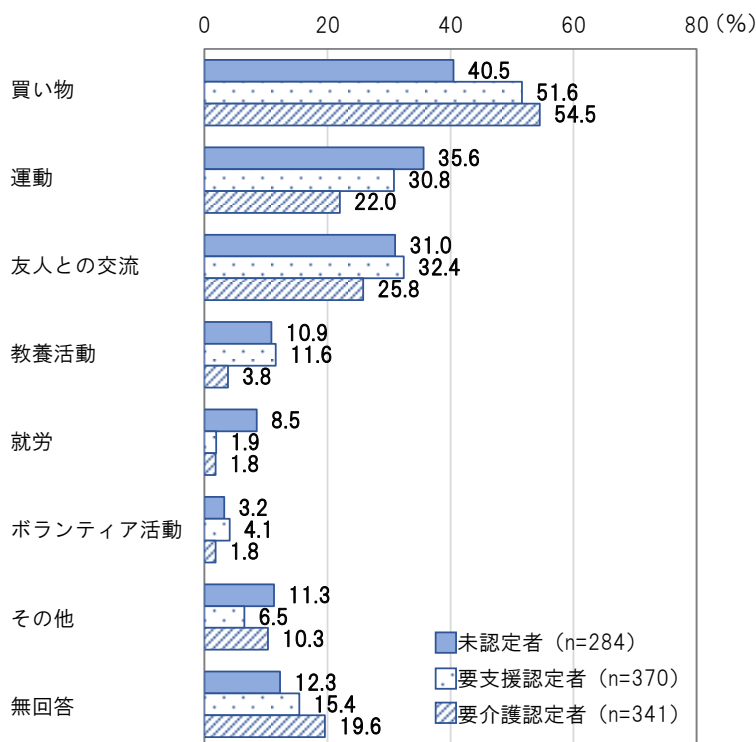


(8-2) 外出機会を得たら実施したいこと

(8)で「はい(控えている)」と回答した人のみ

問 外出を控えている事情を解消できて、機会を増やせるとしたら何をしたいですか。
(あてはまるものすべてに○)

○外出機会を得たら実施したいことは、いずれの区分も「買い物」が最も高く、次いで未認定者では「運動」、「友人との交流」の順となっているのに対し、要支援認定者・要介護認定者では「友人との交流」、「運動」の順となっている。

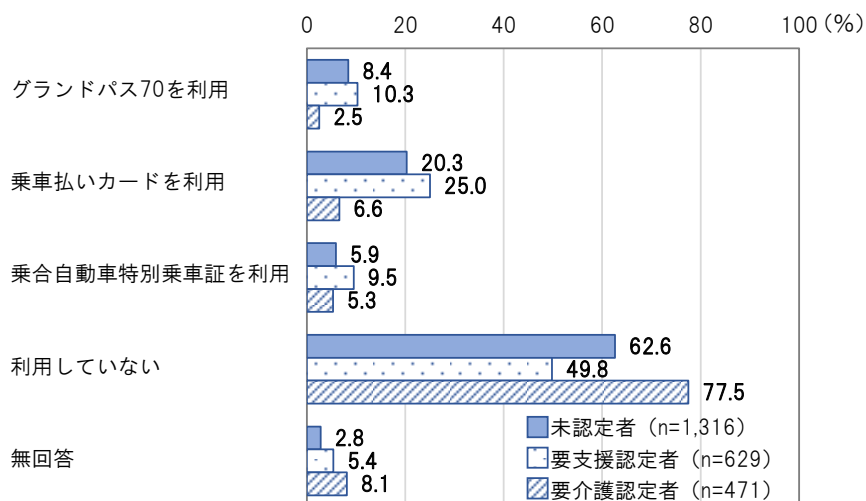


(9) 市助成のバス券の利用状況

問 あなたは市の助成を受けてバス券を利用していますか。(1つに○)

○市助成のバス券の利用状況では、すべての区分で「利用していない」が最も高くなっているものの、要支援認定者では4割以上が利用している結果となっている。

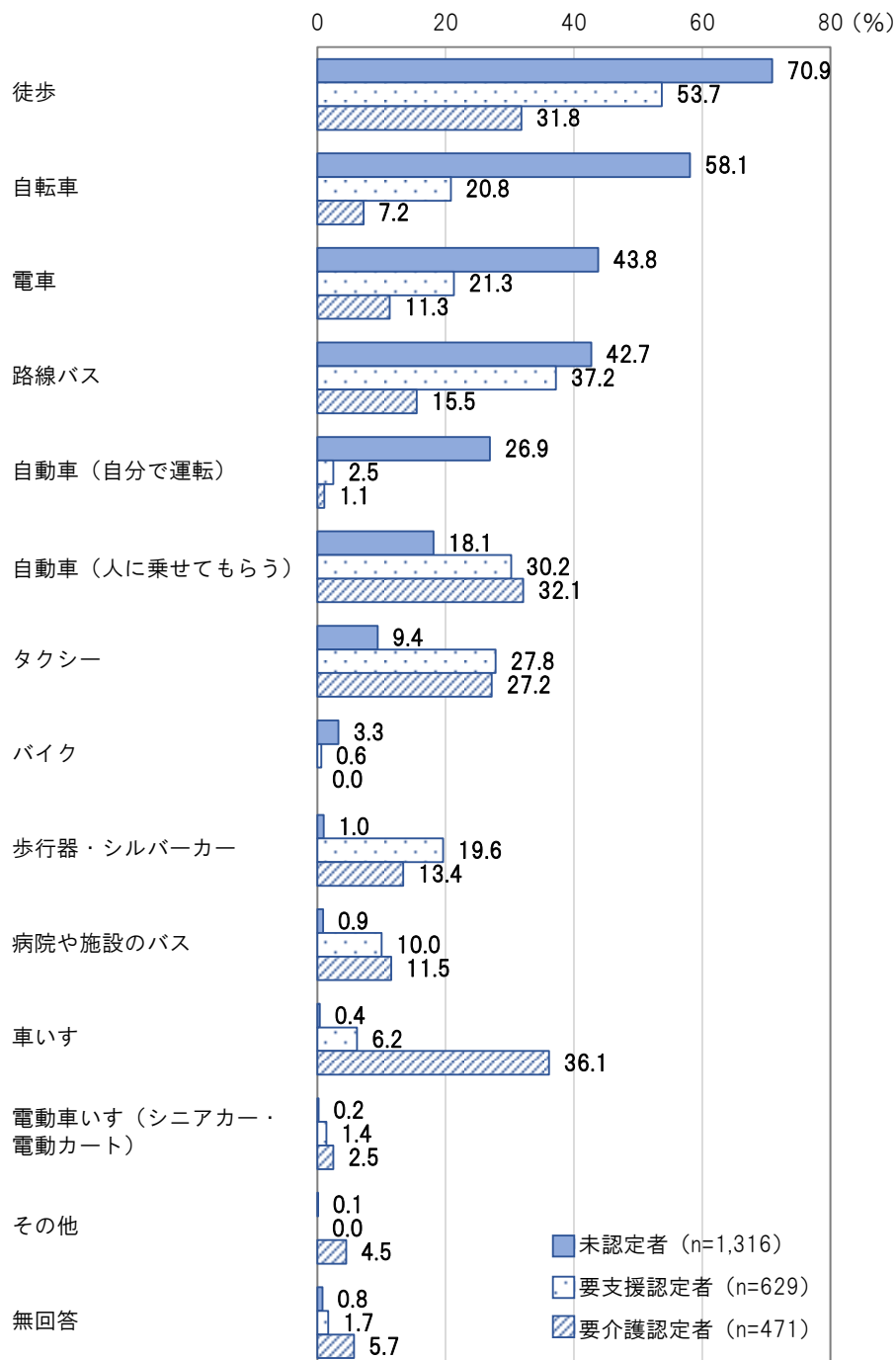
○市助成のバス券を利用している人では、「乗車払いカードを利用」が最も高く、特に未認定者・要支援認定者ではともに約2割を占めている。



(10) 外出の際の移動手段

問 現在外出する際の移動手段は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

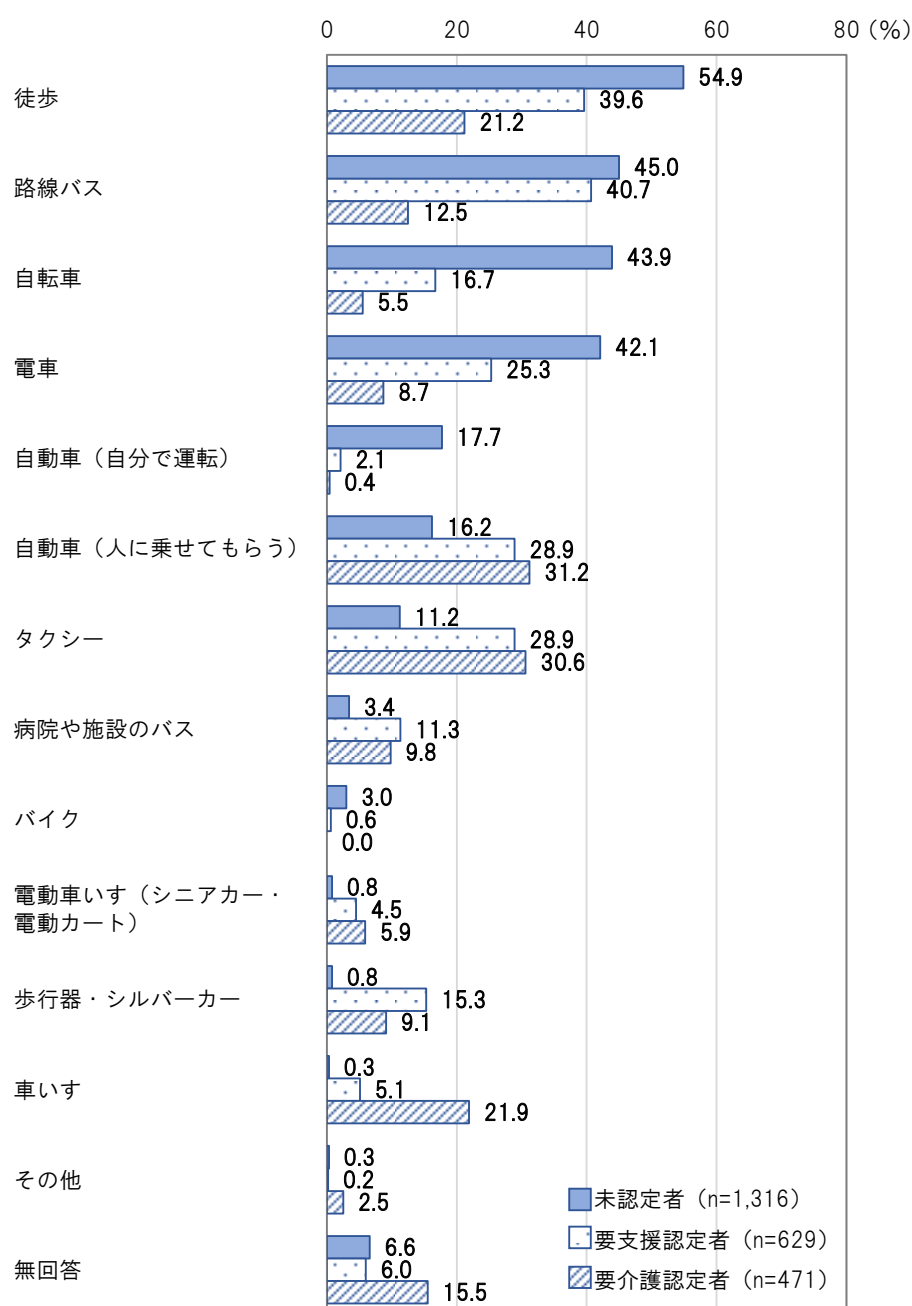
- 外出の際の移動手段は、未認定者・要支援認定者では「徒歩」が最も高く、次いで未認定者では「自転車」、「電車」、「路線バス」の順となっているのに対し、要支援認定者では「路線バス」、「自動車（人に乗せてもらう）」、「タクシー」の順となっている。
- また、要介護認定者では「車いす」が4割近くで最も高く、次いで「自動車（人に乗せてもらう）」、「徒歩」、「タクシー」の順となっている。
- 介護度が高くなるにつれて「自動車（人に乗せてもらう）」や「病院や施設のバス」、「車いす」が高くなる傾向がみられ、反対に「徒歩」や「自転車」、「電車」、「路線バス」、「自動車（自分で運転）」などでは低くなる傾向がみられる。



(11) 外出を増やすために利用したい移動手段

問 今より外出頻度を増やすためには、どの移動手段を利用したいですか。（あてはまるものすべてに○）

- 外出を増やすために利用したい移動手段は、未認定者では「徒歩」が最も高く、次いで「路線バス」、「自転車」、「電車」の順となっているのに対し、要支援認定者では「路線バス」が最も高く、次いで「徒歩」、「自動車（人に乗せてもらう）」と「タクシー」（同率）の順となっている。
- また、要介護認定者では「自動車（人に乗せてもらう）」が3割を超えて最も高く、次いで「タクシー」、「車いす」、「徒歩」の順となっている。
- （10）と比べると利用している移動手段と同様の結果となっているものの、「路線バス」や「タクシー」などの利用を望む人が多い結果となっている。

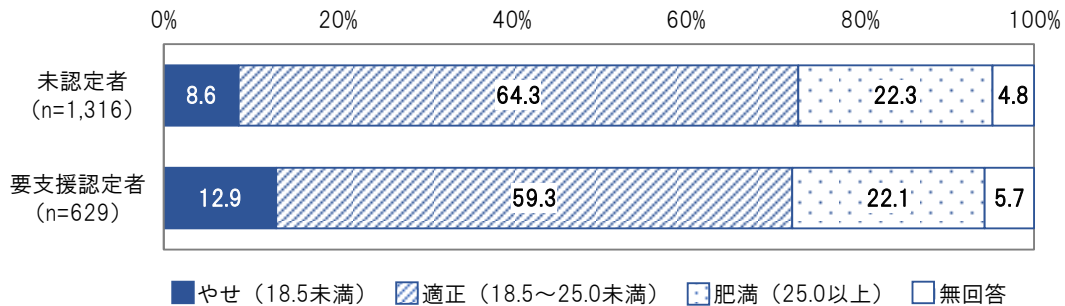


3. 食べることについて

（１）BMI（身長・体重より算出）《未認定・要支援のみ》

問 身長・体重をお答えください。

○身長・体重から算出したBMIをみると、未認定者・要支援認定者ともに「適正（18.5～25.0未満）」が6割を占めている。次いで「肥満（25.0以上）」が2割を超えて高くなっており、「やせ（18.5未満）」は1割程度となっている。

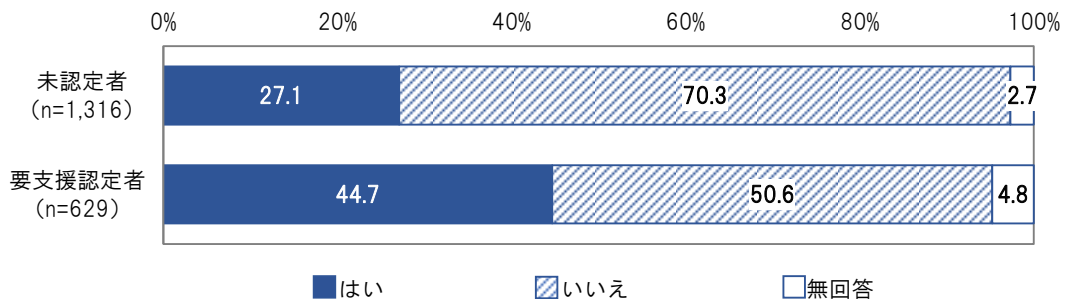


（２）歯や栄養の状況《未認定・要支援のみ》

① 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか

問 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。（○は1つ）

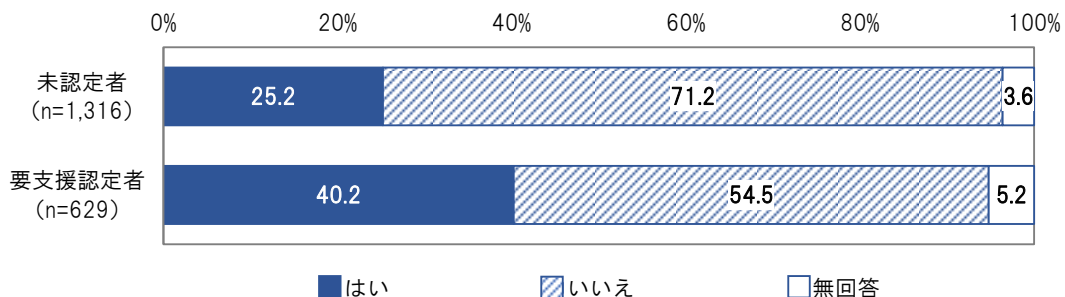
○半年前に比べて固いものが食べにくくなったかは、未認定者では「いいえ」が7割を超えているのに対し、要支援認定者では「はい」が約4割を占めて高くなっている。



② お茶や汁物等でむせることがあるか

問 お茶や汁物等でむせることがありますか。（○は1つ）

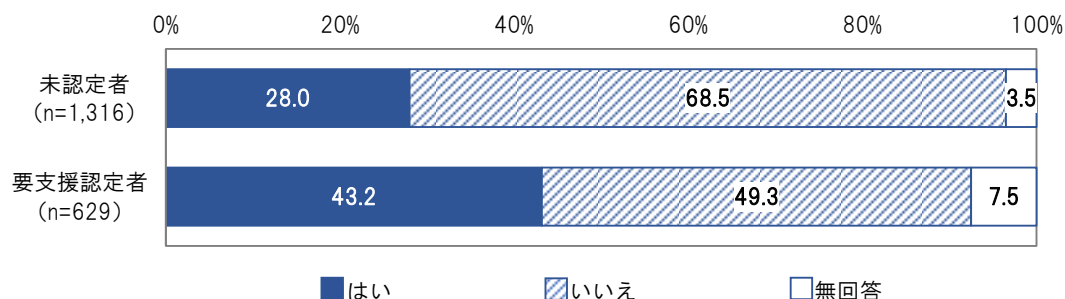
○お茶や汁物等でむせることがあるかは、未認定者では「いいえ」が約7割を占めているのに対し、要支援認定者では「はい」が約4割を占めて高くなっている。



③ 口の渇きが気になるか

問 口の渇きが気になりますか。（○は1つ）

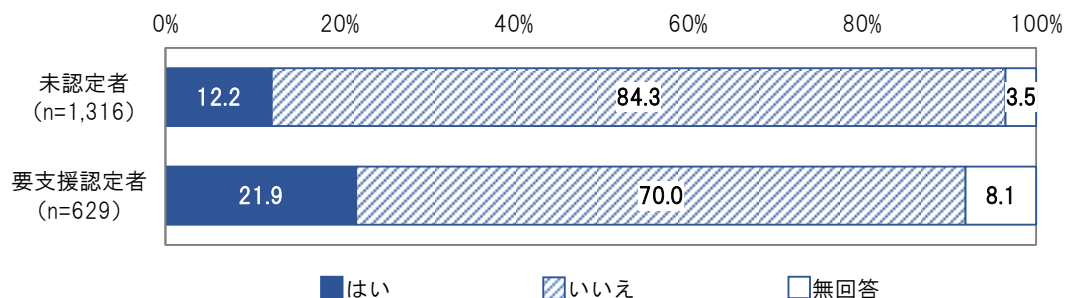
○口の渇きが気になるかは、未認定者では「いいえ」が約7割を占めているのに対し、要支援認定者では「はい」が約4割を占めて高くなっている。



④ 6か月間で2～3 kg以上の体重減少があるか

問 6か月間で2～3 kg以上の体重減少がありますか。（○は1つ）

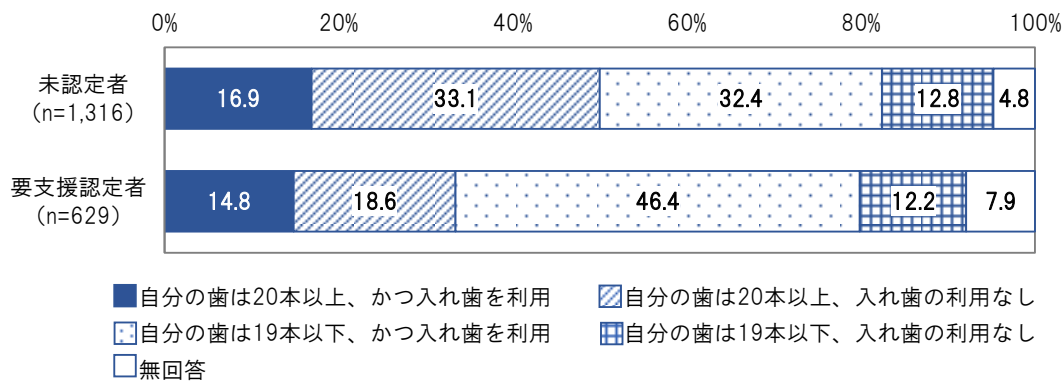
○6か月間で2～3 kg以上の体重減少があるかは、未認定者・要支援認定者ともに「いいえ」が大半を占めているものの、要支援認定者では「はい」が2割を超え、未認定者を大きく上回っている。



（３）歯の数と入れ歯の利用状況《未認定・要支援のみ》

問 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。（１つに○）
（成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です）

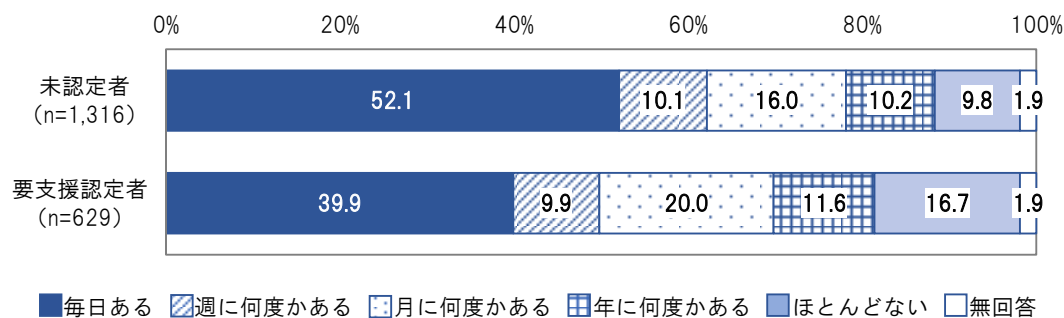
- 歯の数と入れ歯の利用状況は、未認定者では「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が最も高く、次いで「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」となっている。要支援認定者では「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が最も高く、次いで「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」となっている。
- 「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」と「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」を合わせた『自分の歯は20本以上』が未認定者では5割であるのに対し、要支援認定者では3割程度となっている。



（４）共食の状況《未認定・要支援のみ》

問 どなたかと食事をともにする機会がありますか。（１つに○）

- 共食の状況は、未認定者・要支援認定者ともに「毎日ある」が最も高くなっているものの、未認定者では半数を超えているのに対し、要支援認定者では4割未満となっている。



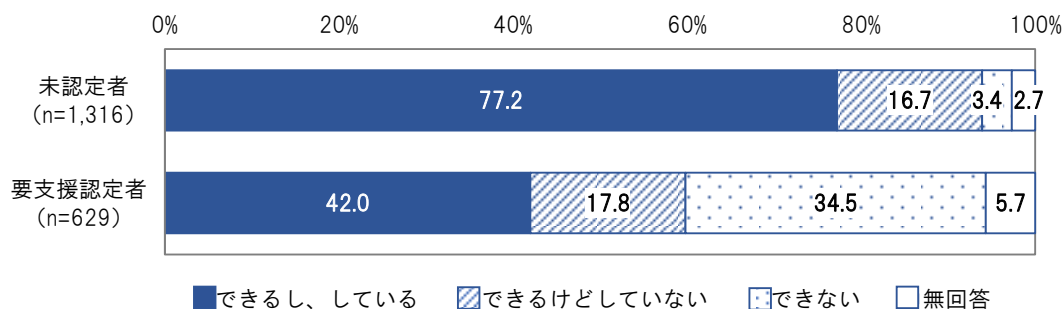
4. 毎日の生活について

(1) 日常生活の状況《未認定・要支援のみ》

① バスや電車を使って1人で外出しているか

問 バスや電車を使って1人で外出していますか。(自家用車でも可) (○は1つ)

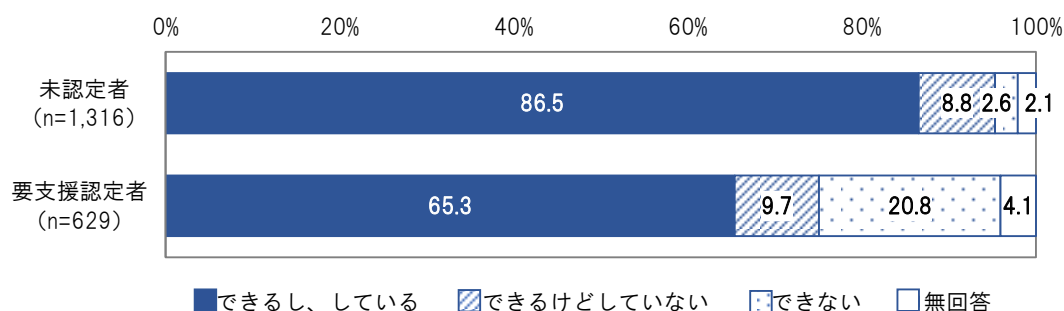
○バスや電車を使って1人で外出しているかは、未認定者・要支援認定者ともに「できるし、している」が最も高くなっているものの、未認定者では7割を超えているのに対し、要支援認定者では約4割となっている。また、要支援認定者では「できない」が約3割を占めている。



② 自分で食品・日用品の買物をしているか

問 自分で食品・日用品の買物をしていますか。(○は1つ)

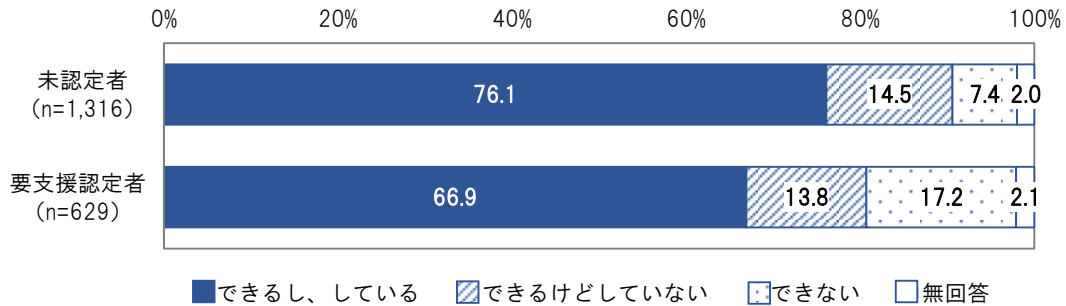
○自分で食品・日用品の買物をしているかは、未認定者・要支援認定者ともに「できるし、している」が最も高くなっているものの、未認定者では8割を超えているのに対し、要支援認定者では7割近くとなっている。また、要支援認定者では「できない」が約2割を占めている。



③ 自分で食事の用意をしているか

問 自分で食事の用意をしていますか。（○は1つ）

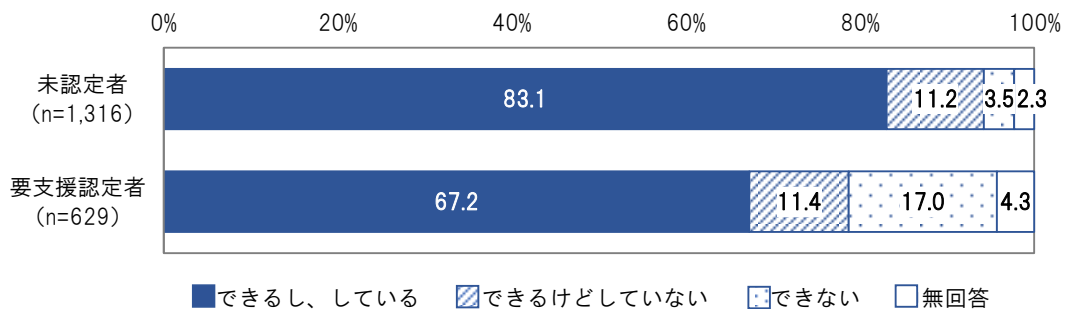
○自分で食事の用意をしているかは、未認定者・要支援認定者ともに「できるし、している」が最も高くなっているものの、未認定者では7割を超えているのに対し、要支援認定者では7割未満となっている。また、要支援認定者では「できない」が1割を超えている。



④ 自分で請求書の支払いをしているか

問 自分で請求書の支払いをしていますか。（○は1つ）

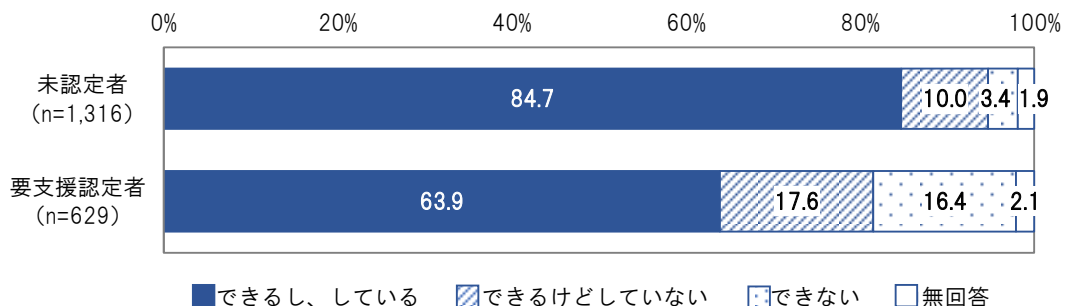
○自分で請求書の支払いをしているかは、未認定者・要支援認定者ともに「できるし、している」が最も高くなっているものの、未認定者では8割を超えているのに対し、要支援認定者では7割未満となっている。また、要支援認定者では「できない」が1割を超えている。



⑤ 自分で預貯金の出し入れをしているか

問 自分で預貯金の出し入れをしていますか。（○は1つ）

○自分で預貯金の出し入れをしているかは、未認定者・要支援認定者ともに「できるし、している」が最も高くなっているものの、未認定者では8割を超えているのに対し、要支援認定者では約6割となっている。また、要支援認定者では「できない」が1割を超えている。



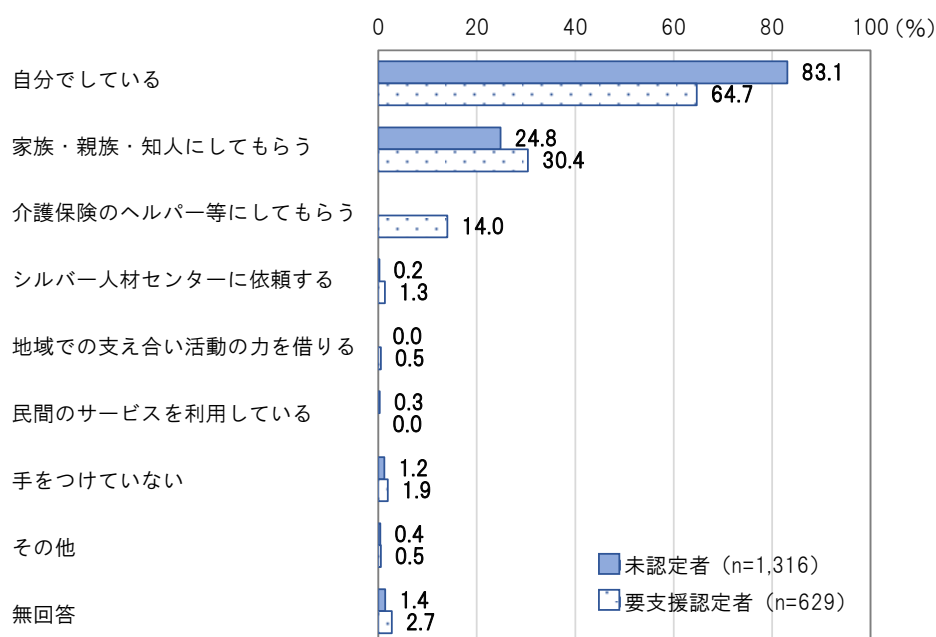
(2) 家事を主にしている人《未認定・要支援のみ》

問 家事をどうされているかについてお答えください。

(各設問、あてはまるものすべてに○)

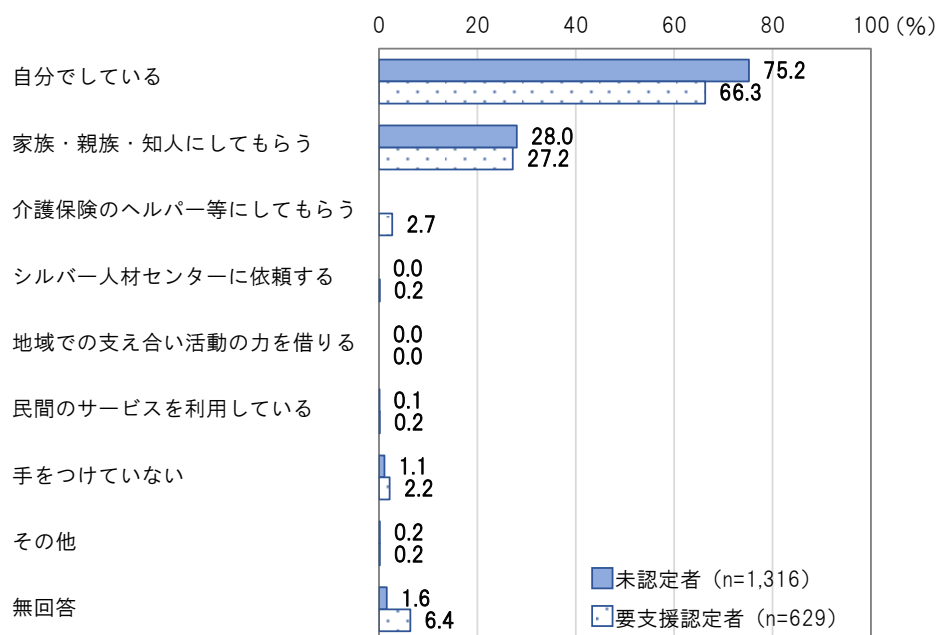
① 掃除

○掃除をしている人は、未認定者・要支援認定者ともに「自分でしている」が最も高く、次いで「家族・親族・知人にしてもらう」となっている。要支援認定者では「介護保険のヘルパー等にしてもらう」が1割を超えている。



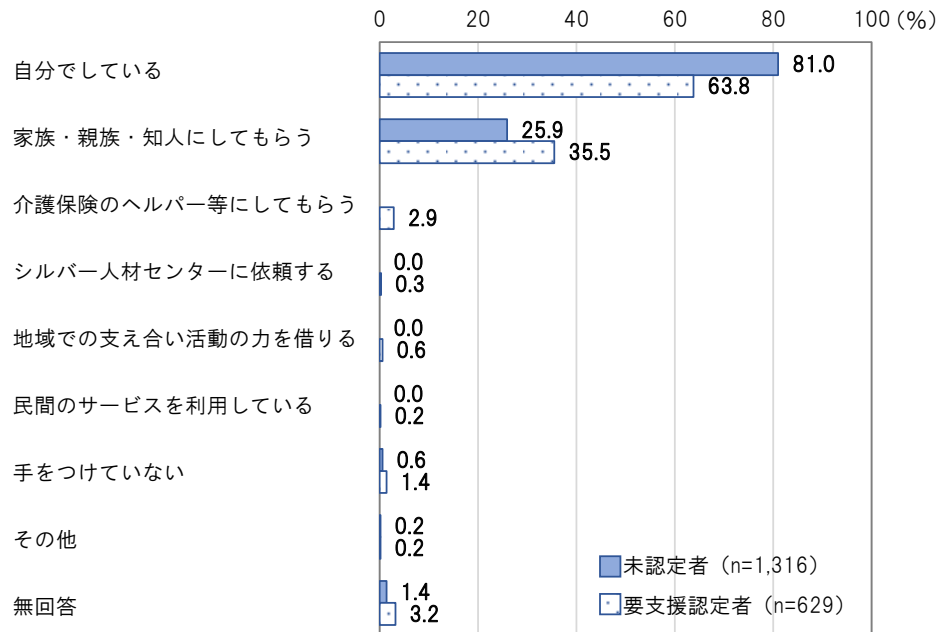
② 洗濯

○洗濯をしている人は、未認定者・要支援認定者ともに「自分でしている」が最も高く、次いで「家族・親族・知人にしてもらう」となっている。



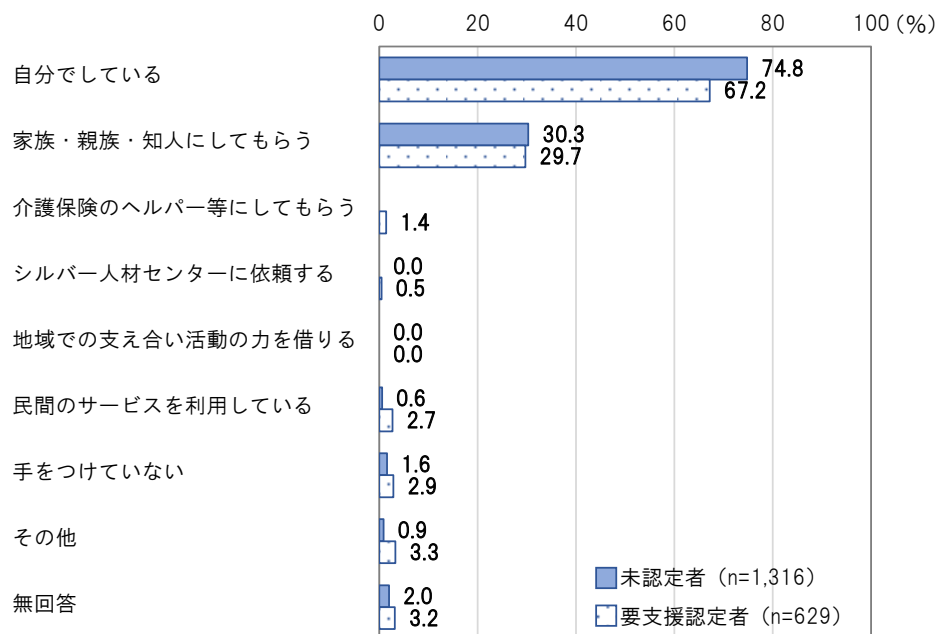
③ ごみ出し

- ごみ出しをしている人は、未認定者・要支援認定者ともに「自分でしている」が最も高く、次いで「家族・親族・知人にしてもらおう」となっている。
- 「家族・親族・知人にしてもらおう」では、要支援認定者が4割近くを占め、未認定者を上回っている。



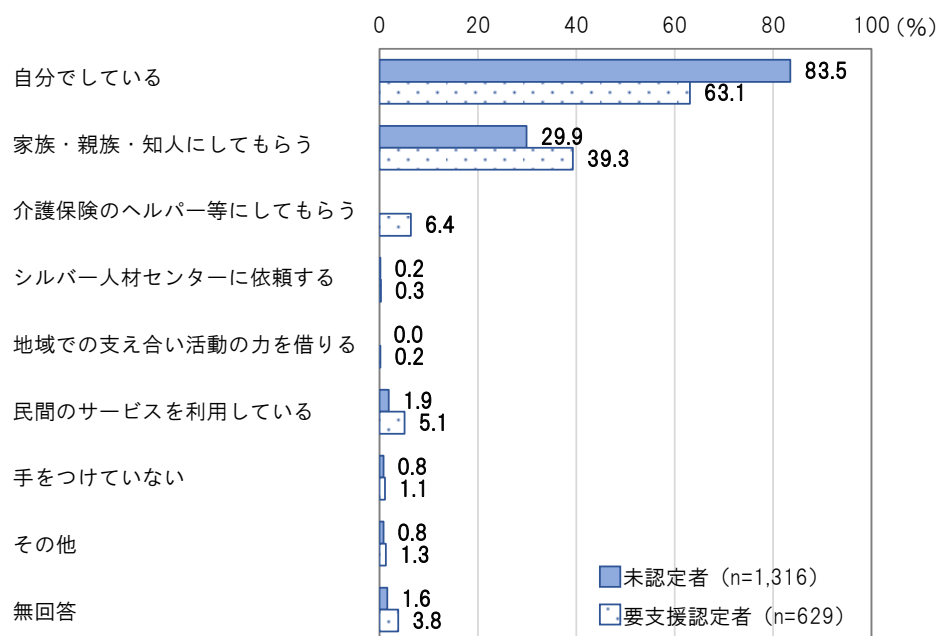
④ 調理

- 調理をしている人は、未認定者・要支援認定者ともに「自分でしている」が最も高く、次いで「家族・親族・知人にしてもらおう」となっている。



⑤ 買い物

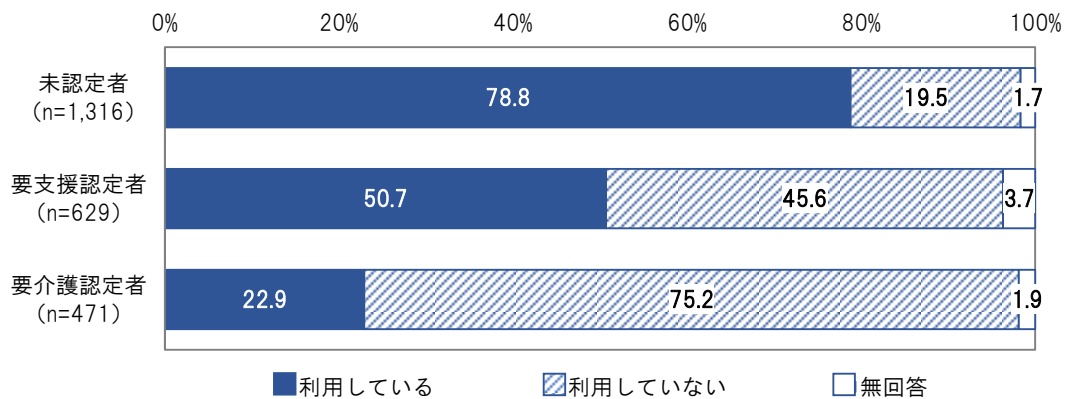
○買い物をしている人は、未認定者・要支援認定者ともに「自分でしている」が最も高く、次いで「家族・親族・知人にしてもらおう」となっている。要支援認定者では「介護保険のヘルパー等にともらおう」が6.4%となっている。



（３）スマートフォンやタブレット、パソコンの利用状況

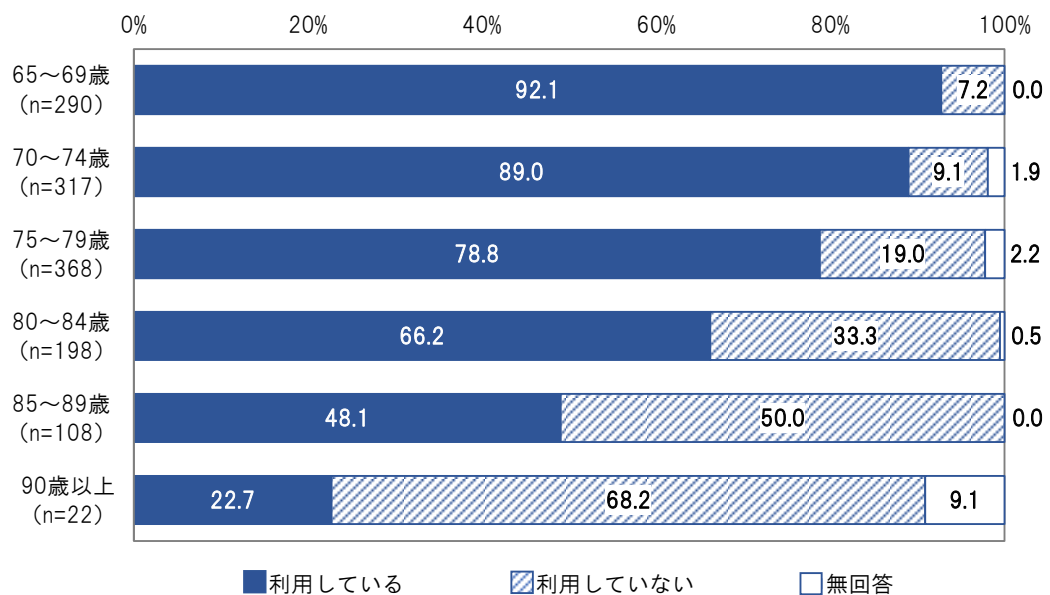
問 日常生活でスマートフォンやタブレット、パソコンなどを利用していますか。
（１つに○）

○スマートフォンやタブレット、パソコンの利用状況では、未認定者・要支援認定者では「利用している」が「利用していない」を上回っているのに対し、要介護認定者では「利用していない」が「利用している」を上回っている。特に、要介護認定者では「利用している」が約２割と低くなっている。



《年齢別（未認定者）》

○未認定者での利用状況を年齢別にみると、年齢が下がるほど「利用している」が高くなっており、特に65～69歳では９割以上の利用率となっている。

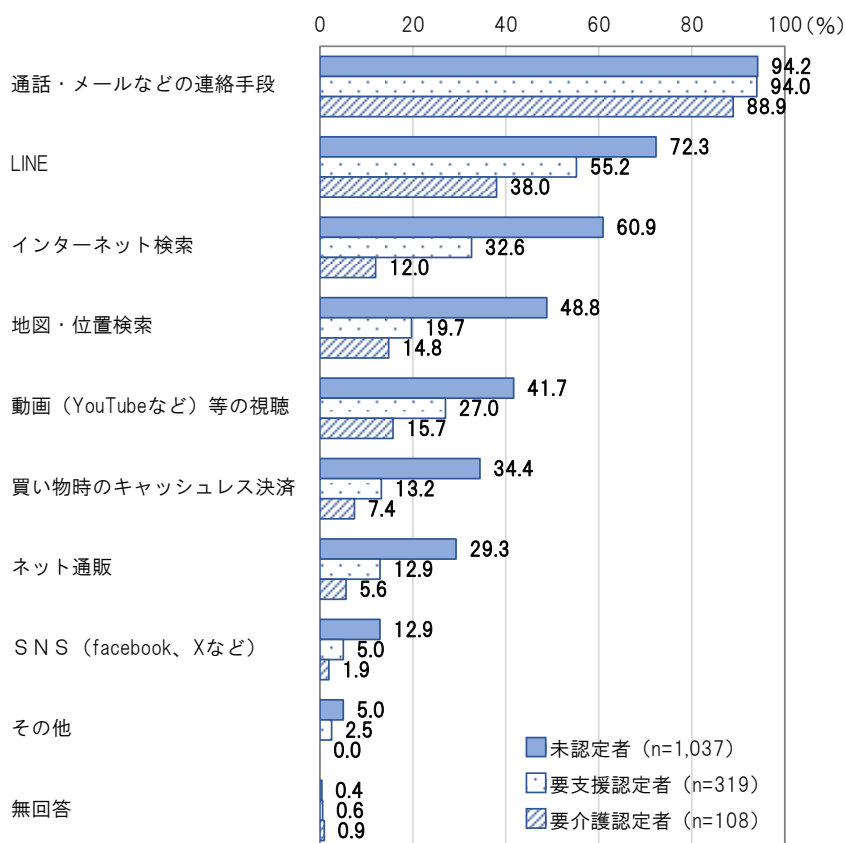


(3-1) スマートフォンやタブレット、パソコンの利用内容

(3) で「利用している」と回答した人のみ

問 どのようなことに利用していますか。(あてはまるものすべてに○)

- スマートフォンやタブレット、パソコンの利用内容は、すべての区分で「通話・メールなどの連絡手段」が約9割で最も高くなっている。
- 次いで未認定者・要支援認定者では「LINE」、「インターネット検索」の順となっており、いずれも未認定者の利用割合が高くなっている。要介護認定者では「LINE」、「動画（YouTube など）等の視聴」、「地図・位置検索」の順となっている。



《年齢別（未認定者）》

- 未認定者での利用内容を年齢別にみると、「通話・メールなどの連絡手段」を除くほとんどの項目で年齢が下がるほど割合が高くなる傾向がみられる。

		回答者数 (人)	通話・メールなどの 連絡手段	LINE	インターネット検 索	地図・位置検 索	動画（YouTub eなど）等の視 聴	買い物時のキャ ッシュレス決 済	ネット通 販	SNS（f aceb ook、 Xなど）	その他	無 回 答
年 齢 別	65～69歳	267	96.6	88.0	84.6	64.0	57.3	51.3	49.4	20.6	6.0	0.4
	70～74歳	282	94.0	76.6	67.7	55.0	44.3	37.2	35.1	13.8	4.3	-
	75～79歳	290	91.7	67.2	53.8	40.0	37.2	29.0	20.0	9.3	5.2	1.0
	80～84歳	131	95.4	54.2	32.8	35.9	26.7	15.3	8.4	6.9	3.8	-
	85～89歳	52	94.2	55.8	23.1	26.9	15.4	19.2	7.7	5.8	5.8	-
	90歳以上	5	100.0	40.0	60.0	40.0	60.0	-	-	20.0	20.0	-

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

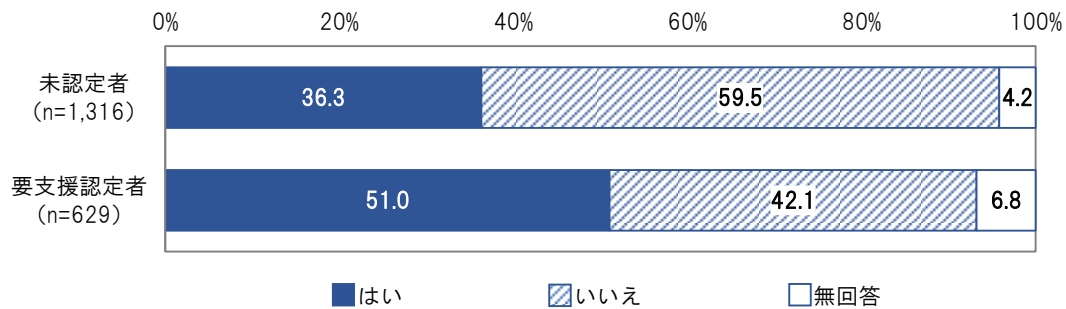
5. 物忘れについて

（１）物忘れの状況《未認定・要支援のみ》

① 物忘れが多いと感じるか

問 物忘れが多いと感じますか。（○は１つ）

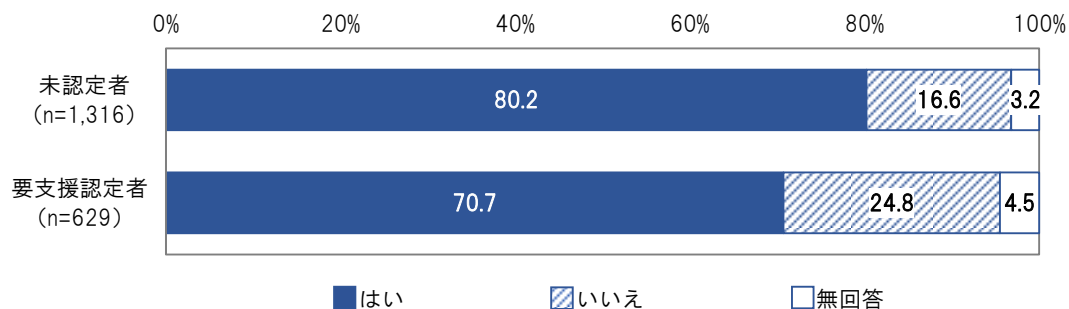
○物忘れが多いと感じるかは、未認定者では「いいえ」が６割近くを占めているのに対し、要支援認定者では「はい」が半数以上を占めて高くなっている。



② 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしているか

問 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。（○は１つ）

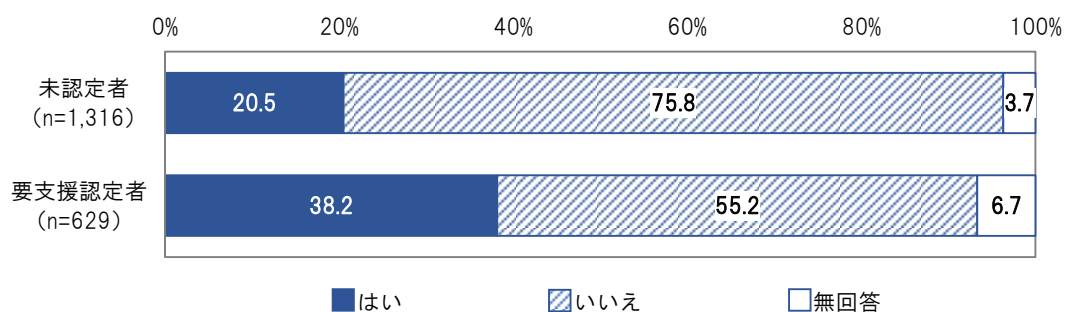
○自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしているかは、未認定者・要支援認定者ともに「はい」が７割以上を占めており、未認定者の方が１割程度高くなっている。



③ 今日が何月何日かわからない時があるか

問 今日が何月何日かわからない時がありますか。（○は１つ）

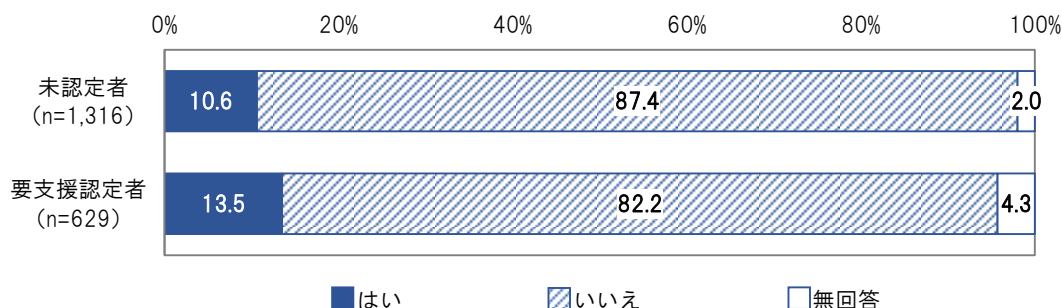
○今日が何月何日かわからない時があるかは、未認定者・要支援認定者ともに「いいえ」が「はい」を上回っているものの、未認定者では７割を超えているのに対し、要支援認定者では５割台と低くなっている。



（２）身近な認知症の症状のある人の有無《未認定・要支援のみ》

問 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか。（１つに○）

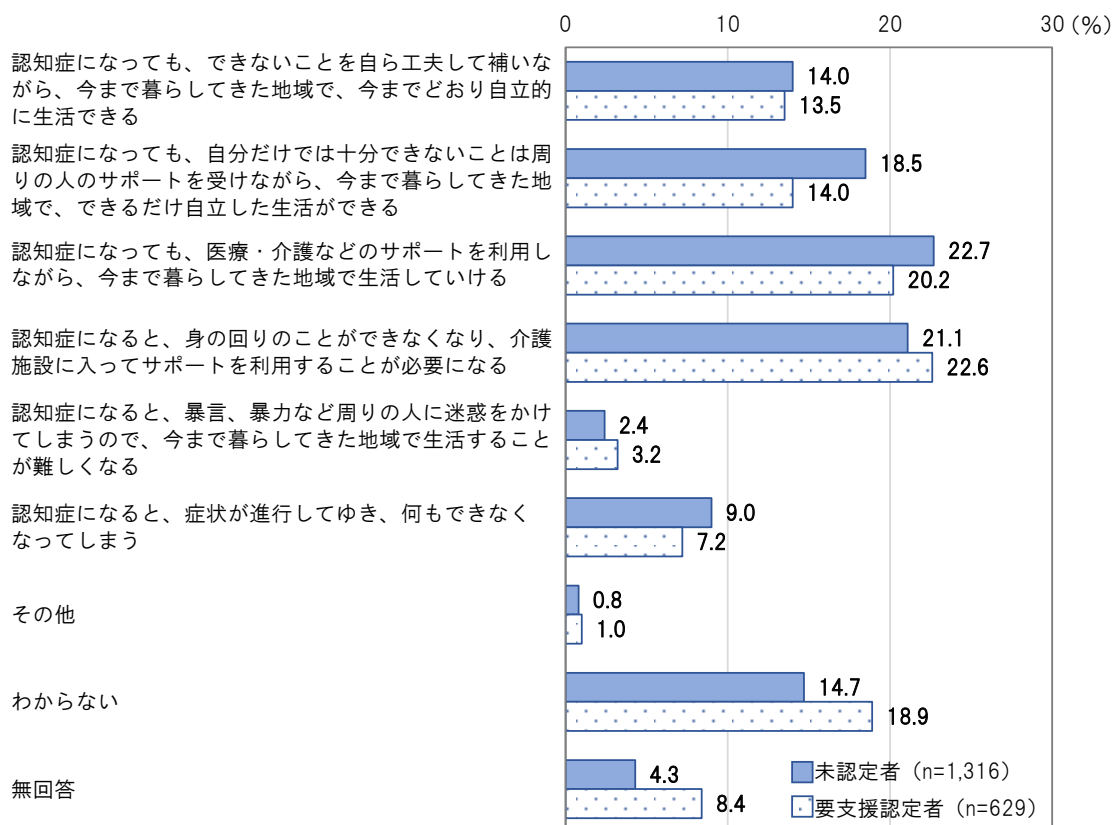
○身近な認知症の症状のある人の有無は、未認定者・要支援認定者ともに「いいえ」が８割を超えており、「はい」はともに１割程度となっている。



（３）認知症に対するイメージ《未認定・要支援のみ》

問 あなたは、認知症についてどのようなイメージを持っていますか。
（イメージに最も近いもの１つに○）

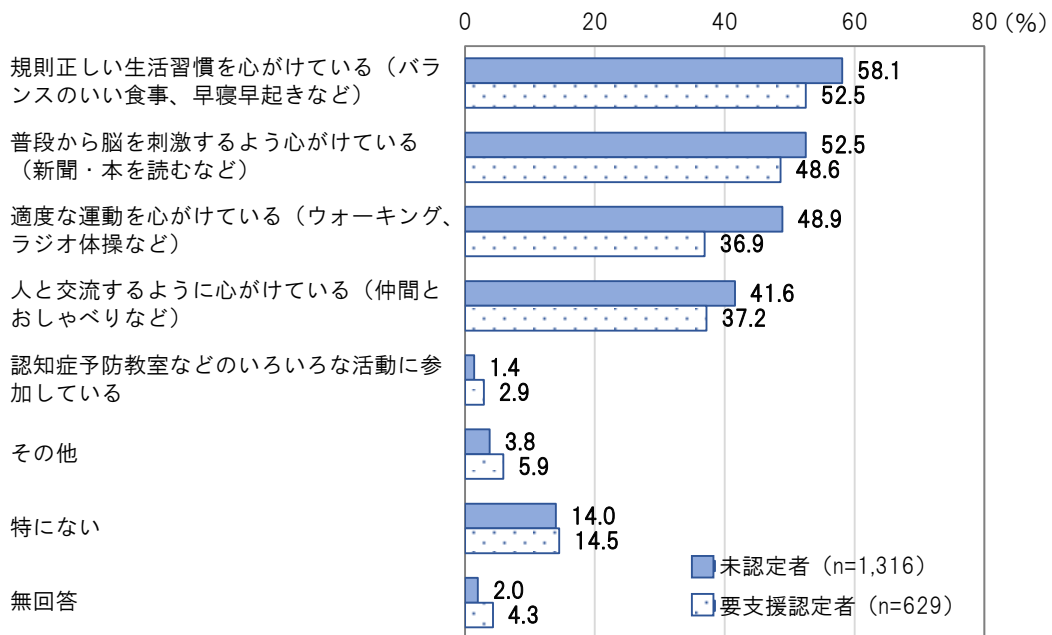
○認知症に対するイメージについては、未認定者では「認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける」が最も高く、次いで「認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる」となっている。要支援認定者では、「認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる」が最も高く、次いで「認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける」となっている。



（４）認知症予防のために取り組んでいること《未認定・要支援のみ》

問 普段の生活で、ご自身が認知症の予防などで何か取り組まれていることはありますか。
（あてはまるものすべてに○）

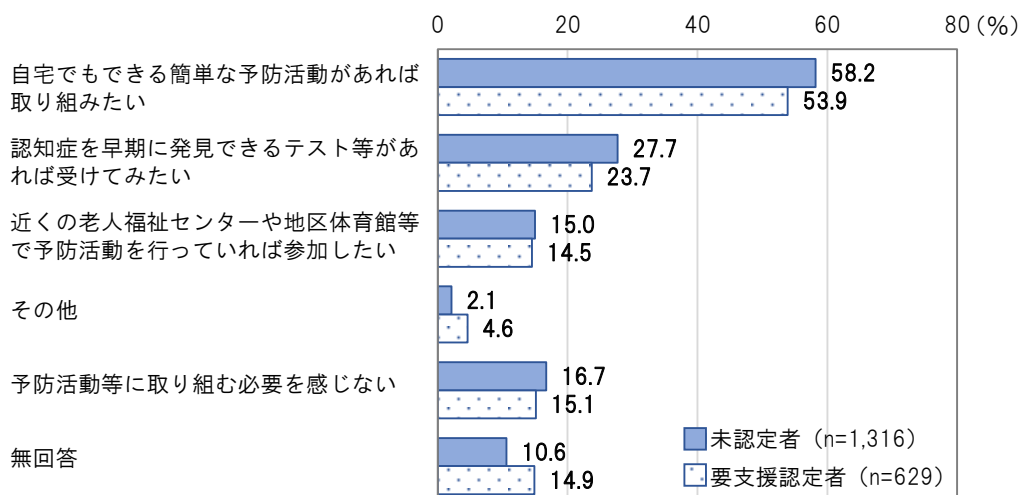
- 認知症予防のために取り組んでいることは、未認定者・要支援認定者ともに「規則正しい生活習慣を心がけている（バランスのいい食事、早寝早起きなど）」が最も高く、次いで「普段から脳を刺激するよう心がけている（新聞・本を読むなど）」となっている。
- また、「特にない」がともに１割程度となっている。



（５）認知症予防に対する考え《未認定・要支援のみ》

問 認知症の予防等についてどのように考えていますか。（あてはまるものすべてに○）

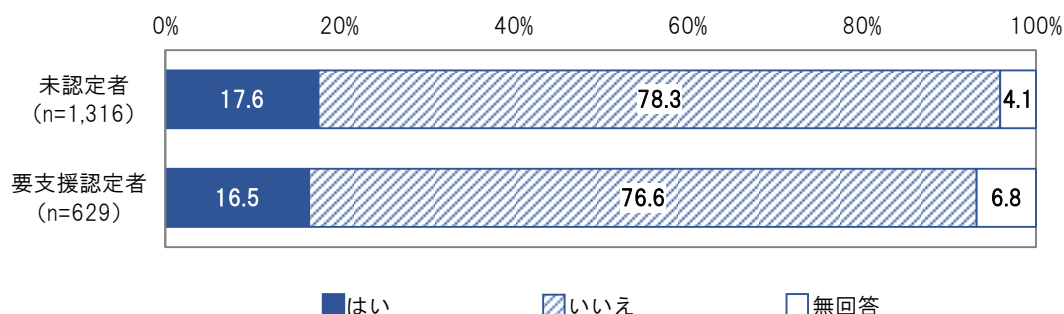
- 認知症予防に対する考えは、未認定者・要支援認定者ともに「自宅でもできる簡単な予防活動があれば取り組みたい」が５割を超えて最も高く、次いで「認知症を早期に発見できるテスト等があれば受けてみたい」となっており、取り組みへの参加意向が高くなっている。
- 一方で、「予防活動等に取り組む必要を感じない」は未認定者・要支援認定者ともに１割台となっている。



（６）認知症の相談窓口の認知度《未認定・要支援のみ》

問 認知症に関する相談窓口を知っていますか。（１つに○）

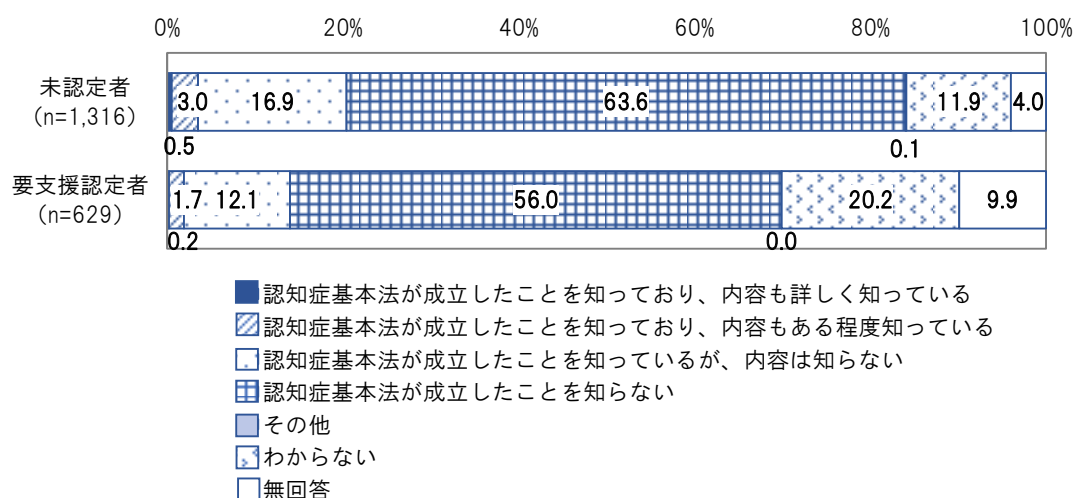
○認知症の相談窓口の認知度は、未認定者・要支援認定者ともに「いいえ」が８割程度を占めており、「はい」はともに２割未満となっている。



（７）認知症基本法の認知度《未認定・要支援のみ》

問 令和５年(2023年)６月「共生社会の実現を推進するための認知症基本法（以下、認知症基本法）」が成立し、令和６年(2024年)１月に施行されました。あなたは、認知症基本法が成立したことや、その内容について知っていますか。（１つに○）

○認知症基本法の認知度は、未認定者・要支援認定者ともに「認知症基本法が成立したことを知らない」が６割前後を占めて最も高く、「認知症基本法が成立したことを知っており、内容も詳しく知っている」と「認知症基本法が成立したことを知っており、内容もある程度知っている」（同率）、「認知症基本法が成立したことを知っているが、内容は知らない」を合わせた『認知症基本法が成立したことを知っている』の割合は未認定者の方がやや高い。



6. 地域での活動について

（１）地域活動等への参加頻度《未認定・要支援のみ》

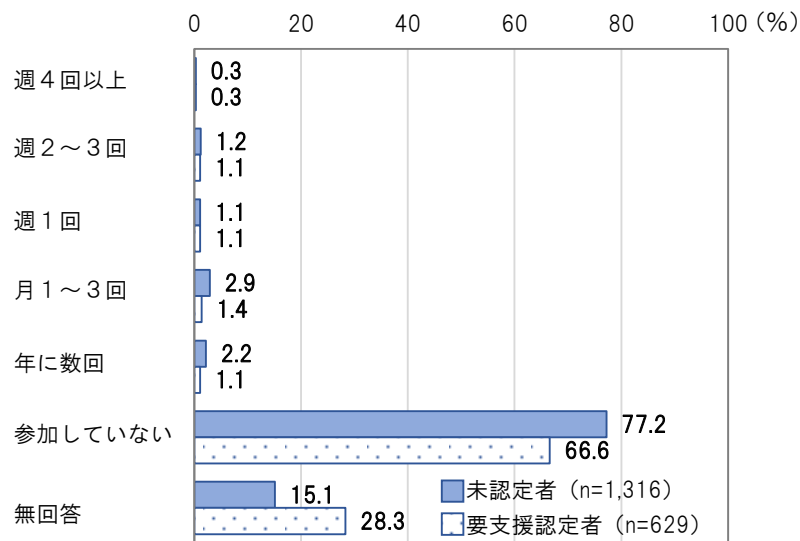
問 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。

（①～⑧それぞれに１つずつ回答してください）

① ボランティアのグループ

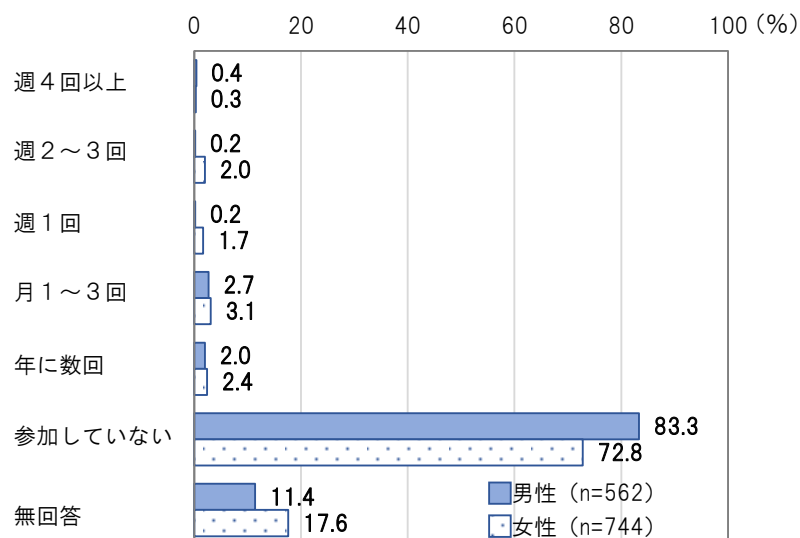
○ボランティアのグループへの参加頻度は、未認定者・要支援認定者ともに「参加していない」が最も高くなっている。

○『参加している』（「週４回以上」＋「週２～３回」＋「週１回」＋「月１～３回」＋「年に数回」）の割合をみると、未認定者・要支援認定者ともに１割に満たないが、未認定者の方がやや高い。



《性別（未認定者）》

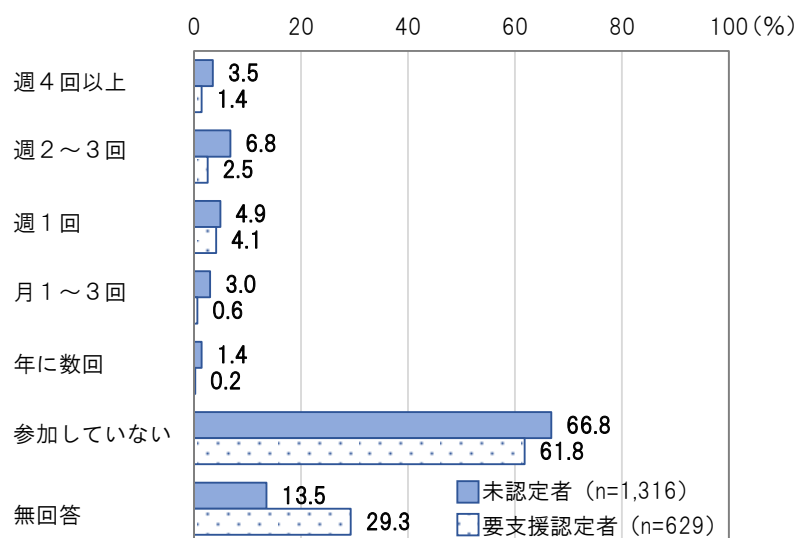
○未認定者でのボランティアのグループへの参加頻度を性別にみると、『参加している』の割合はともに１割未満で大きな差異はみられないものの、男性では「参加していない」が８割を超え、女性に比べて高くなっている。



② スポーツ関係のグループやクラブ

○スポーツ関係のグループやクラブへの参加頻度は、未認定者・要支援認定者ともに「参加していない」が最も高くなっている。

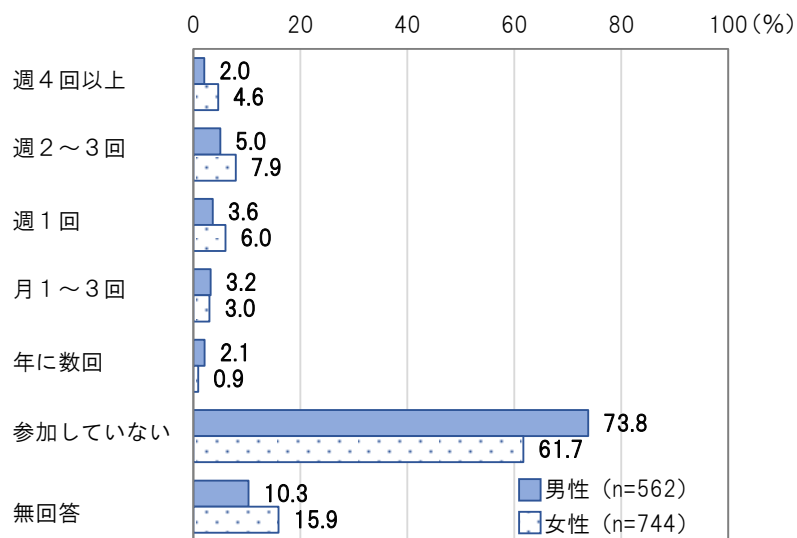
○『参加している』（「週4回以上」＋「週2～3回」＋「週1回」＋「月1～3回」＋「年に数回」）の割合をみると、未認定者では2割近く、要支援認定者では1割程度となっている。



《性別（未認定者）》

○未認定者でのスポーツ関係のグループやクラブへの参加頻度を性別にみると、『参加している』の割合は女性では約2割を占め、男性に比べて高くなっている。

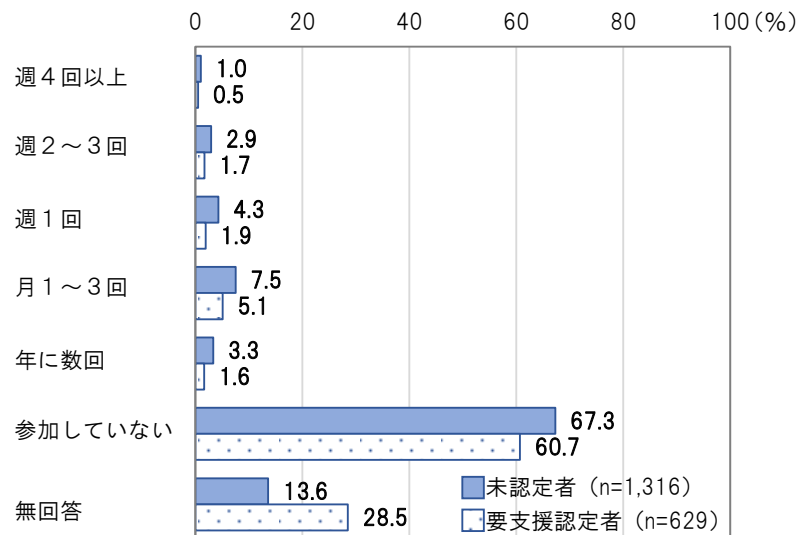
○また、男性では「参加していない」が7割を超え、女性に比べて高くなっている。



③ 趣味関係のグループ

○趣味関係のグループへの参加頻度は、未認定者・要支援認定者ともに「参加していない」が最も高くなっている。

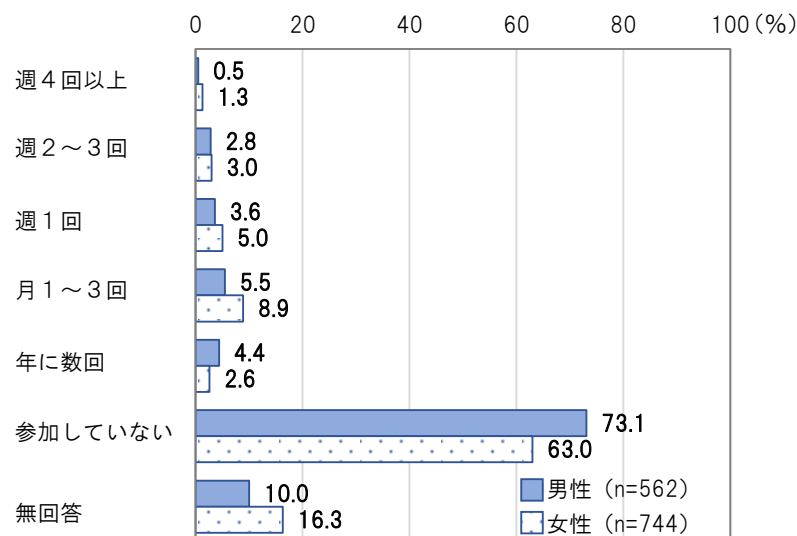
○『参加している』（「週4回以上」＋「週2～3回」＋「週1回」＋「月1～3回」＋「年に数回」）の割合をみると、未認定者では2割近く、要支援認定者では1割程度となっている。



《性別（未認定者）》

○未認定者での趣味関係のグループへの参加頻度を性別にみると、『参加している』の割合は女性では約2割を占め、男性に比べて高くなっている。

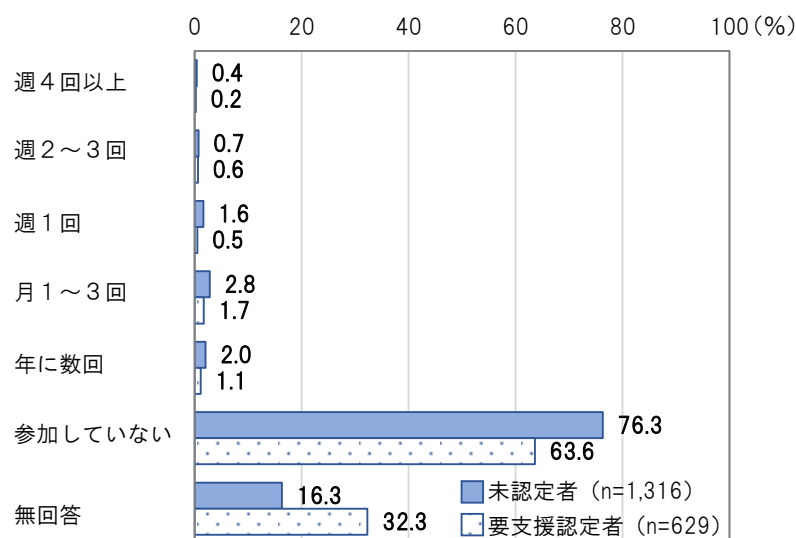
○また、男性では「参加していない」が7割を超え、女性に比べて高くなっている。



④ 学習・教養サークル

○学習・教養サークルへの参加頻度は、未認定者・要支援認定者ともに「参加していない」が最も高くなっている。

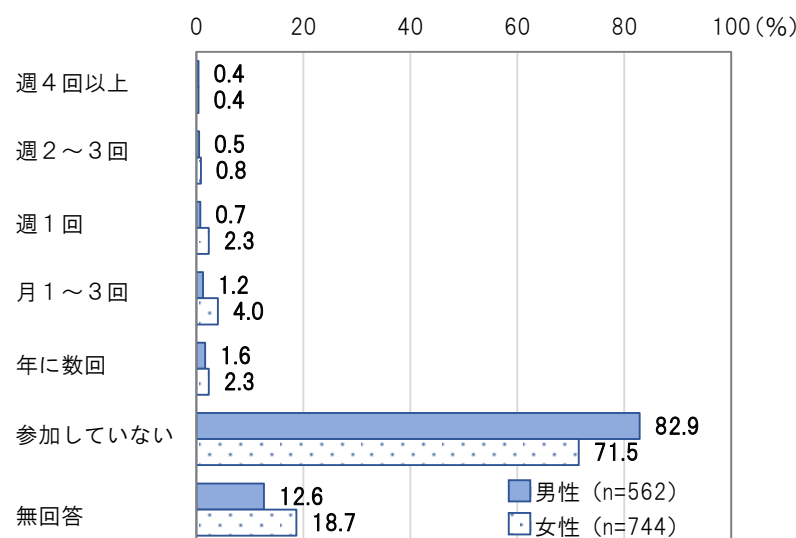
○『参加している』（「週4回以上」＋「週2～3回」＋「週1回」＋「月1～3回」＋「年に数回」）の割合をみると、未認定者では1割近く、要支援認定者では5%未満となっている。



《性別（未認定者）》

○未認定者での学習・教養サークルへの参加頻度を性別にみると、『参加している』の割合は女性では約1割を占め、男性に比べて高くなっている。

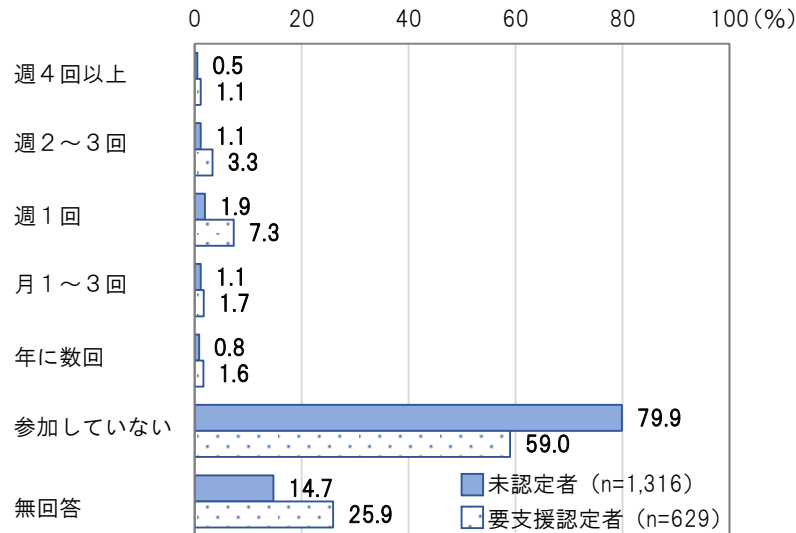
○また、男性では「参加していない」が8割以上を占め、女性に比べて高くなっている。



⑤ 高齢者ふれあいサロン・いきいき百歳体操など介護予防のための集いの場

○高齢者ふれあいサロン・いきいき百歳体操など介護予防のための集いの場への参加頻度は、未認定者・要支援認定者ともに「参加していない」が最も高くなっている。

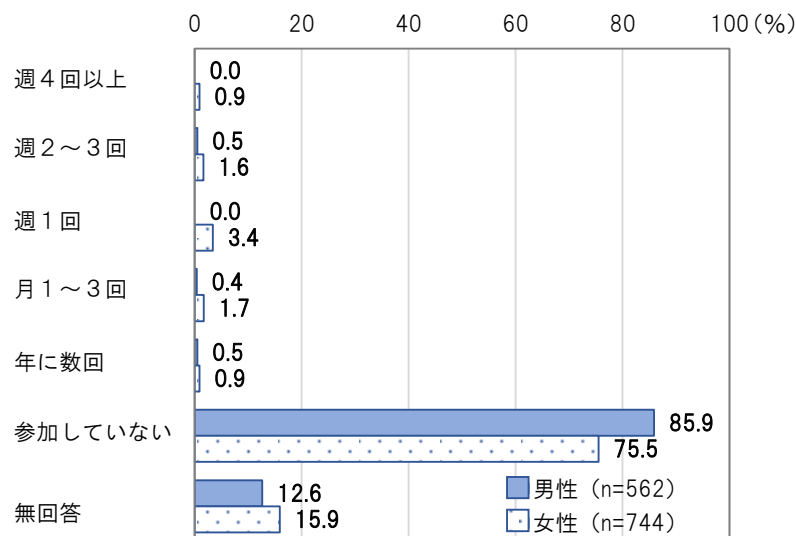
○『参加している』（「週4回以上」＋「週2～3回」＋「週1回」＋「月1～3回」＋「年に数回」）の割合をみると、要支援認定者では1割台、未認定者では5％程度となっている。



《性別（未認定者）》

○未認定者での高齢者ふれあいサロン・いきいき百歳体操など介護予防のための集いの場への参加頻度を性別にみると、『参加している』の割合は女性では1割近くを占め、男性に比べて高くなっている。

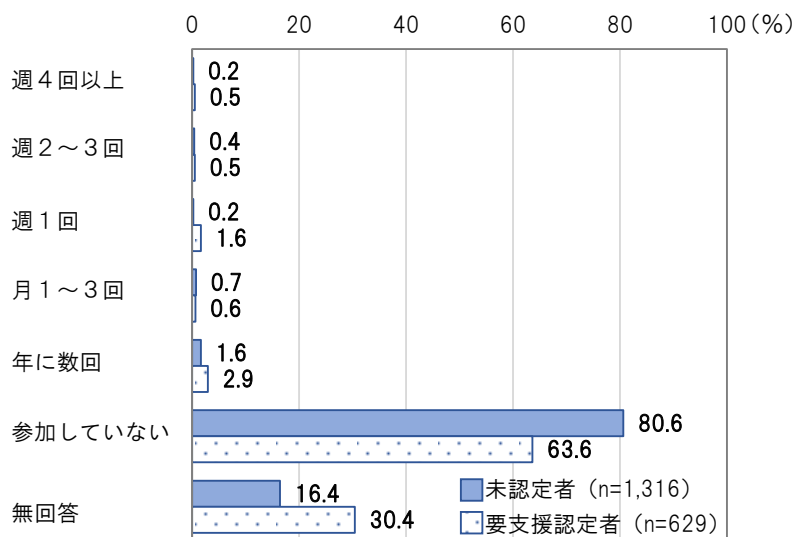
○また、男性では「参加していない」が8割以上を占め、女性に比べて高くなっている。



⑥ 老人クラブ

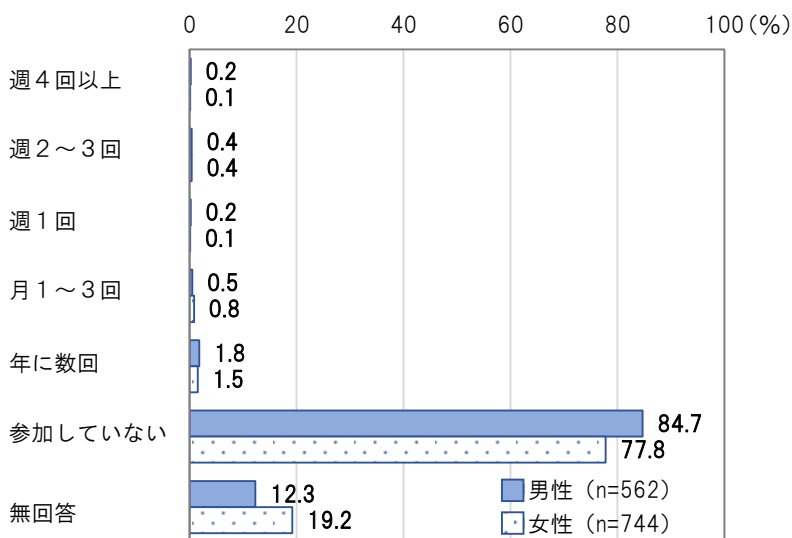
○老人クラブへの参加頻度は、未認定者・要支援認定者ともに「参加していない」が最も高くなっている。

○『参加している』（「週4回以上」＋「週2～3回」＋「週1回」＋「月1～3回」＋「年に数回」）の割合をみると、未認定者・要支援認定者ともに1割未満であるが、要支援認定者の方がやや高くなっている。



《性別（未認定者）》

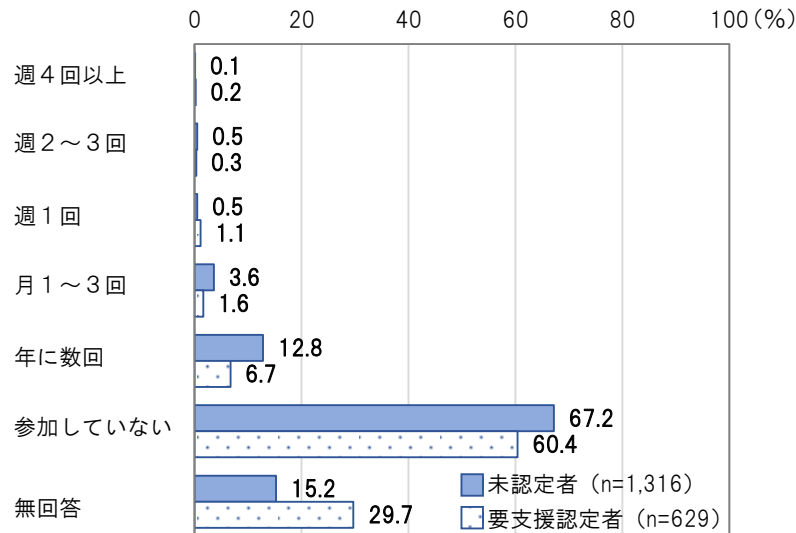
○未認定者での老人クラブへの参加頻度を性別にみると、『参加している』の割合はともに4%未満で大きな差異はみられないものの、男性では「参加していない」が8割以上を占め、女性に比べて高くなっている。



⑦ 町内会・自治会

○町内会・自治会への参加頻度は、未認定者・要支援認定者ともに「参加していない」が最も高くなっている。

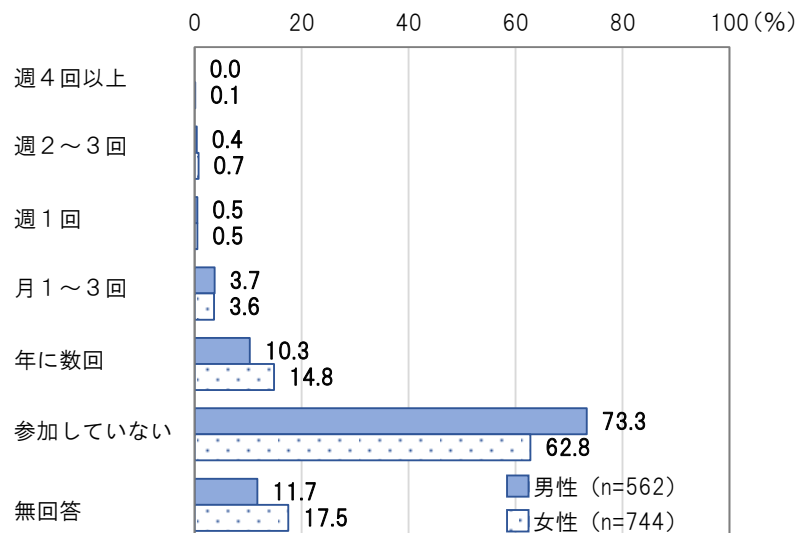
○『参加している』（「週4回以上」＋「週2～3回」＋「週1回」＋「月1～3回」＋「年に数回」）の割合をみると、未認定者では約2割、要支援認定者では約1割となっている。



《性別（未認定者）》

○未認定者での町内会・自治会への参加頻度を性別にみると、『参加している』の割合は女性では約2割で、男性に比べてやや高くなっている。

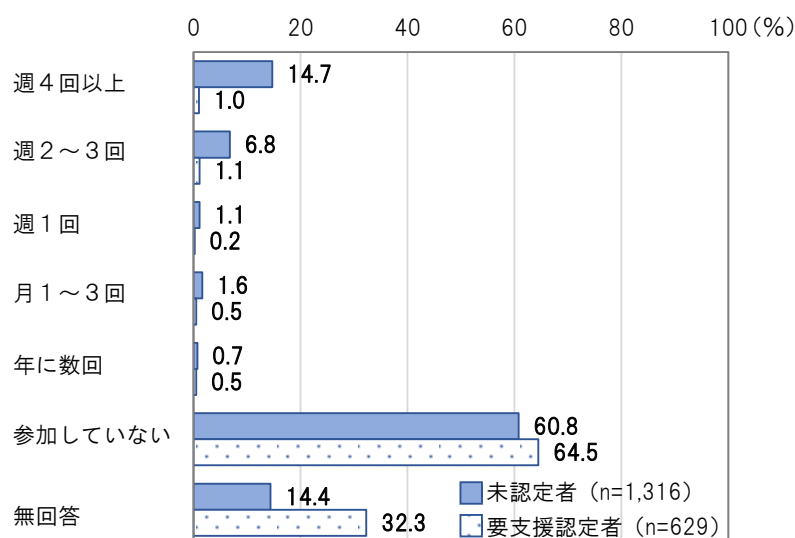
○また、男性では「参加していない」が7割以上を占め、女性に比べて高くなっている。



⑧ 収入のある仕事

○収入のある仕事への参加頻度は、未認定者・要支援認定者ともに「参加していない」が最も高くなっている。

○『参加している』（「週4回以上」＋「週2～3回」＋「週1回」＋「月1～3回」＋「年に数回」）の割合をみると、未認定者では2割以上となっており、特に「週4回以上」では1割を超えている。

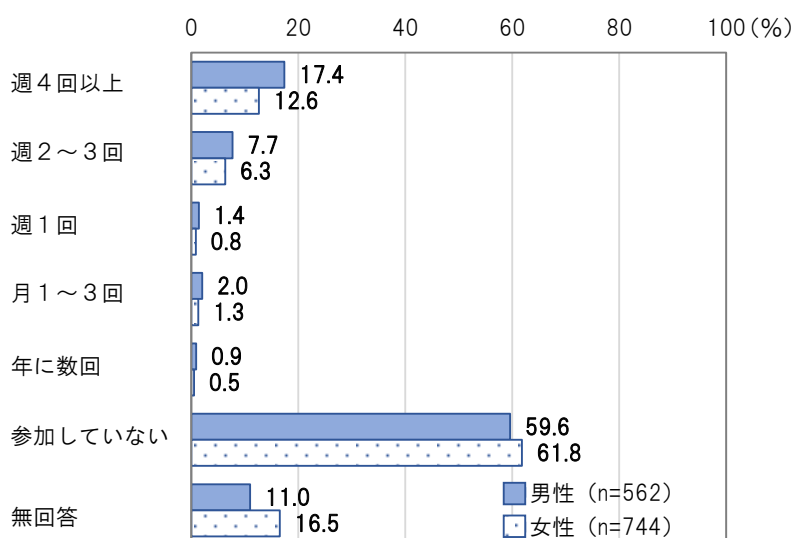


《性別（未認定者）》

○未認定者での収入のある仕事への参加頻度を性別にみると、『参加している』の割合は男性では約3割で、女性に比べて高くなっている。

○①～⑧の項目の中で、唯一、女性に比べて男性の参加が高くなっている。

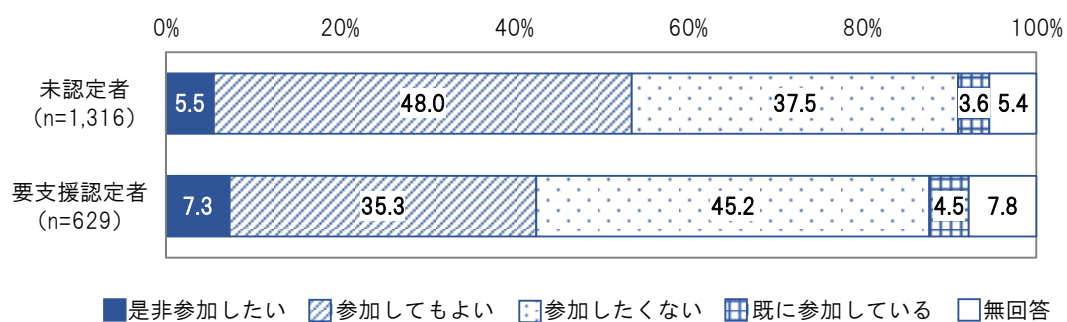
○また、女性では「参加していない」が約6割を占め、男性に比べてやや高くなっている。



（２）地域住民の有志によるグループ活動への参加者としての参加意向《未認定・要支援のみ》

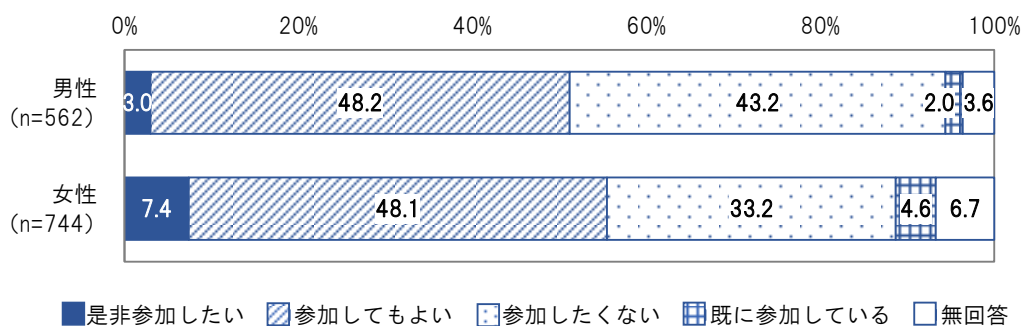
問 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。（１つに○）

- 地域住民の有志によるグループ活動への参加者としての参加意向は、未認定者では「参加してもよい」が約５割で最も高く、「是非参加したい」と合わせると、参加意向のある人が半数を超えている。
- 一方で、要支援認定者では「参加したくない」が４割を超えて最も高く、参加意向のある人は約４割となっている。
- 「既に参加している」はともに５％未満となっている。



《性別（未認定者）》

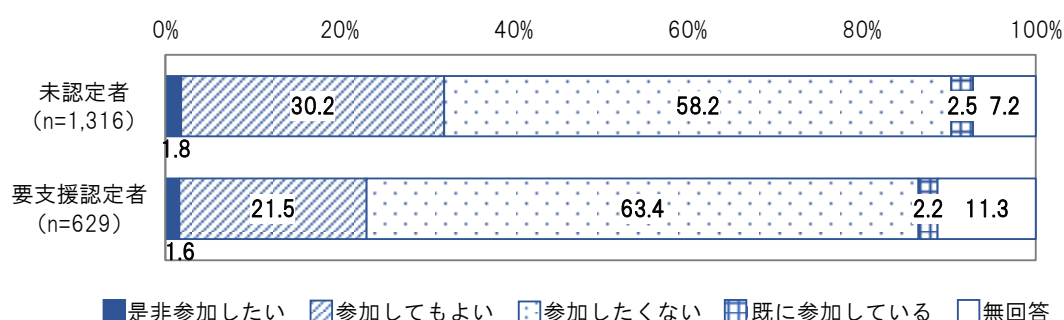
- 未認定者での地域住民の有志によるグループ活動への参加者としての参加意向を性別にみると、参加意向のある人が男性に比べて女性の方が高くなっている。
- 「既に参加している」も女性の方がやや高くなっている。



（３）地域住民の有志によるグループ活動への企画・運営としての参加意向《未認定・要支援のみ》

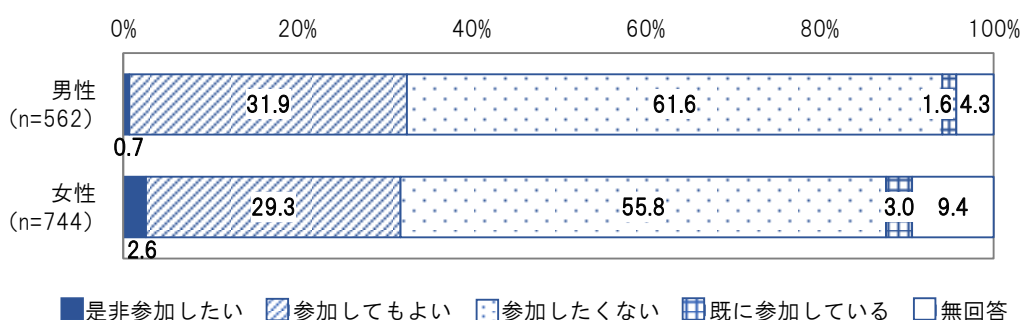
問 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。（１つに○）

- 地域住民の有志によるグループ活動への企画・運営としての参加意向は、未認定者・要支援認定者ともに「参加したくない」が半数を超えて高くなっている。
- 一方で、「参加してもよい」と「是非参加したい」を合わせた参加意向のある人は、未認定者では約３割、要支援認定者では約２割を占めている。
- 「既に参加している」はともに２％程度となっている。



《性別（未認定者）》

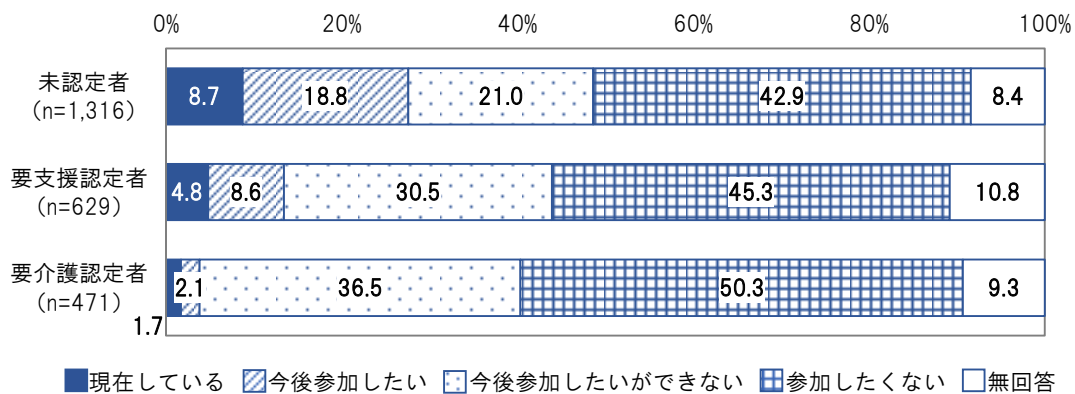
- 未認定者での地域住民の有志によるグループ活動への企画・運営としての参加意向を性別にみると、参加意向のある人はともに３割程度となっており、性別による大きな差異はみられない。



（４）地域活動やボランティア活動への参加

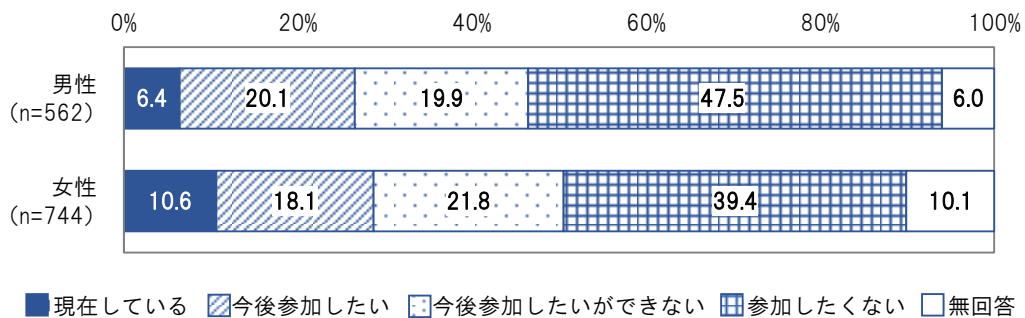
問 あなたは、今後、地域活動やボランティア活動に参加したいと考えていますか。（１つに○）

- 地域活動やボランティア活動への参加は、すべての区分で「参加したくない」が最も高く、「今後参加したいができない」と合わせると、参加意向のない人が未認定者で６割以上、要支援認定者で７割以上、要介護認定者で９割近くを占めている。
- 一方で、「現在している」と「今後参加したい」を合わせた参加意向のある人は、未認定者では２割以上、要支援認定者では１割以上を占めている。



《性別（未認定者）》

- 未認定者での地域活動やボランティア活動への参加を性別にみると、「現在している」と「今後参加したい」を合わせた参加意向のある人が男性に比べて女性の方が高くなっている。特に、「現在している」が女性では１割を超えて、男性に比べて高くなっている。



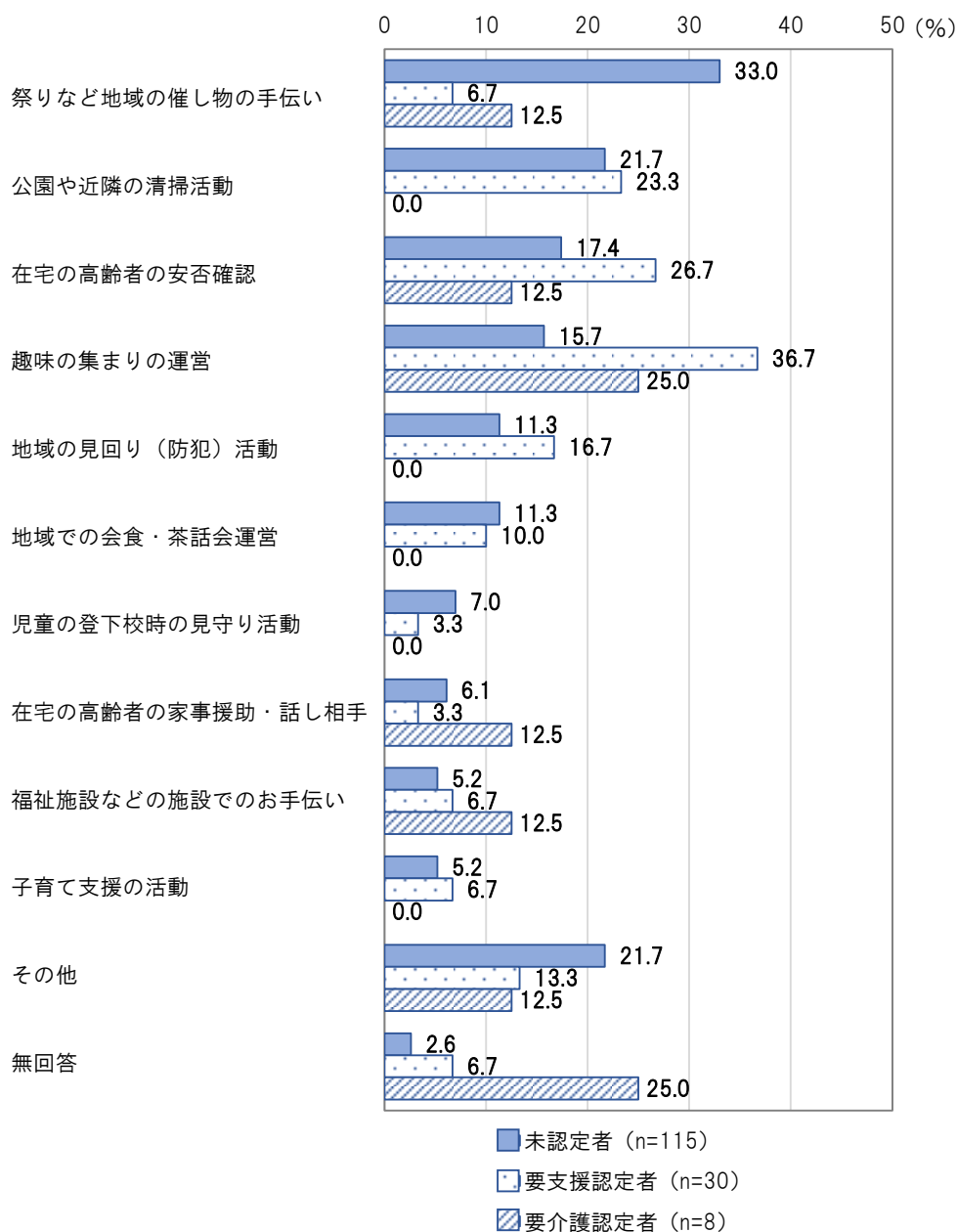
（４－１）現在行っているボランティア・地域活動 ※要介護認定者は母数が少ないので参考値

（４）で「現在している」と回答した人のみ

問 あなたが現在行っているボランティア・地域活動は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

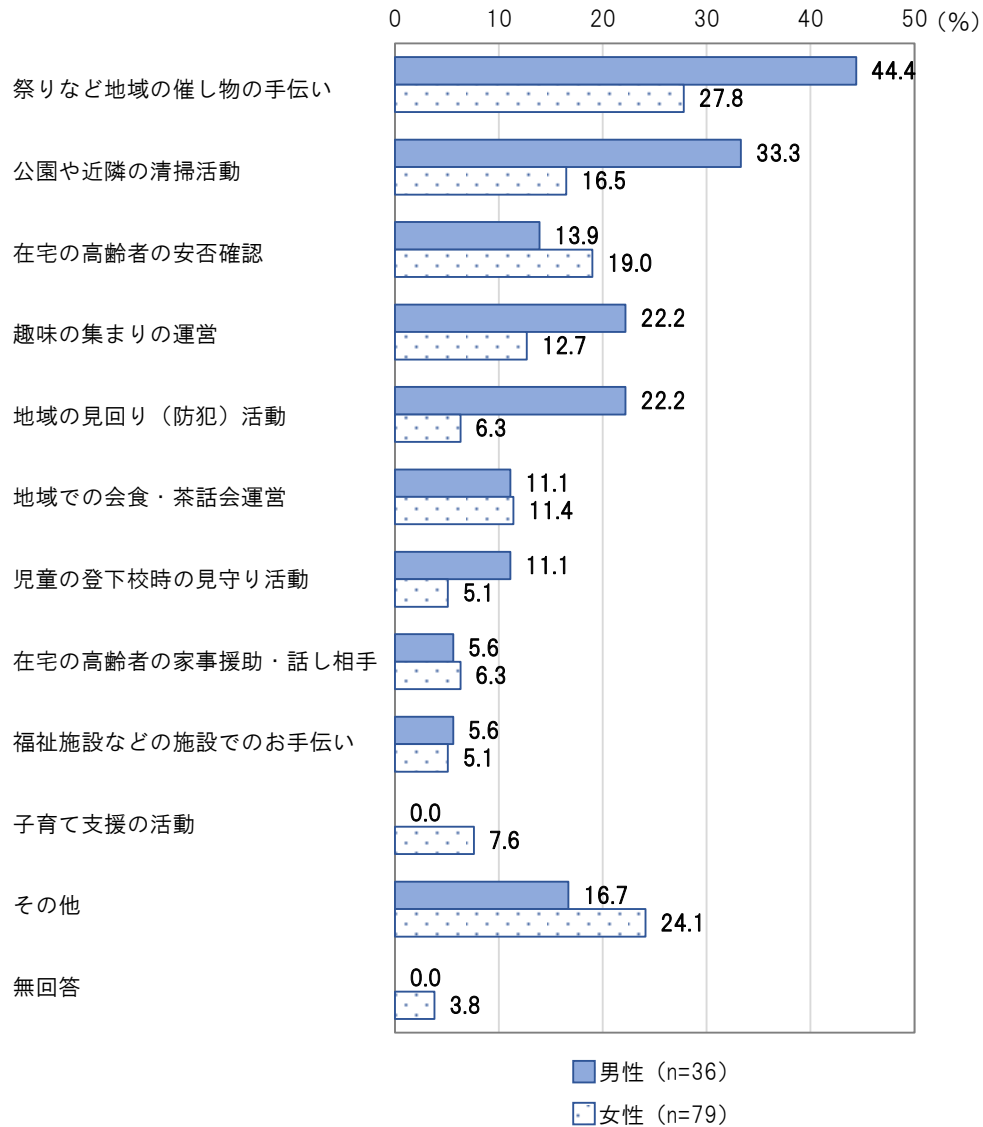
○現在行っているボランティア・地域活動は、未認定者では「祭りなど地域の催し物の手伝い」が３割を超えて最も高く、次いで「公園や近隣の清掃活動」、「在宅の高齢者の安否確認」、「趣味の集まりの運営」の順となっている。

○要支援認定者では、「趣味の集まりの運営」が３割を超えて最も高く、次いで「在宅の高齢者の安否確認」、「公園や近隣の清掃活動」の順となっている。



《性別（未認定者）》

○未認定者での現在行っているボランティア・地域活動を性別にみると、男性では「祭りなど地域の催し物の手伝い」や「公園や近隣の清掃活動」、「趣味の集まりの運営」、「地域の見回り（防犯）活動」などの自治活動で女性に比べて高い割合となっているのに対し、女性では「在宅の高齢者の安否確認」などの交流活動で男性に比べて高い割合となっている。

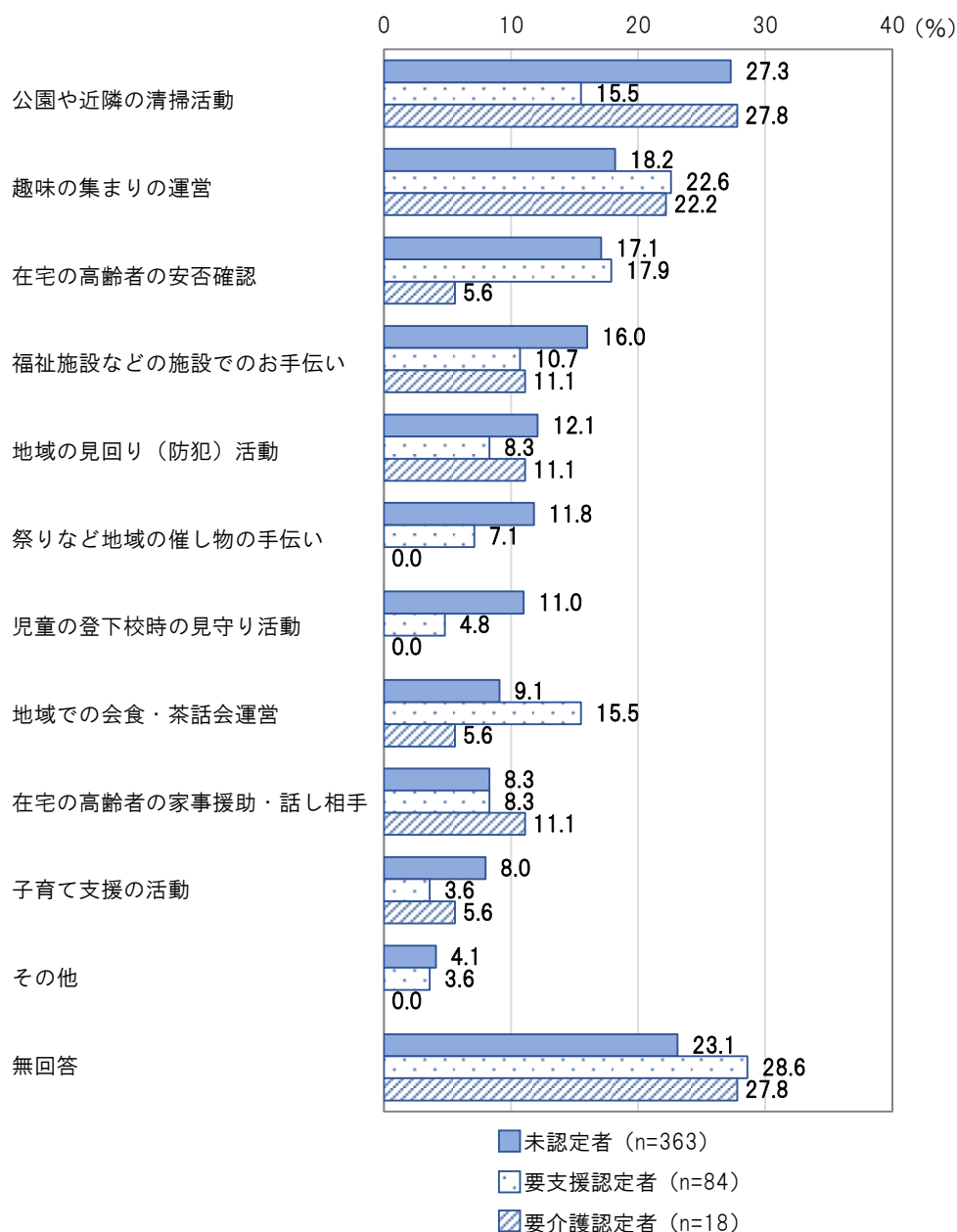


（４-２）今後、新たに行いたいボランティア・地域活動 ※要介護認定者は母数が少ないので参考値

（４）で「現在している」または「今後参加したい」と回答した人のみ

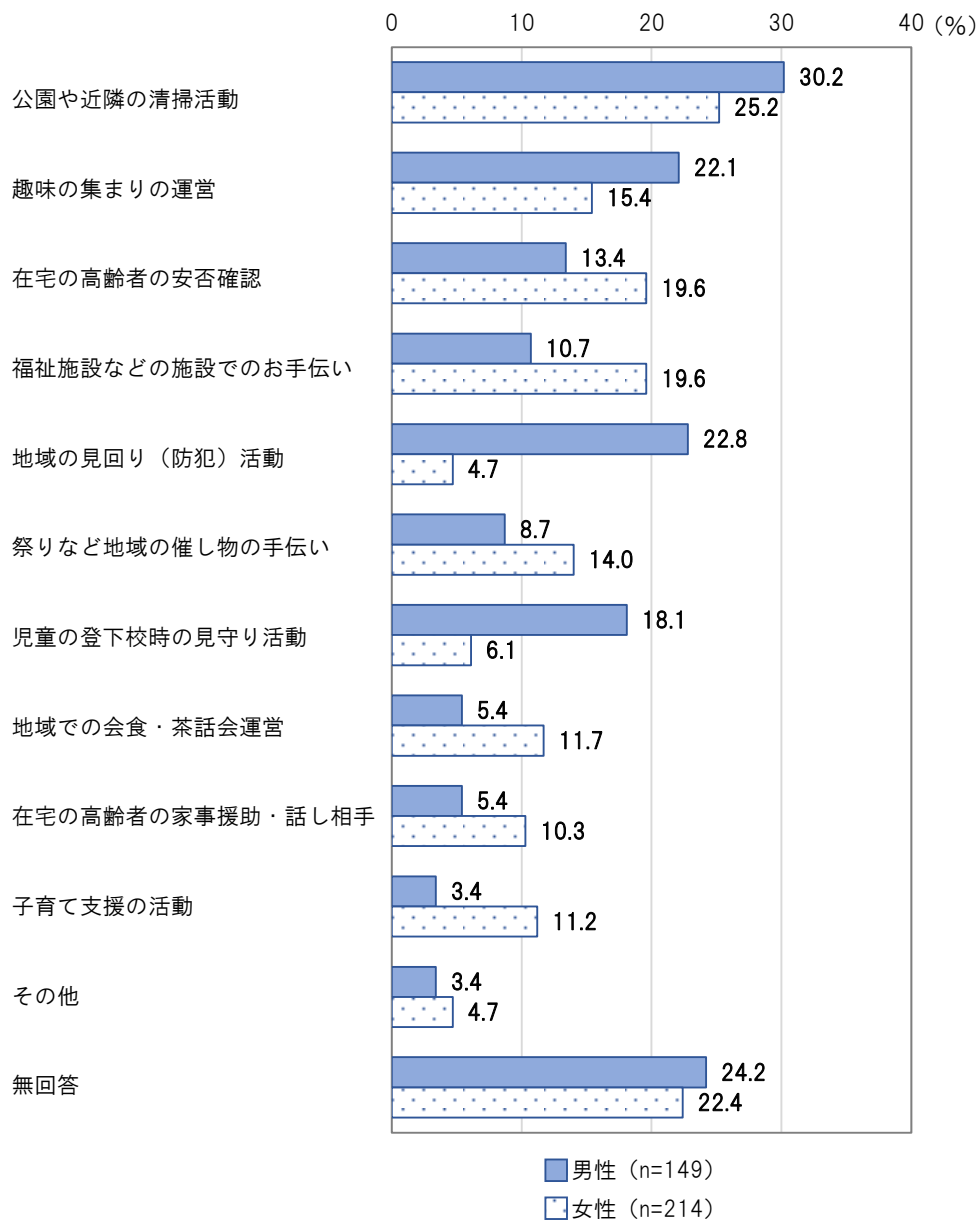
問 あなたが今後、新たに行いたいボランティア・地域活動は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

- 今後、新たに行いたいボランティア・地域活動は、未認定者では「公園や近隣の清掃活動」が３割近くで最も高く、次いで「趣味の集まりの運営」、「在宅の高齢者の安否確認」、「福祉施設などの施設でのお手伝い」の順となっている。
- 要支援認定者では、「趣味の集まりの運営」が２割を超えて最も高く、次いで「在宅の高齢者の安否確認」、「公園や近隣の清掃活動」と「地域での会食・茶話会運営」（同率）の順となっている。



《性別（未認定者）》

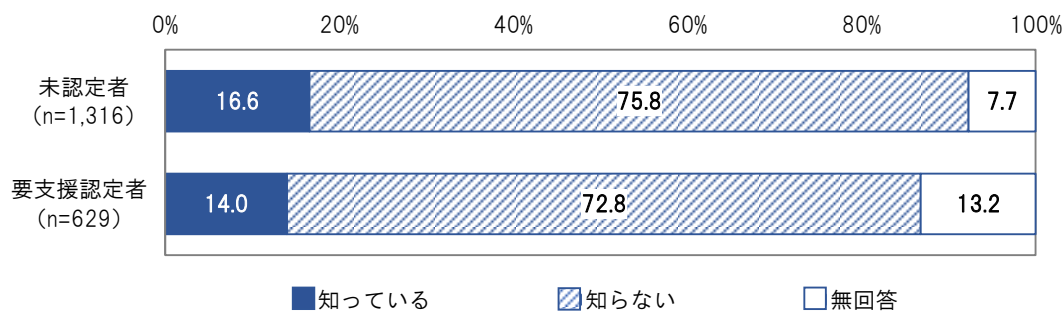
- 未認定者での新たに行いたいボランティア・地域活動を性別にみると、現在行っているボランティア・地域活動と同様に、男性では「公園や近隣の清掃活動」や「地域の見回り（防犯）活動」、「児童の登下校時の見守り活動」などの自治活動で女性に比べて高い割合となっているのに対し、女性では「在宅の高齢者の安否確認」や「地域での会食・茶話会運営」、「在宅の高齢者の家事援助・話し相手」などの交流活動で男性に比べて高い割合となっている。
- また、女性では「福祉施設などの施設でのお手伝い」や「子育て支援の活動」などの福祉活動においても男性に比べて参加意向が高くなっている。



(5)「生活支援サポーター」という制度の認知度《未認定・要支援のみ》

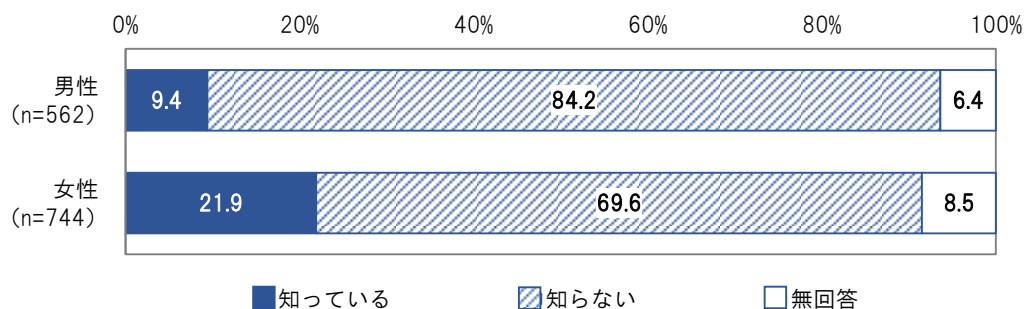
問 市の講習を受けて、高齢者に掃除や買い物などの軽易な支援を提供して収入を得ていただけの「生活支援サポーター」という制度を知っていますか。（1つに○）

○「生活支援サポーター」という制度の認知度は、未認定者・要支援認定者ともに「知らない」が7割以上を占めており、「知っている」は2割未満となっている。



《性別（未認定者）》

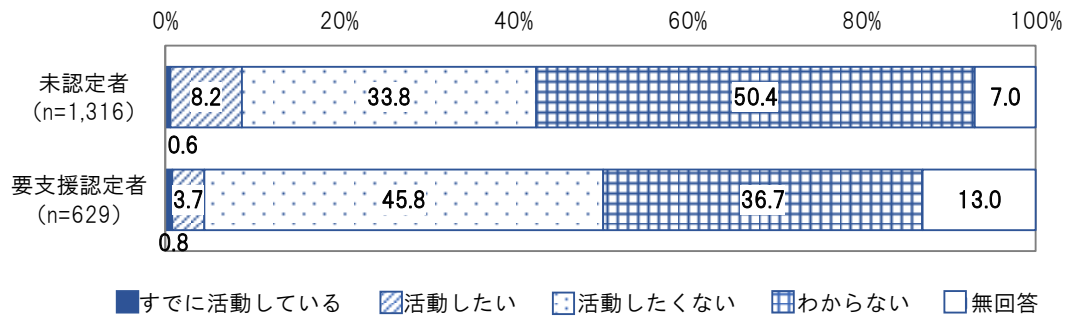
○未認定者での“生活支援サポーター”という制度の認知度を性別にみると、女性では「知っている」が2割を超え、男性の約2倍の認知度となっている。



（６）今後の「生活支援サポーター」活動の意向《未認定・要支援のみ》

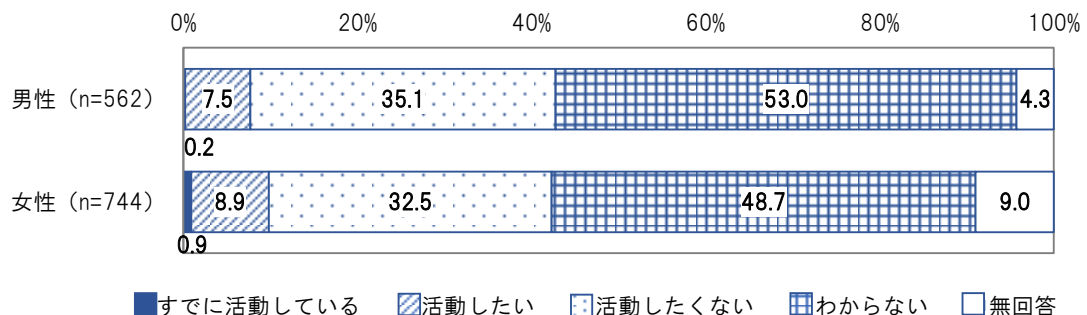
問 今後、「生活支援サポーター」として活動してみたいと思いますか。（１つに○）

- “生活支援サポーター” 活動の意向は、未認定者・要支援認定者ともに「活動したくない」及び「わからない」が大半を占めているものの、「すでに活動している」と「活動したい」を合わせた活動意向のある人が、未認定者では約１割となっている。



《性別（未認定者）》

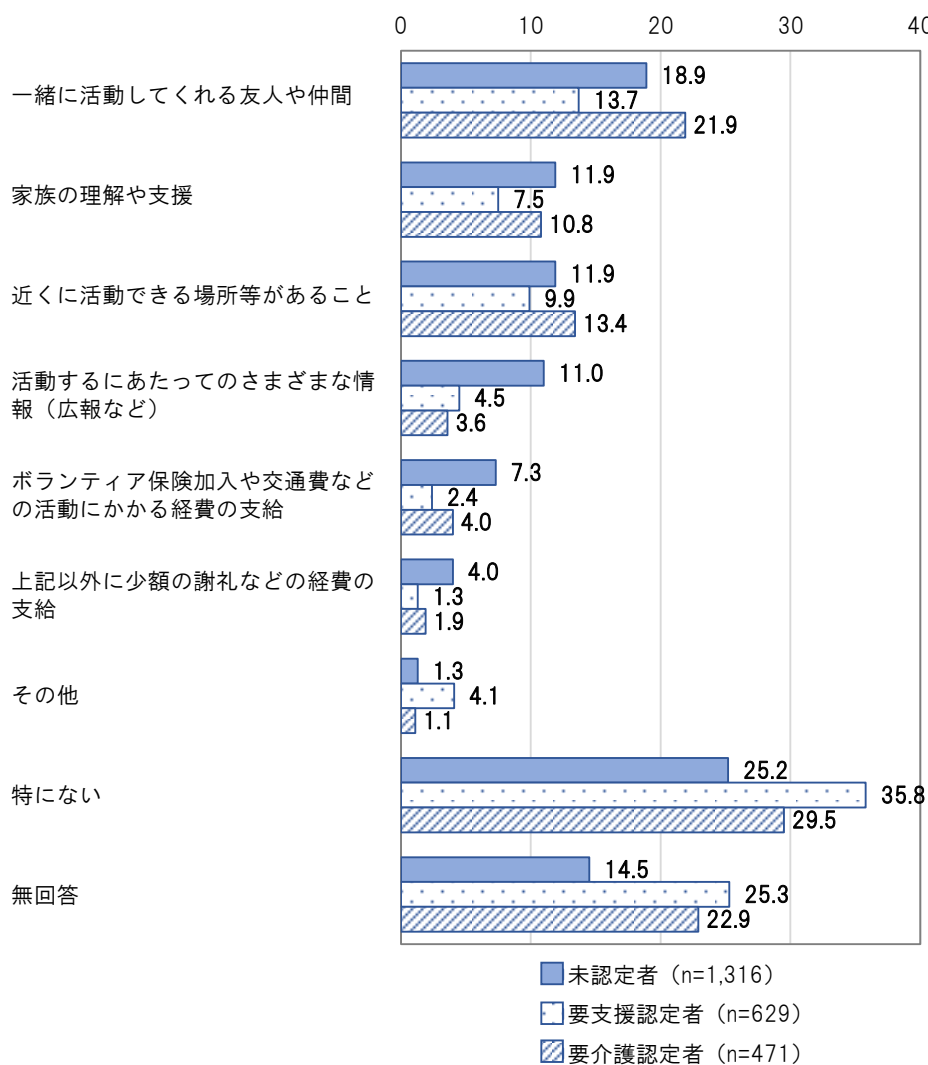
- 未認定者での“生活支援サポーター”活動の意向を性別にみると、「すでに活動している」と「活動したい」を合わせた活動意向のある人は、男性に比べて女性の方がやや高くなっているものの、大きな差異はみられない。



(7) ボランティア活動をするにあたって必要なこと

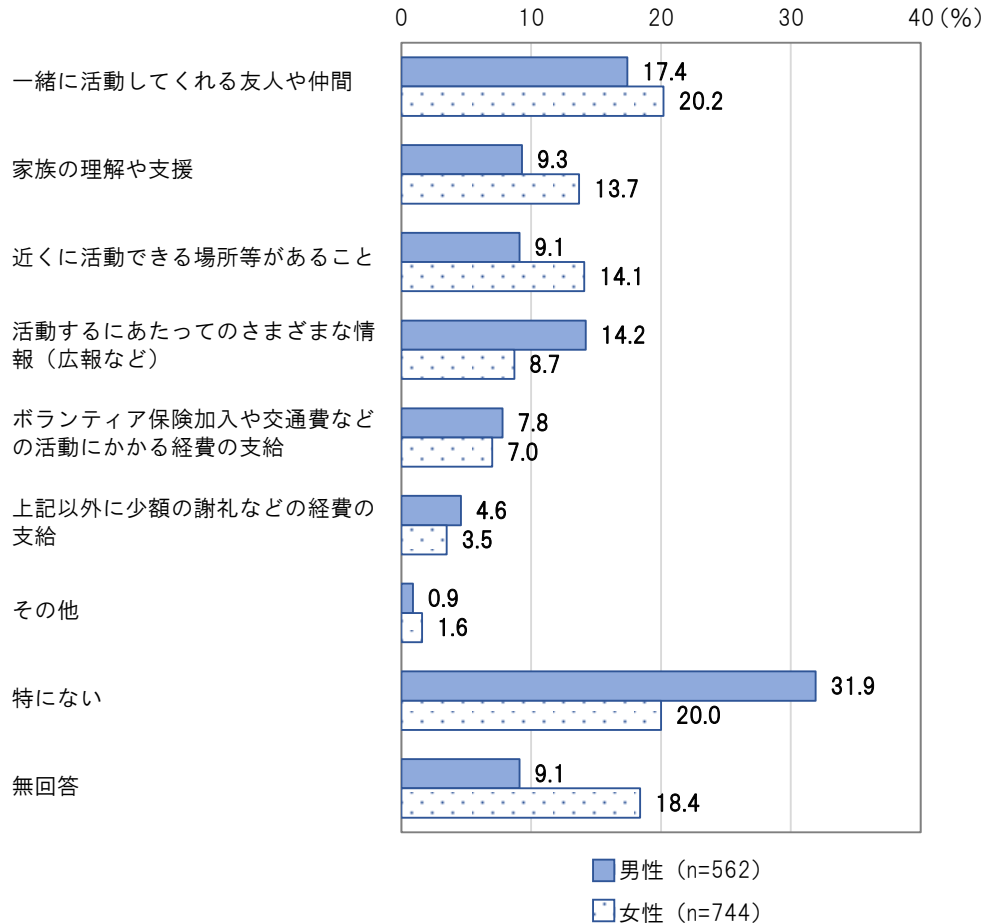
問 ボランティア活動をするにあたって、どのようなことが一番必要と思いますか。
(1つに○)

- ボランティア活動をするにあたって必要なことは、未認定者・要支援認定者では「特にない」が最も高くなっている。
- 具体的に必要なことでは、すべての区分で「一緒に活動してくれる友人や仲間」が最も高く、次いで未認定者では「家族の理解や支援」、「近くに活動できる場所等があること」、要支援認定者・要介護認定者では「近くに活動できる場所等があること」、「家族の理解や支援」の順となっている。



《性別（未認定者）》

- 未認定者でのボランティア活動をするにあたって必要なことを性別にみると、男性・女性ともに「一緒に活動してくれる友人や仲間」が最も高くなっている。
- また、男性では「活動するにあたってのさまざまな情報（広報など）」が女性に比べて高く、女性では「家族の理解や支援」や「近くに活動できる場所等があること」が男性に比べて高くなっている。

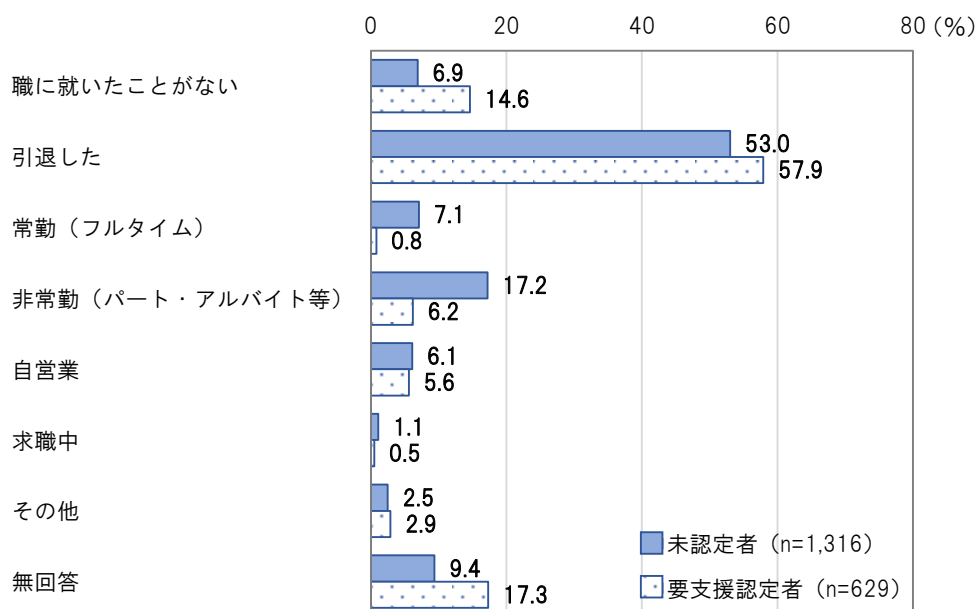


7. 就労について

(1) 現在の就労状態《未認定・要支援のみ》

問 現在のあなたの就労状態はどれですか。（あてはまるものすべてに○）

○現在の就労状態について、現在も就労している人（「常勤（フルタイム）」＋「非常勤（パート・アルバイト等）」＋「自営業」）の割合は、未認定者では約3割、要支援認定者では1割以上となっている。



《性別・年齢別（未認定者）》

○未認定者での現在の就労状況を性別にみると、現在も就労している人の割合は、男性では3割以上、女性では3割近くとなっている。また、男性では「常勤（フルタイム）」が1割以上となっている。

○年齢別にみると、年齢が低くなるほど現在も就労している人の割合が高くなっており、65～69歳では半数以上を占めている。

		回答者数（人）									(%)
性別	男性	562	5.9	55.5	10.7	14.6	7.3	1.8	2.1	4.6	
	女性	744	7.8	51.1	4.4	19.5	5.1	0.7	2.8	12.9	
年齢別	65～69歳	290	3.8	38.3	14.8	29.3	7.6	3.1	3.4	1.4	
	70～74歳	317	3.8	55.2	7.6	22.1	3.5	0.6	3.2	6.9	
	75～79歳	368	8.2	57.9	4.6	13.9	7.3	0.8	2.4	10.1	
	80～84歳	198	12.1	57.1	3.0	8.1	6.1	0.5	1.0	16.2	
	85～89歳	108	9.3	62.0	2.8	1.9	5.6	-	1.9	20.4	
	90歳以上	22	18.2	54.5	-	9.1	4.5	-	-	18.2	

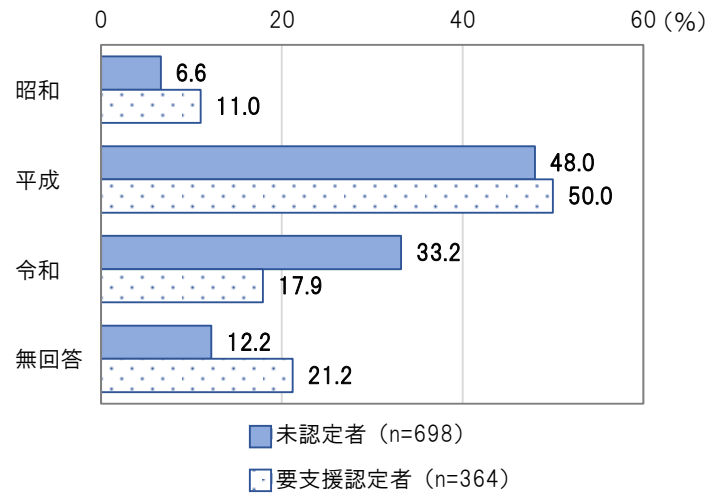
※1番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

（２）引退した時期《未認定・要支援のみ》

問41で「２」と回答した方に

問41-1 あなたはいつ引退しましたか。（１つに○、数字を記入）

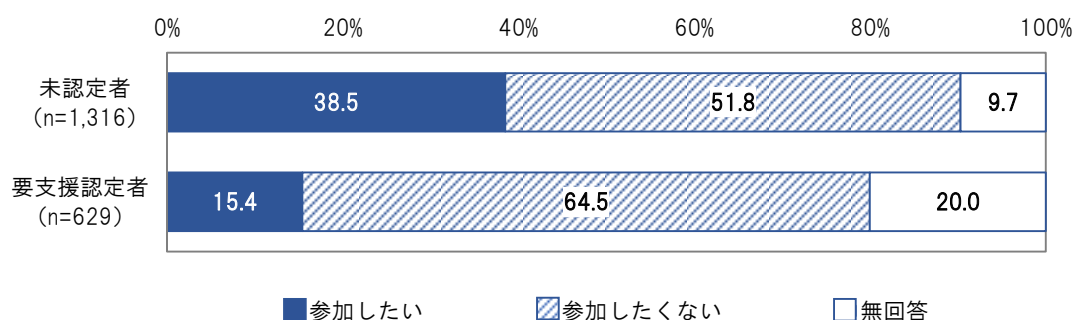
○引退した人の引退時期は、未認定者・要支援認定者とも「平成」が最も高く、次いで未認定者・要支援認定者とも「令和」となっている。



(3) 生涯現役で参加できる「しごと」への参加意向《未認定・要支援のみ》

問 いくつになっても参加できるような「しごと(※)」があれば、参加したいですか。(1つに○) (※)収入にこだわらない「自分のペースで無理せずはたらけるしごと」

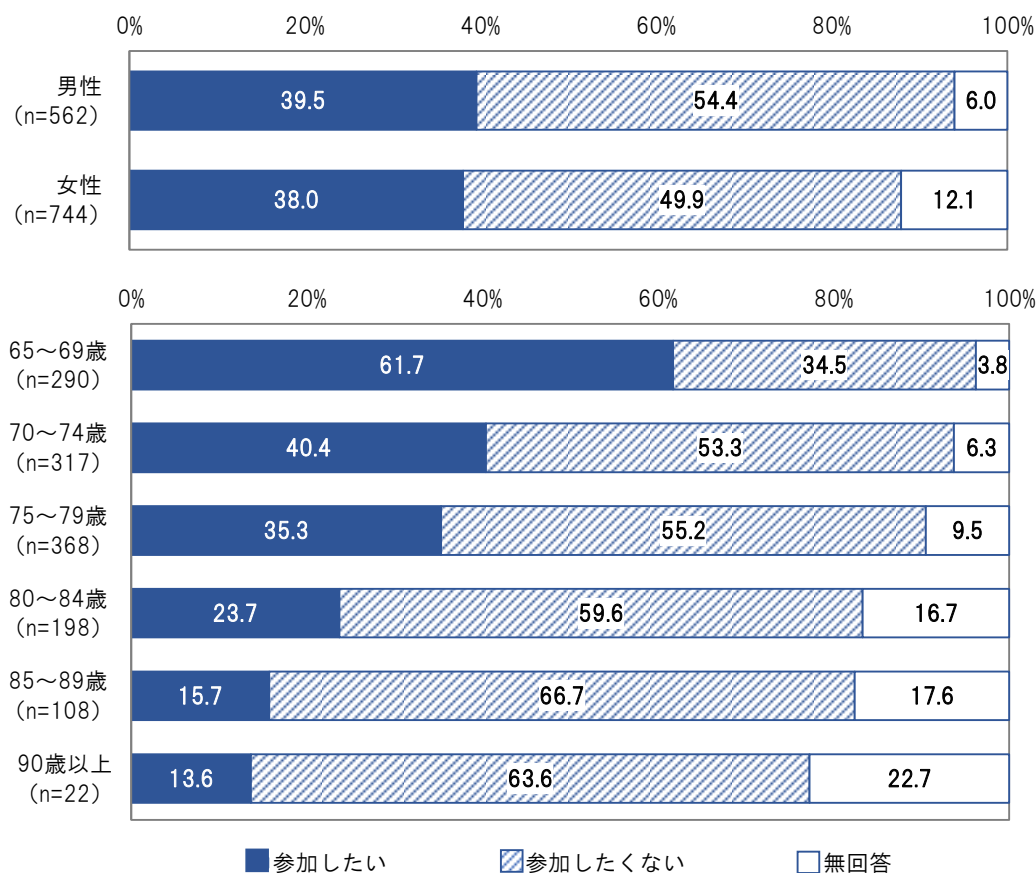
○生涯現役で参加できる「しごと」への参加意向は、「参加したい」が未認定者で4割近く、要支援認定者では2割未満となっている。



《性別・年齢別（未認定者）》

○未認定者での生涯現役で参加できる「しごと」への参加意向を性別にみると、「参加したい」の割合は性別での大きな差はみられない

○年齢別にみると、年齢が低くなるほど「参加したい」の割合が高くなっており、65～69歳では6割を超えている。

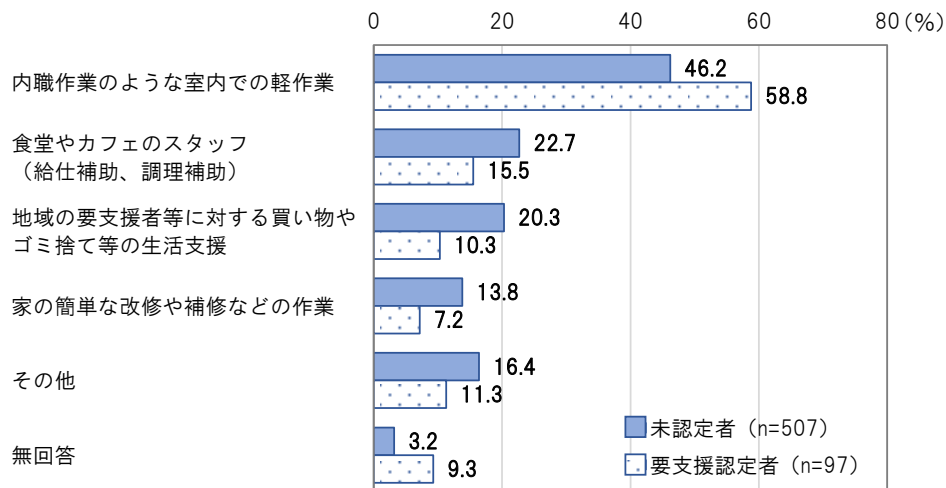


（3-1）参加したい「しごと」の内容《未認定・要支援のみ》

問42で「1」と回答した方に

問42-1 それはどのような「しごと」ですか。（あてはまるものすべてに○）

○参加したい「しごと」の内容については、未認定者・要支援認定者ともに「内職のような室内での軽作業」が最も高く、未認定者が4割以上、要支援認定者が6割近くを占めている。次いで「食事やカフェのスタッフ（給仕補助、調理補助）」、「地域の要支援者等に対する買い物やゴミ捨て等の生活支援」となっている。



《性別・年齢別（未認定者）》

- 未認定者での参加したい「しごと」の内容を性別にみると、男性・女性ともに「内職作業のような室内での軽作業」が最も高く、次いで男性では「家の簡単な改修や補修などの作業」、女性では「食堂やカフェのスタッフ（給仕補助、調理補助）」となっている。
- 年齢別にみると、65～74歳では「食堂やカフェのスタッフ（給仕補助、調理補助）」が3割近くを占めて高く、80～84歳では「地域の要支援者等に対する買い物やゴミ捨て等の生活支援」が3割を超えて高くなっている。

		回答者数（人）	内職作業のような室内での軽作業	食堂やカフェのスタッフ（給仕補助、調理補助）	地域の要支援者等に対する買い物やゴミ捨て等の生活支援	家の簡単な改修や補修などの作業	その他	無回答
性別	男性	222	40.1	9.0	20.7	29.7	20.3	3.6
	女性	283	50.9	33.6	20.1	1.4	13.4	2.5
年齢別	65～69歳	179	44.1	27.9	16.8	13.4	24.0	1.7
	70～74歳	128	49.2	28.1	22.7	14.1	8.6	3.1
	75～79歳	130	43.8	16.2	18.5	15.4	13.8	3.8
	80～84歳	47	48.9	14.9	34.0	12.8	14.9	4.3
	85～89歳	17	52.9	-	17.6	11.8	23.5	-
	90歳以上	3	66.7	-	-	-	-	33.3

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

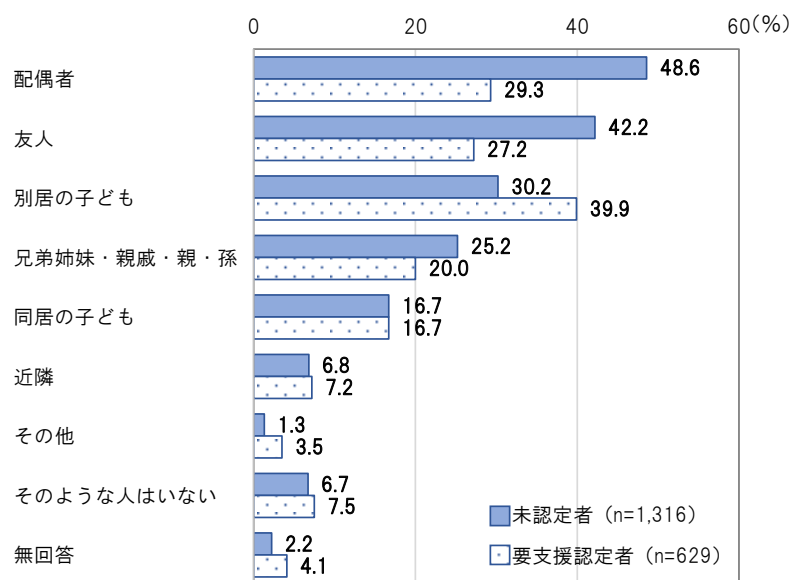
8. たすけあいについて

(1) 心配事や愚痴を聞いてくれる人の有無《未認定・要支援のみ》

問 あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人はいますか。

（あてはまるものすべてに○）

○心配事や愚痴を聞いてくれる人は、未認定者では「配偶者」が最も高く、次いで「友人」、「別居の子ども」の順となっているのに対し、要支援認定者では「別居の子ども」が最も高く、次いで「配偶者」、「友人」の順となっている。

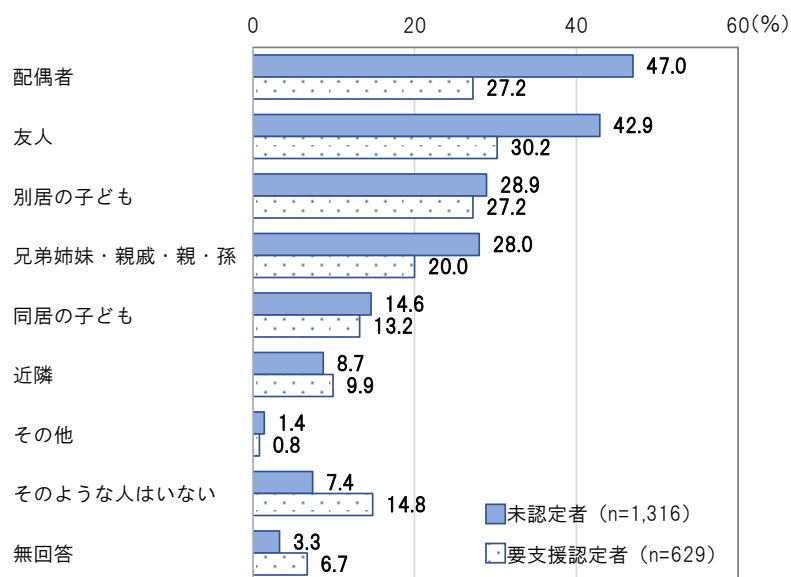


(2) 心配事や愚痴を聞いてあげる人の有無《未認定・要支援のみ》

問 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人はいますか。

（あてはまるものすべてに○）

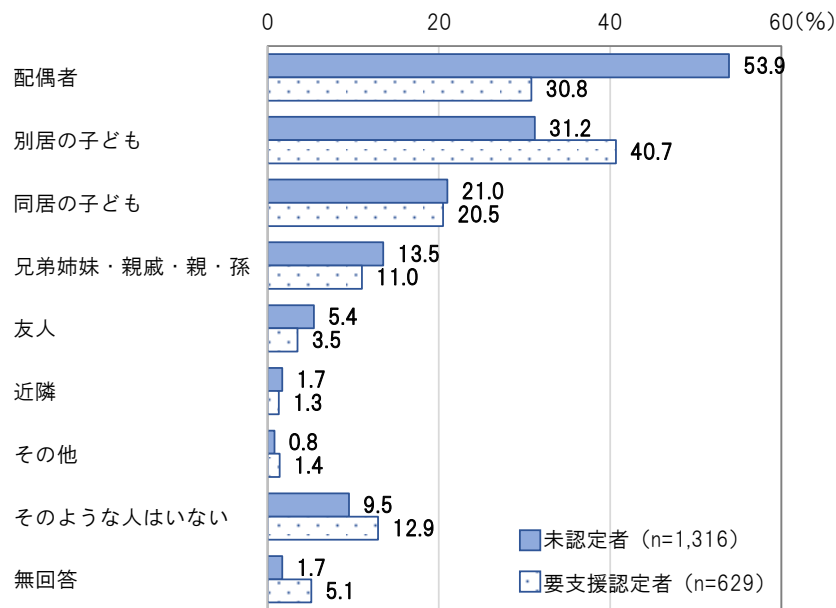
○心配事や愚痴を聞いてあげる人は、未認定者では「配偶者」が最も高く、次いで「友人」、「別居の子ども」の順となっているのに対し、要支援認定者では「友人」が最も高く、次いで「配偶者」と「別居の子ども」が同率で続いている。



（３）看病や世話をしてくれる人の有無《未認定・要支援のみ》

問 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人はいますか。
（あてはまるものすべてに○）

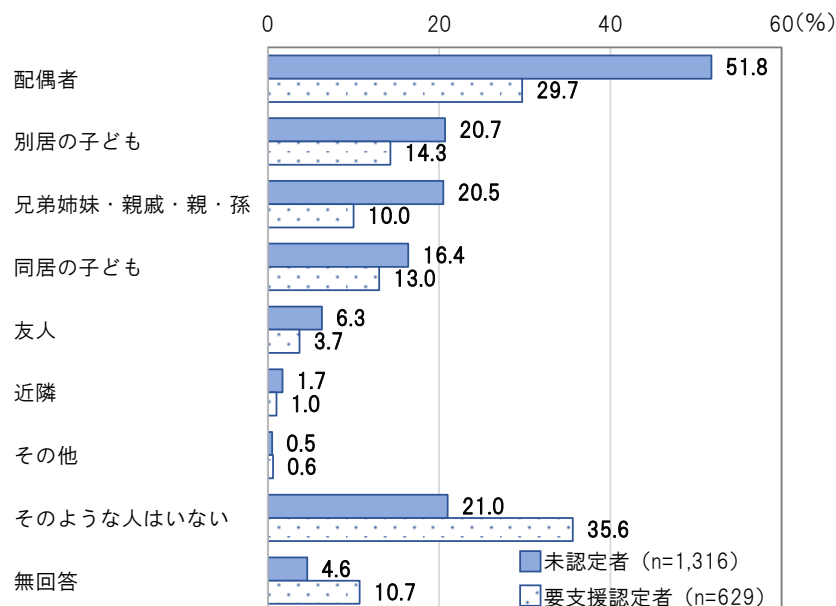
○看病や世話をしてくれる人は、未認定者では「配偶者」が最も高く、次いで「別居の子ども」、「同居の子ども」の順となっているのに対し、要支援認定者では「別居の子ども」が最も高く、次いで「配偶者」、「同居の子ども」の順となっている。また、「そのような人はいない」が1割程度を占めている。



（４）看病や世話をしてあげる人の有無《未認定・要支援のみ》

問 反対に、看病や世話をしてあげる人はいますか。（あてはまるものすべてに○）

○看病や世話をしてあげる人は、未認定者では「配偶者」が最も高くなっているのに対し、要支援認定者では「そのような人はいない」が最も高くなっている。

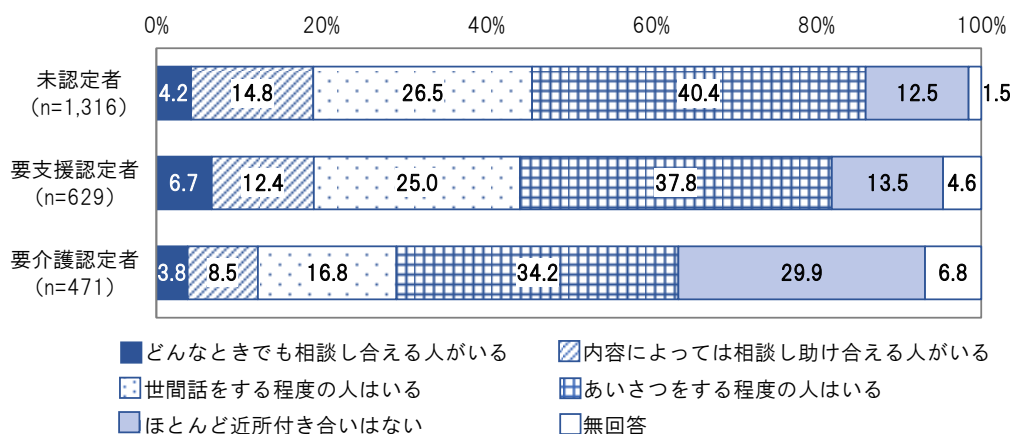


(5) 近所づきあいの程度

問 あなたは、ご近所の人たちと、どの程度のおつきあいがありますか。（1つに○）

○近所づきあいの程度は、未認定者・要支援認定者では「あいさつをする程度の人はいる」が最も高く、次いで「世間話をする程度の人はいる」となっており、近所づきあいをしている人が8割以上を占めている。

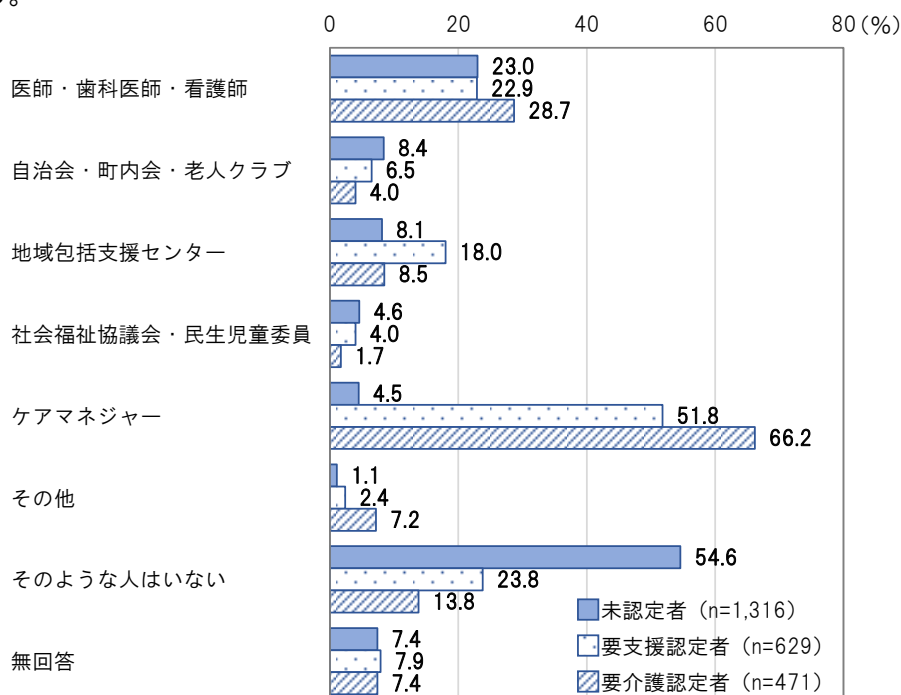
○一方で、要介護認定者では「ほとんど近所付き合いはない」が約3割で最も高く、近所づきあいをしている人は6割程度となっている。



(6) 家族・親族や友人・知人以外で相談する相手

問 家族・親族や友人・知人以外で、何かがあったときに相談する相手を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

○家族・親族や友人・知人以外で相談する相手は、要支援認定者・要介護認定者では「ケアマネジャー」が最も高く、次いで要支援認定者では「そのような人はいない」、「医師・歯科医師・看護師」、要介護認定者では「医師・歯科医師・看護師」、「そのような人はいない」となっているのに対し、未認定者では「そのような人はいない」が約半数を占めて最も高くなっている。



《近所づきあいの程度別（未認定者）》

○未認定者での家族・親族や友人・知人以外で相談する相手を近所づきあいの程度別にみると、近所づきあいの程度が薄くなるほど「そのような人はいない」が高くなっており、“ほとんど近所付き合いはない”層では7割を超えている。

○反対に、近所づきあいがある人ほど「自治会・町内会・老人クラブ」が高くなる傾向がみられ、近所に“どんなときでも相談し合える人がいる”層では2割以上を占めている。

		(%)								
		回答者数（人）	医師・歯科医師・看護師	自治会・町内会・老人クラブ	地域包括支援センター	社会福祉協議会・民生児童委員	ケアマネジャー	その他	そのような人はいない	無回答
近所づきあいの程度別	どんなときでも相談し合える人がいる	55	23.6	23.6	10.9	16.4	10.9	1.8	45.5	9.1
	内容によっては相談し助け合える人がいる	195	32.3	21.5	12.3	10.8	6.7	2.1	34.4	6.7
	世間話をする程度の人はいる	349	27.8	9.7	12.0	3.4	5.4	0.3	46.7	7.4
	あいさつをする程度の人はいる	532	20.7	3.6	5.6	2.6	3.0	0.9	63.3	5.6
	ほとんど近所付き合いはない	165	10.9	1.8	3.0	2.4	3.0	2.4	75.8	4.2

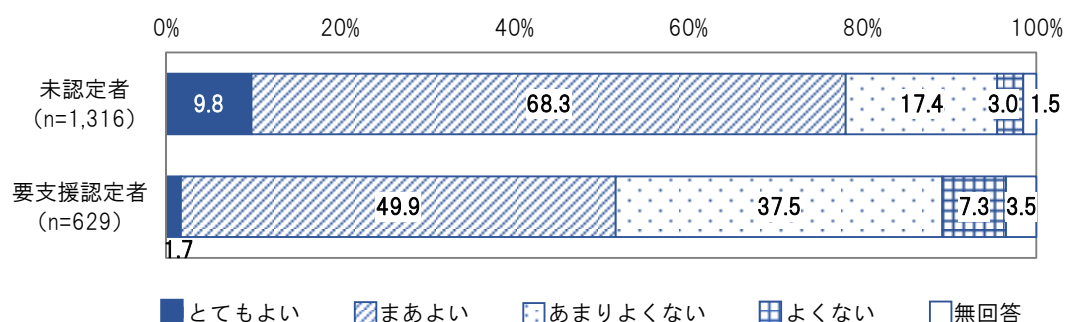
※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

9. 健康について

(1) 主観的健康観《未認定・要支援のみ》

問 現在のあなたの健康状態はいかがですか。（1つに○）

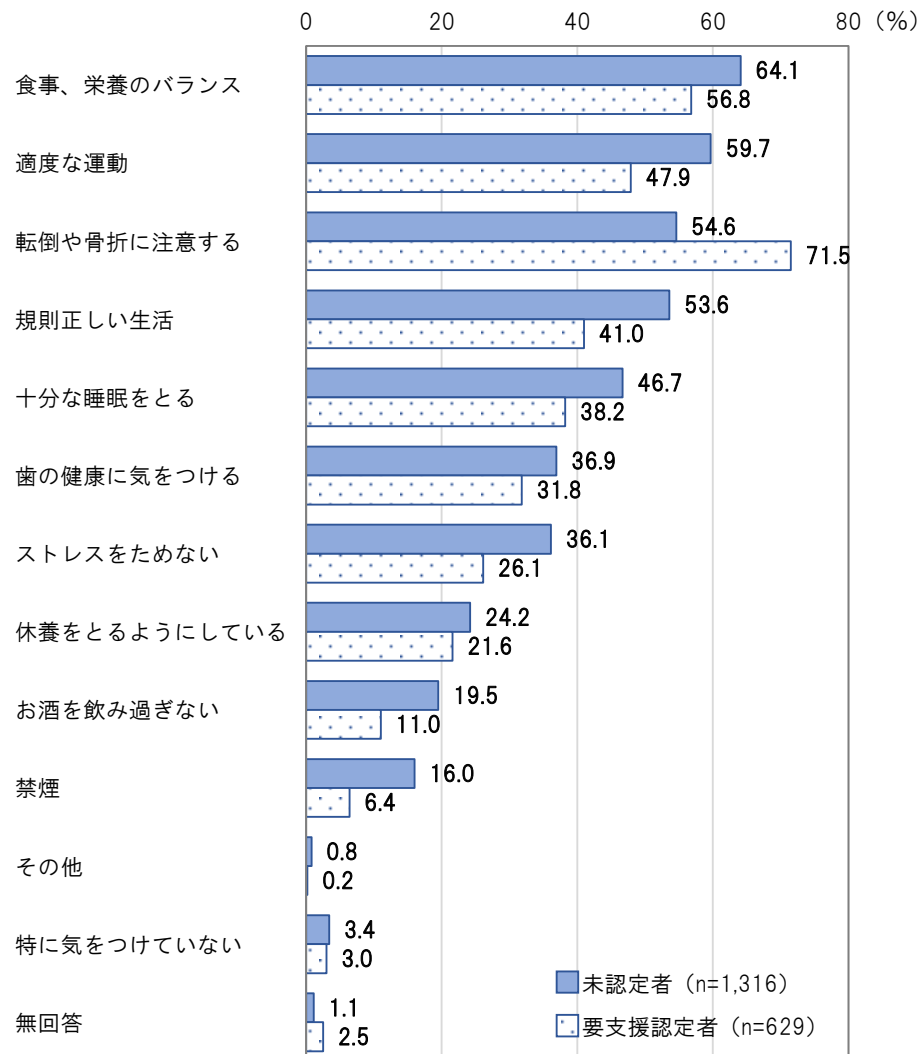
- 主観的健康観は、未認定者・要支援認定者ともに「まあよい」が最も高くなっているものの、「とてもよい」と合わせた『よい』の割合は、未認定者では8割近くを占めているのに対し、要支援認定者では約半数となっている。
- 要支援認定者では「あまりよくない」と「よくない」を合わせた『よくない』が約半数を占めている。



（２）健康に関して気をつけていること《未認定・要支援のみ》

問 あなたは普段健康に関してどのようなことに気をつけていますか。
（あてはまるものすべてに○）

- 健康に関して気をつけていることは、未認定者では「食事、栄養のバランス」が６割を超えて最も高く、次いで「適度な運動」、「転倒や骨折に注意する」、「規則正しい生活」の順となっている。
- 要支援認定者では「転倒や骨折に注意する」が７割を超えて最も高く、その他の項目と比べても突出して高くなっている。



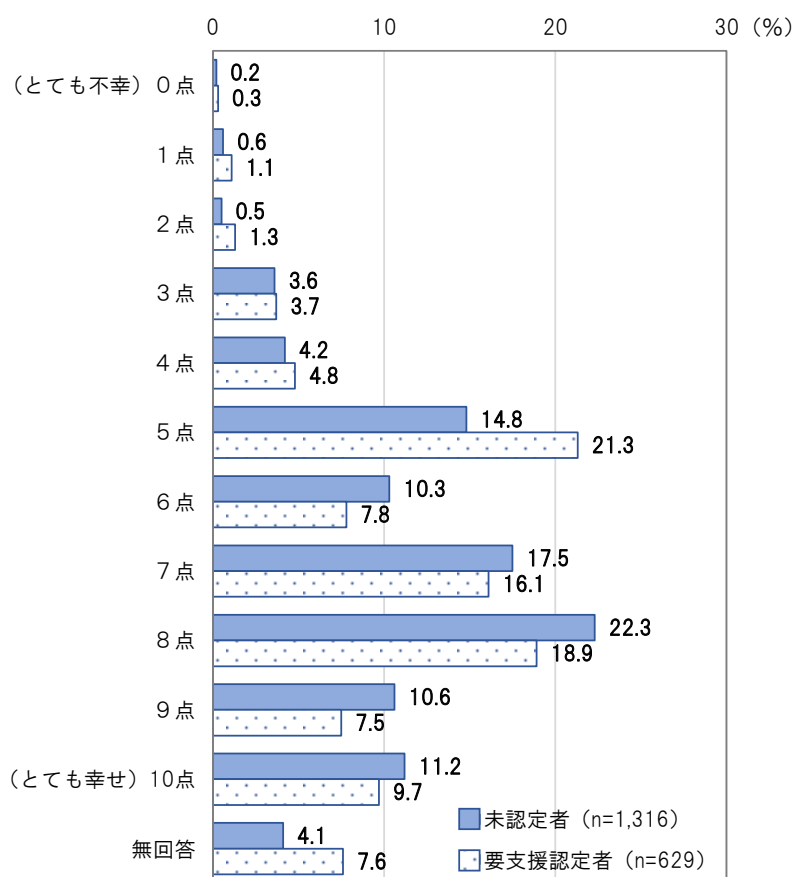
(3) 幸福度《未認定・要支援のみ》

問 あなたは、現在どの程度幸せですか。

(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、1つに○)

○幸福度は、未認定者では「8点」が最も高く、次いで「7点」、「5点」となっており、要支援認定者では「5点」が最も高く、次いで「8点」、「7点」となっている。

○平均点をみると、未認定者では7.03点、要支援認定者では6.66点と、未認定者の方がやや高くなっている。

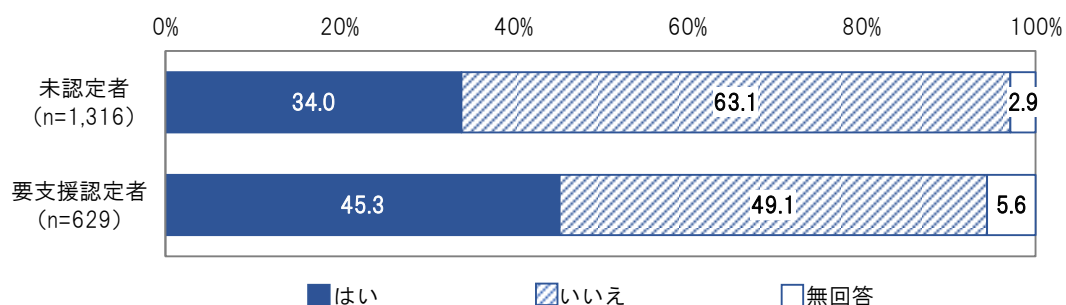


(4) こころの状況《未認定・要支援のみ》

① 気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあるか

問 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありますか。
(○は1つ)

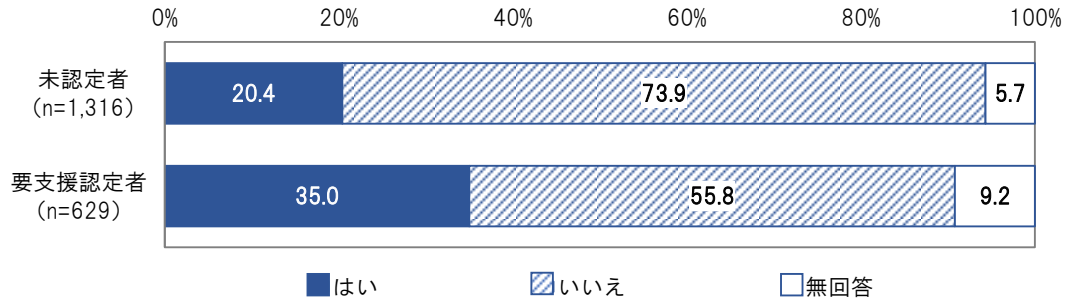
○気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることは、未認定者では「いいえ」が6割を超えているのに対し、要支援認定者では「はい」が半数近くを占めている。



② どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくあるか

問 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありますか。（○は1つ）

○どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめないと感じることは、未認定者では「いいえ」が7割を超えているのに対し、要支援認定者では「はい」が約4割を占めて高くなっている。

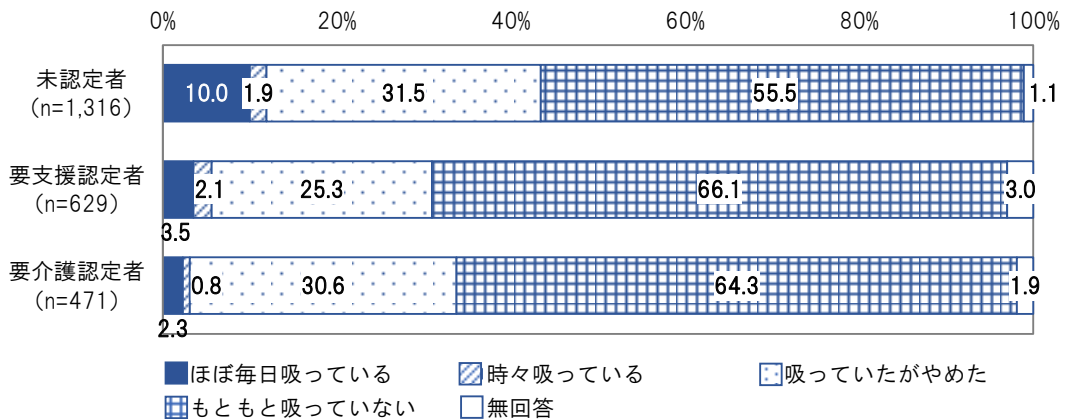


（５）喫煙状況《未認定・要支援のみ》

問 タバコは吸っていますか。（1つに○）

○喫煙状況は、未認定者・要支援認定者ともに「もともと吸っていない」が半数を超えて高くなっている。

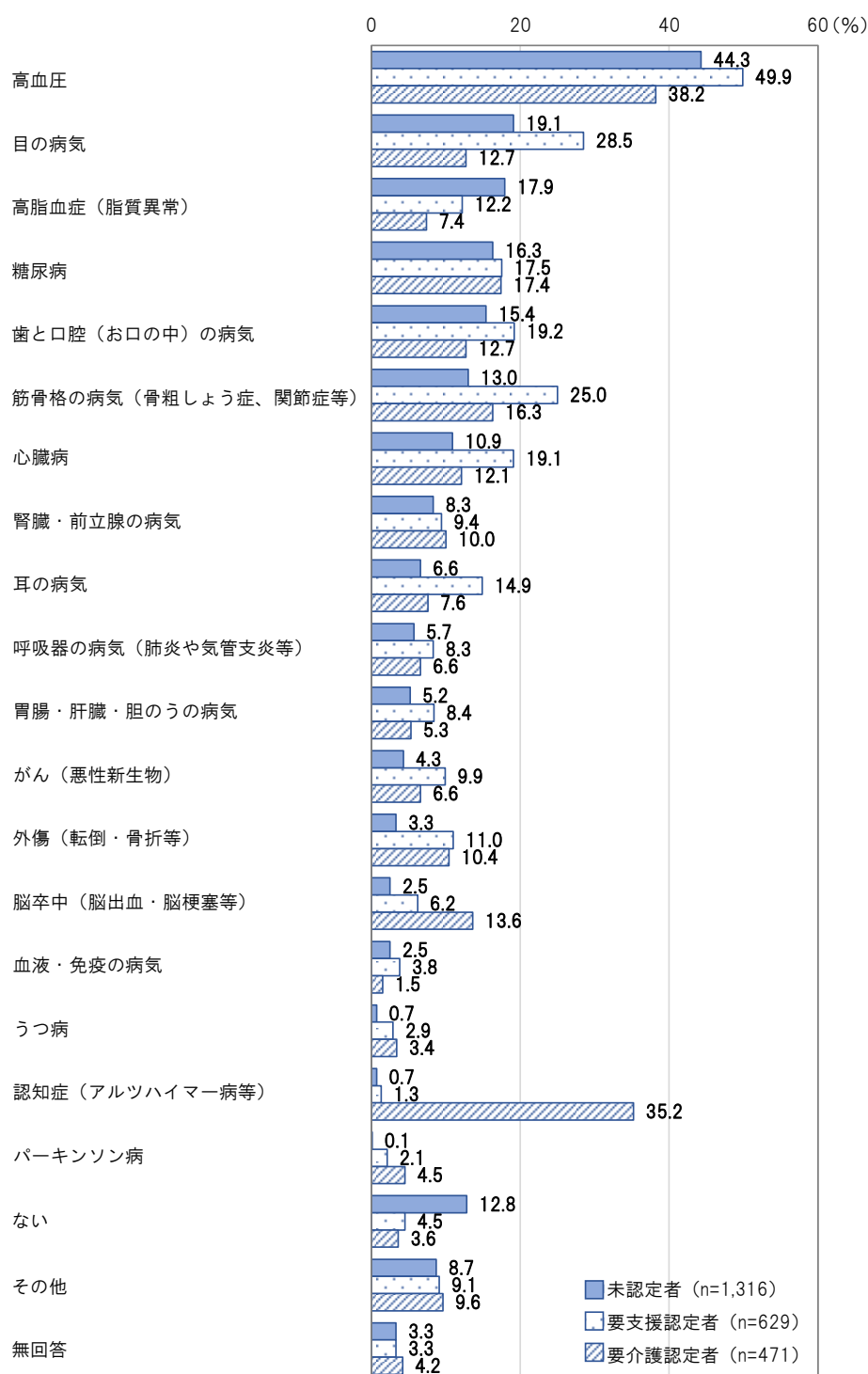
○一方で、「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」を合わせた『吸っている』人の割合をみると、未認定者では1割を超えている。



（６）現在治療中または後遺症のある病気の有無

問 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。（あてはまるものすべてに○）

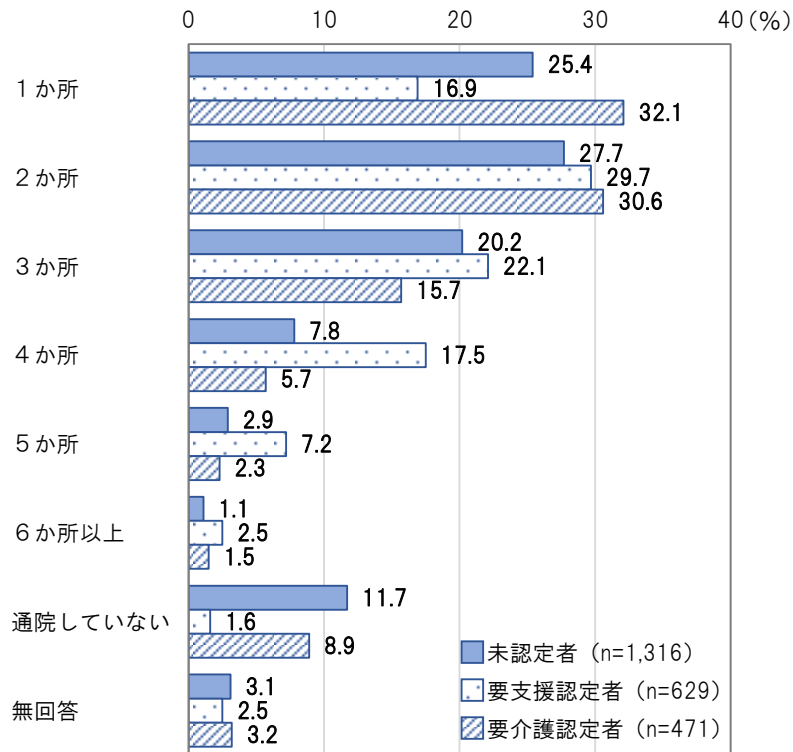
- 現在治療中または後遺症のある病気は、すべての区分で「高血圧」が最も高く、次いで未認定者では「目の病気」、「高脂血症（脂質異常）」、「糖尿病」となっているのに対し、要支援認定者では「目の病気」、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」、「歯と口腔（お口の中）の病気」、要介護認定者では「認知症（アルツハイマー病等）」、「糖尿病」、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」となっている。
- 「ない」が未認定者では１割程度、要支援認定者・要介護認定者では１割未満となっており、要支援認定者・要介護認定者ではほとんど全員が何かしらの病気があることがわかる。



（７）通院している医療機関数

問 あなたは現在、いくつの病院・医院（診療所、クリニック）に通院していますか。
（１つに○）

○通院している医療機関数は、未認定者・要支援認定者では「２か所」、要介護認定者では「１か所」が最も高くなっている。また、要支援認定者では「３か所」や「４か所」の回答も高くなっている。

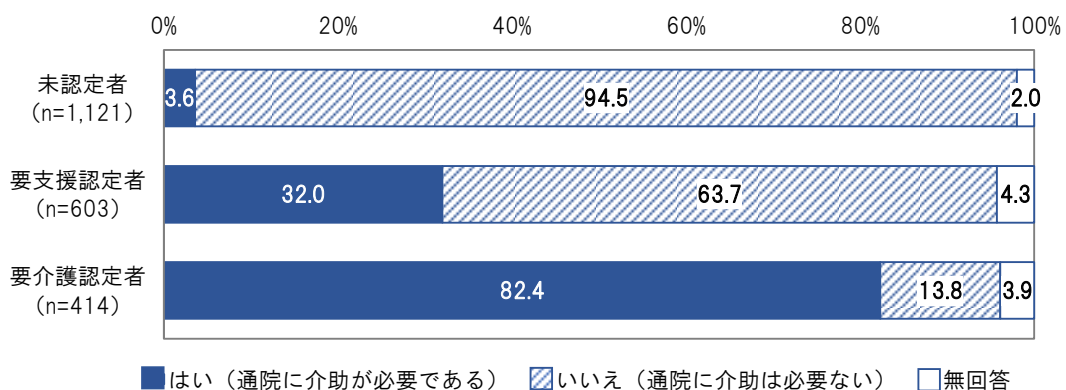


（７-１）通院への介助の必要性

（７）で「通院していない」と回答した人以外

問 あなたは、通院に介助が必要ですか。（１つに○）

○通院への介助の必要性は、未認定者では「いいえ（通院に介助は必要ない）」が９割を超えており、「はい（通院に介助が必要である）」は１割未満となっているのに対し、要支援認定者では３割以上、要介護認定者では８割以上を占めている。



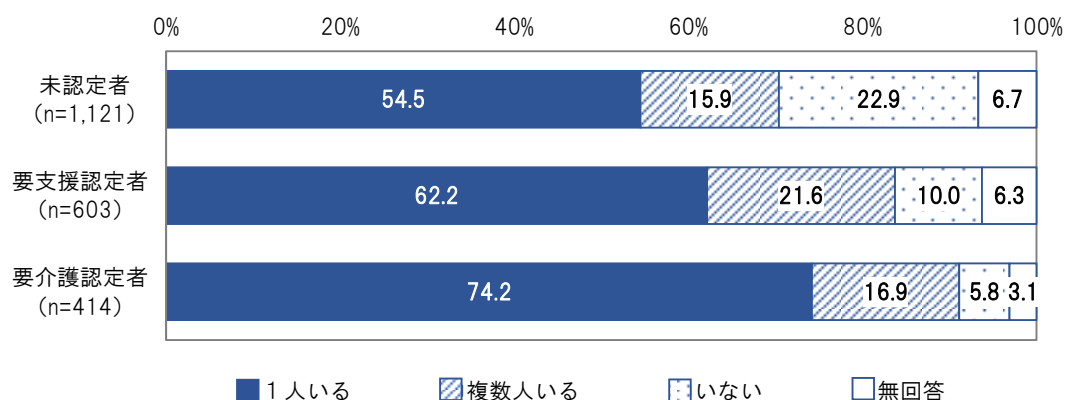
(7-2) かかりつけ医の有無

(7) で「通院していない」と回答した人以外

問 通院している病院・医院のうち、安心してなんでも相談できる（例：介護保険の主治医 意見書を書いてもらう）お医者さん（かかりつけ医）はいますか。（1つに○）

○かかりつけ医の有無は、すべての区分で「1人いる」が最も高く、「複数人いる」と合わせた『いる』の割合は、未認定者では7割以上、要支援認定者では8割以上、要介護認定者では9割以上を占めている。

○また、「いない」が未認定者で2割を超え、要支援認定者・要介護認定者に比べて高くなっている。

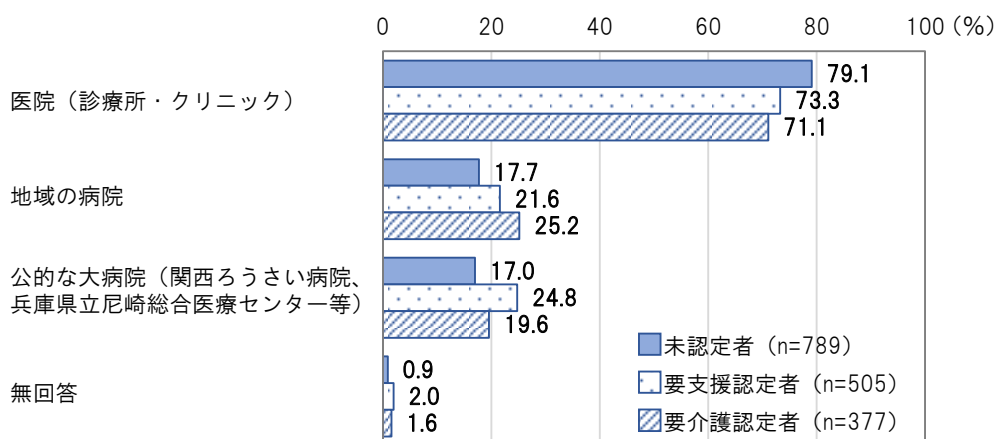


(7-2-1) かかりつけの医療機関

(7-2) で「1人いる」または「複数人いる」と回答した人のみ

問 このかかりつけ医は、どの医療機関ですか。（あてはまるものすべてに○）

○かかりつけの医療機関は、すべての区分で「医院（診療所・クリニック）」が最も高く、いずれも7割以上を占めている。

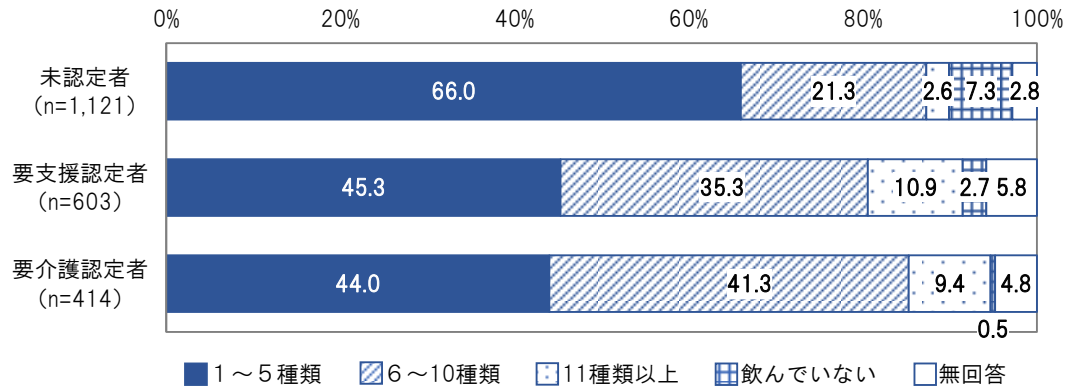


（7-3）服薬の種類

（7）で「通院していない」と回答した人以外

問 あなたが現在飲んでいるお薬は、全部で何種類ありますか。（1つに○）

○服薬の種類は、すべての区分で「1～5種類」が最も高くなっているものの、要支援認定者・要介護認定者では「6～10種類」が3割以上、「11種類以上」が1割近くを占めている。



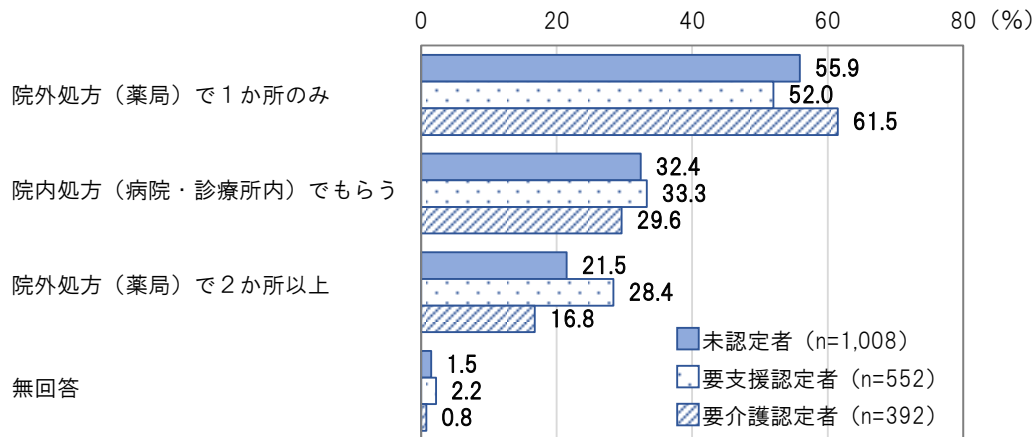
（7-3-1）医薬品の受け取り先

（7-3）で「飲んでいない」と回答した人以外

問 何か所（薬局、病院内とも）からお薬をもらっていますか。

（あてはまるものすべてに○）

○医薬品の受け取り先は、すべての区分で「院外処方（薬局）で1か所のみ」が最も高く、次いで「院内処方（病院・診療所内）でもらう」となっている。

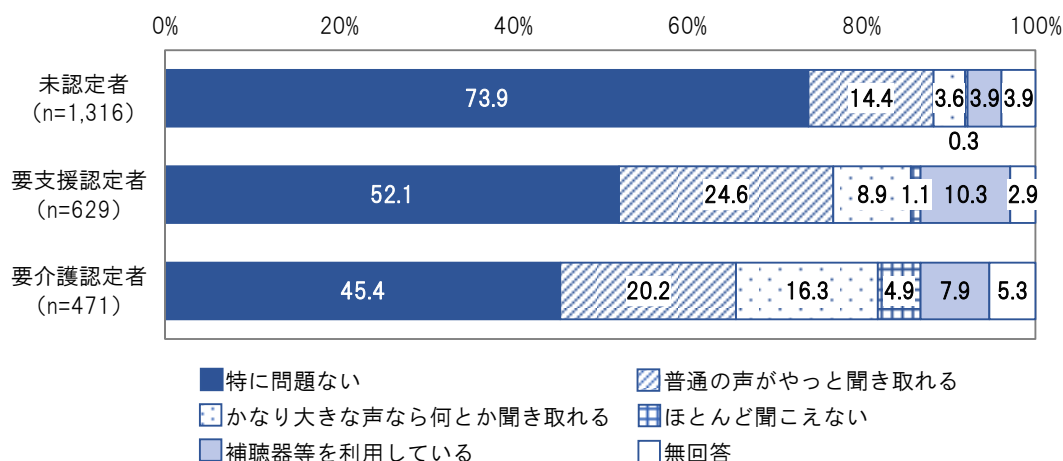


(8) 人の話の聞き取りづらさの有無

問 生活の中で、人の話が聞き取りづらいことがありますか。(1つに○)

○人の話の聞き取りづらさの有無は、すべての区分で「特に問題ない」が最も高くなっているものの、未認定者では7割を超えているのに対し、要支援認定者・要介護認定者では半数程度となっている。

○要支援認定者では「普通の声がやっと聞き取れる」が2割以上、要介護認定者では「普通の声がやっと聞き取れる」及び「かなり大きな声なら何とか聞き取れる」が約2割を占めている。



《年齢別（未認定者）》

○未認定者での人の話の聞き取りづらさの有無を年齢別にみると、年齢が下がるほど「特に問題ない」が高くなっており、特に65～69歳では約8割を占めているのに対し、85～89歳では5割台、90歳以上では5割未満となっており、85歳を境に耳の聞こえの状況に支障が出ている人が多い結果となっている。

		(%)						
年齢別		回答者数(人)	特に問題ない	普通の声がやっと聞き取れる	かなり大きな声なら何とか聞き取れる	ほとんど聞こえない	補聴器等を利用している	無回答
	65～69歳	290	84.5	12.4	1.0	-	1.4	0.7
	70～74歳	317	78.9	13.2	3.2	-	1.3	3.5
	75～79歳	368	72.8	16.6	3.0	-	4.1	3.5
	80～84歳	198	65.2	13.1	6.6	0.5	7.1	7.6
	85～89歳	108	56.5	17.6	5.6	1.9	11.1	7.4
	90歳以上	22	45.5	18.2	22.7	-	4.5	9.1

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

《年齢別（要支援認定者・要介護認定者）》

○要支援認定者・要介護認定者での人の話の聞き取りづらさの有無を年齢別にみると、ともに年齢が下がるほど「特に問題ない」が高くなっている。要支援認定者・要介護認定者では「かなり大きな声なら何とか聞き取れる」、「補聴器等を利用している」が90歳以上で最も高くなっている。

○また、要介護認定者では、「ほとんど聞こえない」が90歳以上で1割近くとなっている。

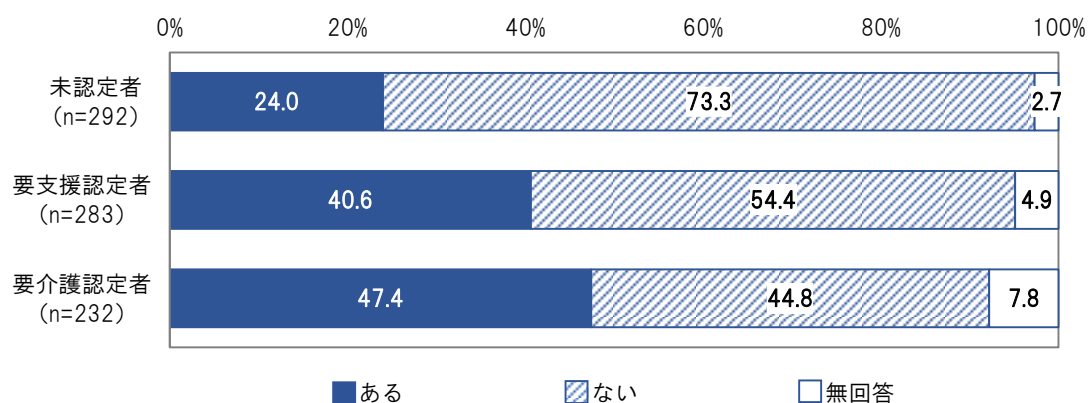
		(%)						
		回答者数（人）	特に問題ない	普通の声がやっと聞き取れる	かなり大きな声なら何とか聞き取れる	ほとんど聞こえない	補聴器等を利用している	無回答
要支援認定者	65～69歳	12	91.7	8.3	－	－	－	－
	70～74歳	43	72.1	14.0	4.7	2.3	2.3	4.7
	75～79歳	119	64.7	25.2	1.7	－	6.7	1.7
	80～84歳	164	53.0	26.2	6.7	0.6	11.0	2.4
	85～89歳	194	45.4	22.7	12.9	1.5	12.9	4.6
	90歳以上	95	34.7	32.6	16.8	1.1	13.7	1.1
要介護認定者	65～69歳	19	84.2	－	10.5	－	5.3	－
	70～74歳	25	52.0	16.0	12.0	4.0	8.0	8.0
	75～79歳	72	56.9	23.6	6.9	4.2	4.2	4.2
	80～84歳	107	47.7	17.8	16.8	1.9	7.5	8.4
	85～89歳	127	42.5	21.3	18.9	3.9	9.4	3.9
	90歳以上	114	29.8	22.8	21.9	10.5	9.6	5.3

（８－１）聞き取りづらさのために外出が嫌になることの有無

（８）で「特に問題ない」と回答した人以外

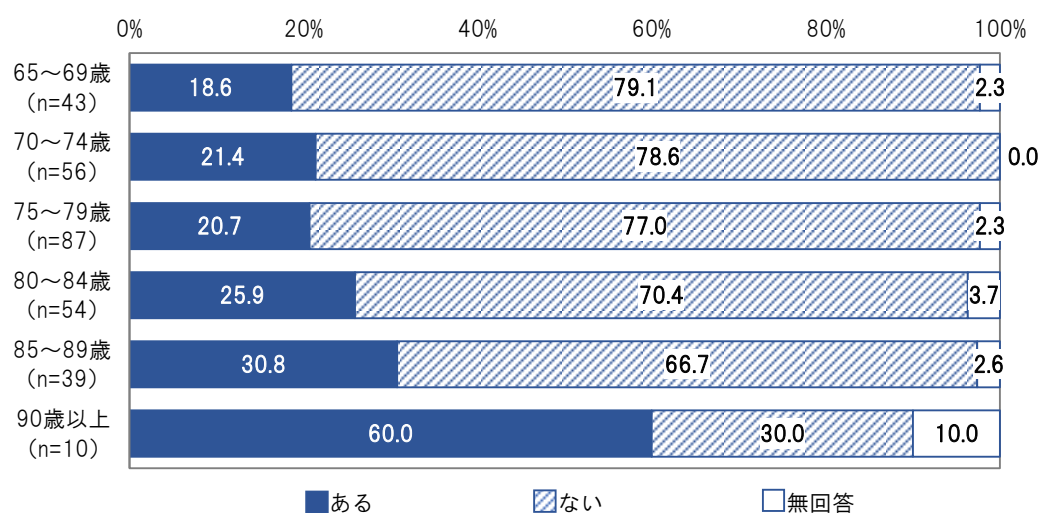
問 人の話が聞き取りづらいことで、外出の頻度が減ったり、人と話すことが嫌になることはありますか。（１つに○）

○聞き取りづらさのために外出が嫌になることは、未認定者・要支援認定者では「ない」が「ある」を上回っているが、要介護認定者では「ある」が「ない」を上回っている。



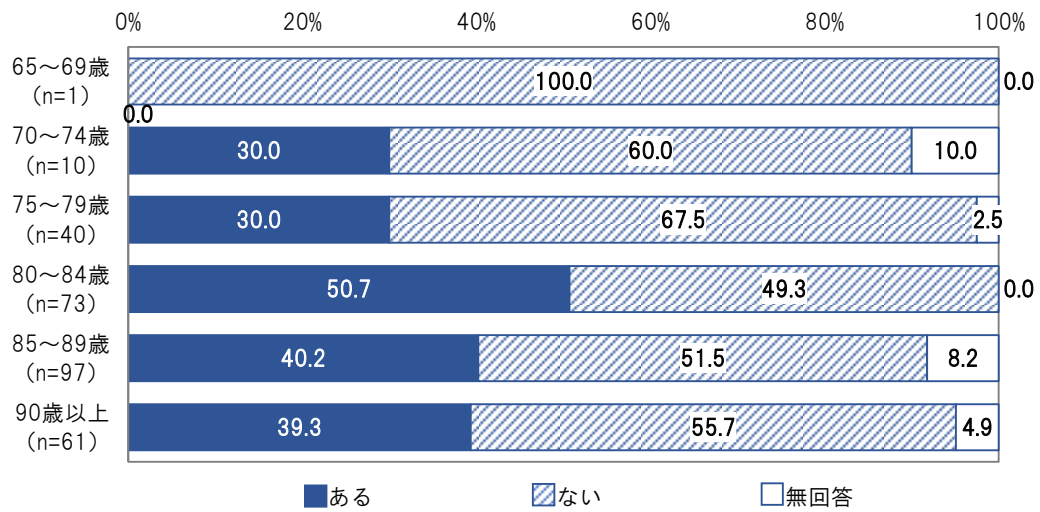
《年齢別（未認定者）》

○未認定者での聞き取りづらさのために外出が嫌になることの有無を年齢別にみると、「ある」は概ね年齢が上がるほど高くなっている。



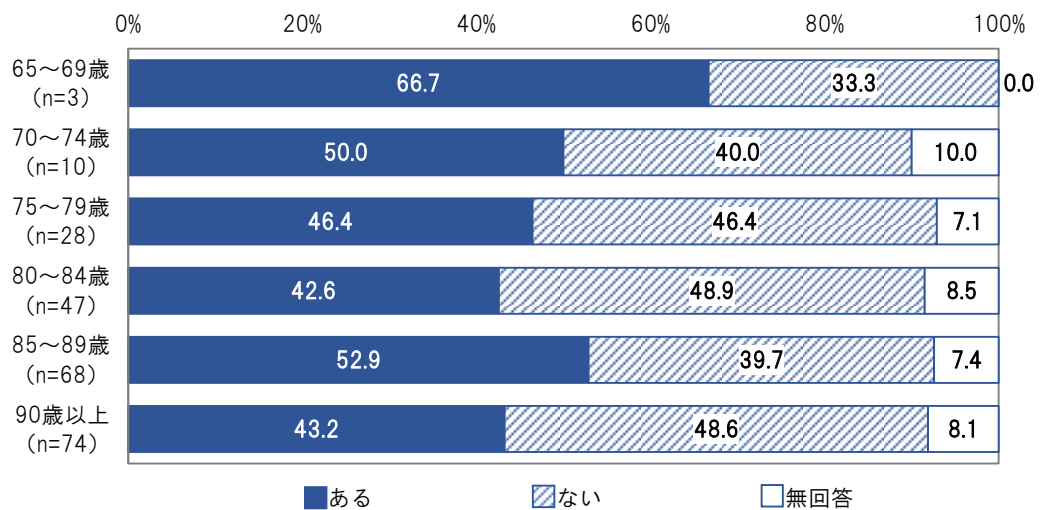
《年齢別（要支援認定者）》

○要支援認定者での聞き取りづらさのために外出が嫌になることの有無を年齢別にみると、「ある」は80～84歳で約半数、85～89歳・90歳以上で約4割と高くなっている



《年齢別（要介護認定者）》

○要介護認定者での聞き取りづらさのために外出が嫌になることの有無を年齢別にみると、85～89歳で「ある」が5割を超えて最も高くなっている。

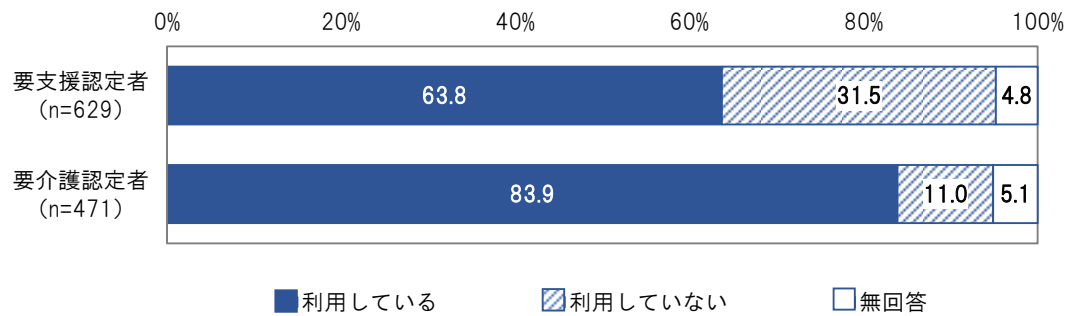


10. 高齢者に対するサービスについて

(1) 介護保険サービスの利用状況《要支援・要介護のみ》

問 あなたは、現在介護保険サービスを利用していますか。(1つに○)

○介護保険サービスの利用状況は、要支援認定者・要介護認定者ともに「利用している」が「利用していない」を上回っており、特に要介護認定者では利用率が8割を超えている。

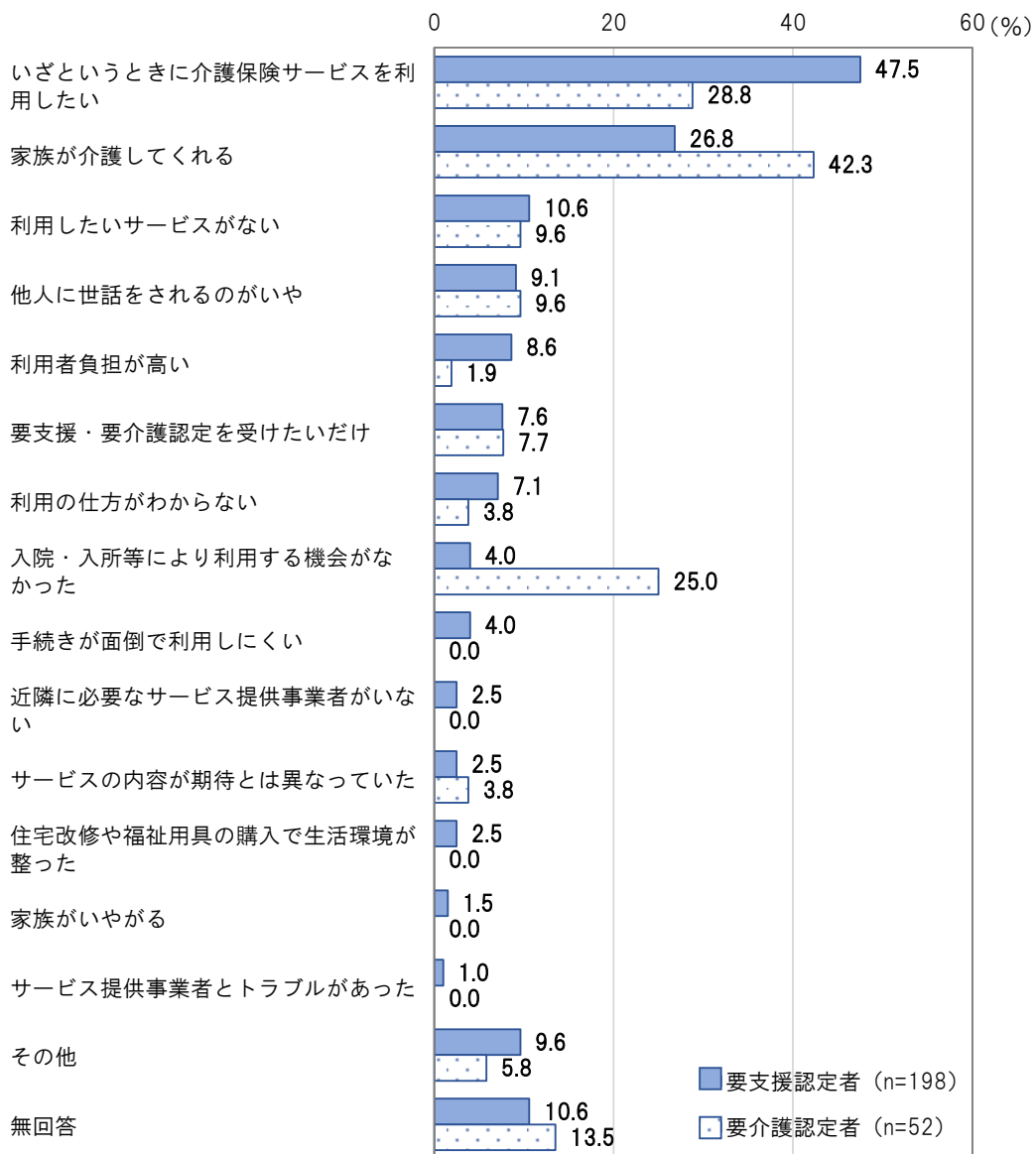


（１－１）介護保険サービスを利用していない理由《要支援・要介護のみ》

（１）で「利用していない」と回答した人のみ

問 現在、介護保険の居宅サービスを利用していない主な理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

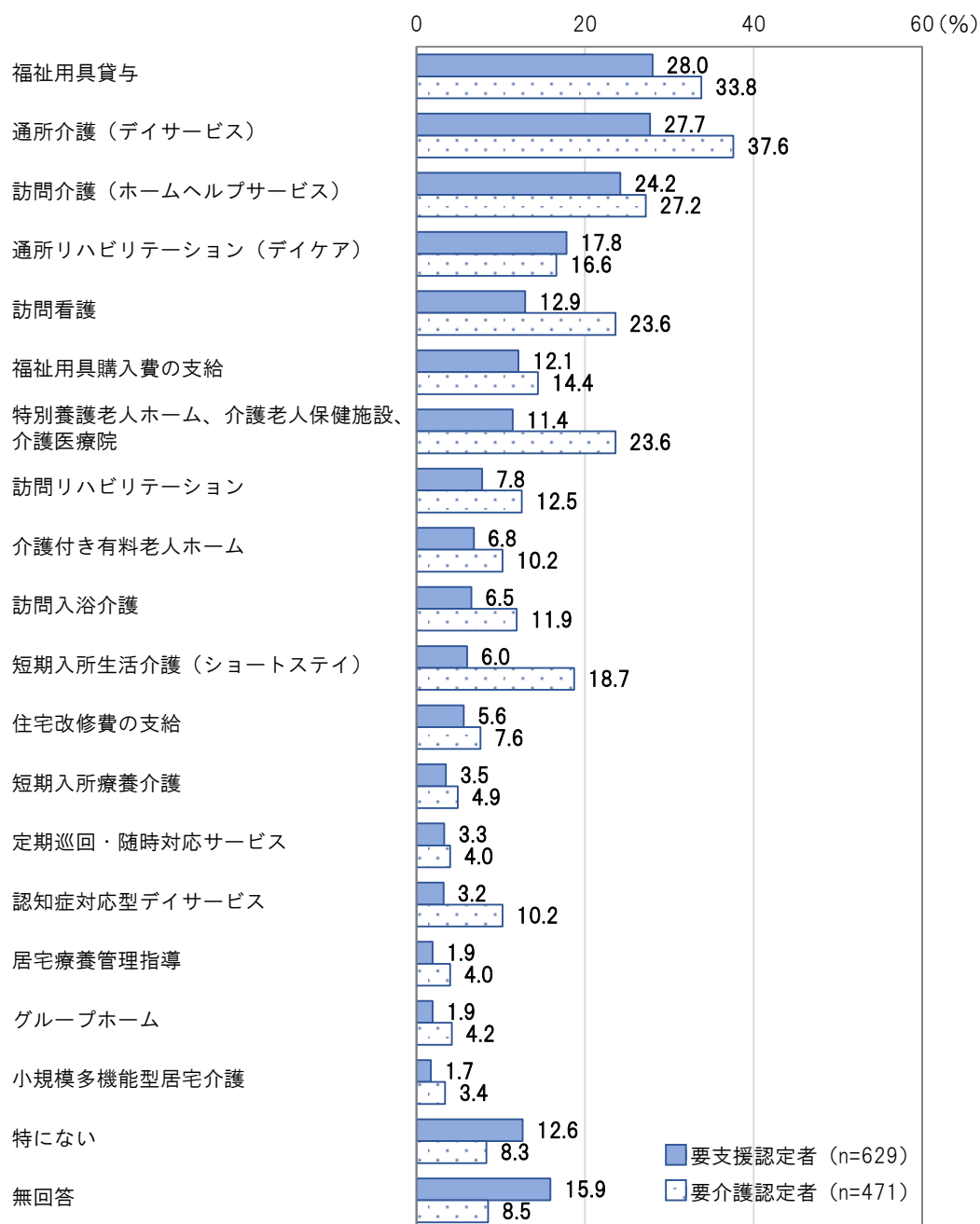
- 介護保険サービスを利用していない理由は、要支援認定者では「いざというときに介護保険サービスを利用したい」、要介護認定者では「家族が介護してくれる」が最も高くなっている。
- その他、要支援認定者では「利用したいサービスがない」や「利用者負担が高い」が要介護認定者に比べて高く、要介護認定者では「入院・入所等により利用する機会がなかった」で要支援認定者に比べて高くなっている。



(2) 今後利用したい介護保険サービス《要支援・要介護のみ》

問 今後、何らかの介護保険サービスを利用したいと思いますか。継続して利用したいサービスはありますか。（あてはまるものすべてに○）

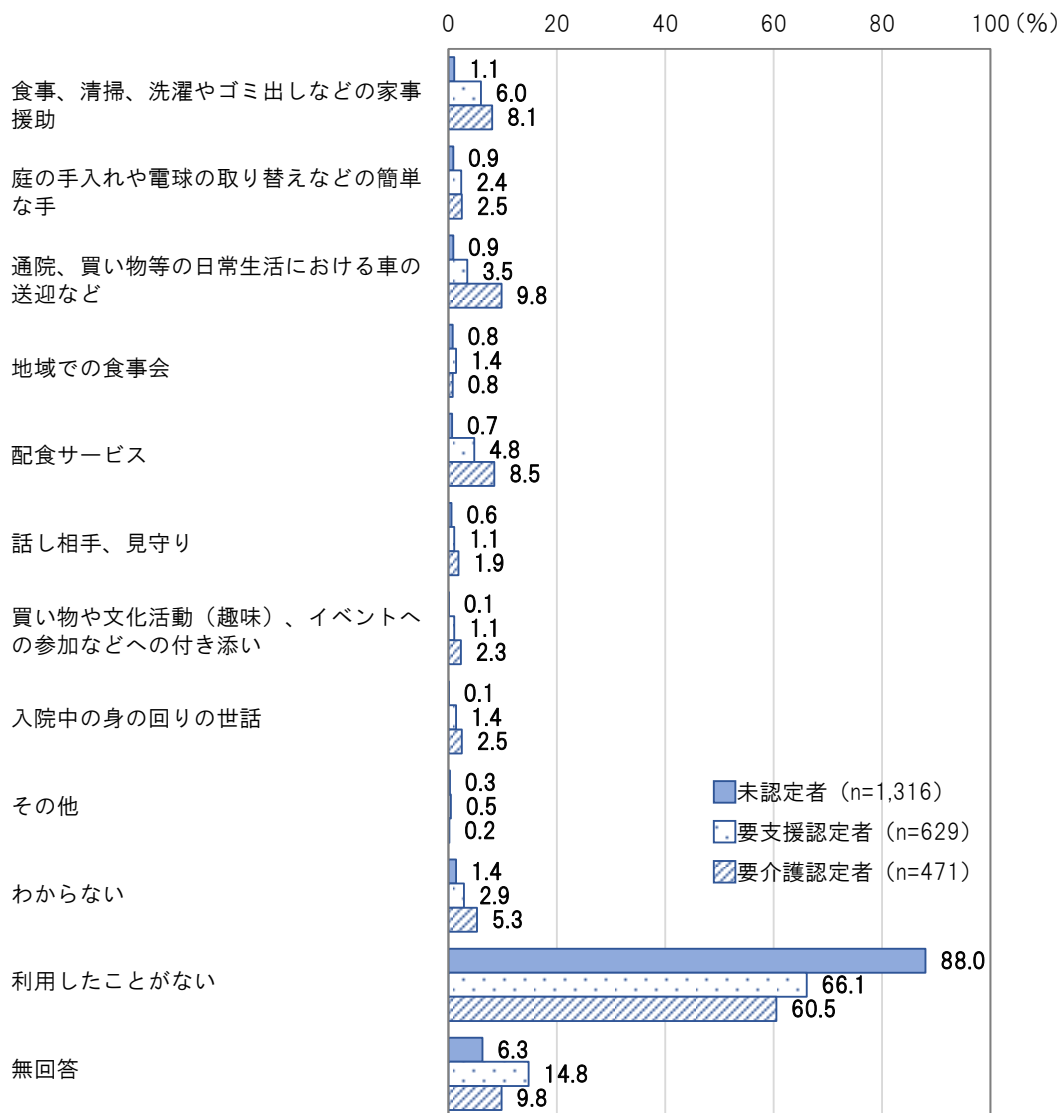
- 今後利用したい介護保険サービスは、要支援認定者では「福祉用具貸与」が最も高く、次いで「通所介護（デイサービス）」、「訪問介護（ホームヘルプサービス）」の順となっている。
- 要介護認定者では、「通所介護（デイサービス）」が最も高く、次いで「福祉用具貸与」、「訪問介護（ホームヘルプサービス）」の順となっている。
- また、「通所リハビリテーション（デイケア）」を除くすべての項目で要支援認定者に比べて要介護認定者の割合が高く、特に「短期入所生活介護（ショートステイ）」や「特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、介護医療院」、「訪問看護」、「通所介護（デイサービス）」ではその差が大きい。



（３）介護保険サービス以外で利用したことがあるサービス

問 あなたは、介護保険のサービス以外で、次のサービスを利用したことがありますか。
（あてはまるものすべてに○）

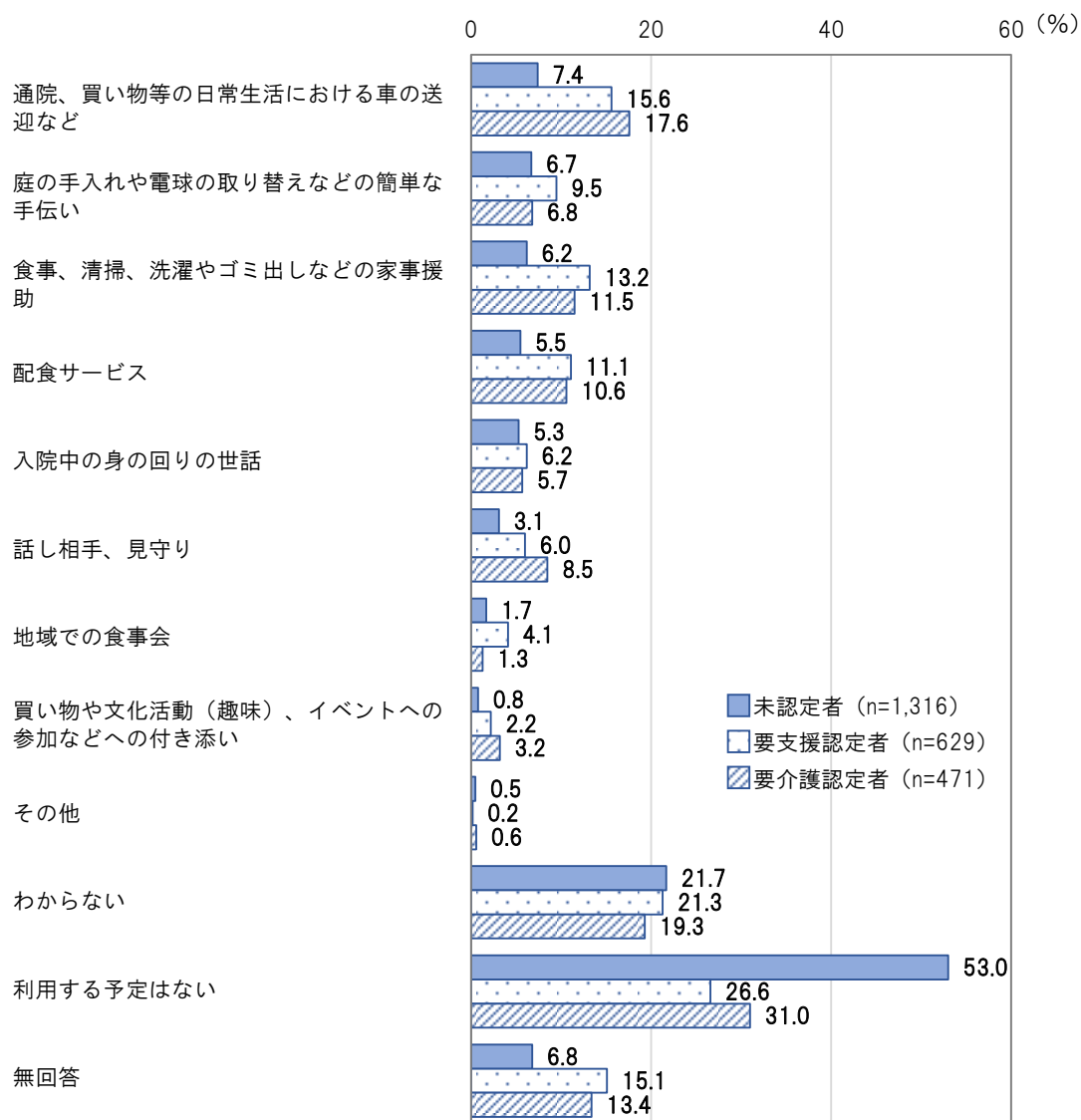
- 介護保険サービス以外で利用したことがあるサービスは、すべての区分で「利用したことがない」が最も高く、特に未認定者では８割を超えて高くなっている。
- 要支援認定者・要介護認定者では２割程度の利用があり、その中でも要支援認定者では「食事、清掃、洗濯やゴミ出しなどの家事援助」が最も高く、次いで「配食サービス」、「通院、買い物等の日常生活における車の送迎など」、要介護認定者では「通院、買い物等の日常生活における車の送迎など」が最も高く、次いで「配食サービス」、「食事、清掃、洗濯やゴミ出しなどの家事援助」の順となっている。



(4) 介護保険サービス以外で今後利用したいサービス

問 あなたは、介護保険のサービス以外で、今後利用したいサービスは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

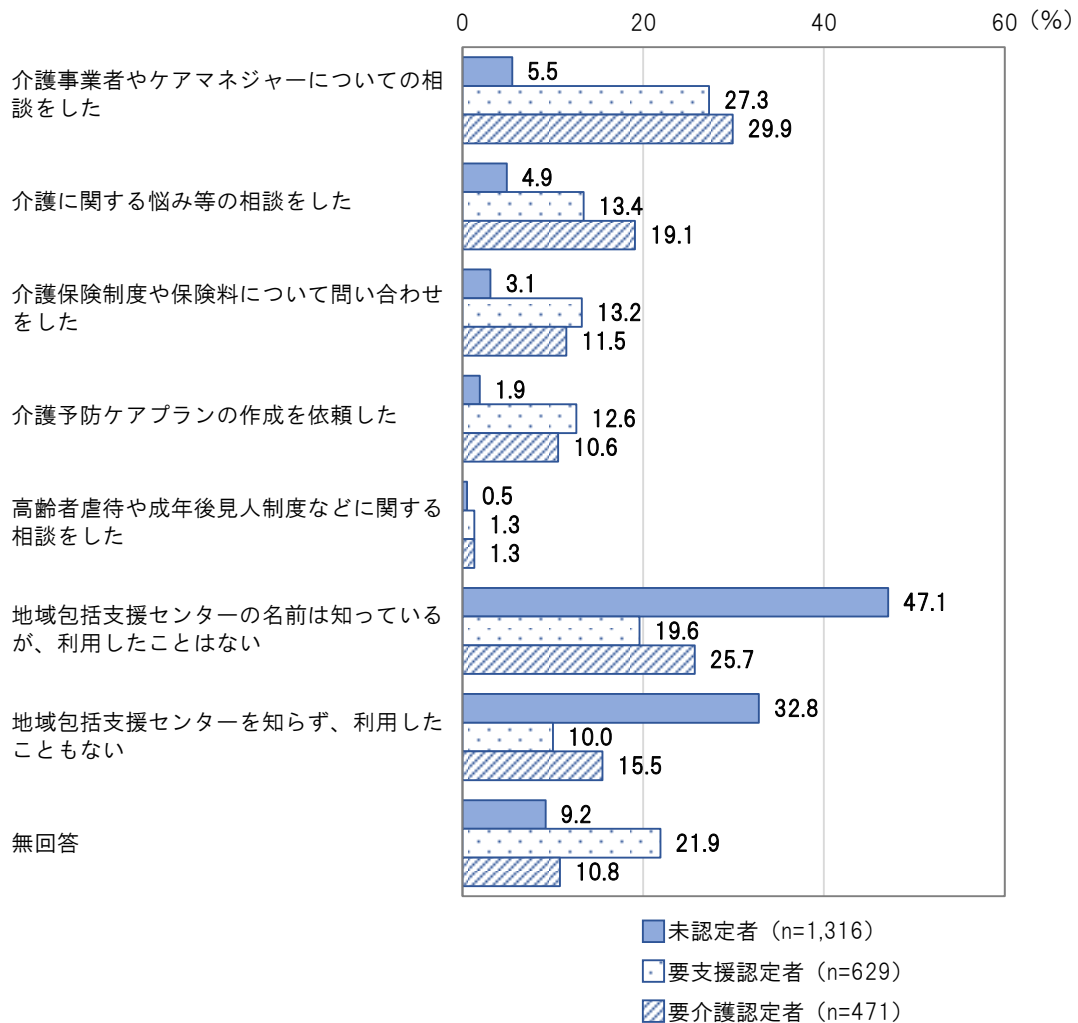
- 介護保険サービス以外で今後利用したいサービスは、いずれの区分も「利用する予定はない」が最も高く、特に未認定者では5割を超えて高くなっている。
- 要支援認定者・要介護認定者では4割近くの利用意向があり、その中でも「通院、買い物等の日常生活における車の送迎など」が最も高く、次いで「食事、清掃、洗濯やゴミ出しなどの家事援助」の順となっている。



（５）地域包括支援センターの利用の有無

問 あなたは高齢者の介護や健康などについて相談できる「地域包括支援センター」を利用したことがありますか。もしくは、知っていましたか。（あてはまるものすべてに○）

- 地域包括支援センターの利用は、未認定者では「地域包括支援センターの名前は知っているが、利用したことはない」が約５割を占め最も高く、次いで「地域包括支援センターを知らず、利用したこともない」となっており、『利用したことがある』人は約１割となっている。
- 要支援認定者・要介護認定者では、「介護事業者やケアマネジャーについての相談をした」がともに約３割と最も高く、次いで「地域包括支援センターの名前は知っているが、利用したことはない」、「介護に関する悩み等の相談をした」の順となっている。



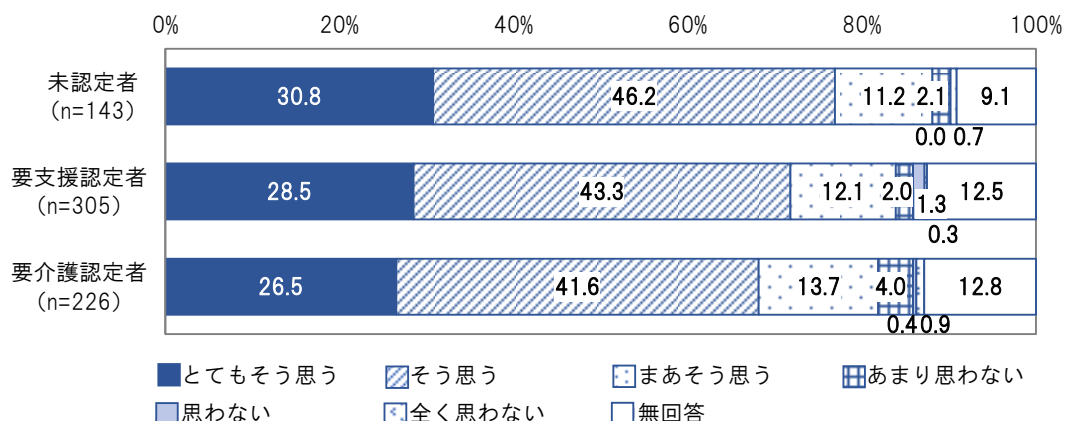
（５－１）地域包括支援センターを利用して思ったこと

（５）で『利用した』と回答した人のみ

問 地域包括支援センターを利用して思ったことを教えてください。（それぞれ１つに○）

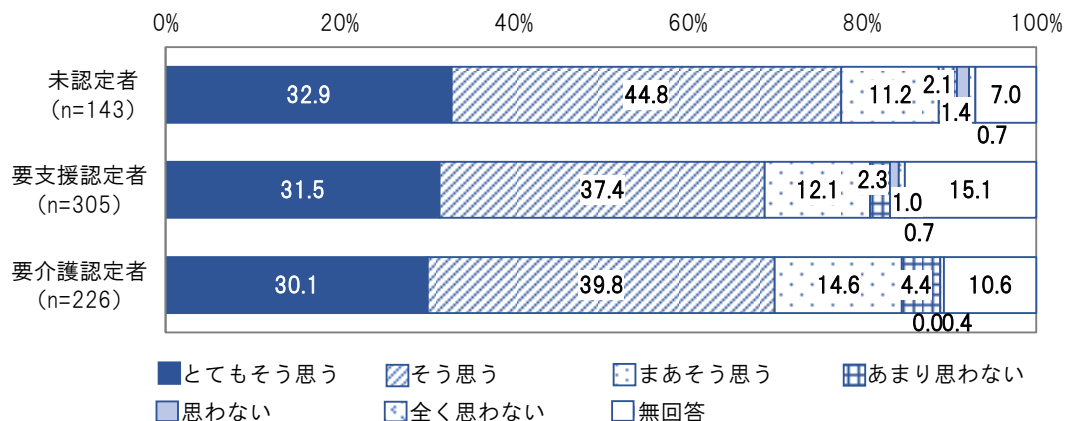
① しっかりと話を聞いてくれた

○ “しっかりと話を聞いてくれた” では、すべての区分で「そう思う」が最も高く、「とてもそう思う」と「まあそう思う」を合わせた『そう思う』が８割以上を占めている。



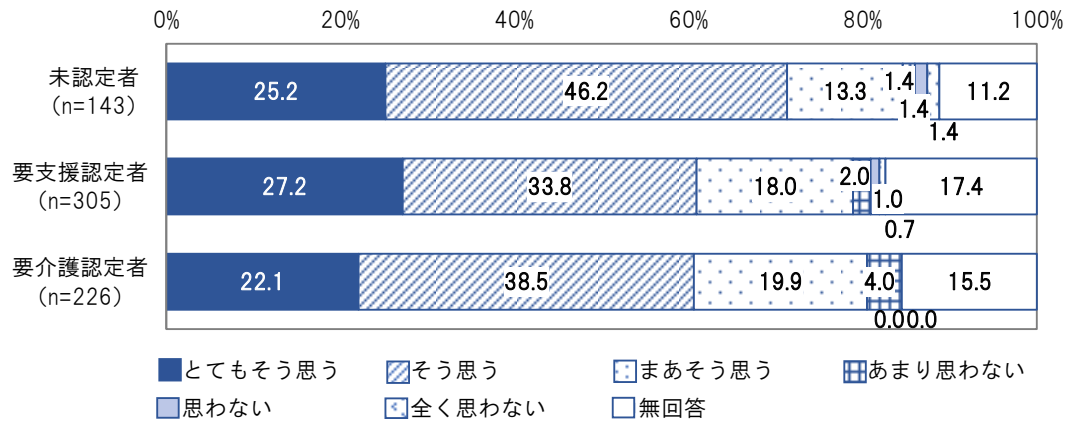
② すぐに対応してくれた

○ “すぐに対応してくれた” では、すべての区分で「そう思う」が最も高く、「とてもそう思う」と「まあそう思う」を合わせた『そう思う』が８割以上を占めている。



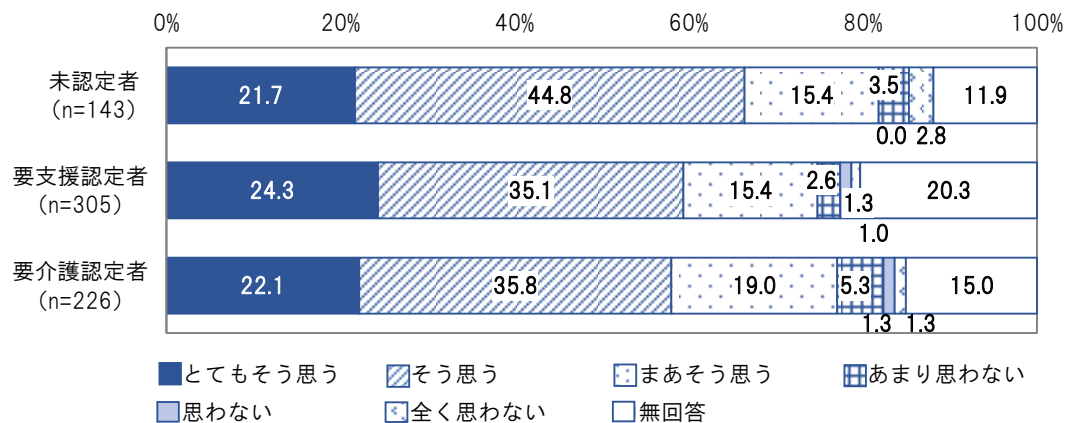
③ 説明がわかりやすかった

- “説明がわかりやすかった” では、すべての区分で「そう思う」が最も高く、「とてもそう思う」と「まあそう思う」を合わせた『そう思う』が約8割を占めている。



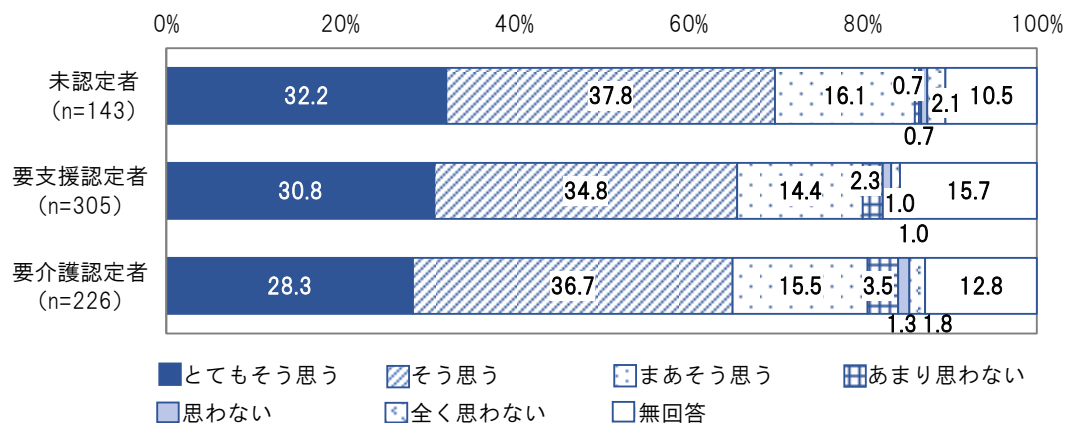
④ 提案や回答の内容に納得した

- “提案や回答の内容に納得した” では、すべての区分で「そう思う」が最も高く、「とてもそう思う」と「まあそう思う」を合わせた『そう思う』が7割以上を占めている。
- 一方で、要介護認定者では「あまり思わない」が5.3%と、その他と比べてやや高くなっている。



⑤ 総合的にみて利用してよかった

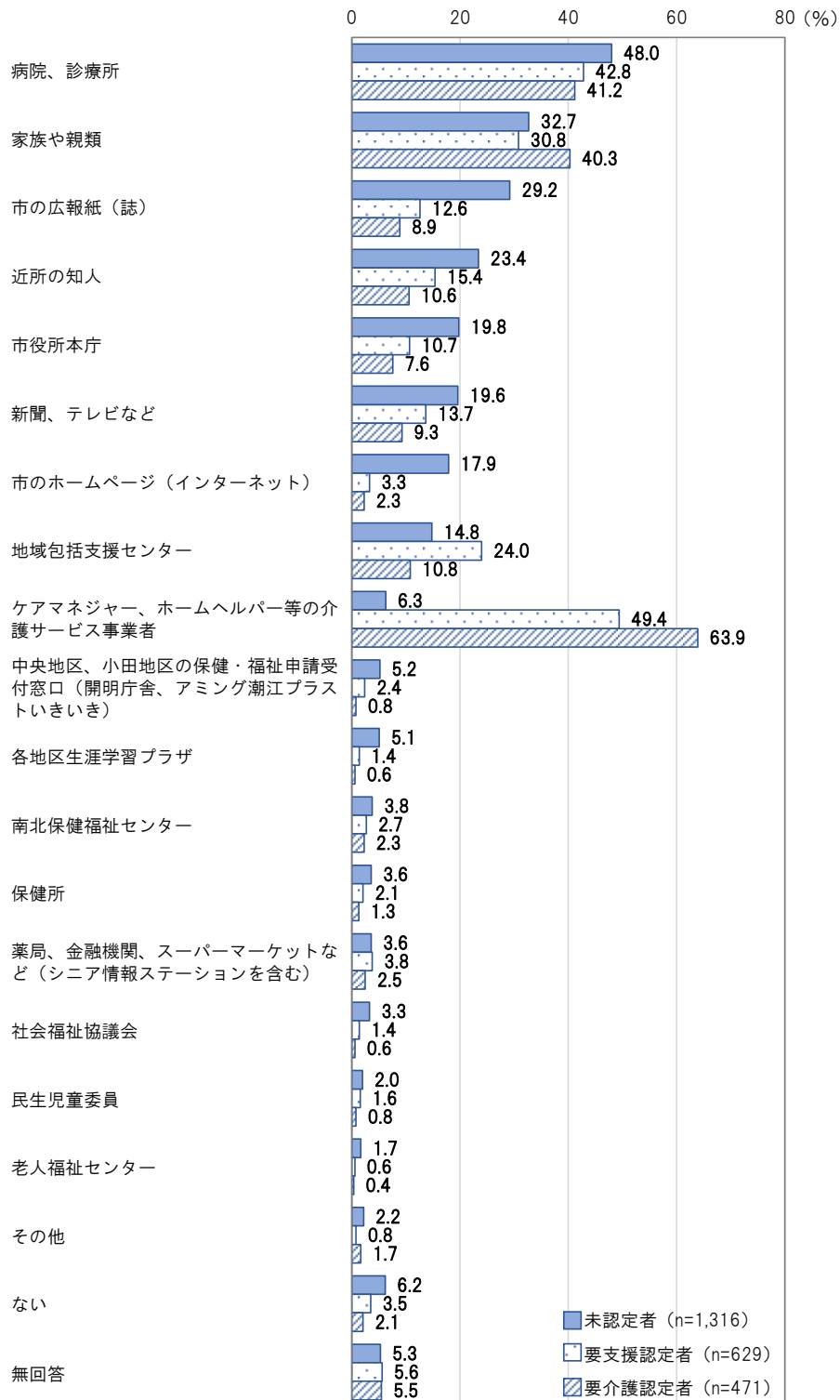
- “総合的にみて利用してよかった” では、すべての区分で「そう思う」が最も高く、「とてもそう思う」と「まあそう思う」を合わせた『そう思う』が8割以上を占めており、未認定者で最も高くなっている。



（６）健康または福祉に関する情報の入手先

問 あなたは健康または福祉に関することなどで困ったときに、どこから情報を入手しますか。（あてはまるものすべてに○）

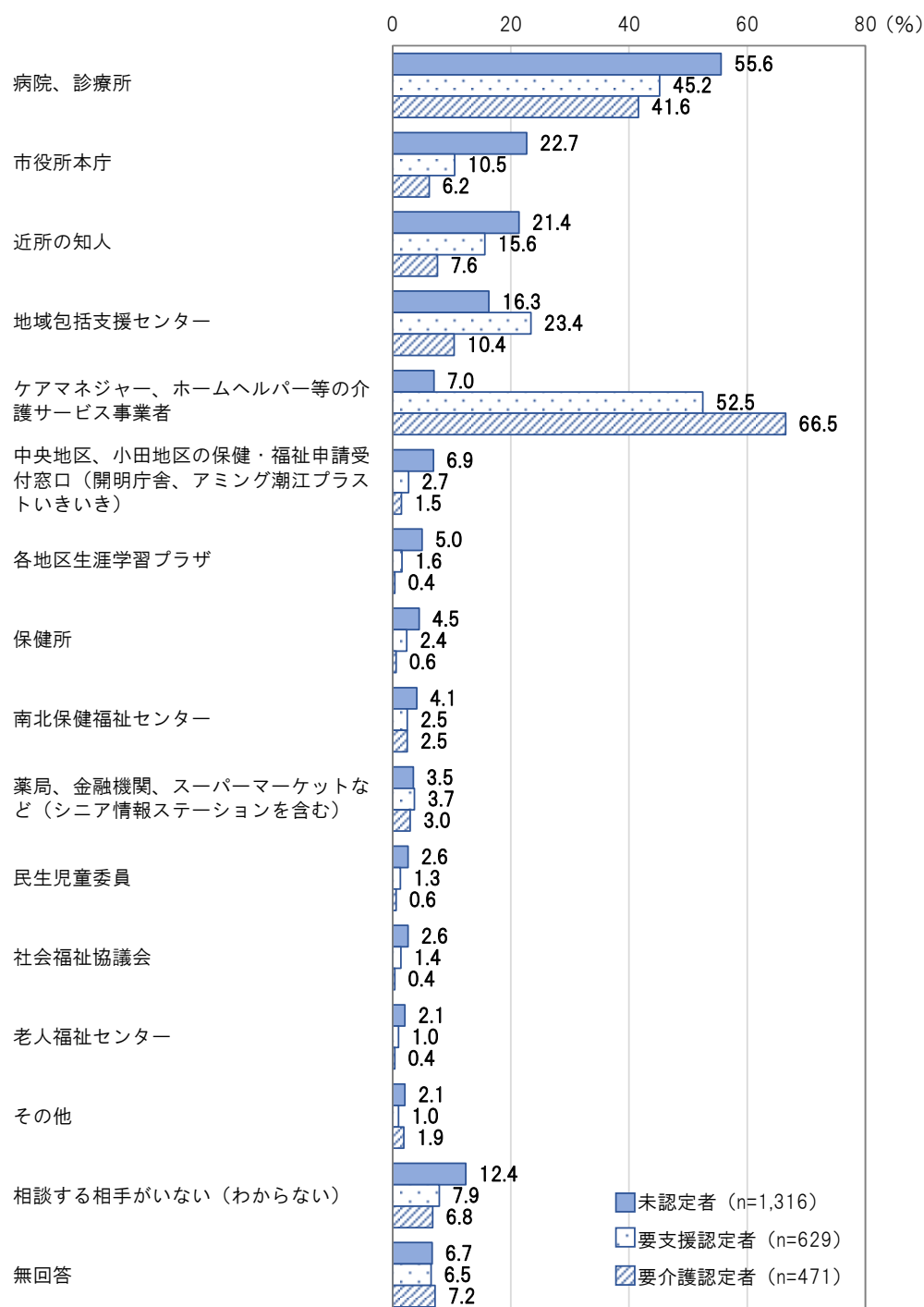
- 健康または福祉に関する情報の入手先は、未認定者では「病院、診療所」が最も高く、次いで「家族や親類」、「市の広報紙（誌）」、「近所の知人」の順となっている。
- 要支援認定者・要介護認定者では「ケアマネジャー、ホームヘルパー等の介護サービス事業者」が最も高く、特に要介護認定者では約６割を占め、その他の項目と比べても突出して高くなっている。



（７）健康または福祉に関することで困った時の相談先

問 あなたは健康または福祉に関することなどで困ったときに、家族、親族以外で、誰に（どこに）相談しますか。（あてはまるものすべてに○）

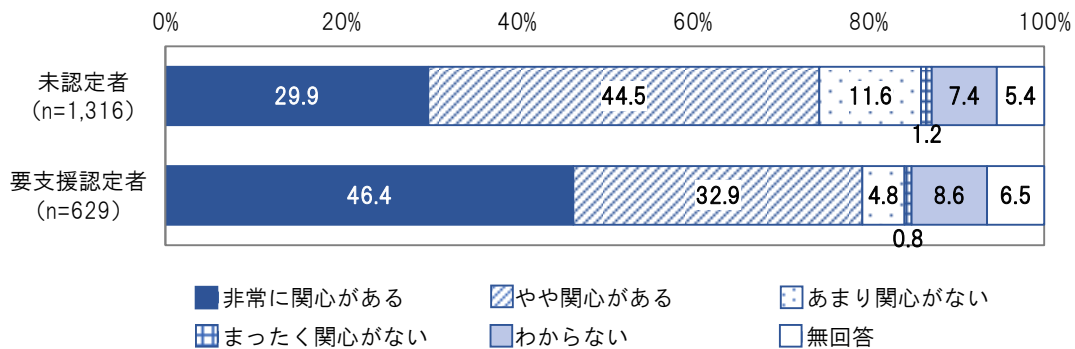
- 健康または福祉に関することで困った時の相談先は、未認定者では「病院、診療所」が最も高く、次いで「市役所本庁」、「近所の知人」の順となっている。要支援認定者・要介護認定者では「ケアマネジャー、ホームヘルパー等の介護サービス事業者」が最も高く、次いで「病院、診療所」、「地域包括支援センター」、「近所の知人」の順となっている。
- 一方で、未認定者では「相談する相手がいらない（わからない）」が１割を超えて、やや高くなっている。



（８）介護予防への関心度《未認定・要支援のみ》

問 あなたは介護予防（介護が必要な状態にならないように予防すること、もしくは要介護度が重くならないように予防すること）に関心がありますか。（１つに○）

- 介護予防への関心度は、「非常に関心がある」と「やや関心がある」を合わせた『関心がある』が未認定者・要支援認定者ともに７割以上を占めている。
- また、未認定者では「やや関心がある」が最も高くなっているのに対し、要支援認定者では「非常に関心がある」が４割以上を占めて高くなっている。

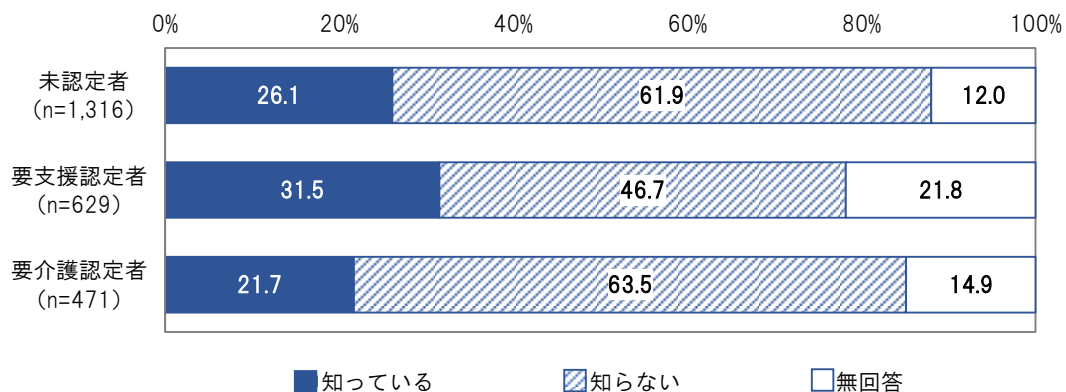


（９）市が行っている介護予防や社会参加の取組の認知度

問 本市で行っている介護予防や社会参加の取組を知っていますか。（各項目、１つに○）

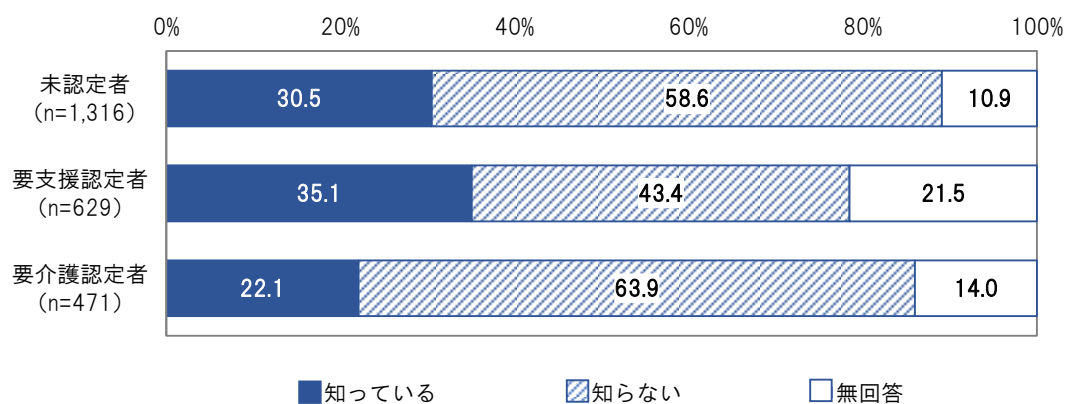
① 尼崎市いきいき100万歩運動

- “尼崎市いきいき100万歩運動”の認知度は、「知っている」は要支援認定者が約３割で最も高く、いずれの区分も２割を超えている。



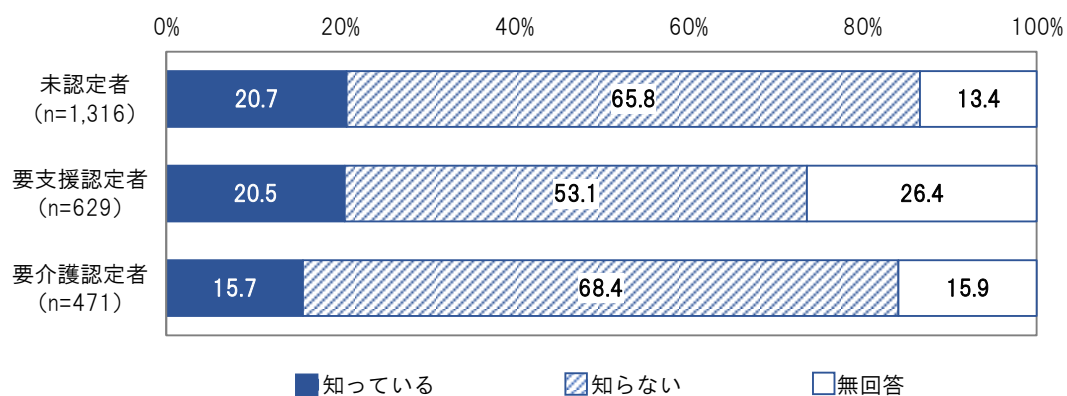
② いきいき百歳体操

- “いきいき百歳体操” の認知度は、「知っている」は要支援認定者が最も高く、次いで未認定者となっており、約3割を占めている。



③ 高齢者ふれあいサロン

- “高齢者ふれあいサロン” の認知度は、「知っている」は未認定者で最も高く、次いで要支援認定者となっており、約2割となっている。
- 要介護認定者では「知っている」が1割台と低くなっている。



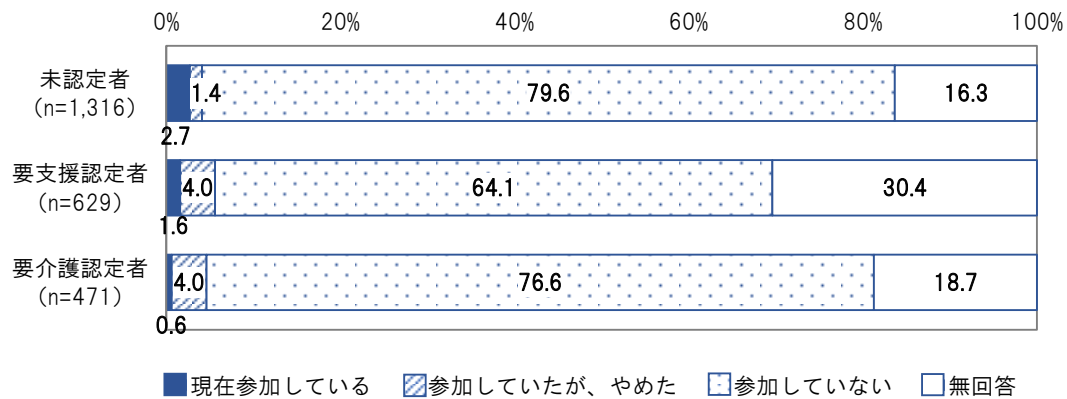
（10）市が行っている介護予防や社会参加の取組の参加状況と今後の参加意向

問 本市で行っている介護予防や社会参加の取組を知っていますか。（各項目、1つに○）

《参加状況》

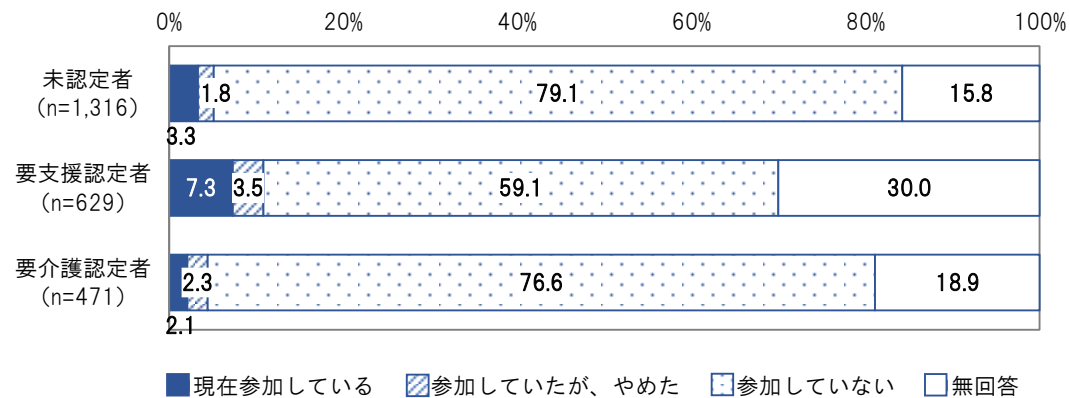
① 尼崎市いきいき100万歩運動

- “尼崎市いきいき100万歩運動” の参加状況は、すべての区分で「参加していない」が最も高く、「現在参加している」は3%未満となっている。



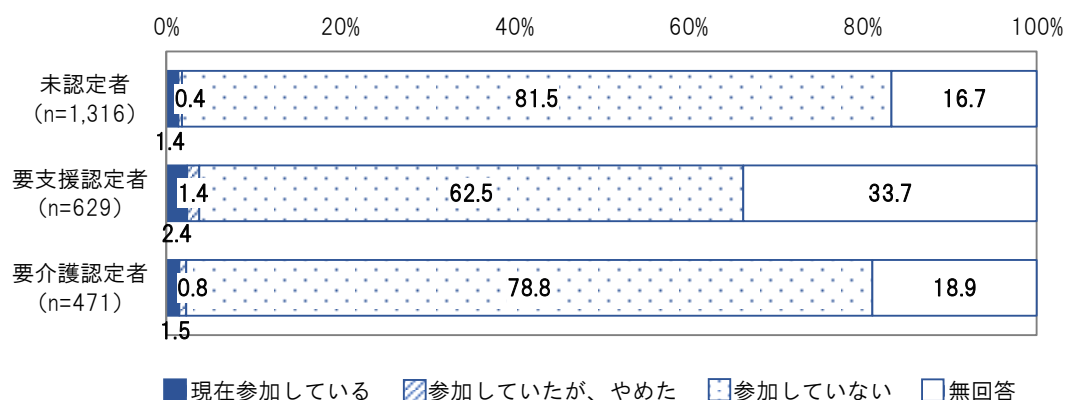
② いきいき百歳体操

- “いきいき百歳体操” の参加状況は、すべての区分で「参加していない」が最も高く、「現在参加している」は要支援認定者で1割近くとなっている。



③ 高齢者ふれあいサロン

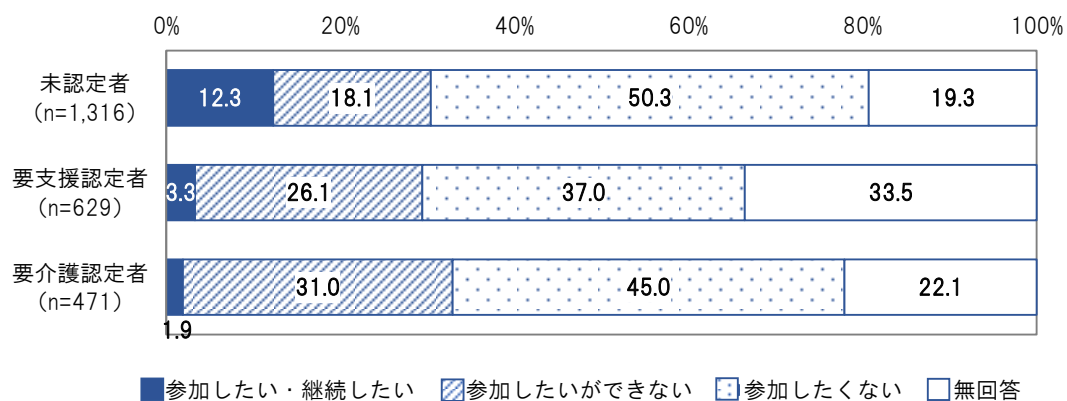
○ “高齢者ふれあいサロン” の参加状況は、すべての区分で「参加していない」が最も高く、「現在参加している」は3%未満となっている。



《今後の参加意向》

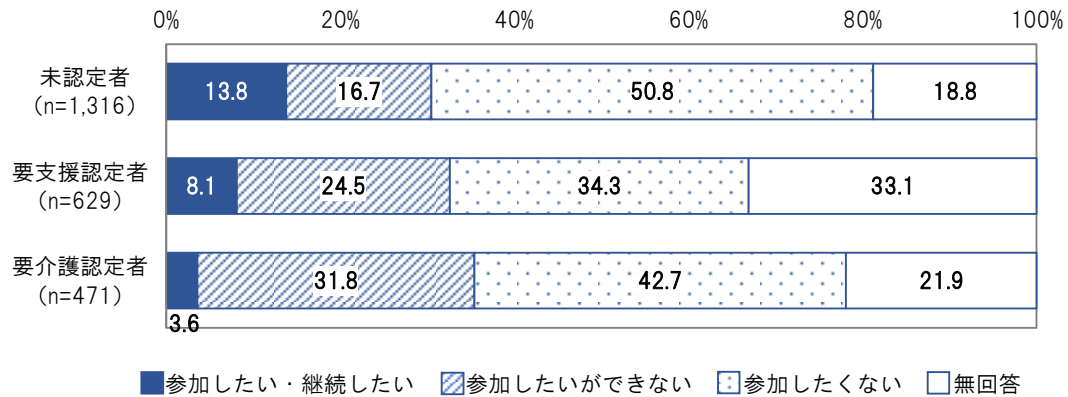
① 尼崎市いきいき100万歩運動

○ “尼崎市いきいき100万歩運動” の今後の参加意向は、すべての区分で「参加したくない」が最も高く、「参加したい・継続したい」は未認定者で1割を超えて最も高くなっている。



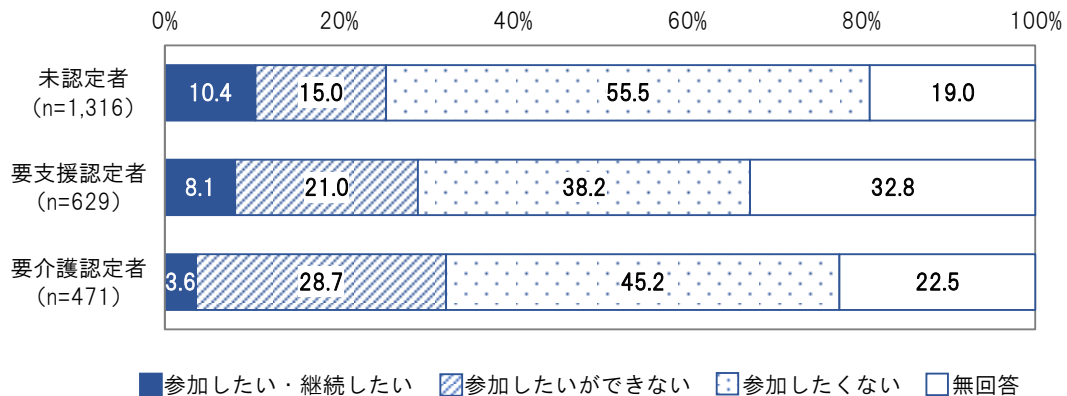
② いきいき百歳体操

○ “いきいき百歳体操”の今後の参加意向は、すべての区分で「参加したくない」が最も高く、「参加したい・継続したい」は未認定者で1割を超えて最も高くなっている。



③ 高齢者ふれあいサロン

○ “高齢者ふれあいサロン”の今後の参加意向は、すべての区分で「参加したくない」が最も高く、「参加したい・継続したい」は未認定者で約1割で最も高くなっている。



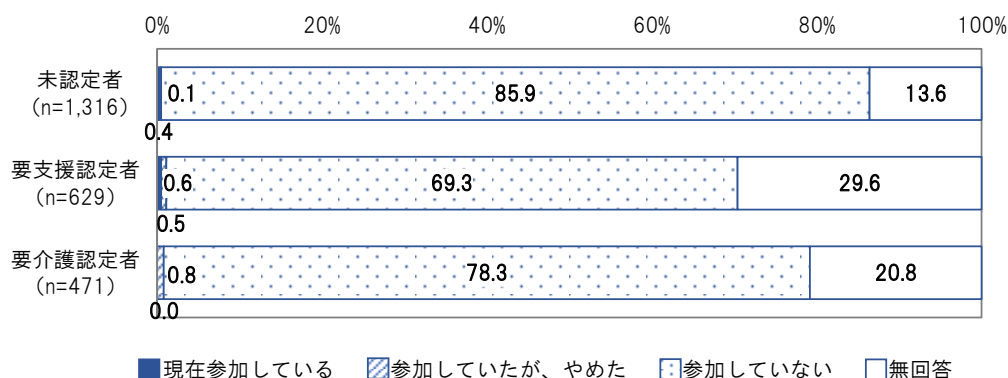
(11) 健康維持、増進するための教室の参加状況と今後の参加意向

問 健康を維持、増進するための次のようなものがありますが、参加していますか。また、今後参加したいと思いますか。（各項目、現在の状況・今後の意向それぞれ1つに○）

《参加状況》

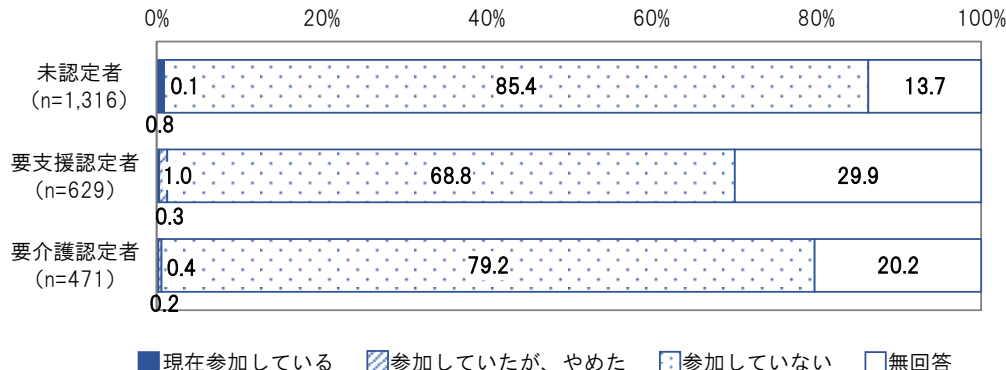
① 生活習慣病を予防するための教室

○ “生活習慣病を予防するための教室”の参加状況は、いずれの区分も「参加していない」が最も高く、未認定者で約9割を占め最も高くなっている。



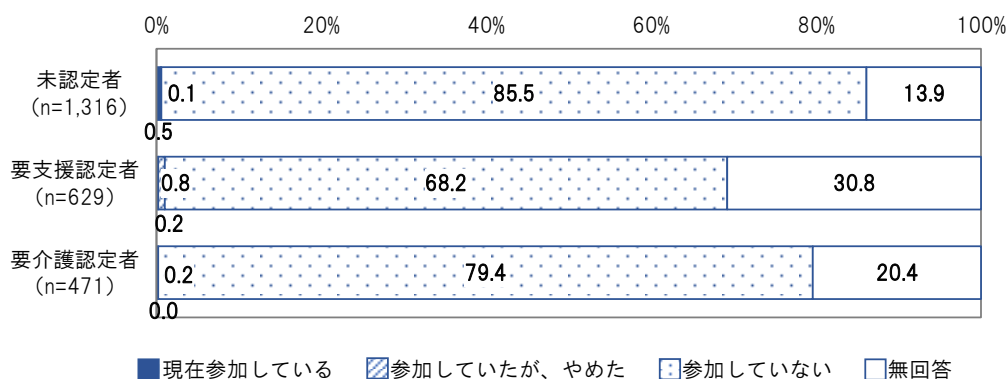
② 健康な歯や歯ぐきを維持するための教室

○ “健康な歯や歯ぐきを維持するための教室”の参加状況は、いずれの区分も「参加していない」が最も高く、未認定者で約9割を占め最も高くなっている。



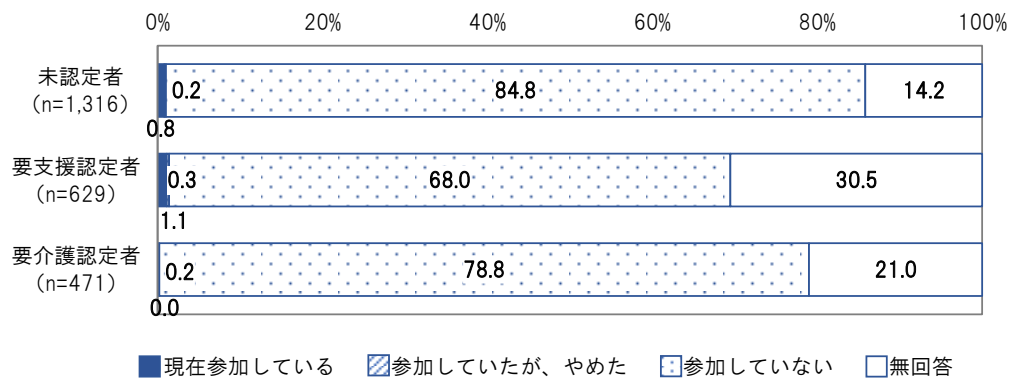
③ 食生活を改善するための教室

○ “食生活を改善するための教室”の参加状況は、いずれの区分も「参加していない」が最も高く、未認定者で約9割を占め最も高くなっている。



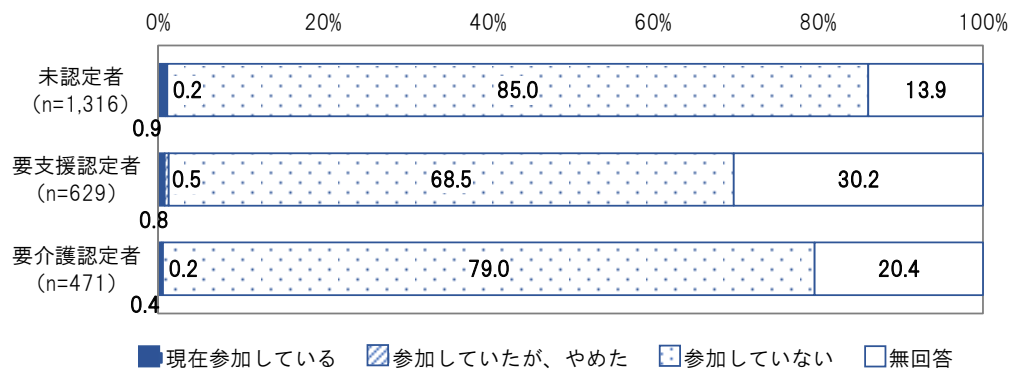
④ 介護予防のための教室・講座

○ “介護予防のための教室・講座”の参加状況は、いずれの区分も「参加していない」が最も高く、未認定者で8割以上を占め最も高くなっている。



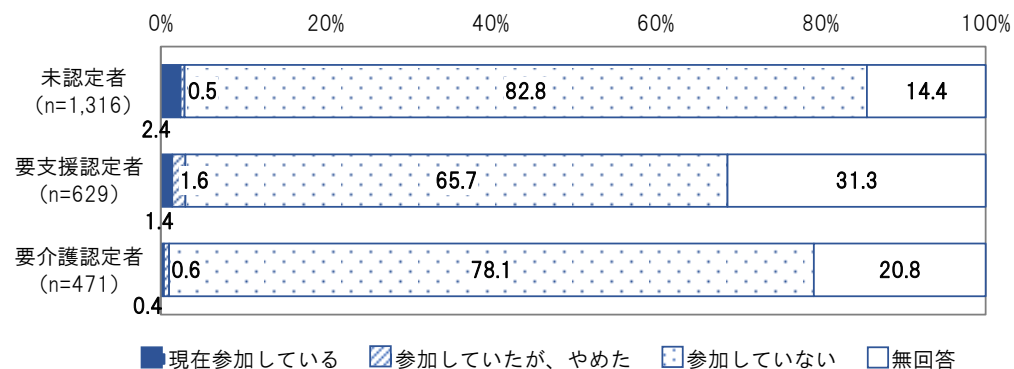
⑤ 認知症に関する教室・講座

○ “認知症に関する教室・講座”の参加状況は、いずれの区分も「参加していない」が最も高く、未認定者で約9割を占め最も高くなっている。



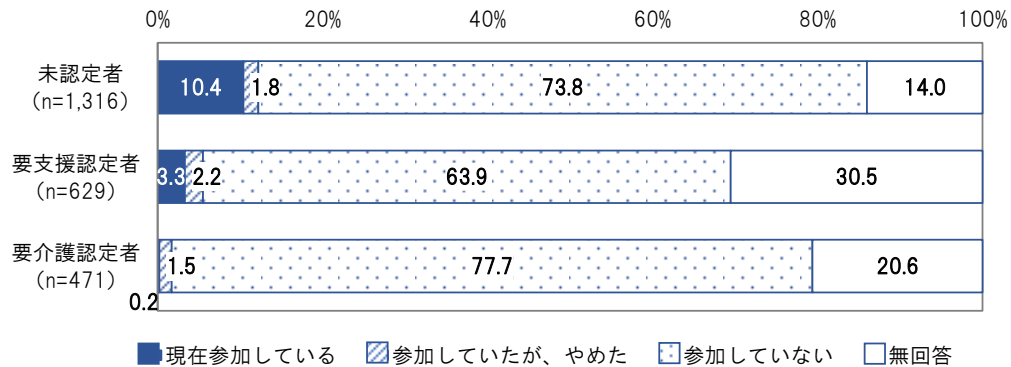
⑥ 民間事業者による文化教室

○ “民間事業者による文化教室”の参加状況は、いずれの区分も「参加していない」が最も高く、未認定者で8割以上を占め最も高くなっている。



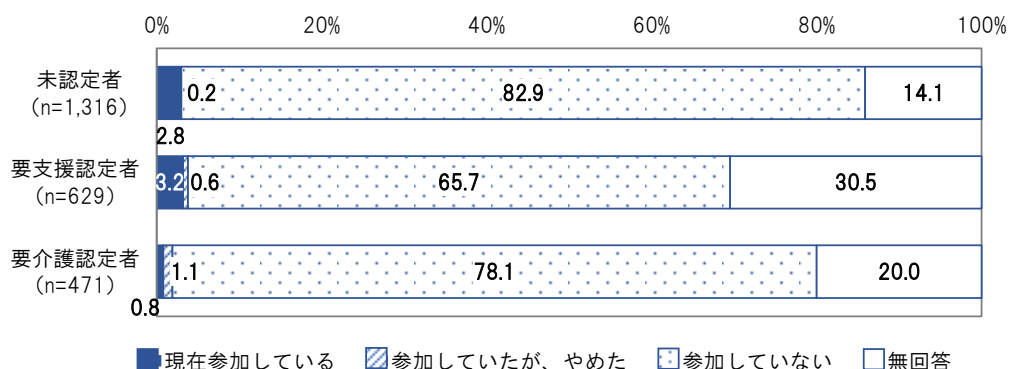
⑦ スポーツクラブ

- “スポーツクラブ” の参加状況は、いずれの区分も「参加していない」が最も高く、要介護認定者で最も高くなっている。
- 一方で、「現在参加している」は未認定者が約 1 割で最も高くなっている。



⑧ 地域で行われている健康維持のための活動・講座

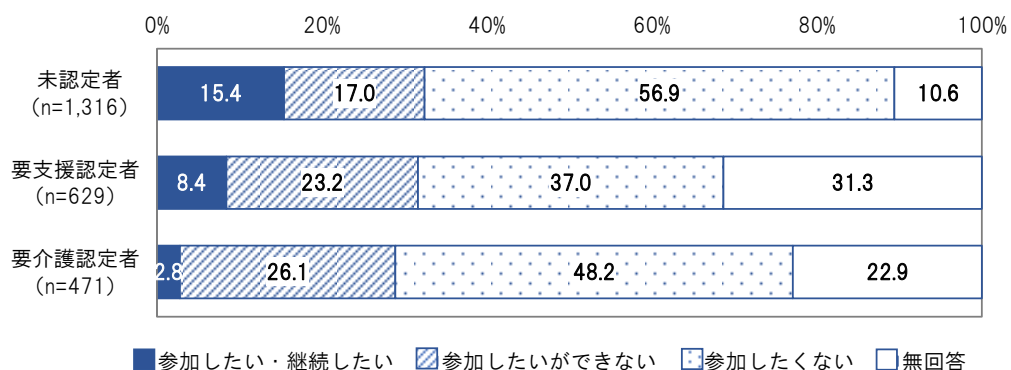
- “地域で行われている健康維持のための活動・講座” の参加状況は、いずれの区分も「参加していない」が最も高く、未認定者で約 8 割を占め最も高くなっている。



《今後の参加意向》

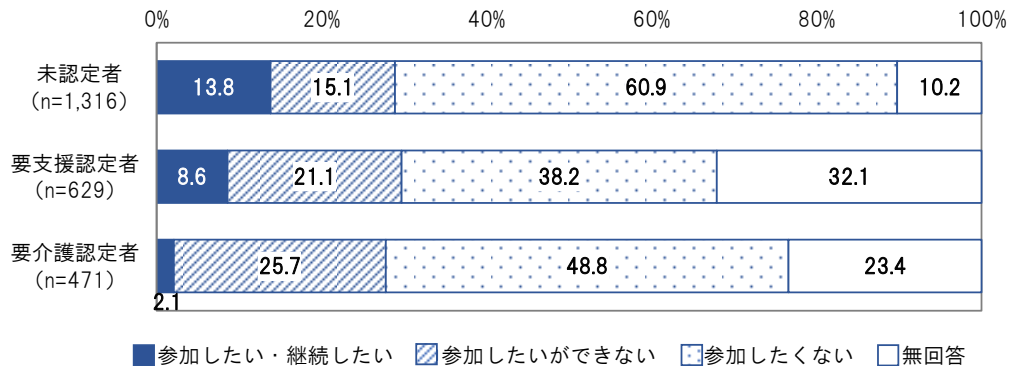
① 生活習慣病を予防するための教室

- “生活習慣病を予防するための教室” の今後の参加意向は、いずれの区分も「参加したくない」が最も高く、未認定者で最も高いが、「参加したい・継続したい」も未認定者が 1 割を超えて最も高くなっている。



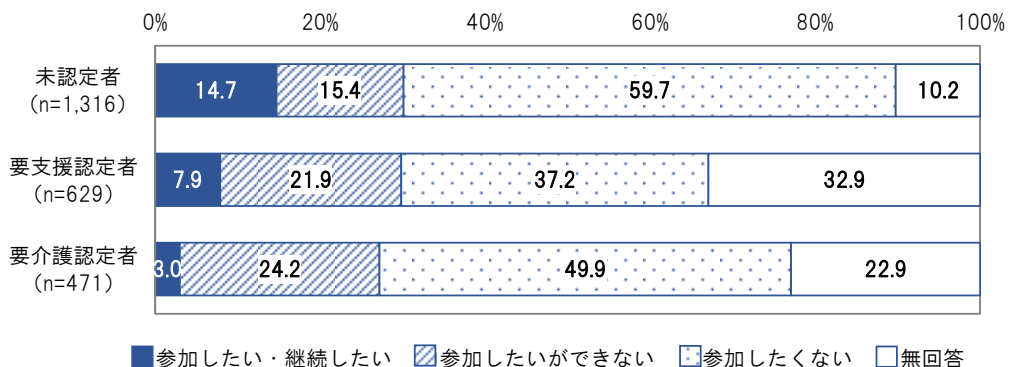
② 健康な歯や歯ぐきを維持するための教室

○ “健康な歯や歯ぐきを維持するための教室”の今後の参加意向は、いずれの区分も「参加したくない」が最も高く、未認定者で最も高いが、「参加したい・継続したい」も未認定者が1割を超えて最も高くなっている。



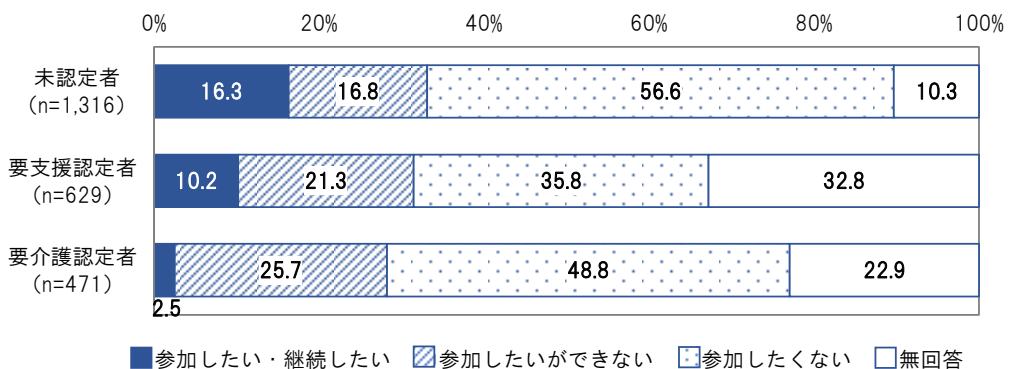
③ 食生活を改善するための教室

○ “食生活を改善するための教室”の今後の参加意向は、いずれの区分も「参加したくない」が最も高く、未認定者で最も高いが、「参加したい・継続したい」も未認定者が1割を超えて最も高くなっている。



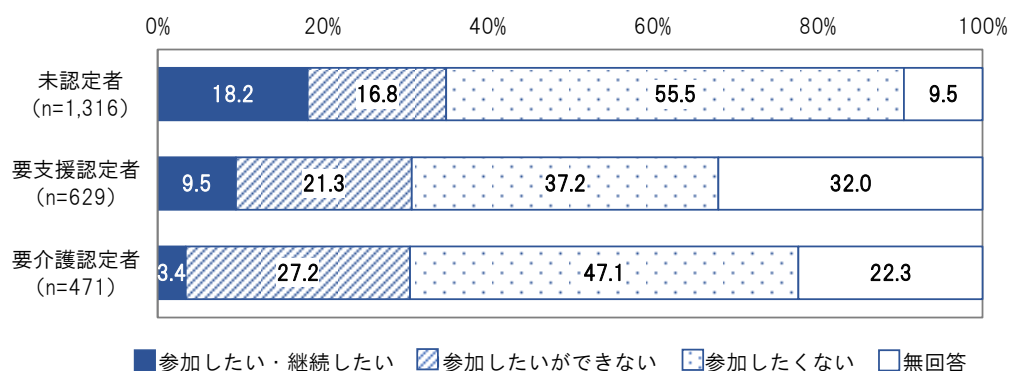
④ 介護予防のための教室・講座

○ “介護予防のための教室・講座”の今後の参加意向は、いずれの区分も「参加したくない」が最も高く、未認定者で最も高いが、「参加したい・継続したい」も未認定者が1割を超えて最も高くなっている。



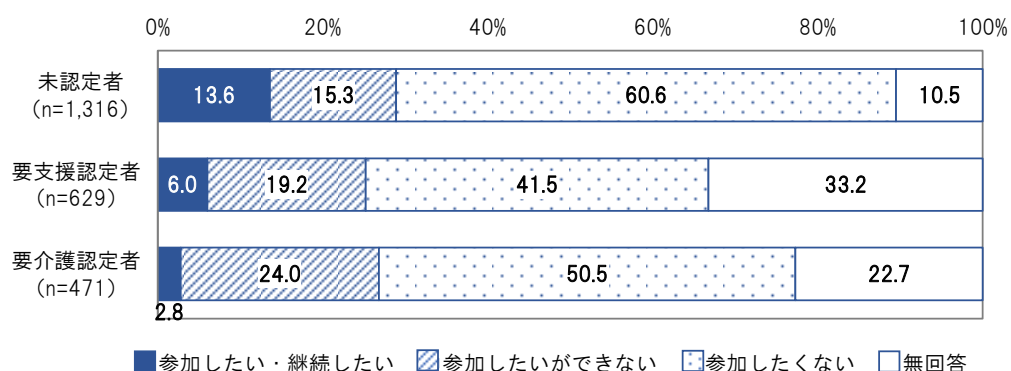
⑤ 認知症に関する教室・講座

- “認知症に関する教室・講座”の今後の参加意向は、いずれの区分も「参加したくない」が最も高く、未認定者で最も高いが、「参加したい・継続したい」も未認定者が1割を超えて最も高くなっている。



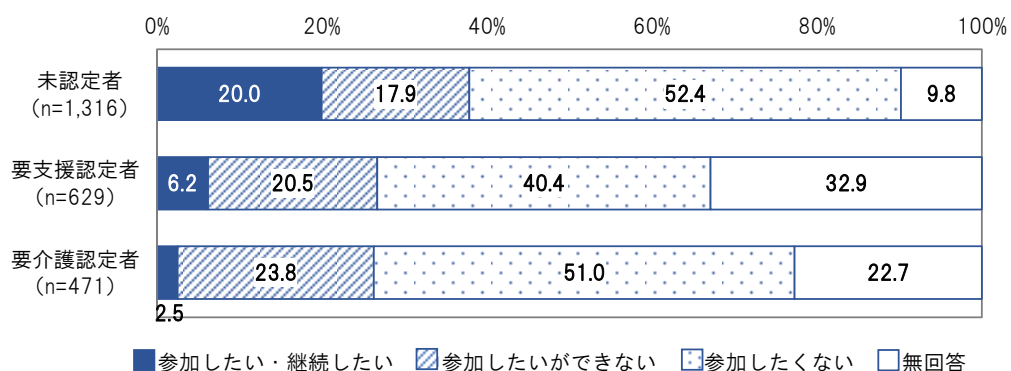
⑥ 民間事業者による文化教室

- “民間事業者による文化教室”の今後の参加意向は、いずれの区分も「参加したくない」が最も高く、未認定者で最も高いが、「参加したい・継続したい」も未認定者が1割を超えて最も高くなっている。



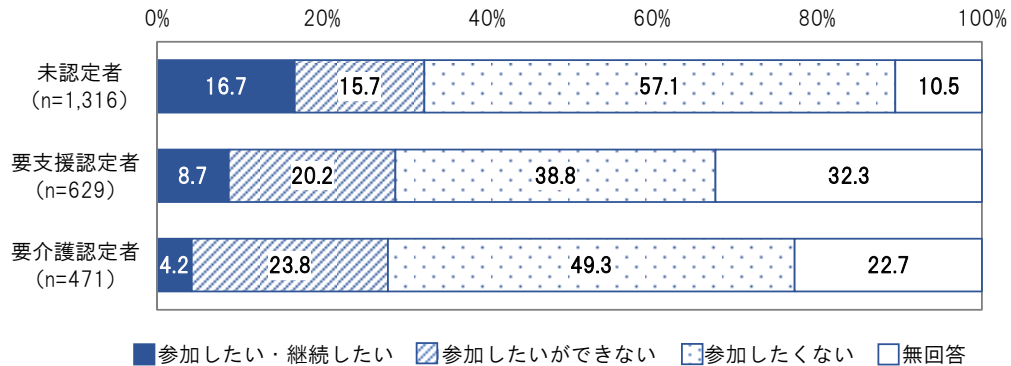
⑦ スポーツクラブ

- “スポーツクラブ”の今後の参加意向は、いずれの区分も「参加したくない」が最も高く、未認定者で最も高いが、「参加したい・継続したい」も未認定者が2割を占めて最も高くなっている。



⑧ 地域で行われている健康維持のための活動・講座

○ “地域で行われている健康維持のための活動・講座” の今後の参加意向は、いずれの区分も「参加したくない」が最も高く、未認定者で最も高いが、「参加したい・継続したい」も未認定者が1割を超えて最も高くなっている。

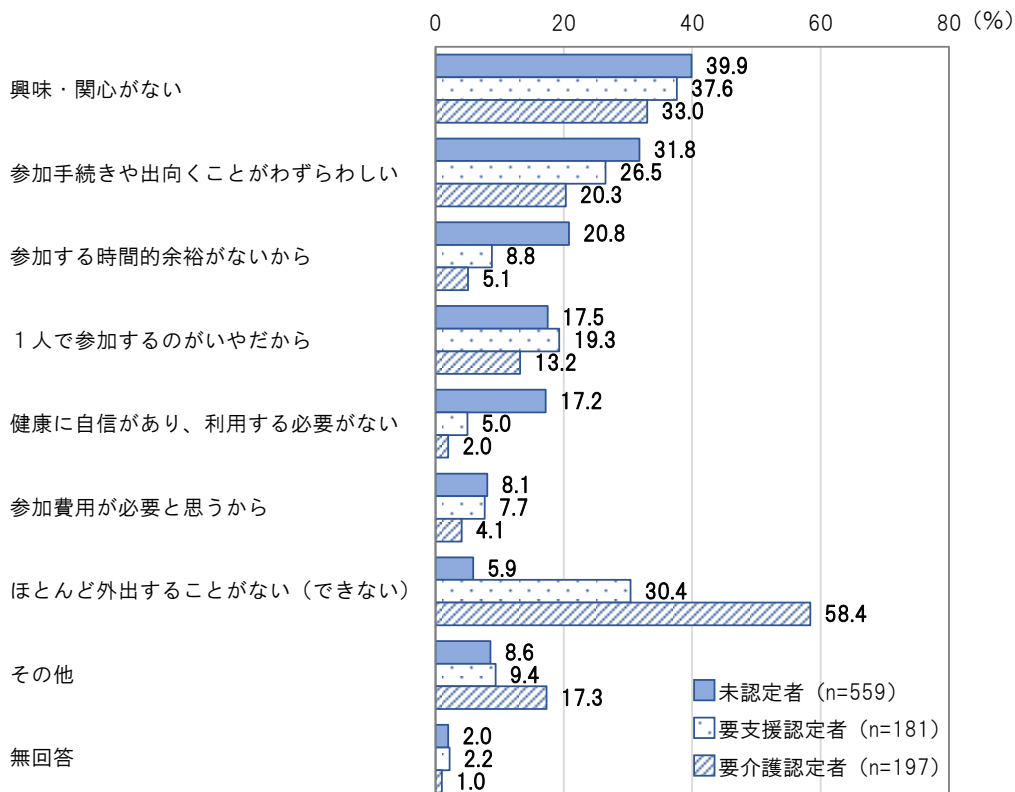


(11-1) 健康維持、増進するための教室・講座に参加したくない理由

(11) の①～⑧の今後の意向で、すべて「3」と回答した方に

問 健康を維持、増進するための教室・講座に参加したくないと思う理由は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

- 健康を維持、増進するための教室・講座に参加したくないと思う理由は、未認定者・要支援認定者では「興味・関心がない」が最も高く、次いで未認定者では「参加手続きや出向くことがわずらわしい」、要支援認定者では「ほとんど外出することがない（できない）」となっている。
- 要介護認定者では「ほとんど外出することがない（できない）」が最も高く、次いで「興味・関心がない」、「参加手続きや出向くことがわずらわしい」の順となっている。

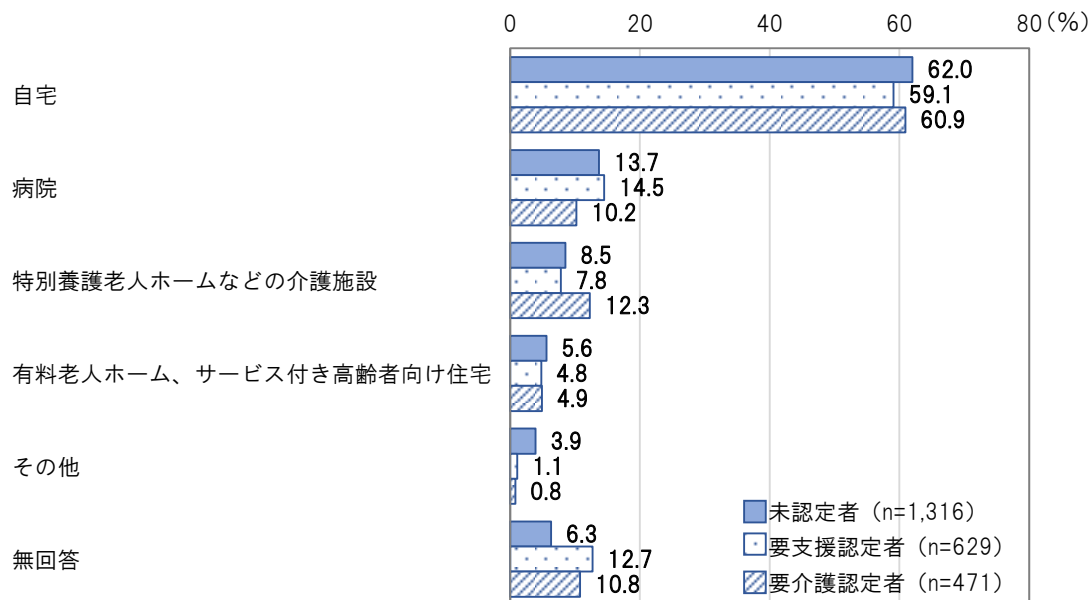


11. 今後の生活や高齢者施策全般について

(1) 人生最期を迎える場所の希望

問 あなたの人生最期の迎え方について、最期はどこで過ごしたいですか。(1つに○)

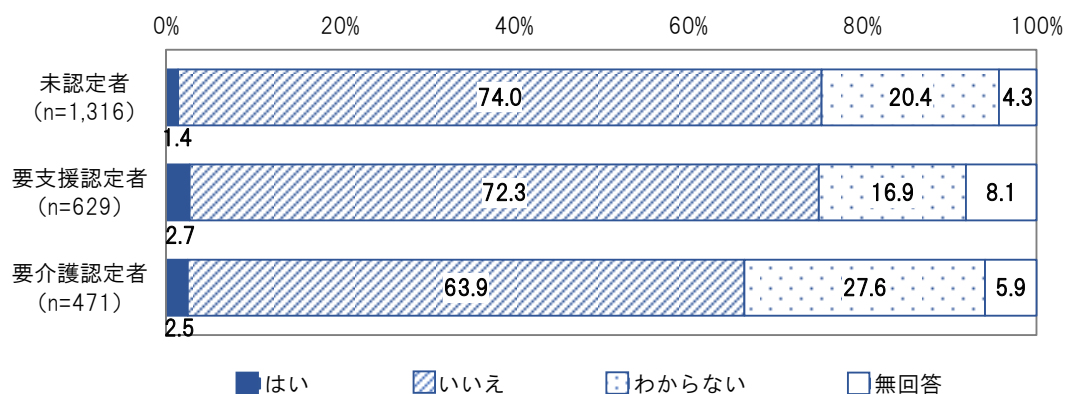
○人生最期を迎える場所の希望は、すべての区分で「自宅」が最も高く、次いで未認定者・要支援認定者では「病院」、要介護認定者では「特別養護老人ホームなどの介護施設」となっている。



(2) 延命治療に対する希望

問 あなたの人生最期の迎え方について、延命治療を望みますか。(1つに○)

○延命治療に対する希望は、すべての区分で「いいえ」が過半数を占めており、「はい」は3%未満となっている。

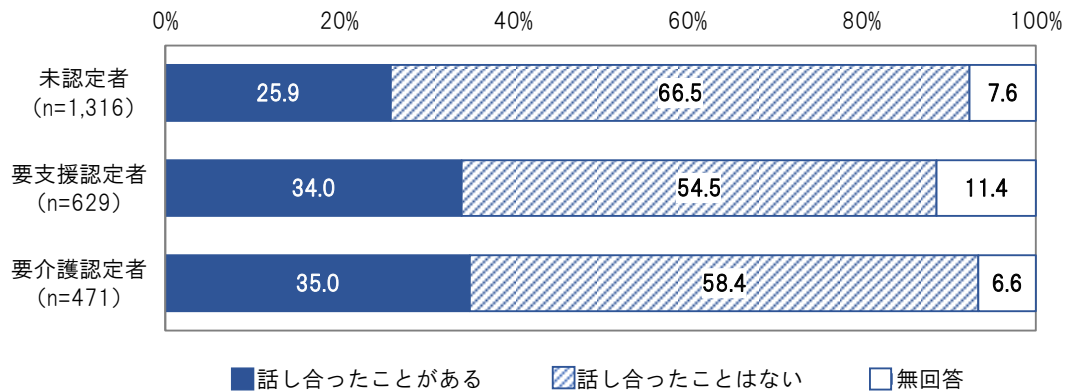


（３）人生最期の迎え方や延命治療について話し合ったことの有無

問 あなたの人生最期の迎え方について、過ごしたい場所や延命治療について話し合ったことはありますか。（それぞれ１つに○）

① 最期に過ごしたい場所

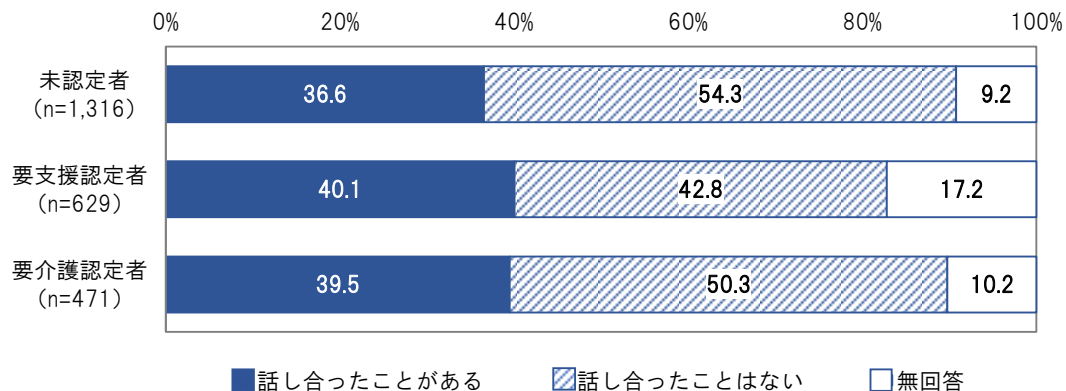
○人生最期に過ごしたい場所について話し合ったことは、すべての区分で「話し合ったことはない」が半数以上を占めており、「話し合ったことがある」は要介護認定者で最も高くなっている。



② 延命治療

○延命治療について話し合ったことは、すべての区分で「話し合ったことはない」が「話し合ったことがある」を上回っており、「話し合ったことがある」は要支援認定者で最も高くなっている。

○①の人生最期を迎える場所と比べると、延命治療について話し合ったことがある人が多い結果となっている。



(3-1) 人生最期の迎え方や延命治療について話し合った相手

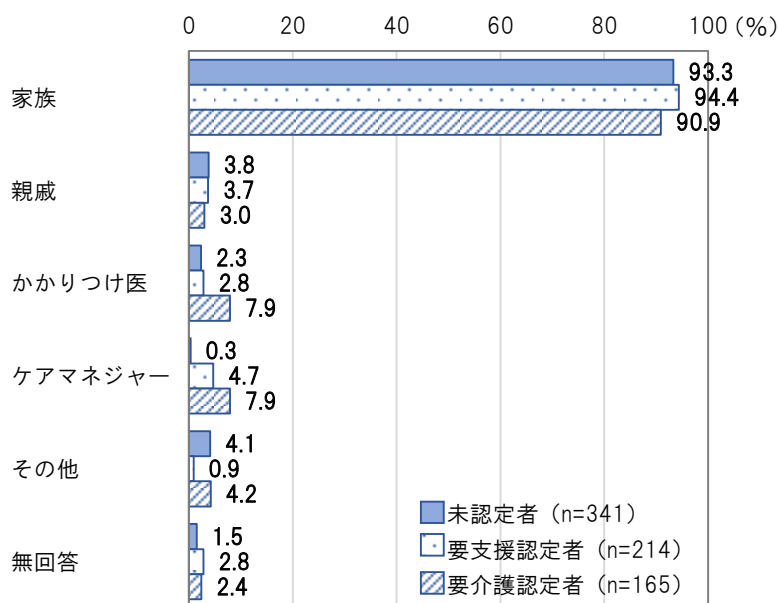
(3) で「話し合ったことがある」と回答した人のみ

問 誰と話し合いましたか。(それぞれあてはまるものすべてに○)

① 最期に過ごしたい場所

○人生最期を迎える場所について話し合った相手は、すべての区分で「家族」が最も高くなっている。

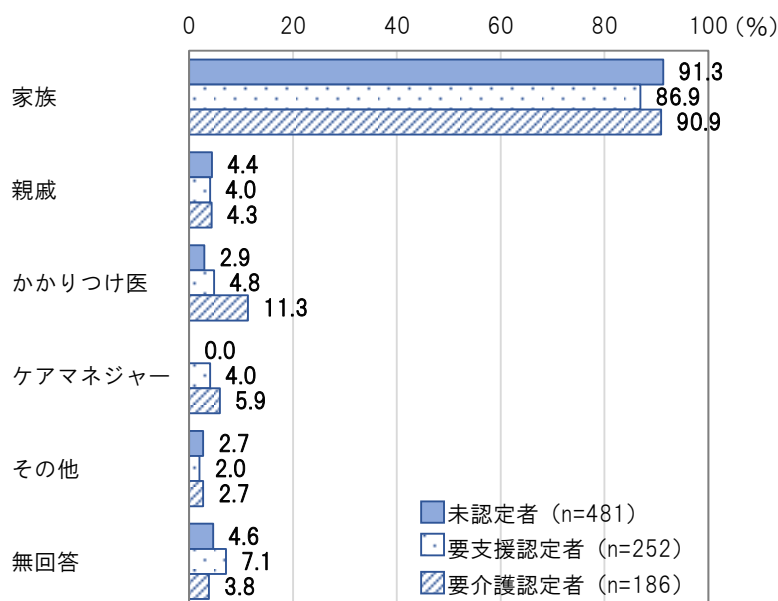
○また、介護度が高くなるほど「ケアマネジャー」が高くなる傾向がみられる。



② 延命治療

○延命治療について話し合った相手は、すべての区分で「家族」が最も高くなっている。

○また、介護度が高くなるほど「かかりつけ医」や「ケアマネジャー」が高くなる傾向がみられ、要介護認定者では「かかりつけ医」が約1割となっている。

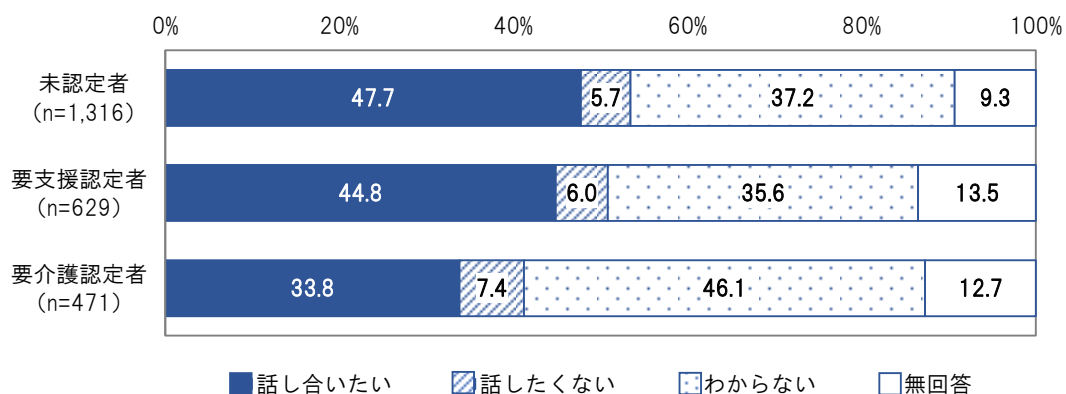


（４）人生最期の迎え方や延命治療についての今後の話し合いの意向

問 あなたの人生最期の迎え方について、過ごしたい場所や延命治療について今後話したいと思いますか。（それぞれ１つに○）

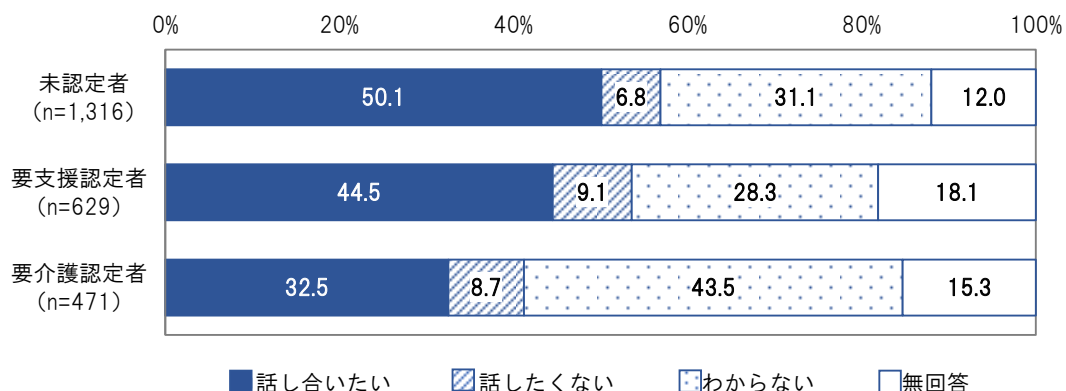
① 最期に過ごしたい場所

- 人生最期に過ごしたい場所についての今後の話し合いの意向は、未認定者・要支援認定者では「話し合いたい」が４割を超え、最も高くなっている。
- 要介護認定者においては、「わからない」が最も高くなっているものの、「話し合いたい」が３割以上を占めて高くなっている。



② 延命治療

- 延命治療についての今後の話し合いの意向は、未認定者・要支援認定者では「話し合いたい」が４割を超え、最も高くなっている。
- 要介護認定者においては、「わからない」が最も高くなっているものの、「話し合いたい」が３割を超えて高くなっている。
- ①の人生最期に過ごしたい場所と比べると、未認定者では延命治療について話し合いの意向が高い結果となっている。

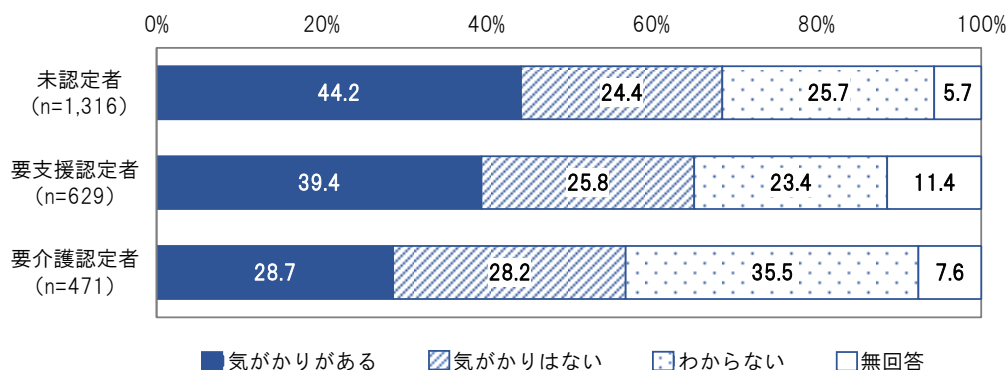


（５）人生最期を迎えるにあたっての気がかりの有無

問 あなたが人生最期を迎えるにあたって気がかりはありますか。（１つに○）

○人生最期を迎えるにあたっての気がかりの有無は、未認定者・要支援認定者では「気がかりがある」が約４割を占め、最も高くなっている。

○要介護認定者においては、「わからない」が最も高くなっているものの、「気がかりがある」が約３割を占めて高くなっている。

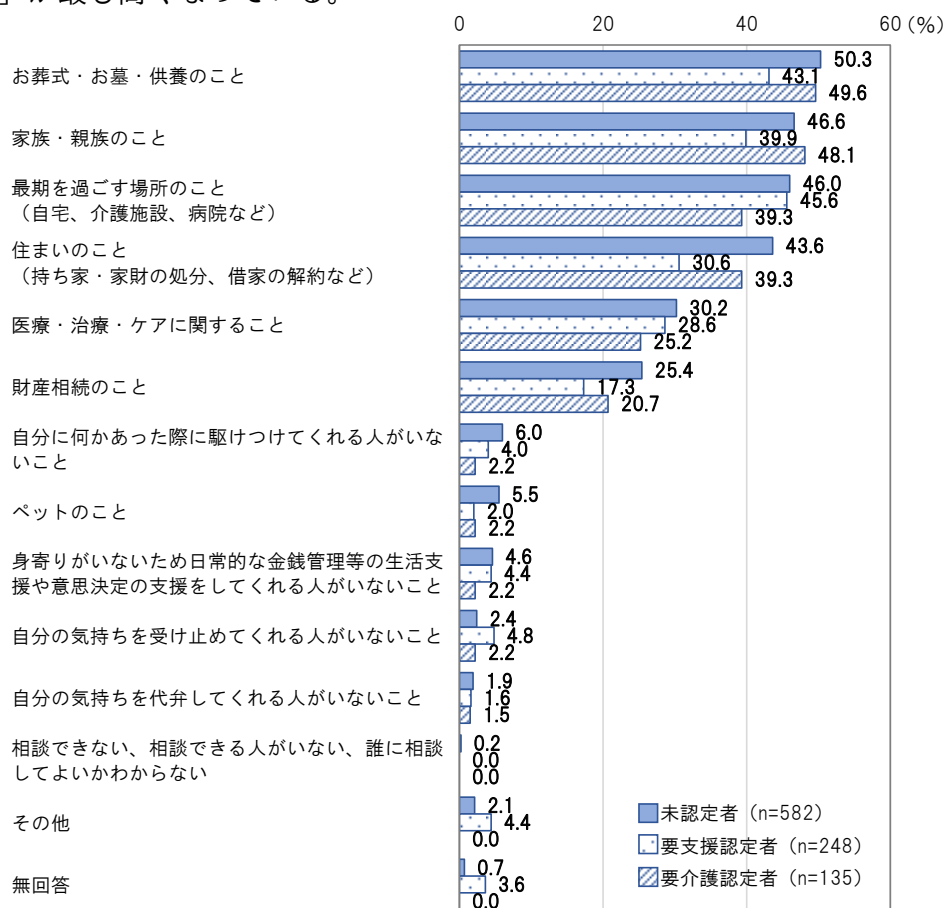


（５－１）人生最期を迎えるにあたっての気がかりの内容

（５）で「気がかりがある」と回答した人のみ

問 どんなことを気がかりだと感じていますか。（あてはまるものすべてに○）

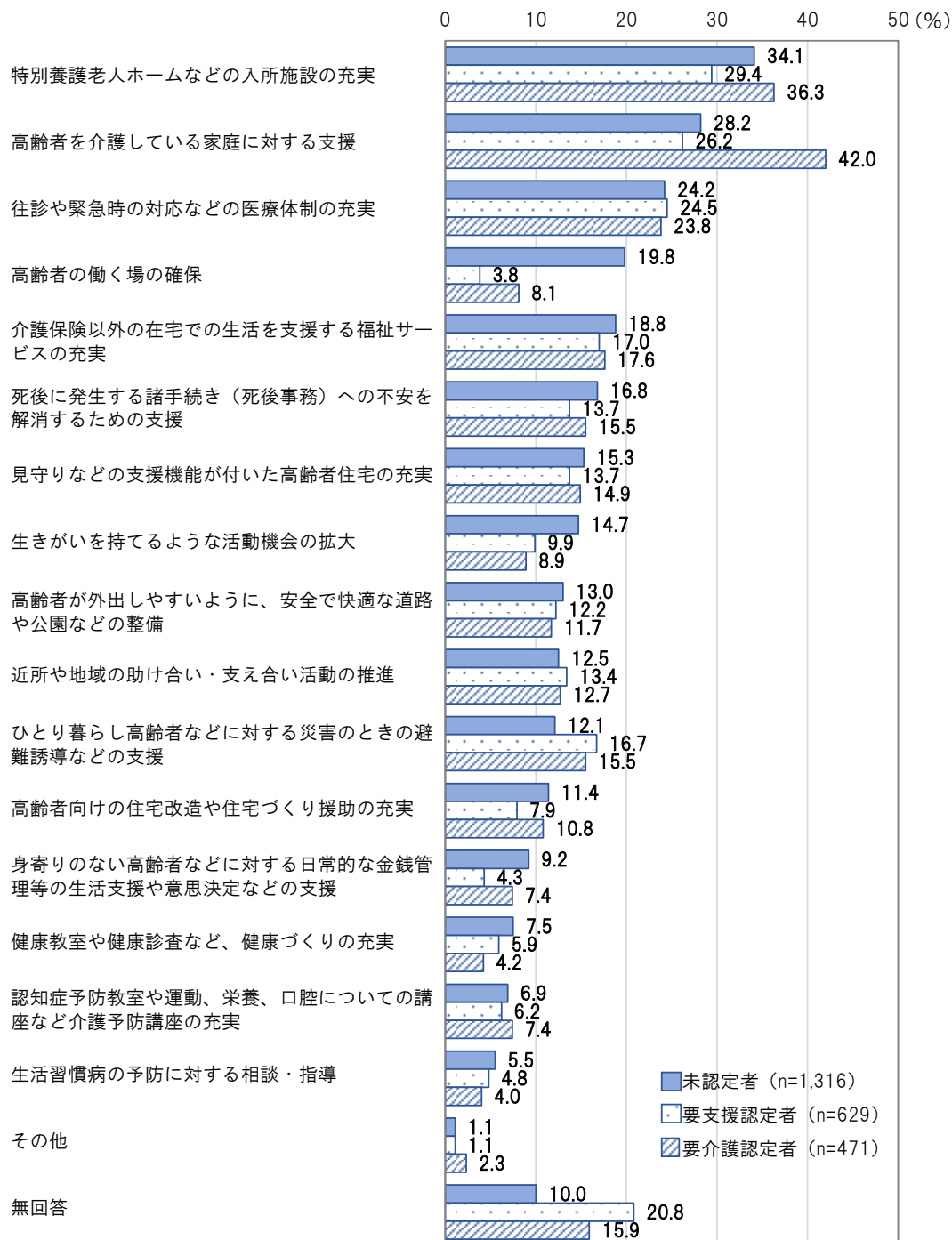
○人生最期を迎えるにあたっての気がかりの内容は、未認定者・要介護認定者では「お葬式・お墓・供養のこと」、要支援認定者では「最期を過ごす場所のこと（自宅、介護施設、病院など）」が最も高くなっている。



（６）市の高齢者対策として力を入れてほしいと思うこと

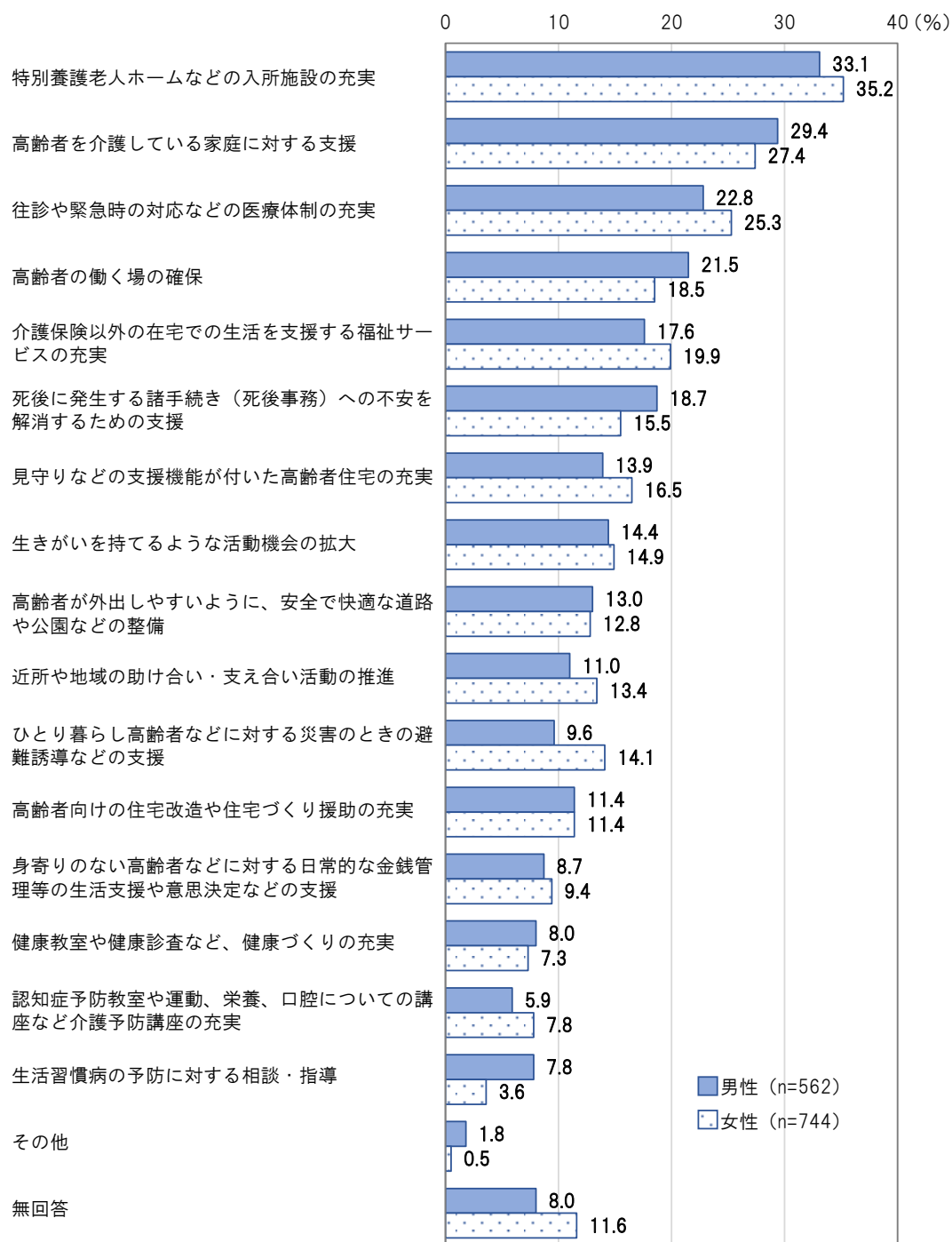
問 今後、市の高齢者対策として力を入れてほしいと思うことはどのようなことですか。（重要と思われるもの３つまでに○）

- 市の高齢者対策として力を入れてほしいと思うことは、未認定者・要支援認定者では「特別養護老人ホームなどの入所施設の充実」、要介護認定者では「高齢者を介護している家庭に対する支援」が最も高くなっている。その他、「往診や緊急時の対応などの医療体制の充実」や「介護保険以外の在宅での生活を支援する福祉サービスの充実」などが高い割合となっている。
- 未認定者では「高齢者の働く場の確保」、要支援認定者では「ひとり暮らし高齢者などに対する災害のときの避難誘導などの支援」が、その他に比べて高くなっている。



《性別（未認定者）》

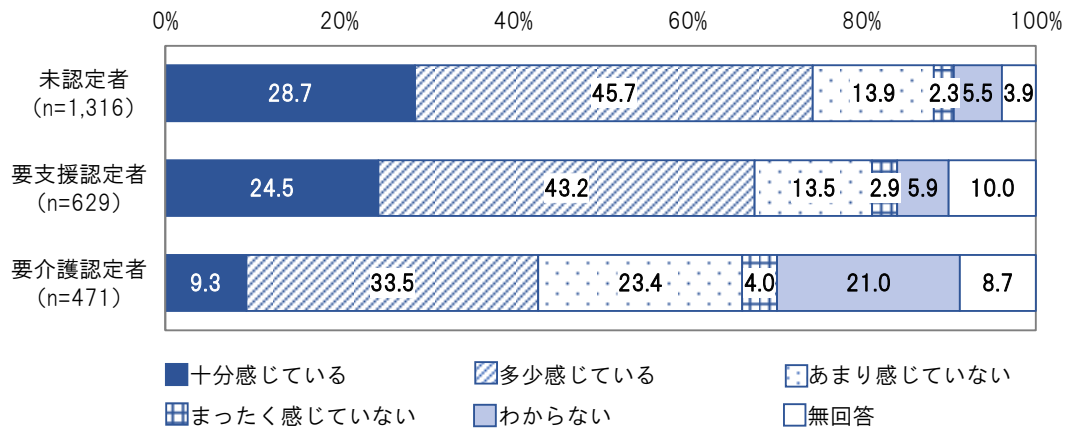
○未認定者での市の高齢者対策として力を入れてほしいと思うことを性別にみると、男性では「高齢者の働く場の確保」が2割を超えて女性に比べてやや高くなっている。



（７）生きがい（喜びや楽しみ）の有無

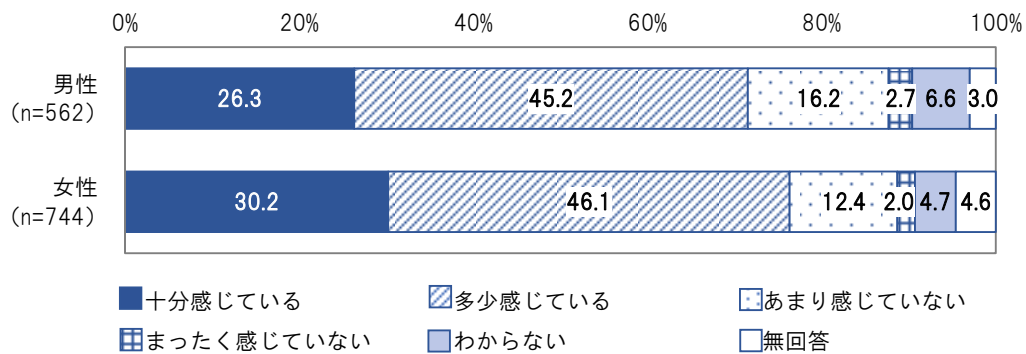
問 あなたは、現在どの程度生きがい（喜びや楽しみ）を感じていますか。（１つに○）

○生きがい（喜びや楽しみ）の有無は、「十分感じている」と「多少感じている」を合わせた『感じている』の割合をみると、未認定者では７割以上、要支援認定者では６割以上となっているのに対し、要介護認定者では４割程度と低くなっている。



《性別（未認定者）》

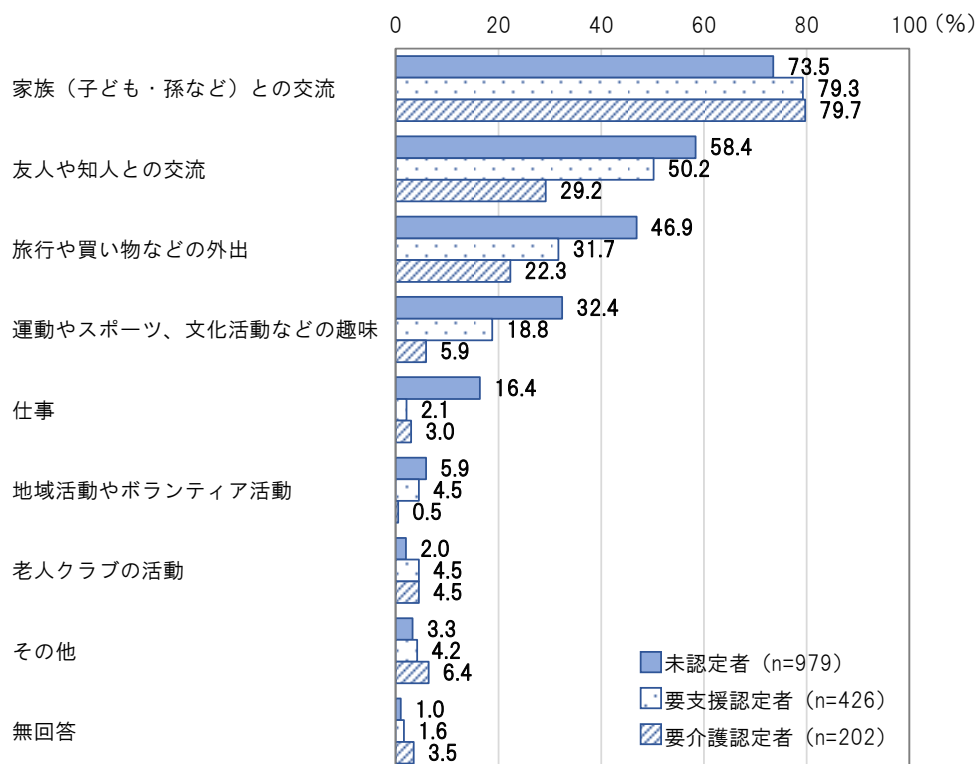
○未認定者での生きがい（喜びや楽しみ）の有無を性別にみると、「十分感じている」と「多少感じている」を合わせた『感じている』の割合が、女性が男性に比べてやや高くなっている。



(7-1) 生きがいを感じるとき

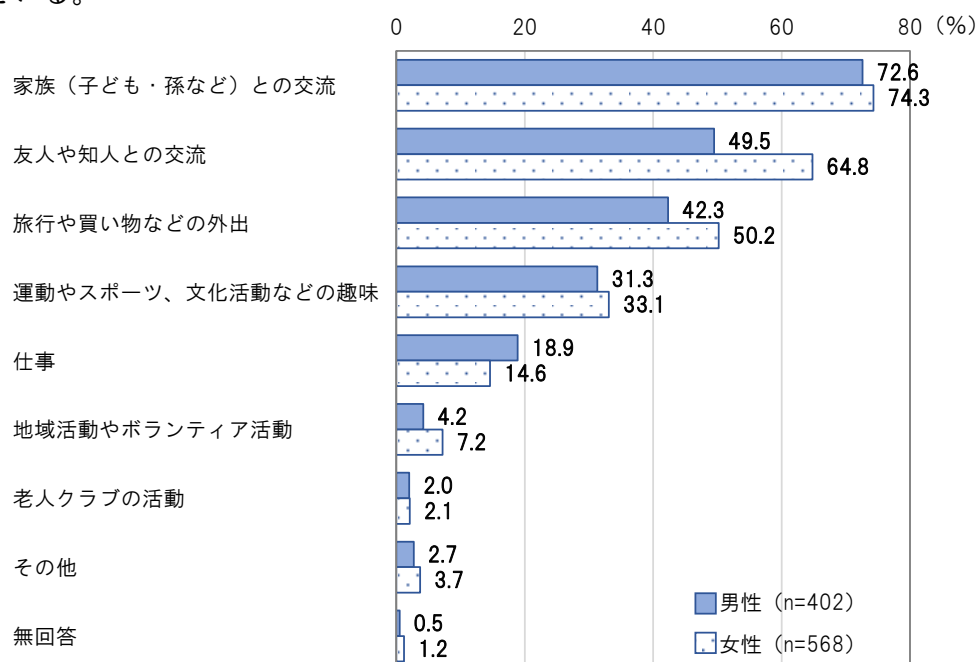
(7) で「十分感じている」または「多少感じている」と回答した人のみ
問 生きがいを感じる時はどのようなときですか。(あてはまるものすべてに○)

○生きがいを感じる時は、すべての区分で「家族(子ども・孫など)との交流」が最も高く、次いで「友人や知人との交流」、「旅行や買い物などの外出」の順となっている。



《性別(未認定者)》

○未認定者での生きがいを感じる時を性別にみると、男性では「仕事」が女性に比べて高く、女性では「友人や知人との交流」や「旅行や買い物などの外出」で男性に比べて高くなっている。



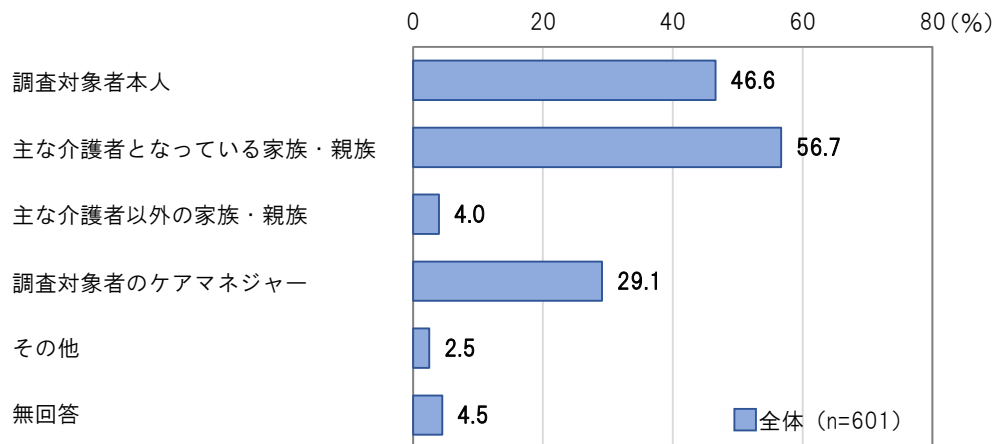
Ⅲ 調査結果（在宅介護実態調査結果）

1. 回答者の属性

（1）聞き取りを行った相手

問 聞き取りを行った相手の方は、どなたですか。（複数選択可）

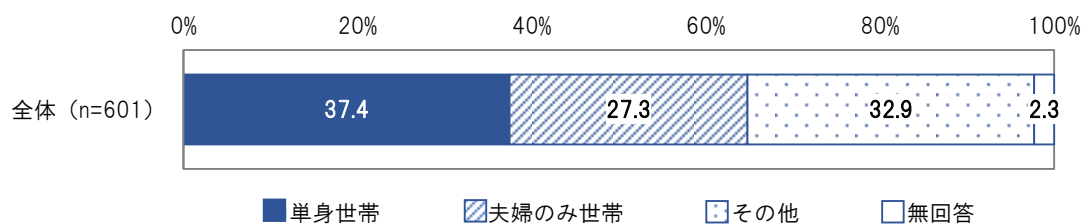
○調査の聞き取りを行った相手は、「主な介護者となっている家族・親族」が6割近くを占めて最も高く、次いで「調査対象者本人」、「調査対象者のケアマネジャー」の順となっている。



（2）世帯類型

問 世帯類型について、ご回答ください。（1つを選択）

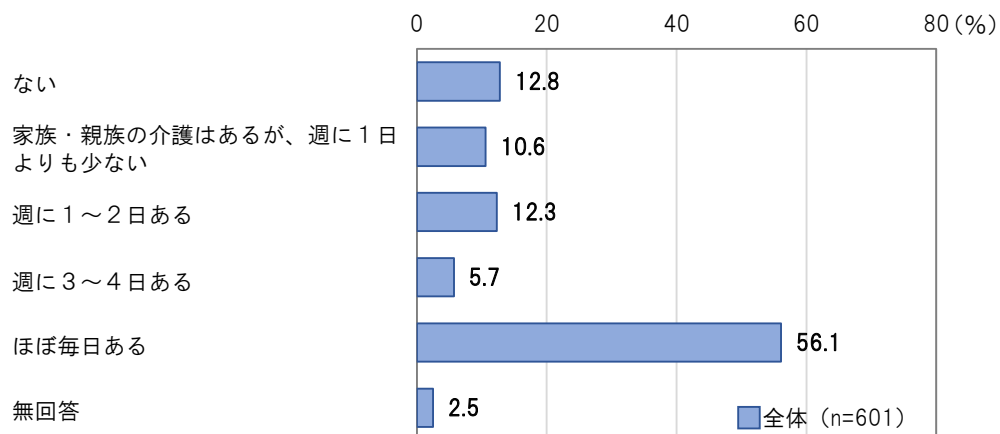
○世帯類型は、「単身世帯」が約4割で最も高く、次いで「夫婦のみ世帯」が2割を超えており、「その他（同居世帯）」は3割程度となっている。



(3) 家族や親族からの介護の頻度

問 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）。（1つを選択）

○家族や親族からの介護の頻度は、「ほぼ毎日ある」が半数以上を占めて最も高く、「週に1～2日ある」、「週に3～4日ある」と合わせると、『週1日以上ある』が7割以上を占めている。

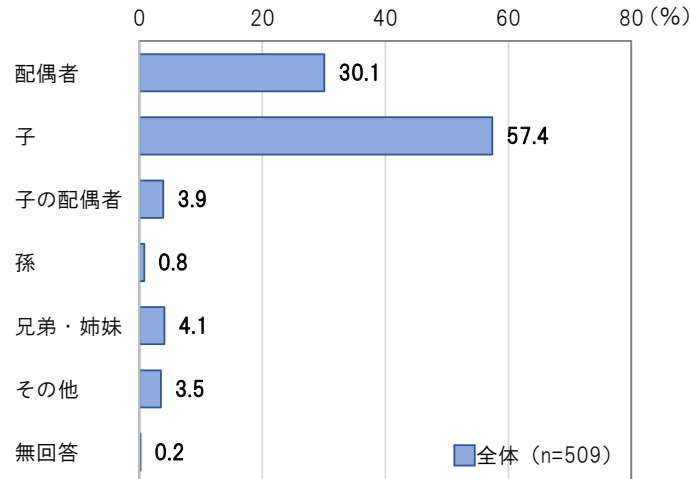


2. 主な介護者について ※家族や親族からの介護が「ある」人のみ

（1）主な介護者の続柄

問 主な介護者の方は、どなたですか。（1つを選択）

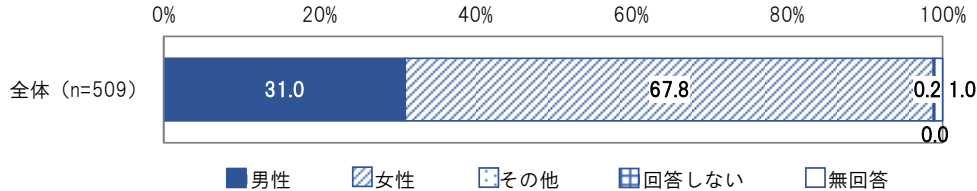
○主な介護者の続柄は、「子」が5割以上を占めて最も高く、次いで「配偶者」が3割となっている。



（2）主な介護者の性別

問 主な介護者の方の性別について、ご回答ください。（1つを選択）

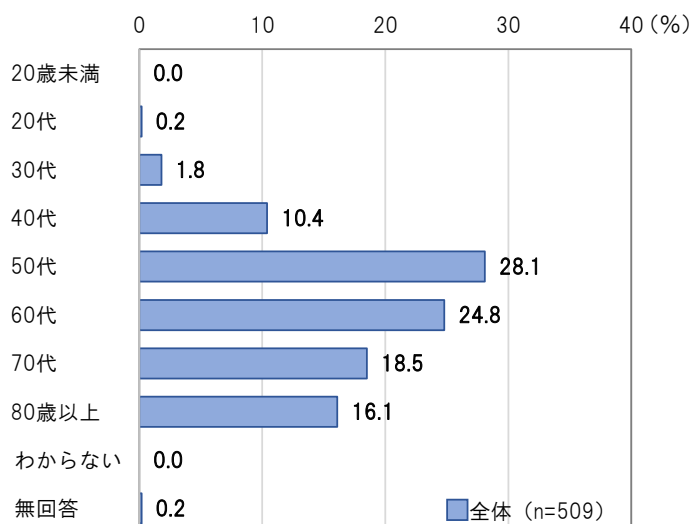
○主な介護者の性別は、「女性」が約7割となっており、「男性」は約3割となっている。



（3）主な介護者の年齢

問 主な介護者の方の性別について、ご回答ください。（1つを選択）

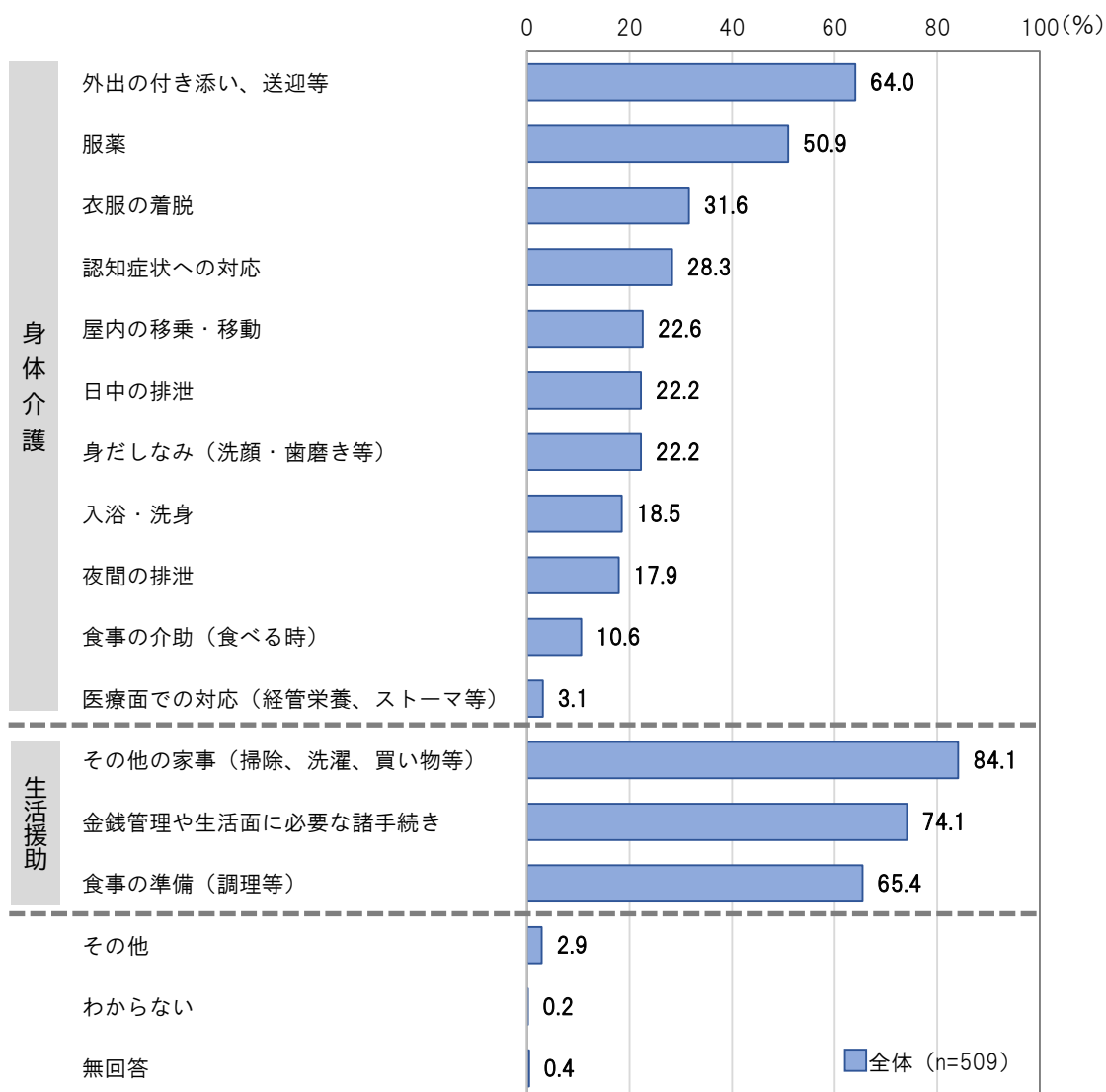
○主な介護者の年齢は、「50代」が約3割を占めて最も高く、次いで「60代」、「70代」と続いており、『60歳以上』が6割近くを占めている。



(4) 主な介護者が行っている介護等

問 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください。（複数選択可）

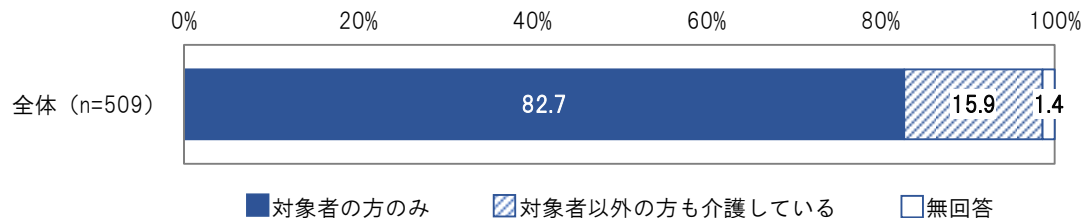
- 主な介護者が行っている介護等は、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が8割を超えて最も高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」、「食事の準備（調理等）」の順となっており、生活援助をしている人が多い。
- 身体介護では、「外出の付き添い、送迎等」が6割を超えて高く、次いで「服薬」、「衣服の着脱」、「認知症状への対応」の順となっている。



（５）主な介護者が介護している他の対象者の有無

問 現在、主な介護者の方が介護しているのは、本調査の対象者の方のみですか。それ以外の人も介護していますか。（１つを選択）

○主な介護者が介護している他の対象者の有無は、「対象者の方のみ」が約８割を占めているものの、「対象者以外の方も介護している」と回答した複数の介護をしている人が１割を超えている。

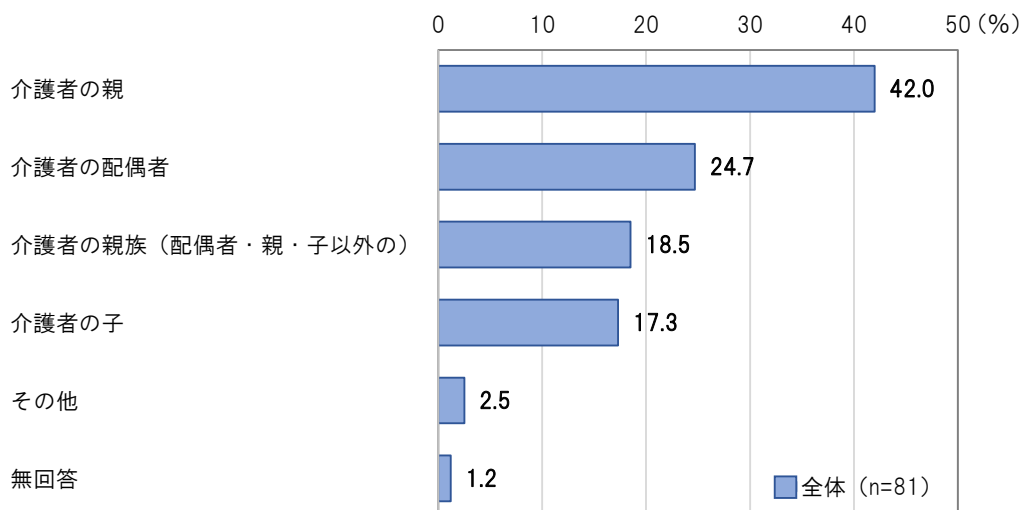


（５－１）調査対象者以外に介護をしている人との関係

（５）で「対象者以外の方も介護している」と回答した人のみ

問 本調査の対象者のほかに、現在、主な介護者の方が介護している方は、どなたですか。介護者の方との関係についてお答えください。（複数選択可）

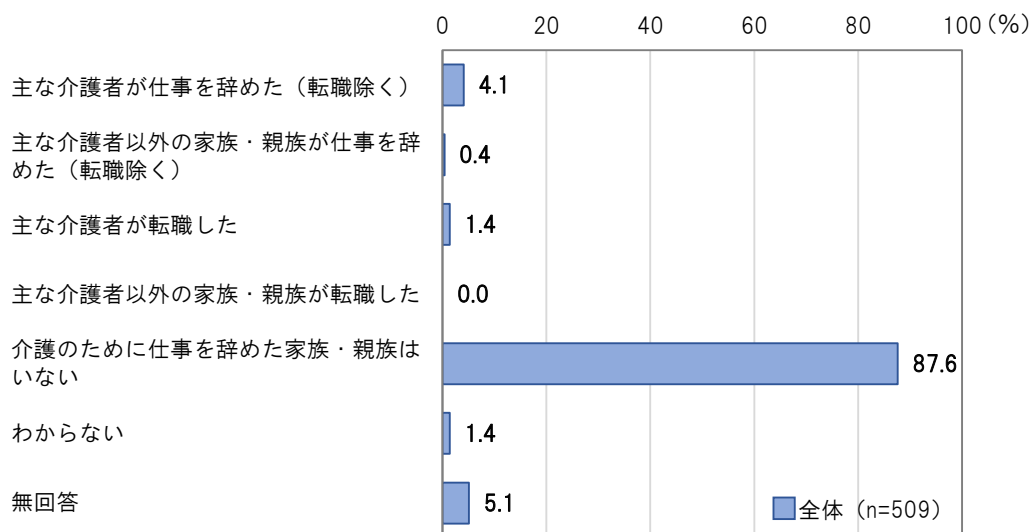
○調査対象者以外に介護をしている方との関係は、「介護者の親」が約４割を占めて最も高く、次いで「介護者の配偶者」、「介護者の親族（配偶者・親・子以外の）」、「介護者の子」の順となっている。



（６）介護離職の状況

問 ご家族やご親族の中で、ご本人（認定調査対象者）の介護を主な理由として、過去１年間の間に仕事を辞めた方はいますか（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）。（複数選択可）

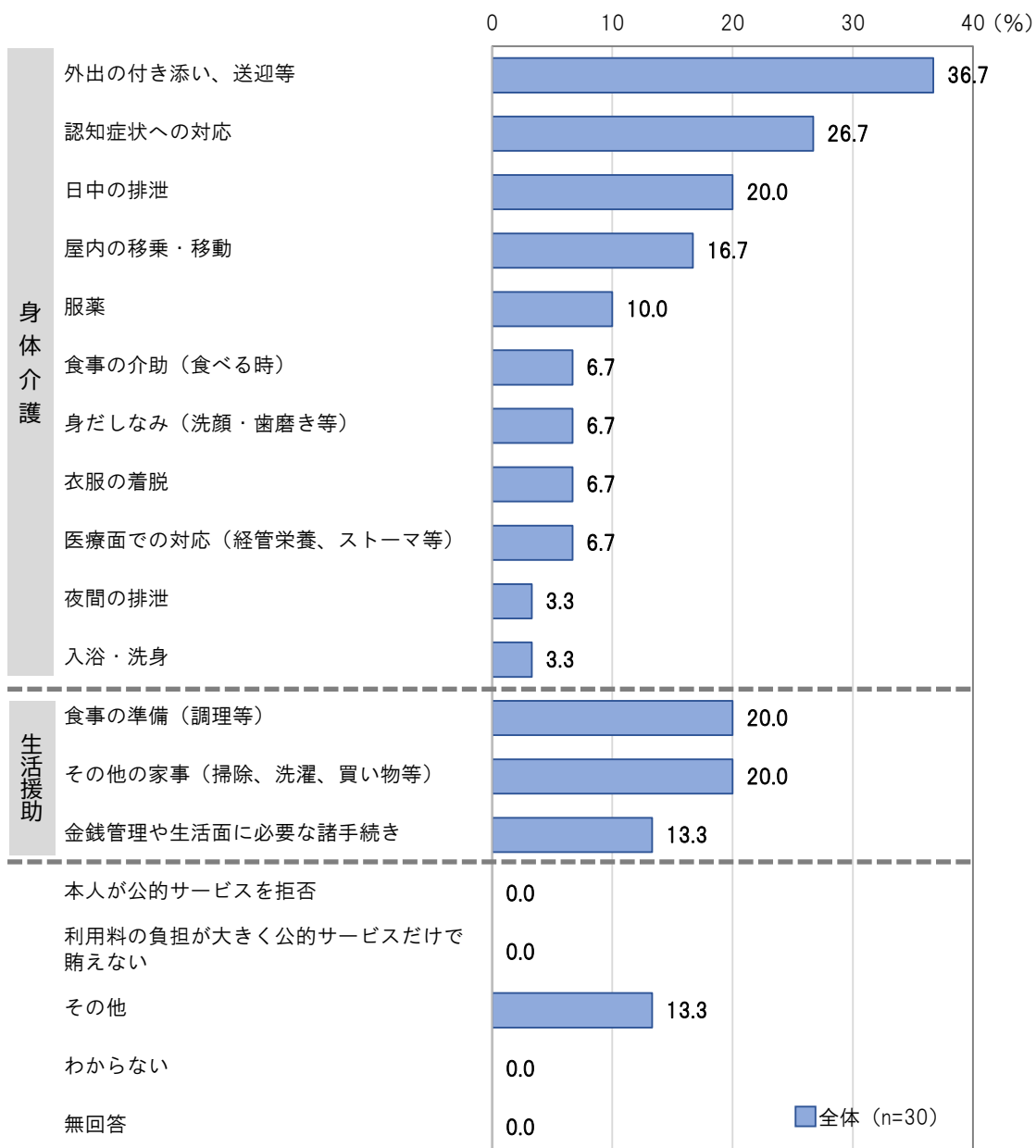
○介護離職の状況は、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が９割近くを占めているものの、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」や「主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）」、「主な介護者が転職した」、「主な介護者以外の家族・親族が転職した」を合わせた『介護のために仕事を辞めた家族・親族がいる』が約６％となっている。



（6-1）仕事を辞めるあるいは変わるようになった原因

（6）で『介護のために仕事を辞めた家族・親族がいる』と回答した人のみ
問 仕事を辞めるあるいは変わる一番の原因となったのは何ですか。（1つを選択）

- 仕事を辞めるあるいは変わるようになった原因は、「外出の付き添い、送迎等」が約4割で最も高くなっており、次いで「認知症状への対応」、「日中の排泄」の順となっており、身体介助を原因とする人が多い。
- 生活援助では、「食事の準備（調理等）」と「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が同率の2割で、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」の順となっている。

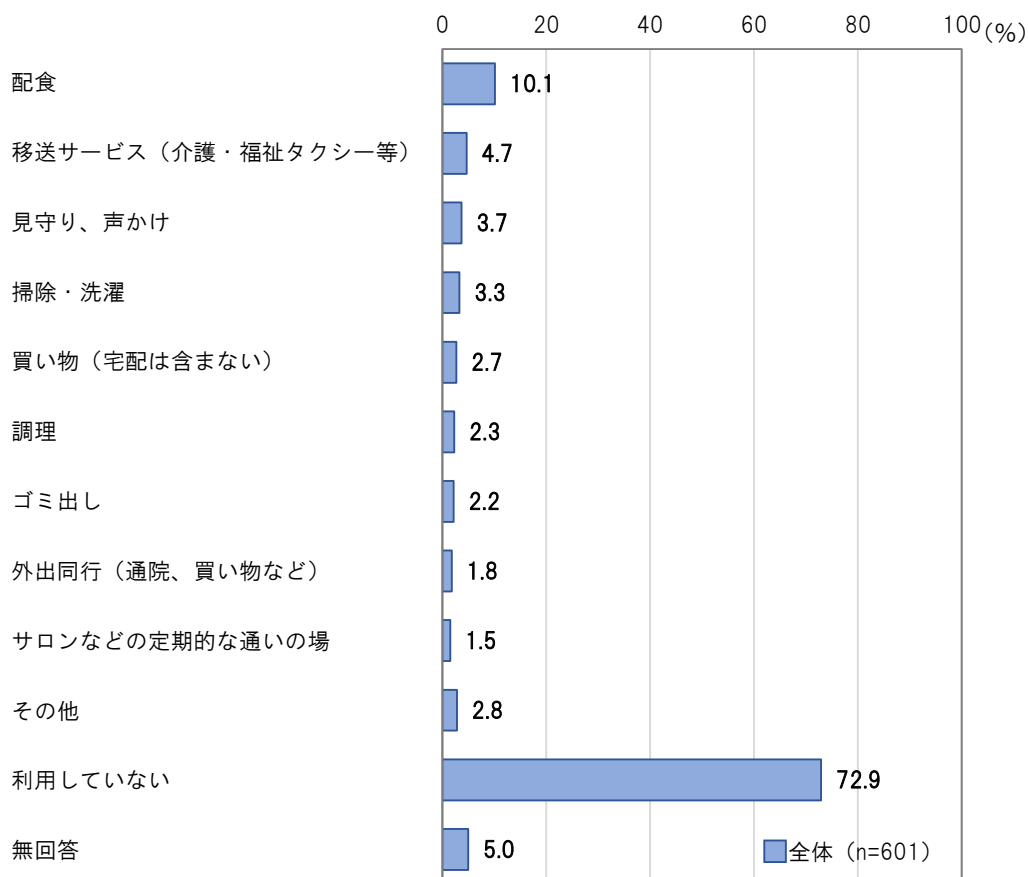


3. 高齢者に対するサービスについて

(1) 現在利用している介護保険サービス以外の支援・サービス

問 現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください。（複数選択可）

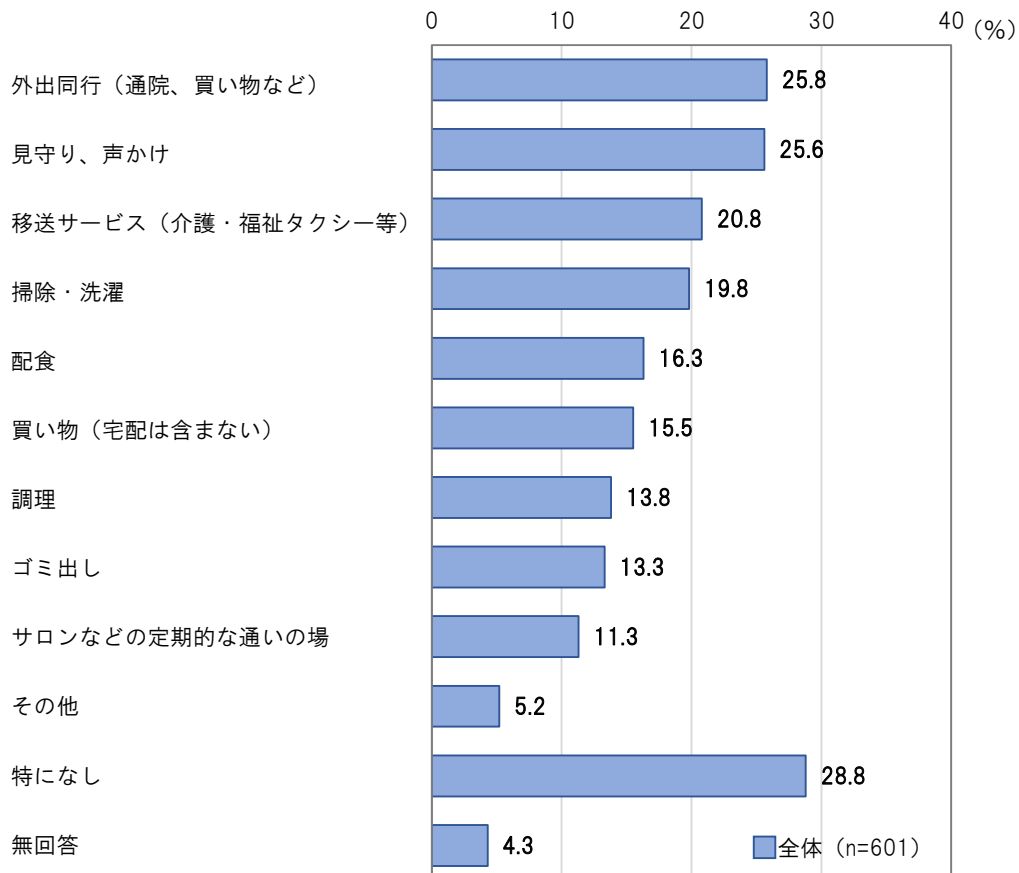
- 現在利用している介護保険サービス以外の支援・サービスは、「利用していない」が7割以上を占めており、利用している人は約2割となっている。
- 利用している支援・サービスでは、「配食」が最も高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「見守り、声かけ」の順となっている。



（２）今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

問 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください。（複数選択可）

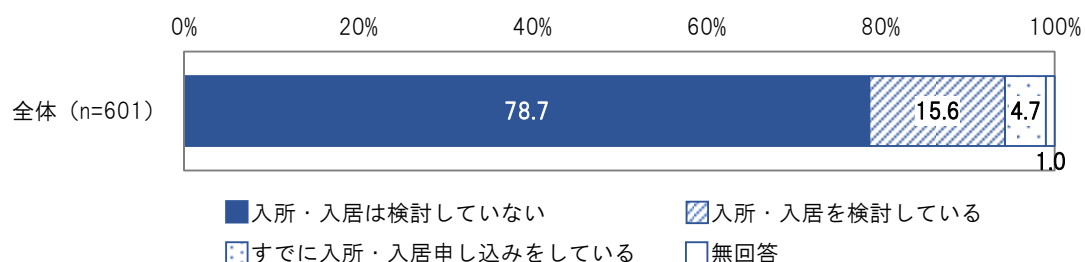
- 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスは、「特になし」が約３割で最も高くなっている。
- 具体的な支援・サービスでは、「外出同行（通院、買い物など）」が３割近くで最も高く、次いで「見守り、声かけ」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「掃除・洗濯」の順となっており、外出に関する支援・サービスを望む人が多い結果となっている。



（３）施設等への入所・入居の検討状況

問 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください。（１つを選択）

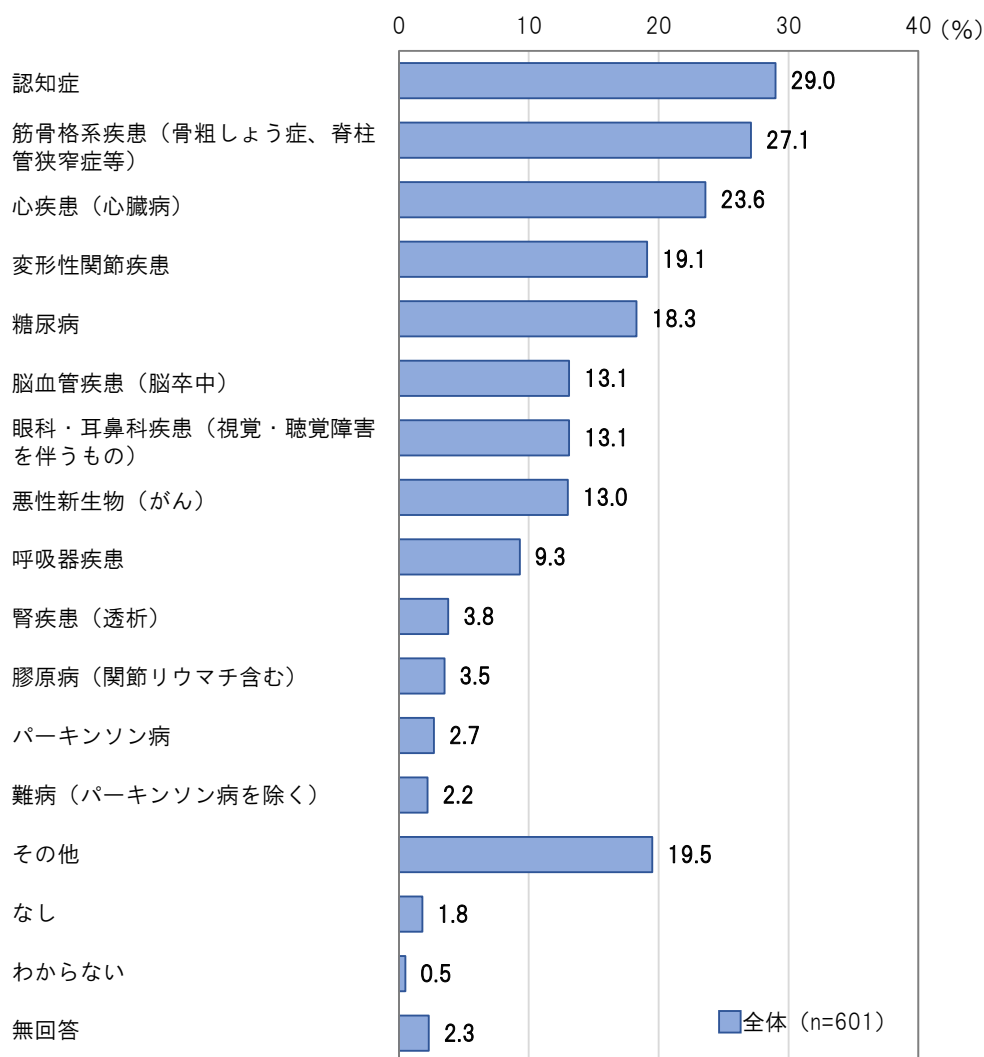
- 施設等への入所・入居の検討状況は、「入所・入居は検討していない」が約８割を占めている。
- 一方で、「入所・入居を検討している」が１割を超え、「すでに入所・入居申し込みをしている」と合わせると約２割を占めている。



（４）本人が現在抱えている傷病

問 ご本人（認定調査対象者）が、現在抱えている傷病について、ご回答ください。
（複数選択可）

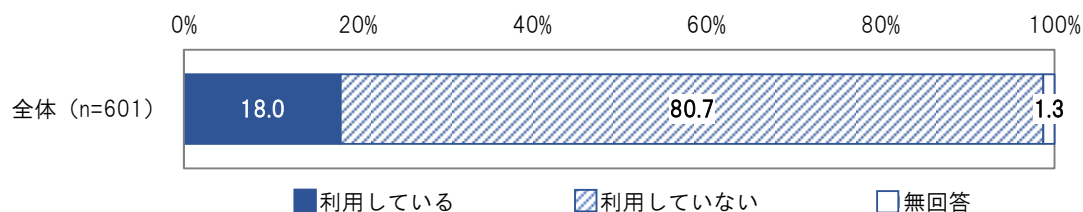
- 本人が現在抱えている傷病は、「認知症」が３割近くを占めて最も高くなっている。
○その他、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」や「心疾患（心臓病）」が２割以上、「変形性関節疾患」や「糖尿病」が約２割を占めて高くなっている。



（５）訪問診療の利用状況

問 ご本人（認定調査対象者）は、現在、訪問診療を利用していますか。（１つを選択）

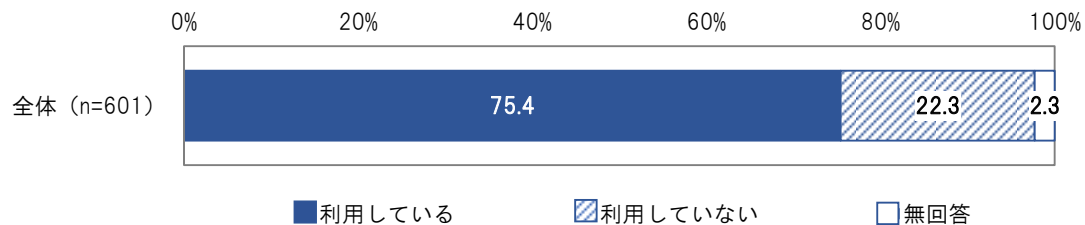
- 訪問診療の利用状況は、「利用していない」が８割を超えており、「利用している」は２割未満となっている。



（６）介護保険サービスの利用状況

問 現在、（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを利用していますか。
（１つを選択）

○介護保険サービスの利用状況は、「利用している」が約８割を占めており、「利用していない」は約２割となっている。

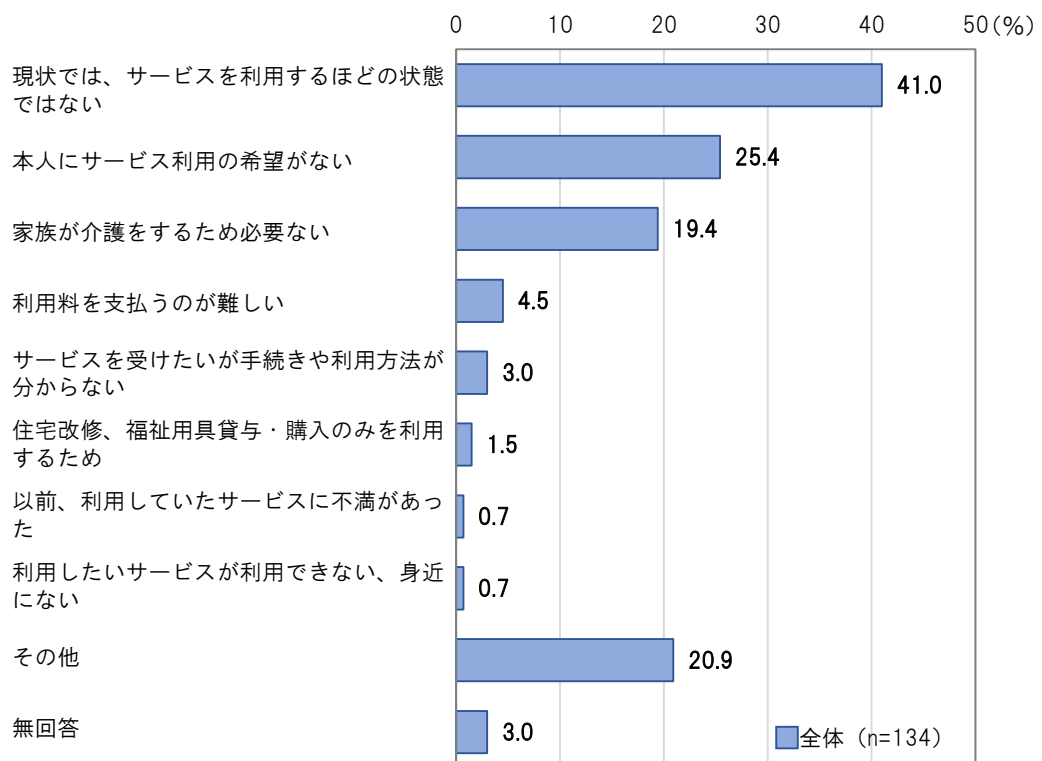


（６-１）介護保険サービスを利用していない理由

（６）で「利用していない」と回答した人のみ

問 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか。（複数選択可）

○介護保険サービスを利用していない理由は、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が４割を超えて最も高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」、「家族が介護をするため必要ない」の順となっている。

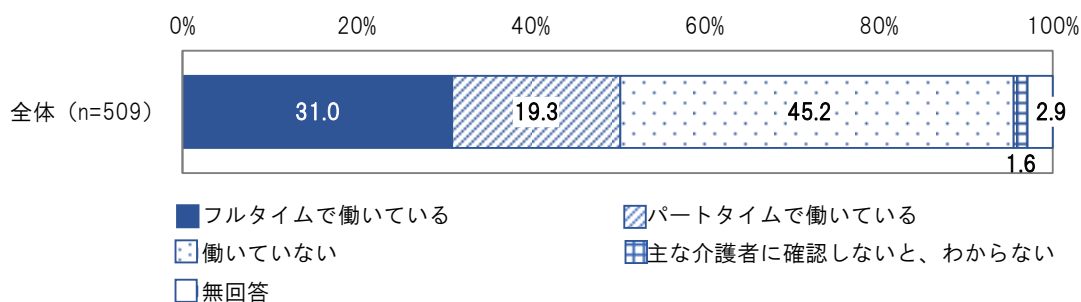


4. 主な介護者の就労状況について ※家族や親族からの介護が「ある」人のみ

(1) 主な介護者の勤務形態

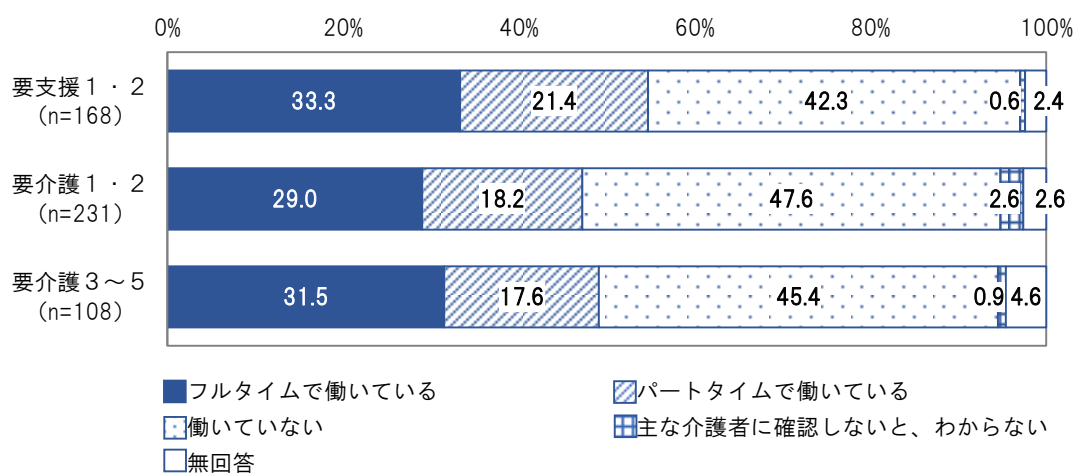
問 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください。（1つを選択）

○主な介護者の勤務形態は、「働いていない」が4割を超えて最も高くなっているものの、「フルタイムで働いている」が約3割、「パートタイムで働いている」が約2割となっており、『働いている』人が約半数を占めている。



《介護度別》

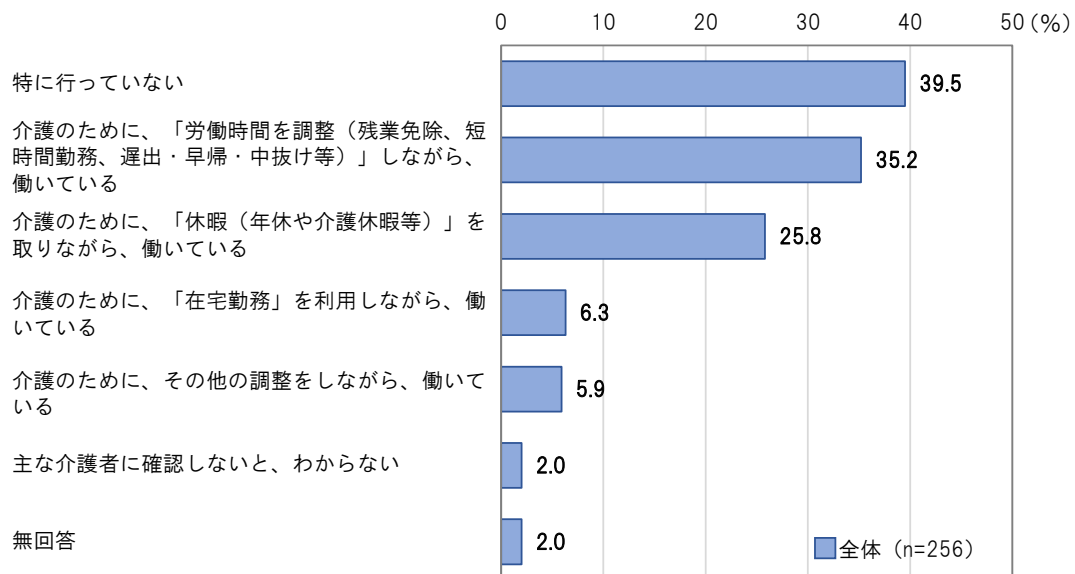
○介護度別にみると、要支援1・2では『働いている』が半数以上を占めるのに対し、要介護1・2、要介護3～5では5割弱となっている。また、「働いていない」は要介護1・2で最も高くなっている。



（１－１）就労している主な介護者の働き方についての調整等の有無

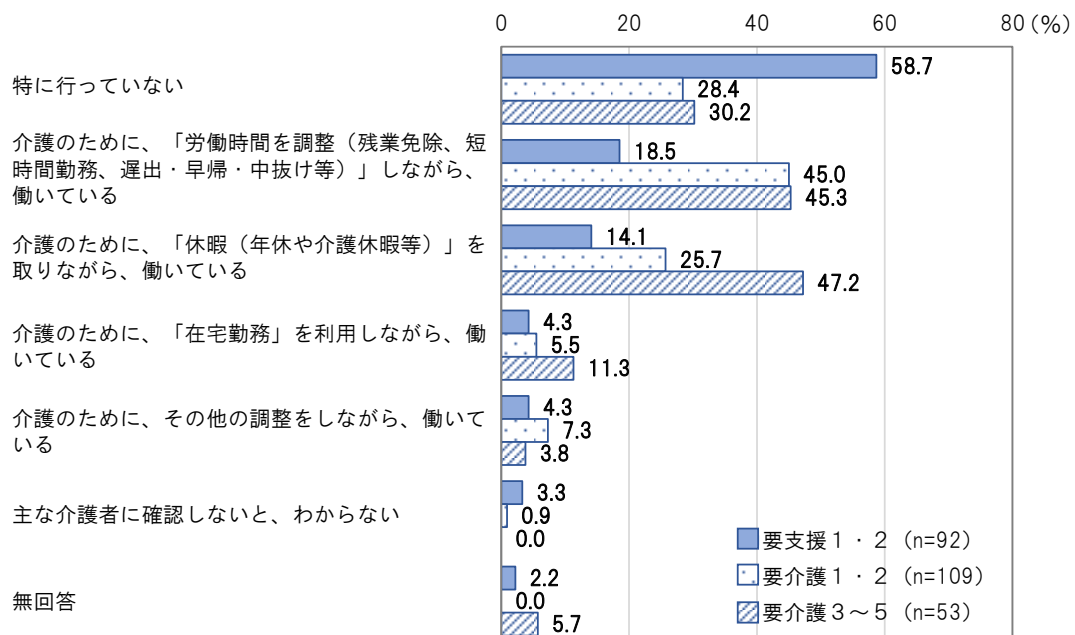
（１）で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答した人のみ
問 主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか。
（複数選択可）

○就労している主な介護者の働き方についての調整等の有無は、「特に行っていない」が約４割を占めて最も高くなっているものの、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が３割を超えて高くなっており、休暇の取得や在宅勤務などを合わせると、『何かしら働き方について調整等をしている』人が半数以上を占めている。



《介護度別》

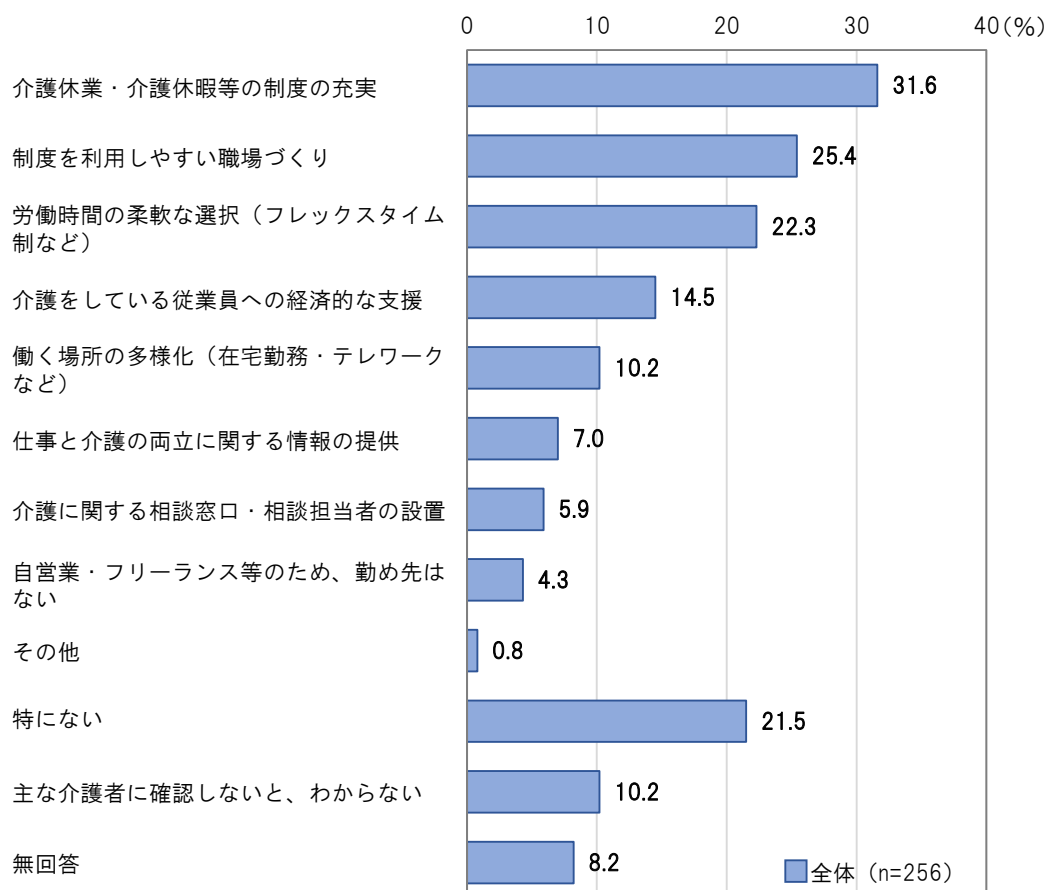
○介護度別にみると、『何かしら働き方について調整等をしている』人が要支援１・２では４割未満となっているのに対し、要介護１・２では７割以上、要介護３～５では６割以上を占めている。



（１－２）仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援

（１）で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答した人のみ
問 主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果がある
と思いますか。（３つまで選択可）

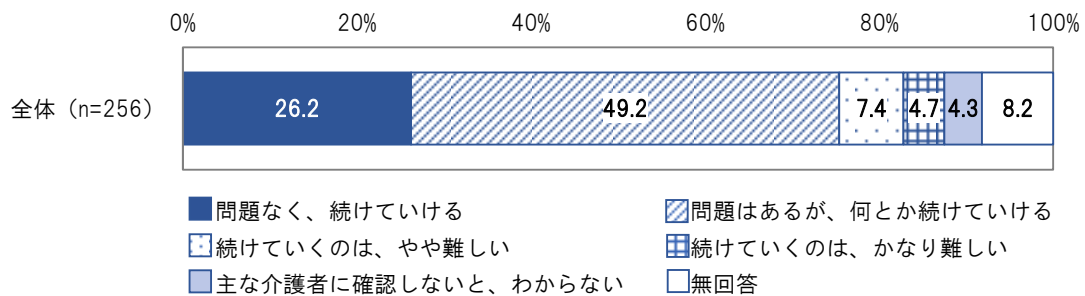
○仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援は、具体的な支援では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が３割を超えて最も高くなっており、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」の順となっている。



（１－３）今後の就労継続

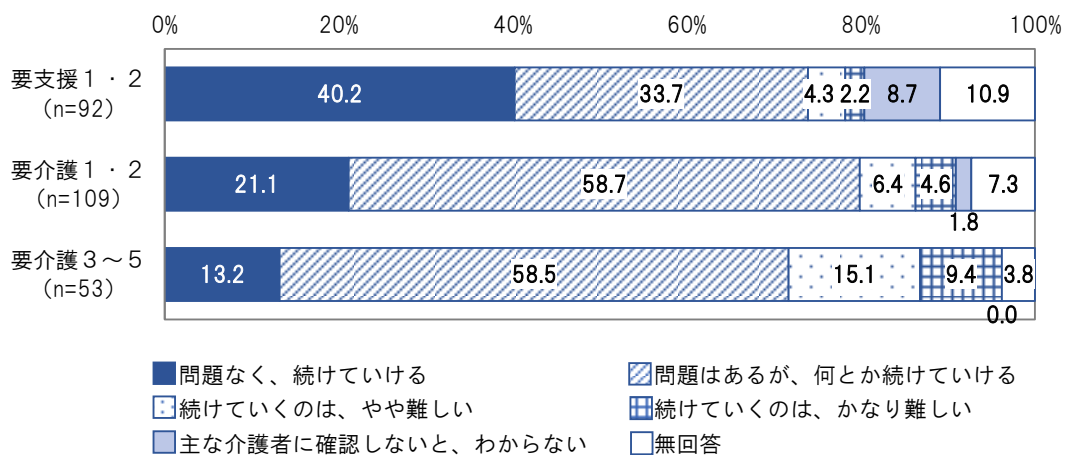
（１）で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答した人のみ
問 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。（１つを選択）

- 今後の就労継続は、「問題はあるが、何とか続けていける」が約半数を占めて最も高く、次いで「問題なく、続けていける」となっており、両者を合わせた『続けていける』が７割を超えている。
- 一方で、「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」を合わせた『続けていくのは難しい』は約１割となっている。



《介護度別》

- 介護度別にみると、介護度が上がるほど『続けていくのは難しい』が高くなる傾向がみられ、要介護３～５では２割以上を占めている。

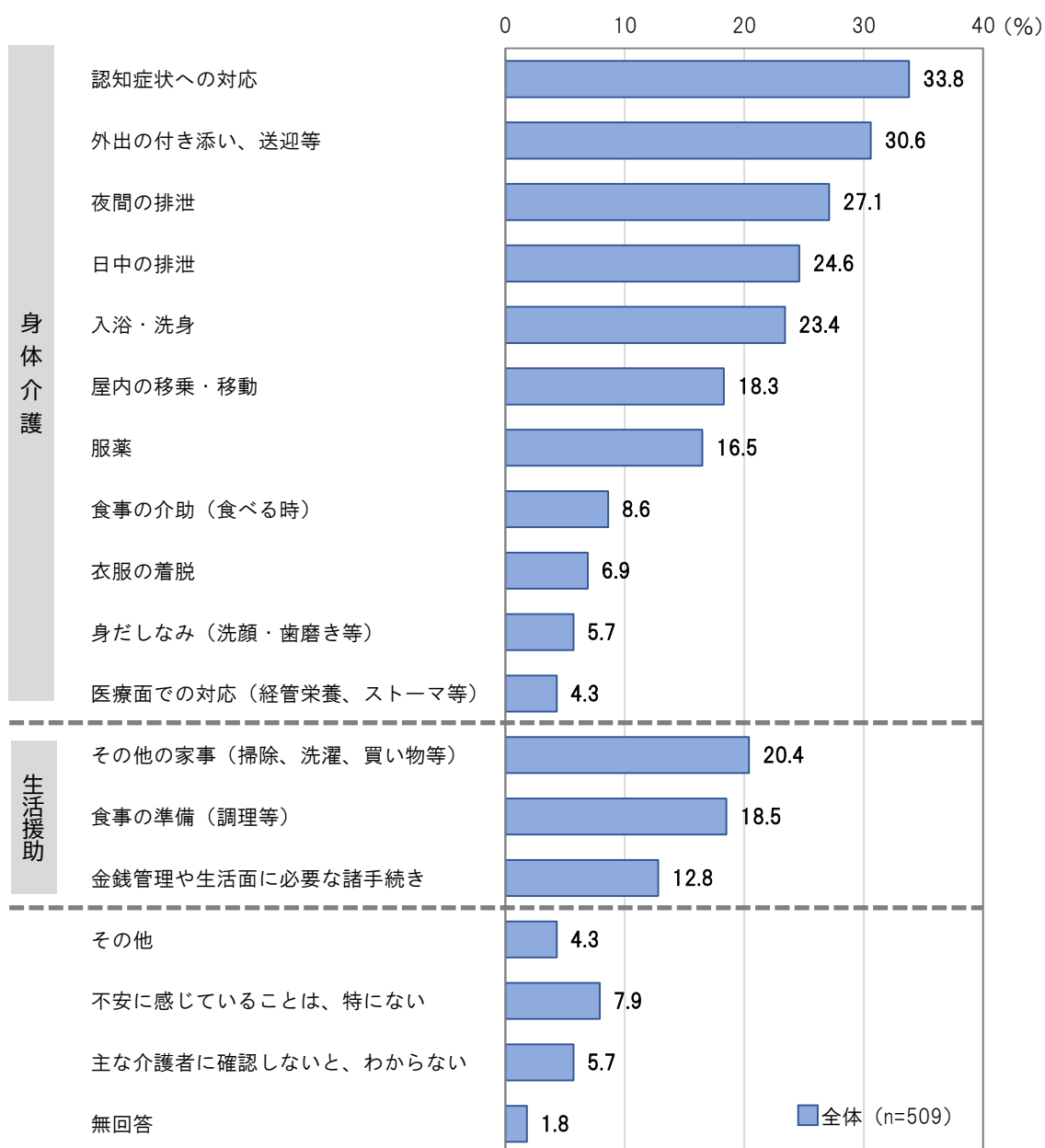


（２）現在の生活を継続していくにあたって不安に感じる介護等

問 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください（現状で行っているか否かは問いません）。（３つまで選択可）

○現在の生活を継続していくにあたって不安に感じる介護等は、「認知症状への対応」及び「外出の付き添い、送迎等」がともに３割を超えて最も高く、身体介護に不安を感じている人が多い結果となっている。

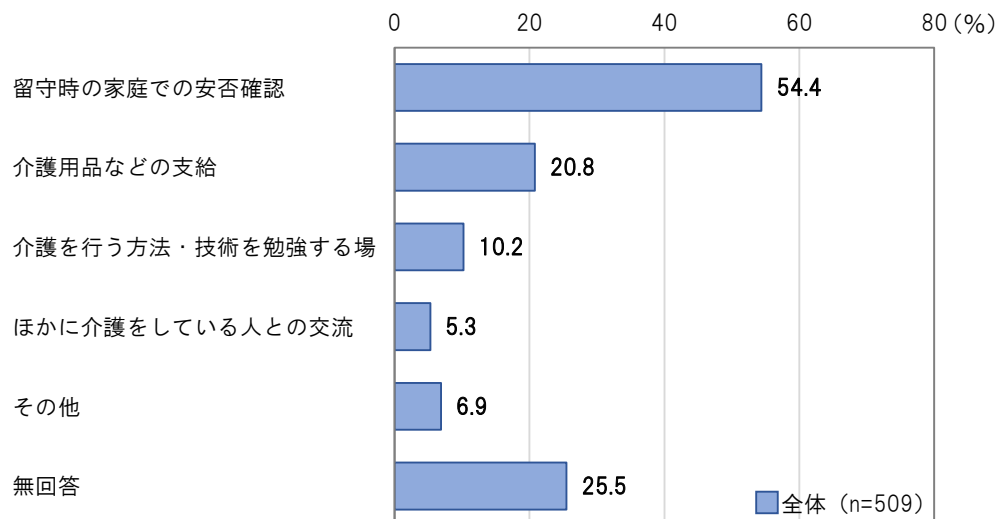
○生活援助では、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が２割を超えてやや高くなっている。



（３）介護をしている方への手助けとして必要なこと

問 現在介護をしている方への手助けとして、必要と思うものは何ですか。（複数選択可）

○介護をしている方への手助けとして必要なことは、「留守時の家庭での安否確認」が半数を超えて最も高く、次いで「介護用品などの支給」となっている。

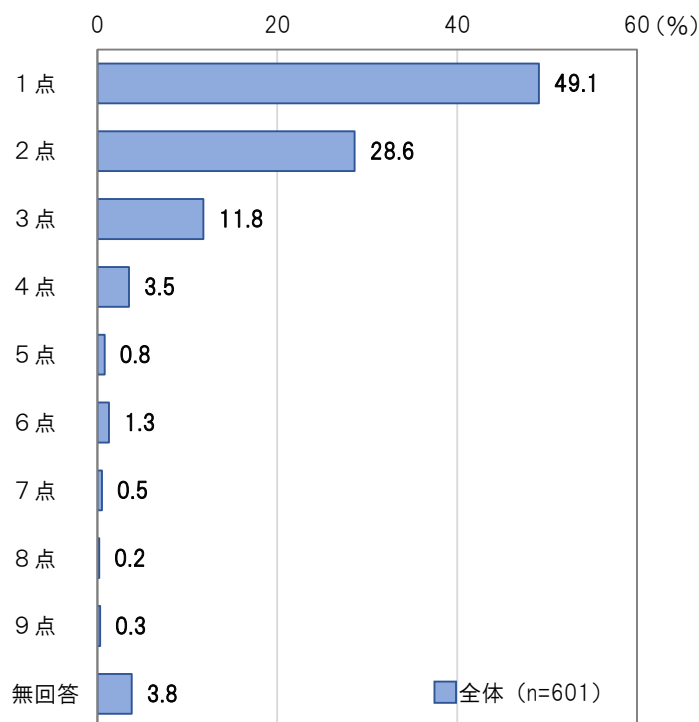


5. 生活状況について

(1) 自宅（部屋）の状況

問 ご自宅（部屋）の状況は、別紙の尺度（スケール表）のうち、どれにあたるとお考えですか。
（1つを選択）

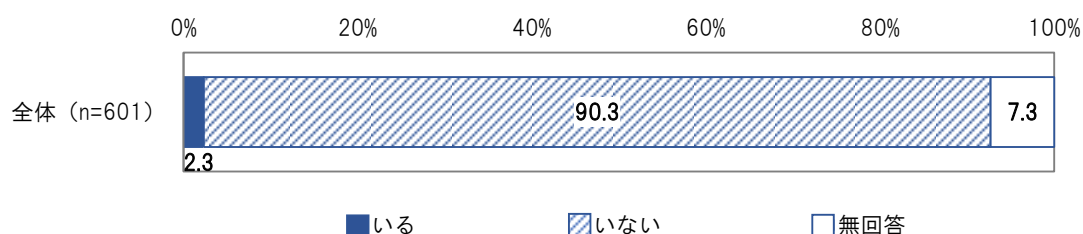
○尺度にあわせた自宅（部屋）の状況は、「1点」が約半数を占めて最も高く、次いで「2点」、「3点」の順となっている。



(2) 同居者の中のひきこもりの方の有無

問 同居の方で、家族以外の人との交流をほとんどせず、かつ仕事や学校に行かず、6か月以上続けて自宅でふさぎ込んでいる方がいますか。（1つを選択）

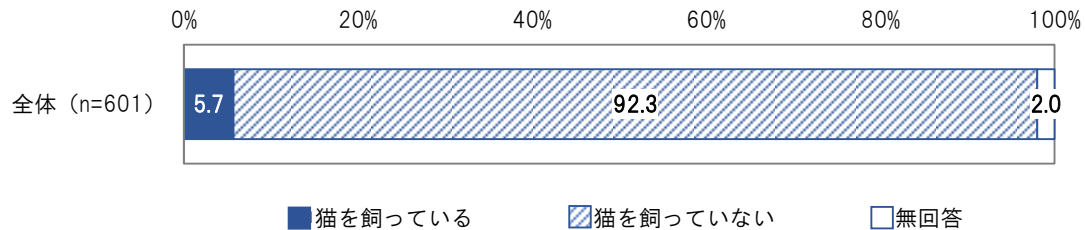
○同居者の中のひきこもりの方の有無は、「いない」が9割を超えて大半を占めており、「いる」は2.3%となっている。



（３）猫の飼育の有無

問 猫の飼育をしていますか。（１つを選択）

○猫の飼育の有無は、「猫を飼っていない」が約９割を占めており、「猫を飼っている」は5.7%となっている。

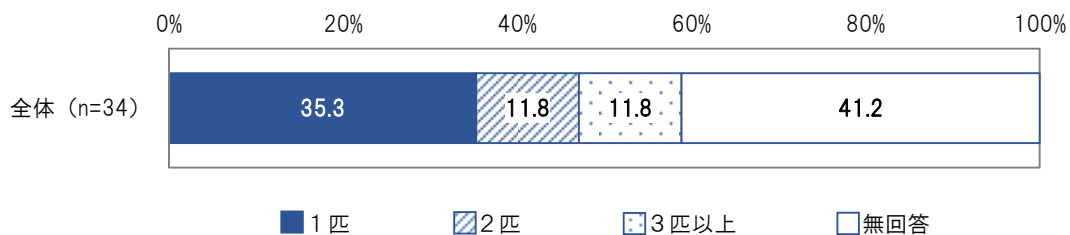


（３-１）猫の飼育数

（３）で「猫を飼っている」と回答した人のみ

問 何匹飼われていますか。（数を記入）

○猫を飼育している人の飼育数は、「１匹」が３割を超えて最も高くなっており、「２匹」と「３匹以上」が同率で約１割となっている。

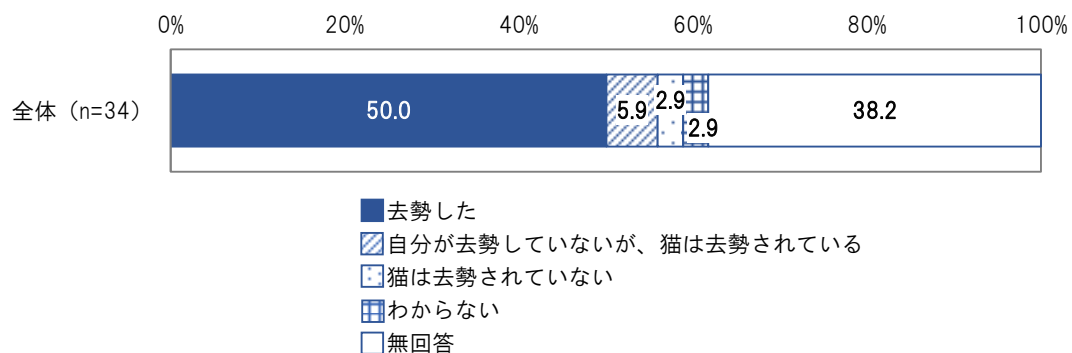


（３-２）飼育している猫の去勢の状況

（３）で「猫を飼っている」と回答した人のみ

問 その猫は去勢されていますか。（１つを選択）

○飼育猫の去勢の状況は、「去勢した」が５割を占めて最も高く、「自分が去勢していないが、猫は去勢されている」と合わせると『去勢している』が約６割となっている。



IV 調査結果（介護人材実態調査〔訪問系、通所・施設系事業所〕）

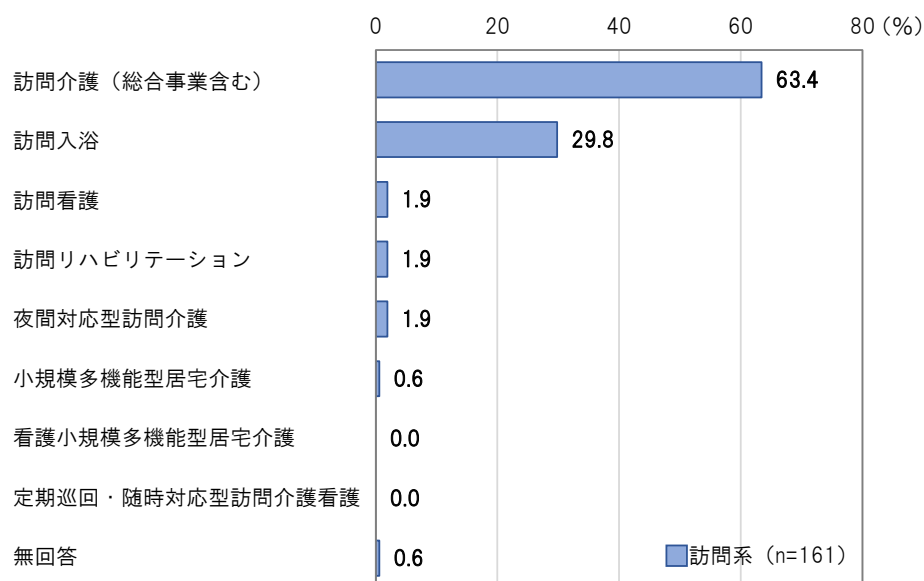
1. 事業所票（訪問系、通所・施設系）について

（1）サービス種別

問 該当するサービス種別（介護予防を含む）を、ご回答ください。（1つに○）

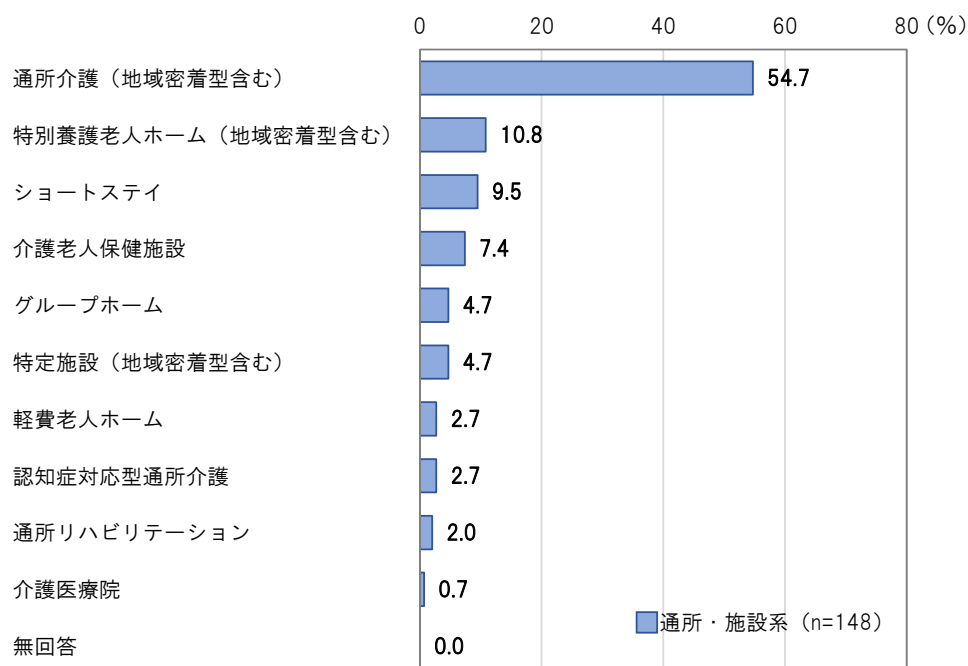
《訪問系》

○訪問系のサービス種別は、「訪問介護（総合事業含む）」が6割を超えて最も高く、次いで「訪問入浴」が約3割となっている。



《通所・施設系》

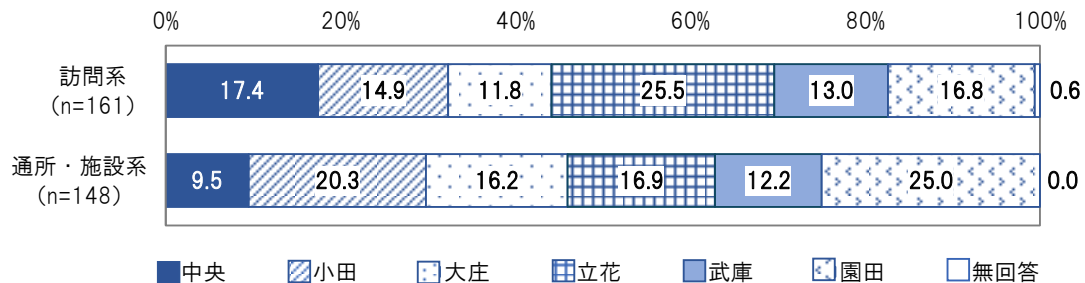
○通所・施設系のサービス種別は、「通所介護（地域密着型含む）」が5割を超えて最も高く、次いで「特別養護老人ホーム（地域密着型含む）」が1割となっている。



（２）所在する日常生活圏域

問 貴事業所の所在する日常生活圏域の地区名をお答えください。（１つに○）

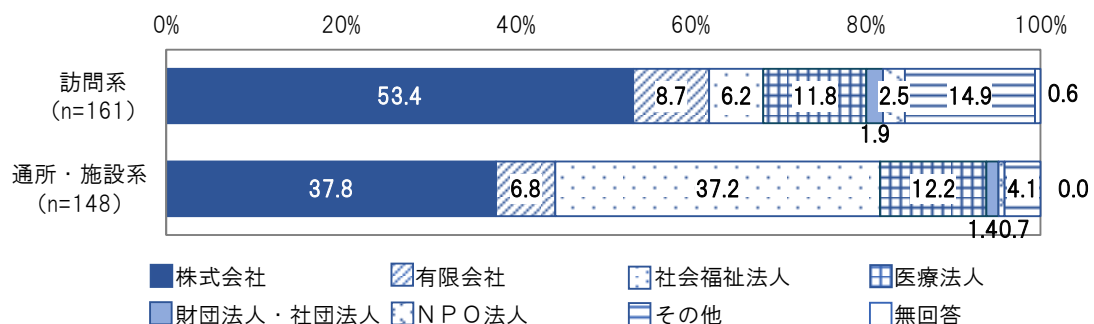
○事業所が所在する日常生活圏域は、訪問系では「立花」が最も高く、次いで「中央」、「園田」の順となっている。通所・施設系では「園田」が最も高く、次いで「小田」、「立花」の順となっている。



（３）法人種別

問 貴事業所の事業主体法人の種別をお答えください。（１つに○）

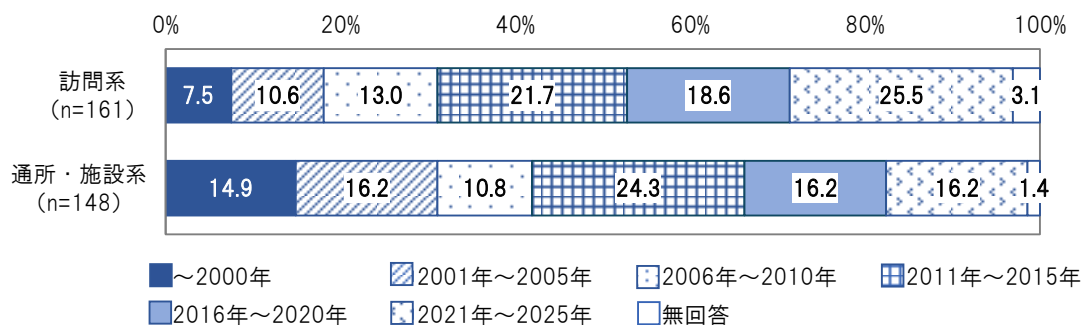
○事業所の法人種別は、訪問系、通所・施設系とも「株式会社」が最も高く、次いで訪問系では「医療法人」、通所・施設系では「社会福祉法人」となっている。



（４）開設時期

問 貴施設等の開設時期についてお答えください。（数値を入力）

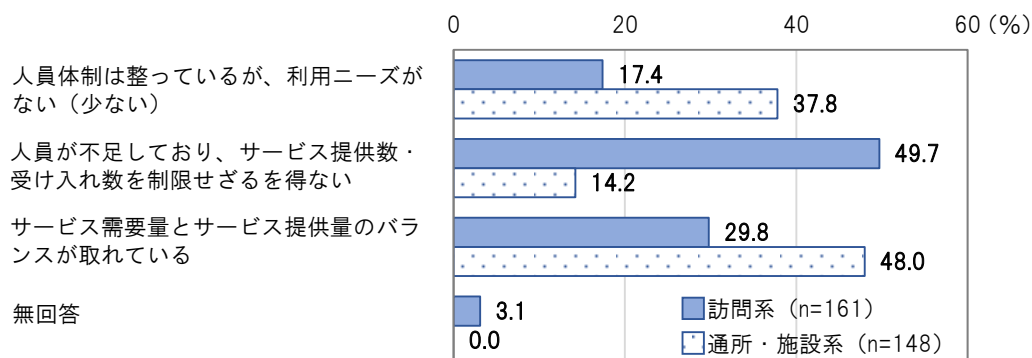
○開設時期については、訪問系では「2021年～2025年」が最も高く、次いで「2011年～2015年」、「2016年～2020年」の順となっている。通所・施設系では「2011年～2015年」が最も高く、次いで「2001年～2005年」と「2016年～2020年」、「2021年～2025年」がいずれも同率で続いている。



（５）サービスの稼働状況

問 現在提供されているサービスの稼働状況について、現在の状況をお答えください。
（１つに○）

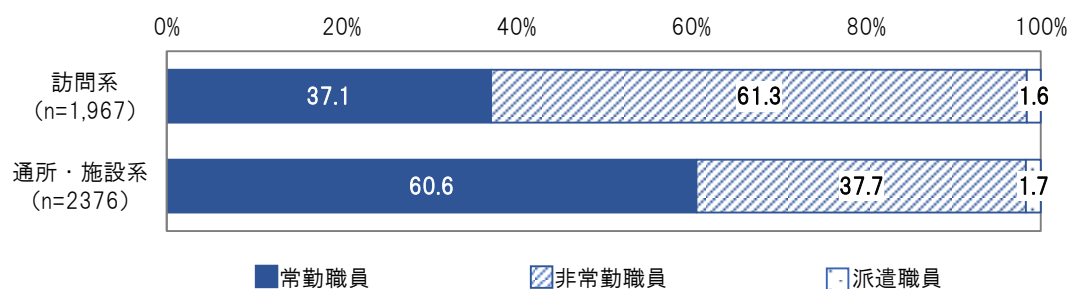
- サービスの稼働状況は、訪問系では「人員が不足しており、サービス提供数・受け入れ数を制限せざるを得ない」が最も高く、次いで「サービス需要量とサービス提供量のバランスが取れている」となっているが、通所・施設系では「サービス需要量とサービス提供量のバランスが取れている」が最も高く、次いで「人員体制は整っているが、利用ニーズがない（少ない）」となっている。



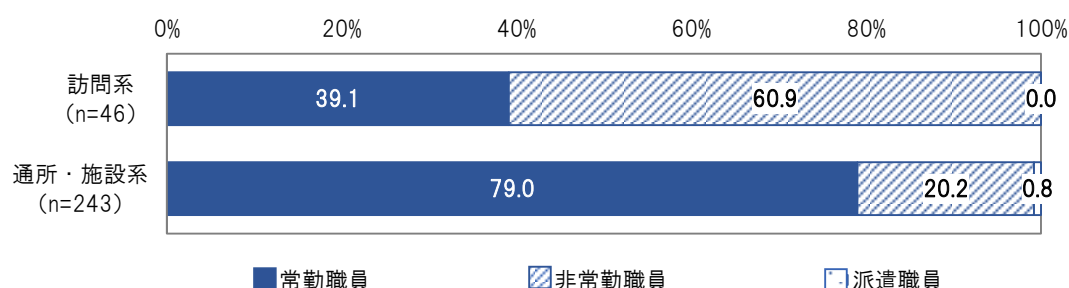
（６）職員数

問 貴施設等（問１で○をつけたサービス種別の施設等）に所属する介護職員（実務者研修修了等の有資格者、無資格者、介護福祉士）についてお答えください。（数値を入力）

- 介護職員の職員数は、訪問系では「非常勤職員」が約６割を占めて最も高く、次いで「常勤職員」となっているが、通所・施設系では「常勤職員」が約６割を占めて最も高く、次いで「非常勤職員」となっている。
- そのうち、外国人職員数は、訪問系では「非常勤職員」が最も高く、通所・施設系では「常勤職員」が最も高くなっている。



《うち、外国人職員数》



2. 職員の採用、人材等について

（1）介護職員の採用者数と離職者数

問 令和8年1月1日時点で、開設から1年以上を経過している施設等におうかがいします。
過去1年間（令和7年1月1日～令和7年12月31日）の介護職員の採用者数と離職者数について、年齢別・常勤・非常勤別にお答えください。（数値を入力）

○採用者は、訪問系では常勤職員は40～49歳が64人（23.0%）で最も多く、非常勤職員も40～49歳が123人（26.6%）で最も多くなっている。通所・施設系では常勤職員は20～29歳が108人（24.5%）で最も多く、非常勤職員は50～59歳が88人（23.9%）で最も多くなっている。

《採用者数》

〔訪問系〕

年齢 (採用時)	採用者数			常勤・非常勤採用者 構成比		年齢別採用者構成比		
	常勤職員	非常勤職員	合計	常勤職員	非常勤職員	常勤職員	非常勤職員	合計
20歳未満	0	4	4	0.0%	100.0%	0.0%	0.9%	0.5%
20～29歳	25	30	55	45.5%	54.5%	9.0%	6.5%	7.4%
30～39歳	59	69	128	46.1%	53.9%	21.2%	14.9%	17.3%
40～49歳	64	123	187	34.2%	65.8%	23.0%	26.6%	25.2%
50～59歳	56	93	149	37.6%	62.4%	20.1%	20.1%	20.1%
60～69歳	53	109	162	32.7%	67.3%	19.1%	23.5%	21.9%
70～79歳	21	34	55	38.2%	61.8%	7.6%	7.3%	7.4%
年齢不明	0	1	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.2%	0.1%
全体	278	463	741	37.5%	62.5%	100.0%	100.0%	100.0%

〔通所・施設系〕

年齢 (採用時)	採用者数			常勤・非常勤採用者 構成比		年齢別採用者構成比		
	常勤職員	非常勤職員	合計	常勤職員	非常勤職員	常勤職員	非常勤職員	合計
20歳未満	27	10	37	73.0%	27.0%	6.1%	2.7%	4.6%
20～29歳	108	60	168	64.3%	35.7%	24.5%	16.3%	20.8%
30～39歳	86	65	151	57.0%	43.0%	19.5%	17.7%	18.7%
40～49歳	91	73	164	55.5%	44.5%	20.7%	19.8%	20.3%
50～59歳	95	88	183	51.9%	48.1%	21.6%	23.9%	22.6%
60～69歳	28	60	88	31.8%	68.2%	6.4%	16.3%	10.9%
70～79歳	5	11	16	31.3%	68.8%	1.1%	3.0%	2.0%
年齢不明	0	1	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.3%	0.1%
全体	440	368	808	54.5%	45.5%	100.0%	100.0%	100.0%

○離職者数は、訪問系では常勤職員・非常勤職員とも50～59歳が最も多く、常勤職員が36人（33.3%）、非常勤職員が52人（25.5%）となっている。通所・施設系も常勤職員・非常勤職員とも50～59歳が最も多く、常勤職員が52人（24.4%）、非常勤職員が42人（23.9%）となっている。

《離職者数》

〔訪問系〕

年齢 (離職時)	離職者数			常勤・非常勤離職者 構成比		年齢別離職者構成比		
	常勤職員	非常勤職員	合計	常勤職員	非常勤職員	常勤職員	非常勤職員	合計
20歳未満	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20～29歳	6	15	21	28.6%	71.4%	5.6%	7.4%	6.7%
30～39歳	17	25	42	40.5%	59.5%	15.7%	12.3%	13.5%
40～49歳	23	49	72	31.9%	68.1%	21.3%	24.0%	23.1%
50～59歳	36	52	88	40.9%	59.1%	33.3%	25.5%	28.2%
60～69歳	20	37	57	35.1%	64.9%	18.5%	18.1%	18.3%
70～79歳	3	22	25	12.0%	88.0%	2.8%	10.8%	8.0%
年齢不明	3	4	7	42.9%	57.1%	2.8%	2.0%	2.2%
全体	108	204	312	34.6%	65.4%	100.0%	100.0%	100.0%

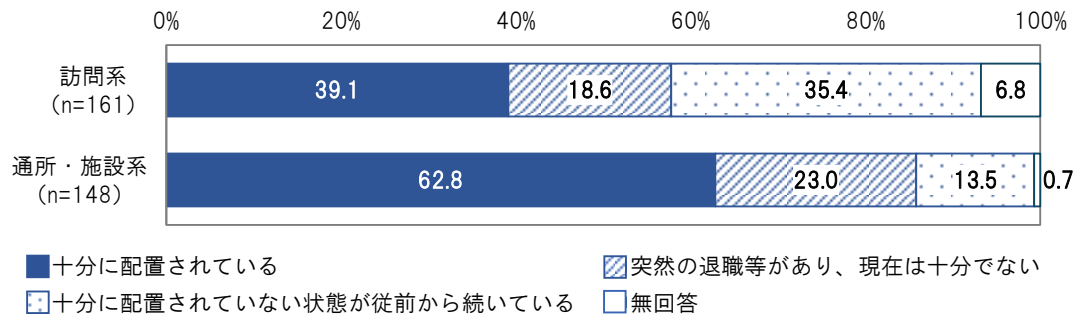
〔通所・施設系〕

年齢 (離職時)	離職者数			常勤・非常勤離職者 構成比		年齢別離職者構成比		
	常勤職員	非常勤職員	合計	常勤職員	非常勤職員	常勤職員	非常勤職員	合計
20歳未満	3	6	9	33.3%	66.7%	1.4%	3.4%	2.3%
20～29歳	48	21	69	69.6%	30.4%	22.5%	11.9%	17.7%
30～39歳	43	24	67	64.2%	35.8%	20.2%	13.6%	17.2%
40～49歳	48	34	82	58.5%	41.5%	22.5%	19.3%	21.1%
50～59歳	52	42	94	55.3%	44.7%	24.4%	23.9%	24.2%
60～69歳	16	35	51	31.4%	68.6%	7.5%	19.9%	13.1%
70～79歳	3	14	17	17.6%	82.4%	1.4%	8.0%	4.4%
年齢不明	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
全体	213	176	389	54.8%	45.2%	100.0%	100.0%	100.0%

（２）職員の配置状況

問 貴事業所において職員は十分に配置されていると思いますか。（１つに○）

○職員の配置状況は、訪問系、通所・施設系とも「十分に配置されている」が最も高く、特に通所・施設系で６割以上と高くなっている。訪問系では「十分に配置されていない状態が従前から続いている」が３割以上と高くなっている。

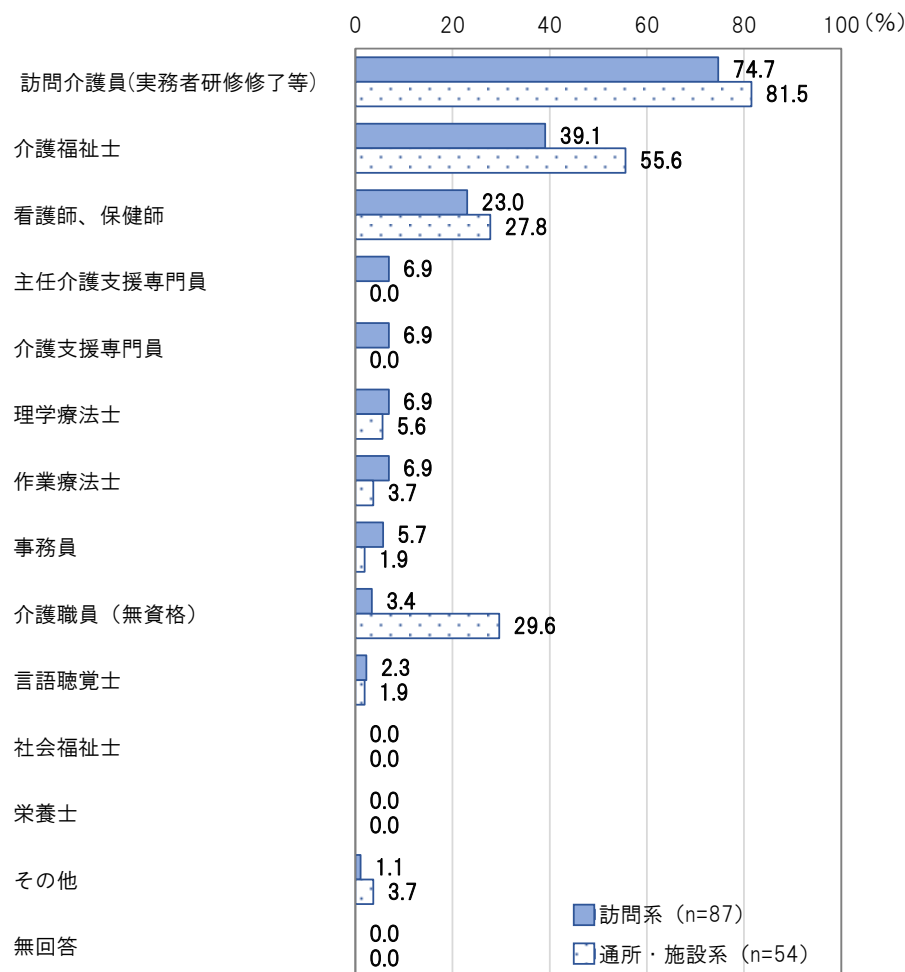


（２-１）不足している職種

（２）で、「突然の退職等があり、現在は十分でない」「十分に配置されていない状態が従前から続いている」と回答した人のみ

問 貴事業所において不足している職種をお答えください。（あてはまるものすべてに○）

○職員が十分に配置されていない事業所の不足している職種は、訪問系、通所・施設系とも「訪問介護員(実務者研修修了等)」が最も高く、次いで「介護福祉士」となっている。



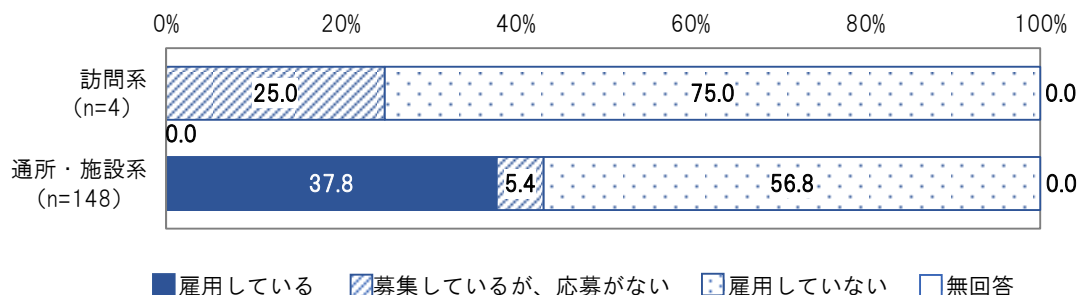
（３）限定した業務の人材雇用 ※訪問系は母数が少ないので参考値

（訪問系は「小規模多機能型居宅介護」、「看護小規模多機能型居宅介護」の事業所のみ）

問 貴事業所において入浴補助、配膳、清掃、ベッドメイクなどに業務を限定した人材（退職した高齢者や子育てなどにより短時間勤務を望む人など）を雇用していますか。

（１つに○）

○入浴補助、配膳、清掃、ベッドメイクなどに業務を限定した人材の雇用については、通所・施設系は「雇用していない」が過半数を占めており、「雇用している」が４割近くを占めている。

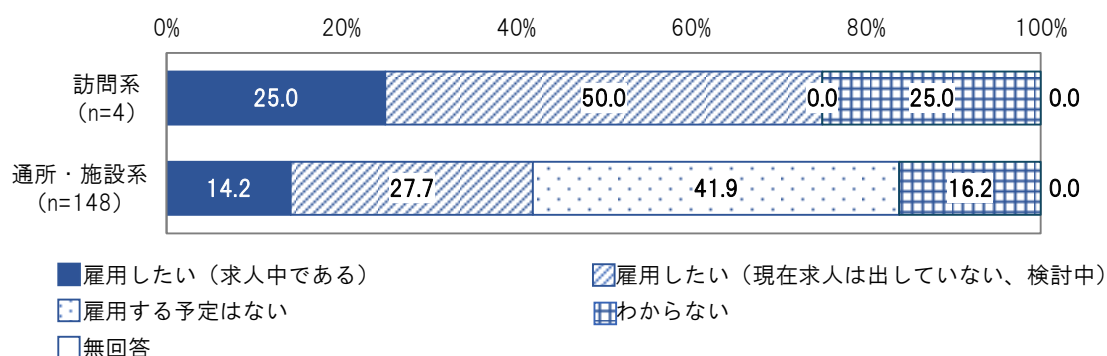


（４）限定した業務の人材雇用意向 ※訪問系は母数が少ないので参考値

（訪問系は「小規模多機能型居宅介護」、「看護小規模多機能型居宅介護」の事業所のみ）

問 今後、貴事業所において入浴補助、配膳、清掃、ベッドメイクなどに業務を限定した人材（退職した高齢者や子育てなどにより短時間勤務を望む人など）を雇用したいと思いますか。（１つに○）

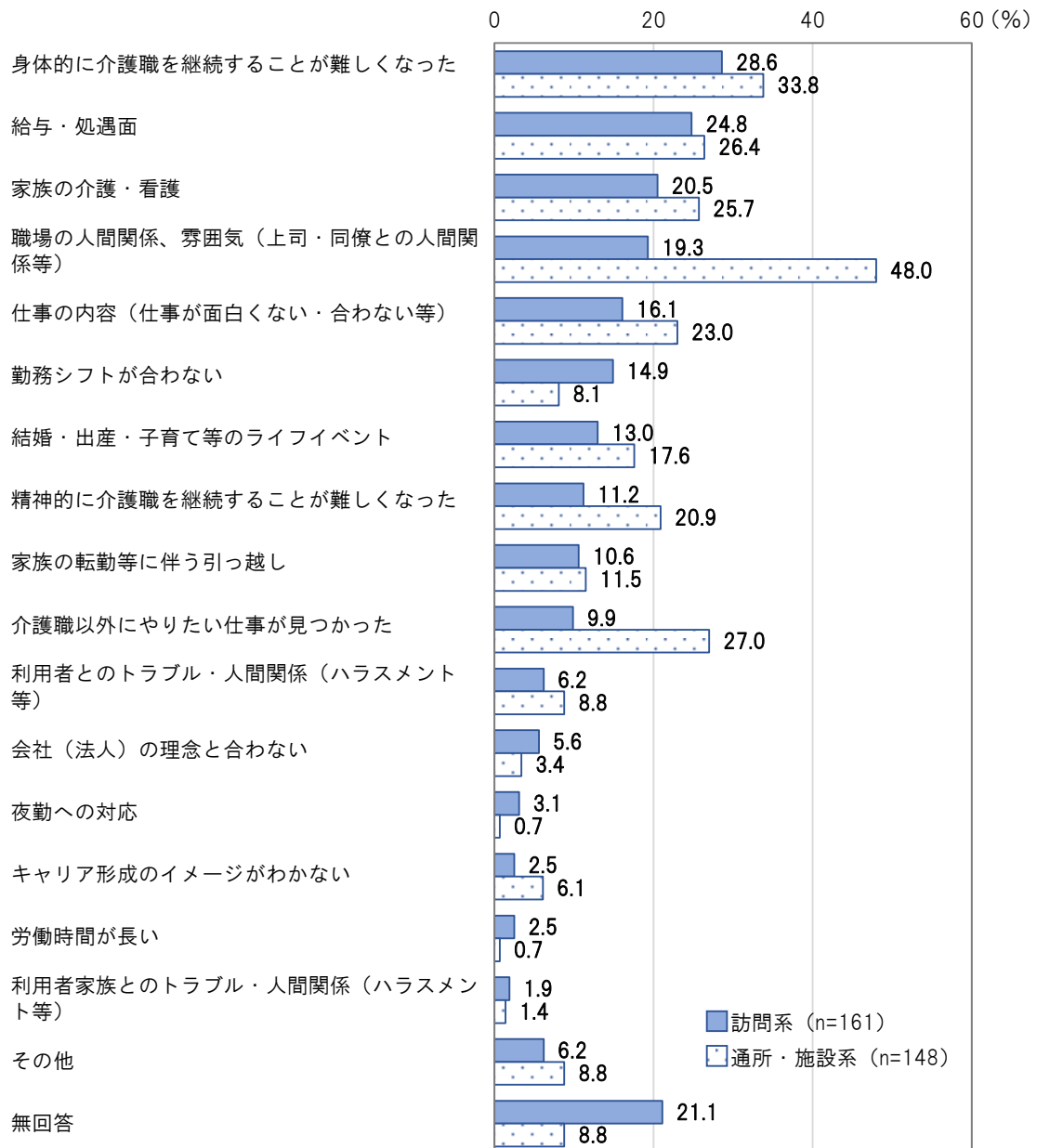
○入浴補助、配膳、清掃、ベッドメイクなどに業務を限定した人材を雇用したいかについては、通所・施設系は「雇用する予定はない」が約４割を占めており、次いで「雇用したい（現在求人は出していない、検討中）」、「雇用したい（求人中である）」の順となっている。



（５）離職理由

問 過去に離職者がいた施設等におうかがいします。定年退職を除く離職理由として、多いものを教えてください。（あてはまるものすべてに○）

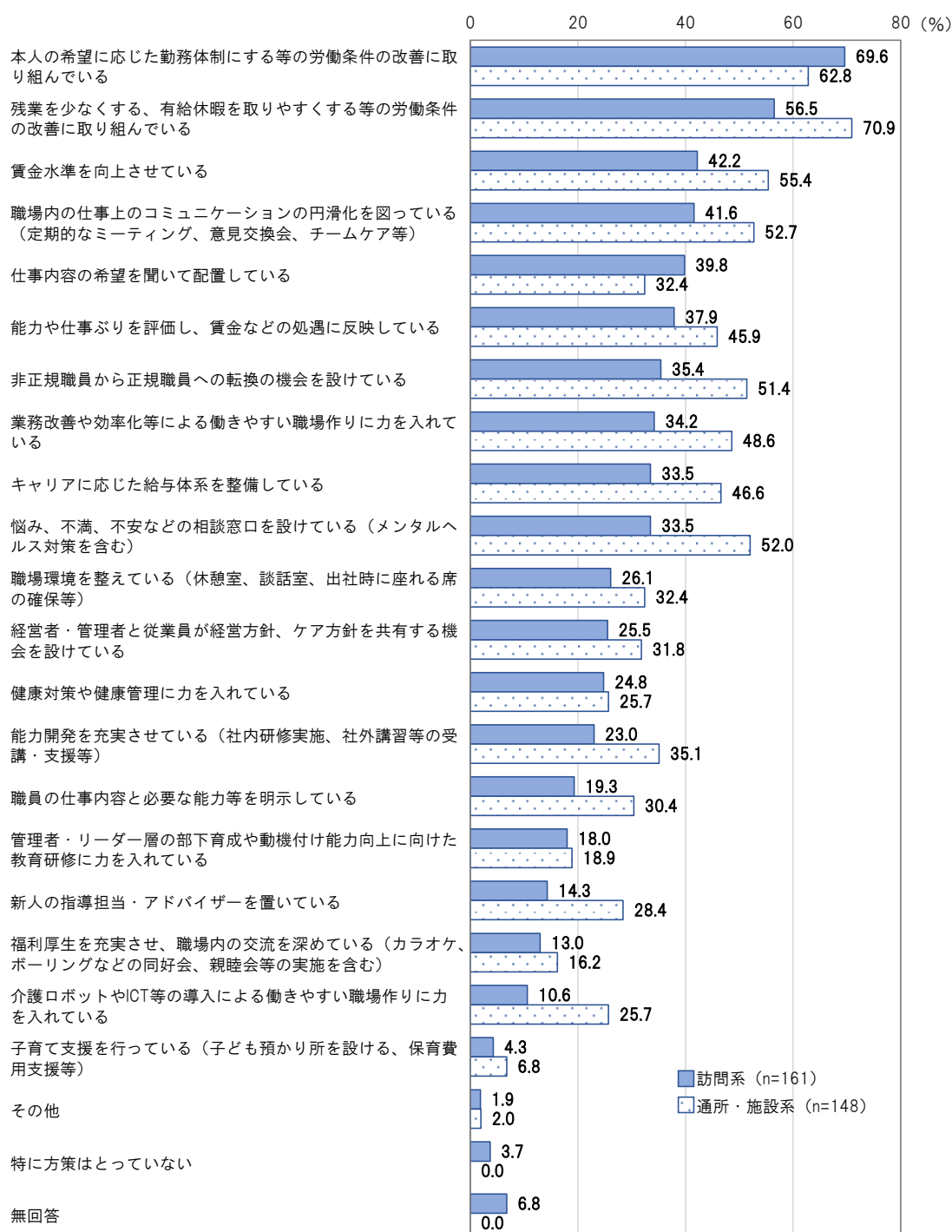
○離職理由は、訪問系では「身体的に介護職を継続することが難しくなった」が最も高く、次いで「給与・処遇面」、「家族の介護・看護」の順となっている。通所・施設系では「職場の人間関係、雰囲気（上司・同僚との人間関係等）」が最も高く、次いで「身体的に介護職を継続することが難しくなった」、「介護職以外にやりたい仕事が見つかった」の順となっている。



（６）早期離職防止や定着促進を図るための方策

問 貴事業所では、職員の早期離職防止や定着促進を図るために、どのような方策をとっていますか。（あてはまるものすべてに○）

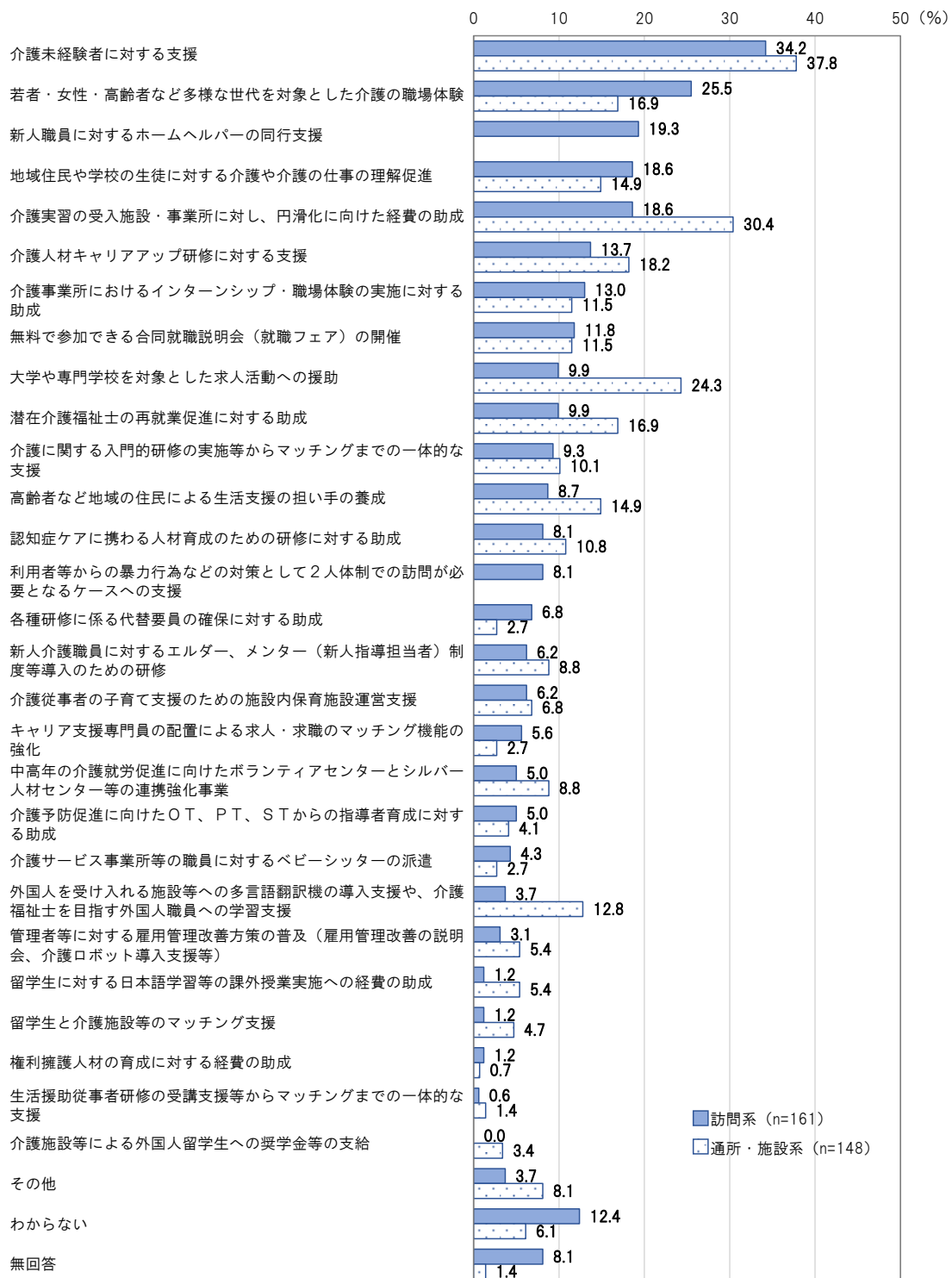
○早期離職防止や定着促進を図るための方策は、訪問系では「本人の希望に応じた勤務体制にする等の労働条件の改善に取り組んでいる」が最も高く、次いで「残業を少なくする、有給休暇を取りやすくする等の労働条件の改善に取り組んでいる」、「賃金水準を向上させている」の順となっている。通所・施設系では「残業を少なくする、有給休暇を取りやすくする等の労働条件の改善に取り組んでいる」が最も高く、次いで「本人の希望に応じた勤務体制にする等の労働条件の改善に取り組んでいる」、「賃金水準を向上させている」の順となっている。



（７）介護人材確保・定着等に対する支援で効果が高いもの

問 介護人材確保・定着等に対する支援について、以下の中で効果が高いと思うものはありますか。（５つまで○）

○介護人材確保・定着等に対する支援で効果が高いものは、訪問系では「介護未経験者に対する支援」が最も高く、次いで「若者・女性・高齢者など多様な世代を対象とした介護の職場体験」、「新人職員に対するホームヘルパーの同行支援」の順となっている。通所・施設系では「介護未経験者に対する支援」が最も高く、次いで「介護実習の受入施設・事業所に対し、円滑化に向けた経費の助成」の順となっている。

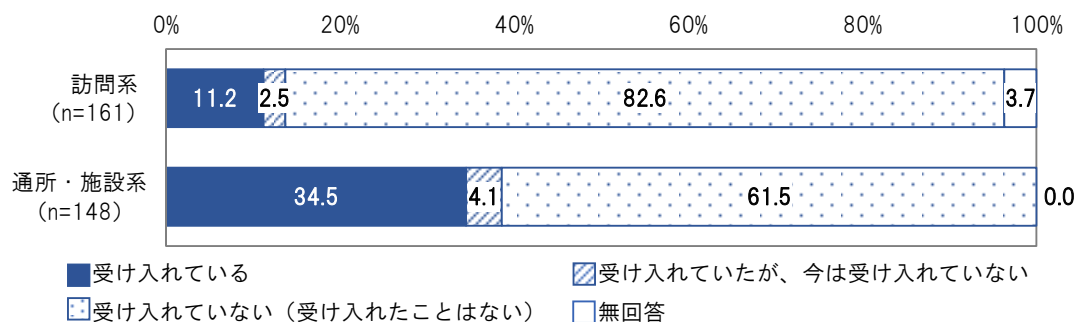


3. 外国人労働者の受け入れについて

(1) 介護の仕事に携わる外国人労働者の受け入れ状況

問 介護の仕事に携わる外国人労働者を受け入れていますか。(1つに○)

○介護の仕事に携わる外国人労働者の受け入れ状況は、訪問系、通所・施設系とも「受け入れている」が過半数を占めて最も高くなっているが、通所・施設系では「受け入れている」が3割を超えている。



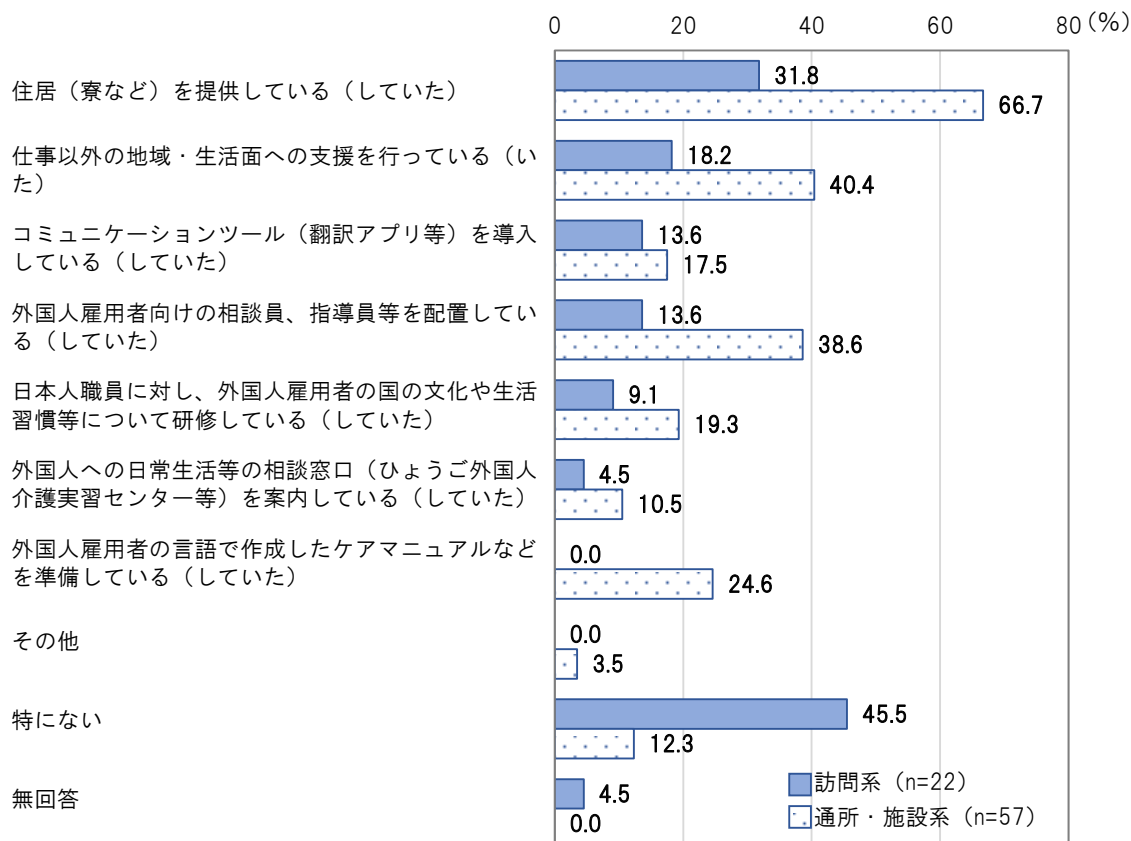
(1-1) 外国人雇用に対する配慮 ※訪問系は母数が少ないので参考値

(1) で「受け入れている」「受け入れていたが、今は受け入っていない」と回答した人のみ

問 外国人の雇用に際し、どのようなことを配慮していますか(配慮していましたか)。

(あてはまるものすべてに○)

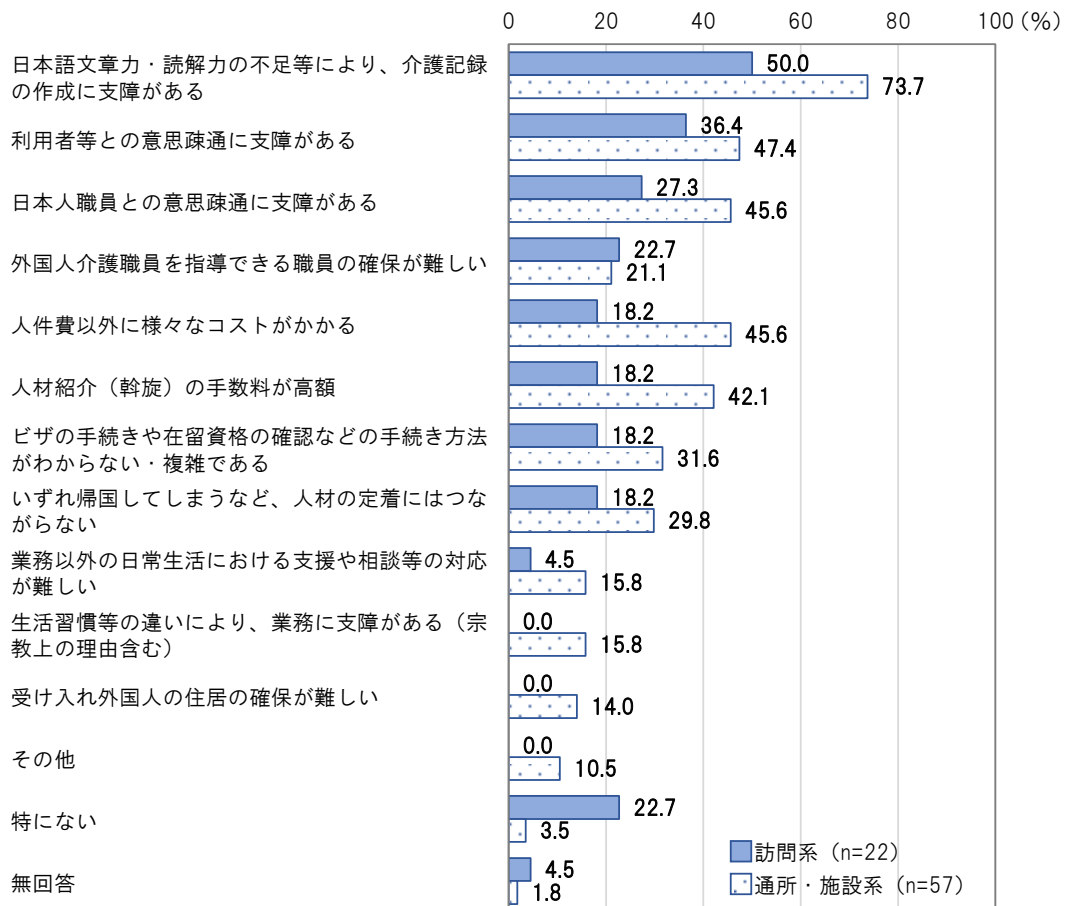
○外国人の雇用に対する配慮は、通所・施設系では「住居(寮など)を提供している(していた)」が6割以上を占めて最も高く、次いで「仕事以外の地域・生活面への支援を行っている(いた)」、「外国人雇用者向けの相談員、指導員等を配置している(していた)」の順となっている。



（１－２）外国人労働者の受け入れに対する課題 ※訪問系は母数が少ないので参考値

（１）で「受け入れている」「受け入れていたが、今は受け入れていない」と回答した人のみ
問 外国人労働者を受け入れている（受け入れていた）上での課題を教えてください。
（あてはまるものすべてに○）

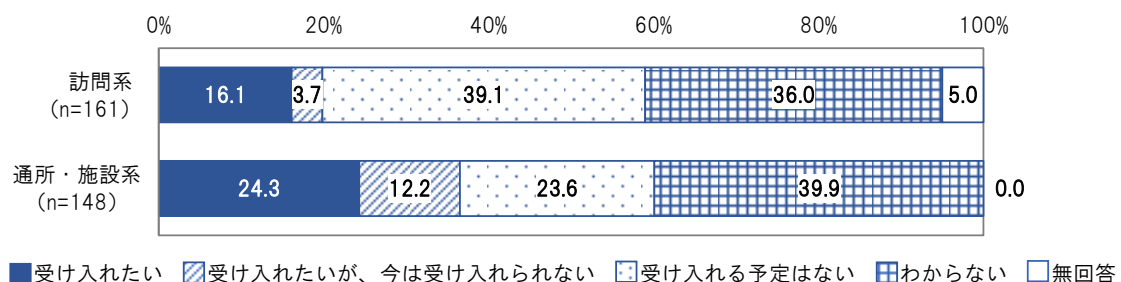
○外国人労働者の受け入れに対する課題は、通所・施設系は「日本語文章力・読解力の不足等により、介護記録の作成に支障がある」が最も高く、次いで「利用者等との意思疎通に支障がある」、「日本人職員との意思疎通に支障がある」と「人件費以外に様々なコストがかかる」（同率）、「人材紹介（斡旋）の手数料が高額」の順となっている。



（２）外国人労働者の受け入れ予定

問 今後（または引き続き）、外国人労働者を受け入れる予定はありますか。（１つに○）

○今後の外国人労働者の受け入れ予定については、訪問系では「受け入れる予定はない」が最も高く、次いで「わからない」、「受け入れたい」の順となっている。通所・施設系では「わからない」が最も高く、次いで「受け入れたい」、「受け入れる予定はない」の順となっている。

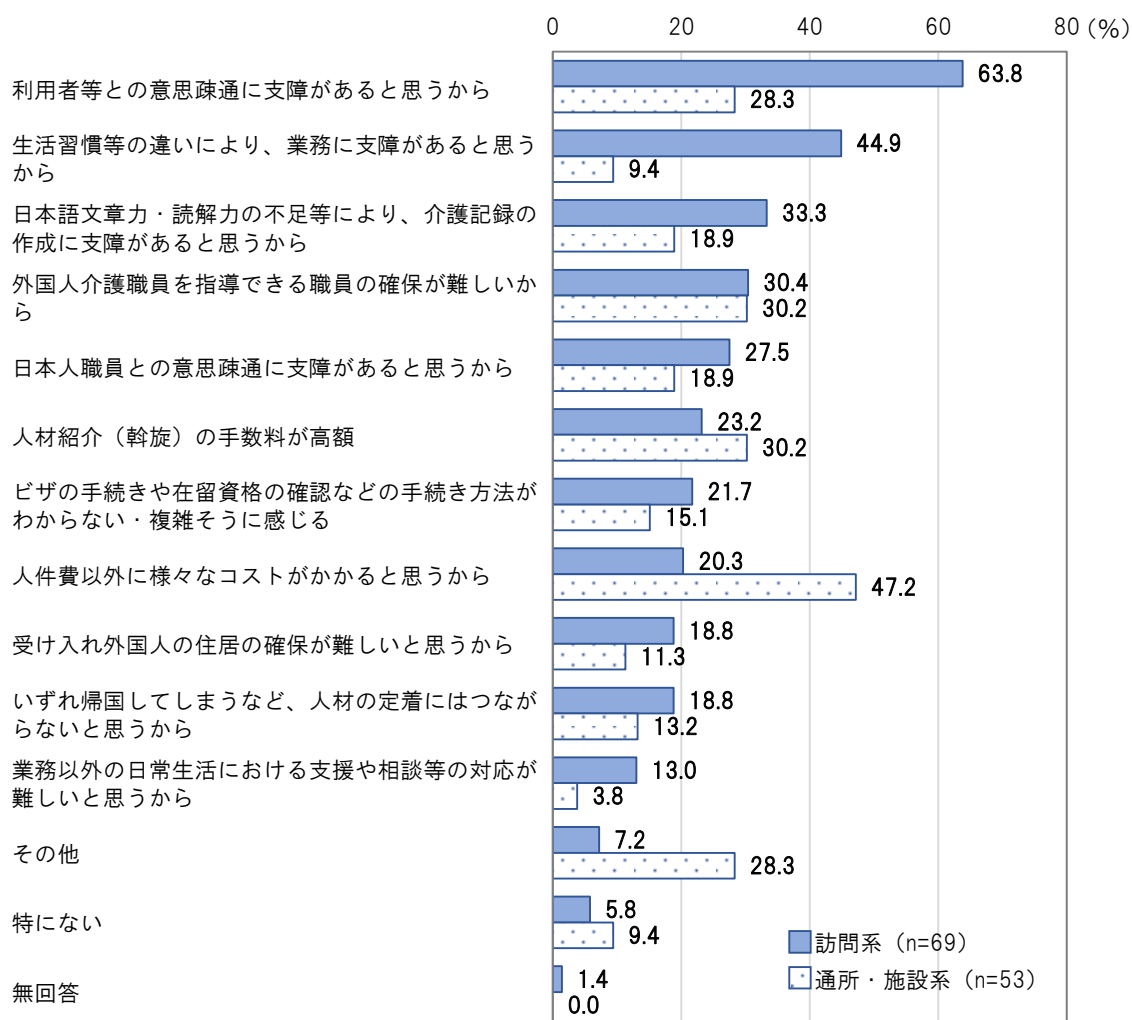


(2-1) 外国人労働者の受け入れ予定のない理由

(2)で「受け入れたいが、今は受け入れられない」「受け入れる予定はない」と回答した人のみ

問 理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

○外国人労働者を受け入れられない、または受け入れる予定がない理由は、訪問系では「利用者等との意思疎通に支障があると思うから」が最も高く、次いで「生活習慣等の違いにより、業務に支障があると思うから」、「日本語文章力・読解力の不足等により、介護記録の作成に支障があると思うから」の順となっている。通所・施設系では「人件費以外に様々なコストがかかると思うから」が最も高く、次いで「外国人介護職員を指導できる職員の確保が難しいから」と「人材紹介（斡旋）の手数料が高額」が同率で続いている。

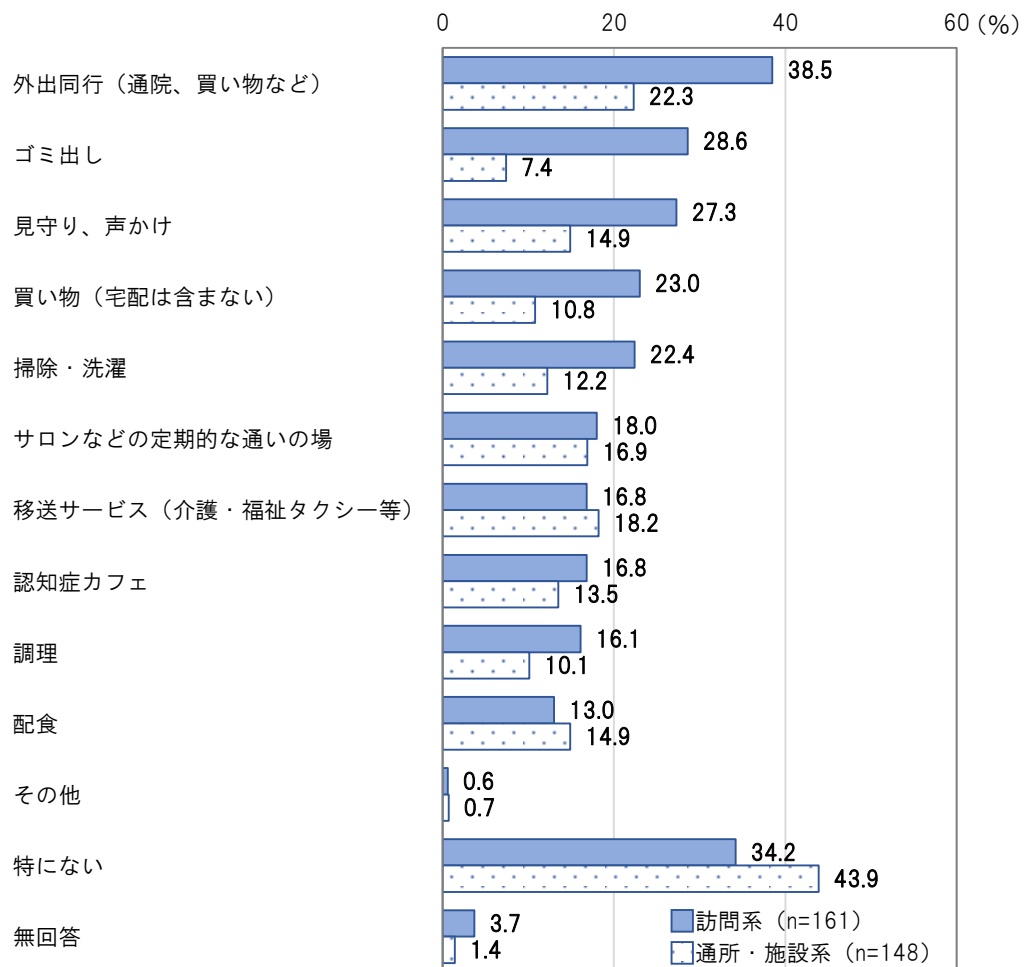


4. 事業運営等について

（１）興味・関心のある介護保険外サービス

問 以下の介護保険外サービス（総合事業によるサービスを含む）について、実施することに興味・関心はありますか。（実施しているサービスも含む）（あてはまるものすべてに○）

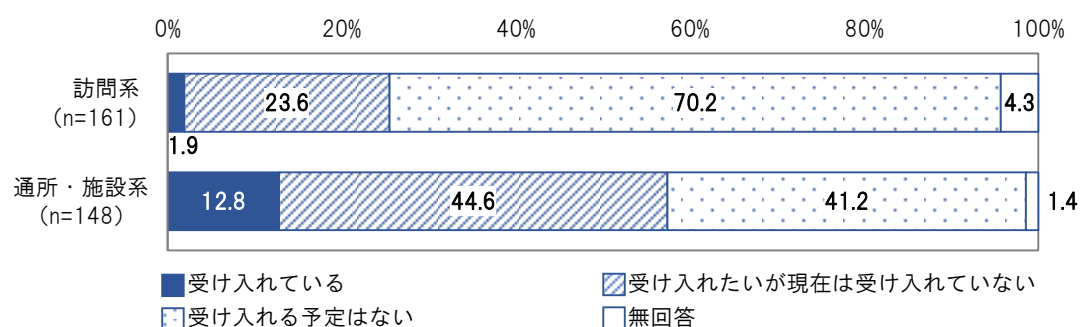
○興味・関心のある介護保険外サービスは、訪問系では「外出同行（通院、買い物など）」が最も高く、次いで「ゴミ出し」、「見守り、声かけ」、「買い物（宅配は含まない）」の順となっている。通所・施設系では「外出同行（通院、買い物など）」が最も高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「サロンなどの定期的な通いの場」の順となっている。



(2) 高齢者ボランティアの受け入れ状況

問 地域貢献の一環として、高齢者のボランティアの受け入れ（利用者の話し相手、花壇等の手入れ、配膳補助等）についてどのようにお考えですか。（1つに○）

○高齢者ボランティアの受け入れ状況は、訪問系では「受け入れる予定はない」が約7割を占めて最も高くなっている。通所・施設系では「受け入れたいが現在は受け入れていない」が最も高く、次いで「受け入れる予定はない」となっており、「受け入れている」は1割程度となっている。



（２－１）高齢者のボランティアの内容

（２）で「受け入れている」と回答した人のみ

問 高齢者のボランティアの内容について教えてください。

〔訪問系〕

ボランティアの内容	有償・無償の状況	有償の料金
大正琴	交通費・昼食等提供	5,000
掃除	有償	1,116
ゴミ出し	有償	250
掃除（介護保険外）	有償	500
買物	有償	500
アロママッサージ	無償	-
保育所との交流	無償	-

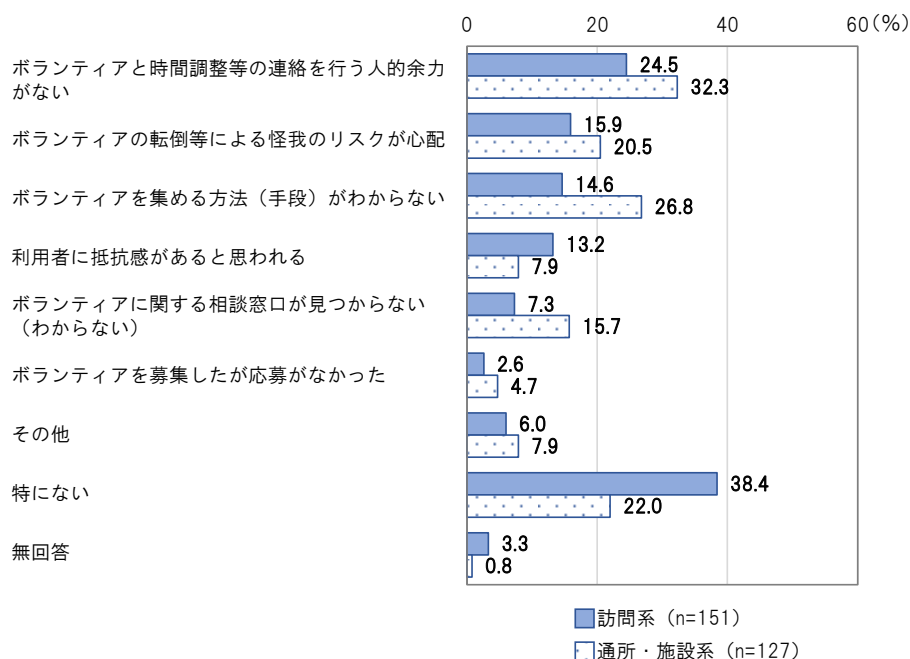
〔通所・施設系〕

ボランティアの内容	有償・無償の状況	有償の料金
紙芝居団体	有償	2,000
体操指導	有償	1,500
書道	交通費・昼食等提供	600
ピアノ	無償	-
園芸	無償	-
音楽活動	無償	-
歌	無償	-
花壇の手入れ	無償	-
共用部分の清掃	無償	-
傾聴	無償	-
傾聴	無償	-
傾聴ボランティア	無償	-
傾聴	-	-
行事の運営協力（出店、給仕、製造等）	無償	-
行事の運営協力（出店、給仕、製造等）	無償	-
行事の運営協力（出店、給仕、製造等）	無償	-
行事の運営協力（出店、給仕、製造等）	無償	-
施設周りの掃除	無償	-
施設周りの掃除	無償	-
庭の整備（ガーデニング）	無償	-
庭の整備（ガーデニング）	無償	-
庭の整備（ガーデニング）	無償	-
入居者の教養娯楽（習字、生け花、塗り絵、カラオケ、歌）	無償	-
配膳、洗濯、キッチン片付け	無償	-
利用者の教養娯楽（習字、塗り絵、生け花、カラオケ、歌）	無償	-
利用者の教養娯楽（生け花、カラオケ、ハーモニカ演奏）	無償	-
利用者の教養娯楽（生け花、ハーモニカ演奏）	無償	-
話し相手	無償	-

(2-2) 高齢者ボランティアの受け入れ予定のない理由

(2) で「受け入れたいが現在は受け入れていない」「受け入れる予定はない」と回答した人のみ
問 理由や課題について教えてください。(あてはまるものすべてに○)

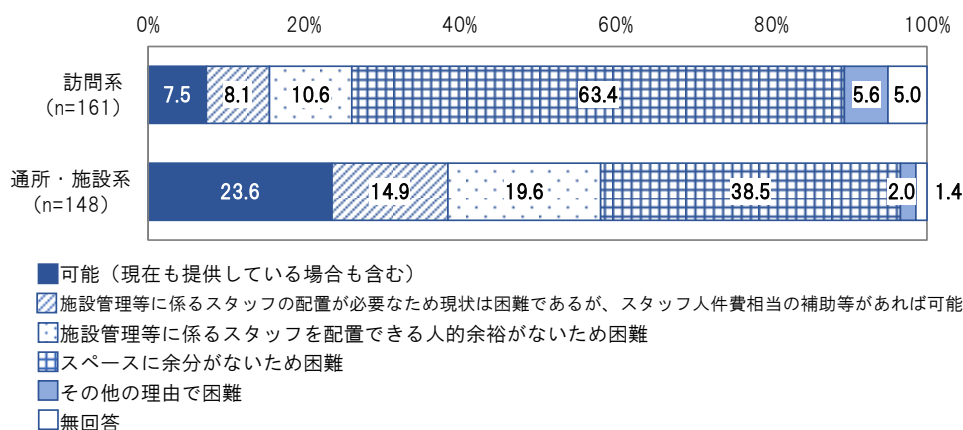
○高齢者ボランティアの受け入れ予定のない理由は、訪問系では「特にない」が約4割を占め最も高く、次いで「ボランティアと時間調整等の連絡を行う人的余力がない」、「ボランティアの転倒等による怪我のリスクが心配」、「ボランティアを集める方法(手段)がわからない」の順となっている。通所・施設系では「ボランティアと時間調整等の連絡を行う人的余力がない」が最も高く、次いで「ボランティアを集める方法(手段)がわからない」、「特にない」
「ボランティアの転倒等による怪我のリスクが心配」の順となっている。



(3) 地域へのスペース提供

問 貴事業所での地域へのスペース提供(体操やサロン等の実施場所等)について、どのようにお考えですか。(1つに○)

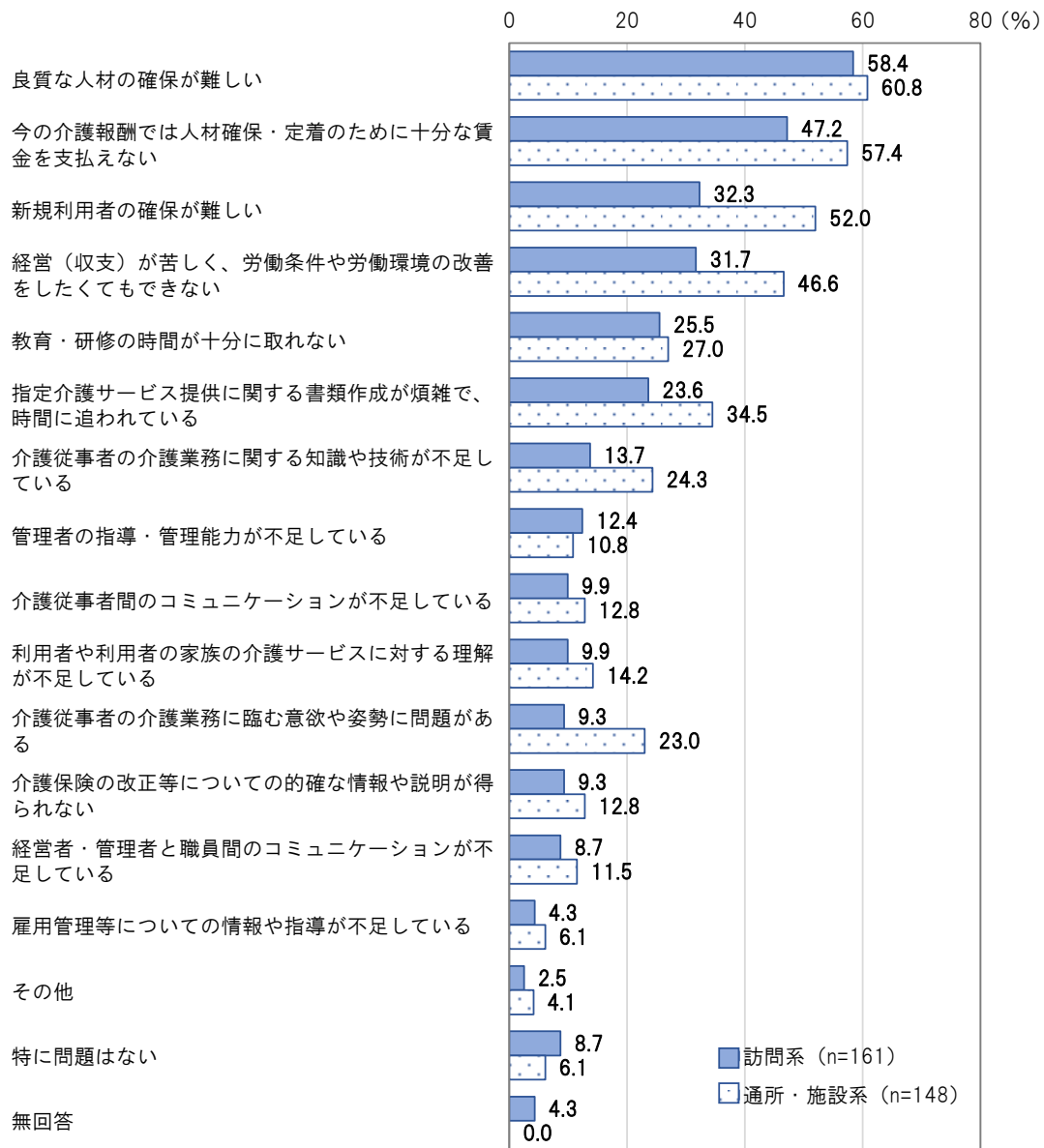
○地域へのスペース提供については、訪問系では「スペースに余分がないため困難」が最も高く、次いで「施設管理等に係るスタッフを配置できる人的余裕がないため困難」、「施設管理等に係るスタッフの配置が必要なため現状は困難であるが、スタッフ人件費相当の補助等があれば可能」の順となっている。通所・施設系では「スペースに余分がないため困難」が最も高く、次いで「可能(現在も提供している場合も含む)」、「施設管理等に係るスタッフを配置できる人的余裕がないため困難」の順となっている。



（４）事業を運営する上での問題等

問 事業を運営する上で問題等がありますか。（あてはまるものすべてに○）

○事業を運営する上での問題等は、訪問系、通所・施設系とも「良質な人材の確保が難しい」が最も高く、次いで「今の介護報酬では人材確保・定着のために十分な賃金を支払えない」、「新規利用者の確保が難しい」、「経営（収支）が苦しく、労働条件や労働環境の改善をしたくてもできない」の順となっている。



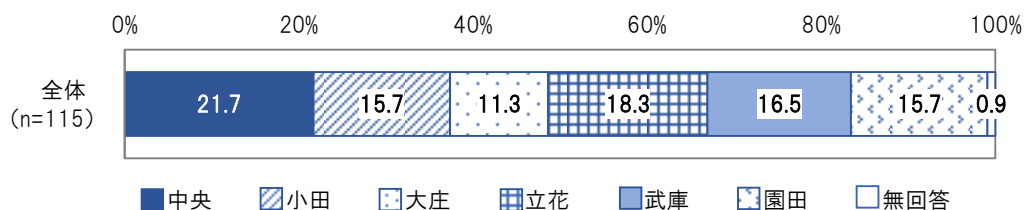
V 調査結果（介護人材実態調査〔居宅介護支援事業所〕）

1. 事業所について

（1）日常生活圏域

問 貴事業所の所在する日常生活圏域の地区名をお答えください。（1つに○）

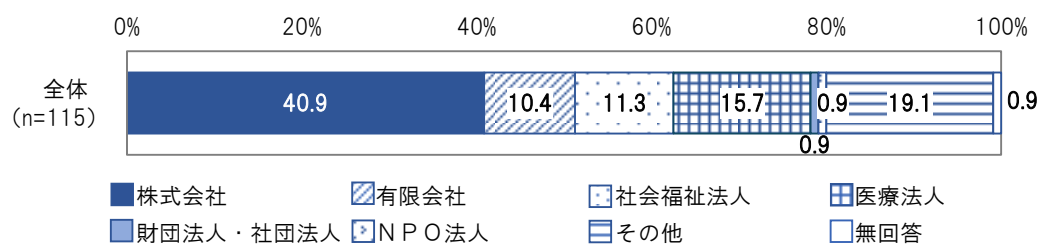
○日常生活圏域は、「中央」が最も高く、次いで「立花」、「武庫」の順となっている。



（2）法人種別

問 貴事業所の事業主体法人の種別をお答えください。（1つに○）

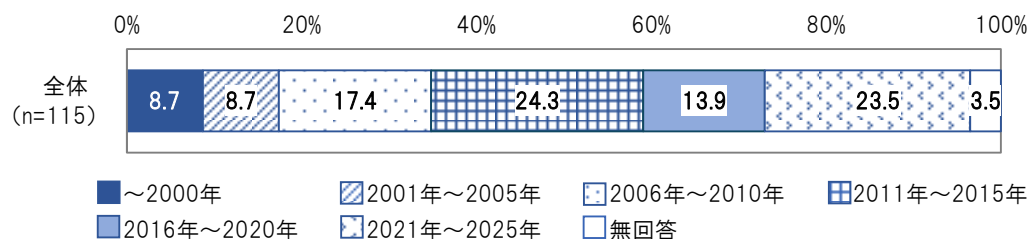
○法人種別は、「株式会社」が約4割を占め最も高く、次いで「医療法人」、「社会福祉法人」、「有限会社」の順となっている。



（3）開設時期

問 貴事業所の開設時期についてお答えください。（数値を入力）

○開設時期は、「2011年～2015年」が最も高く、次いで「2021年～2025年」、「2006年～2010年」、「2016年～2020年」の順となっている。



（４）ケアマネジャーの年齢構成と雇用契約

問 貴事業所の所属のケアマネジャーの年齢構成と雇用契約をお答えください。

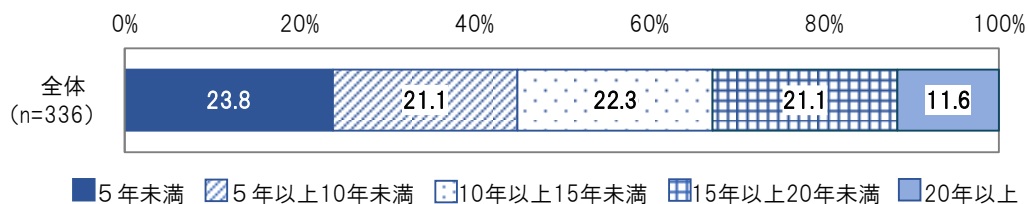
- ケアマネジャーの年齢構成は、常勤職員数では、「50～59歳」が118人（39.9%）と最も高く、次いで「60～69歳」が84人（28.4%）、「40～49歳」が66人（22.3%）となっている。非常勤職員では、「60～69歳」が23人（46.0%）と最も高く、次いで「50～59歳」が13人（26.0%）、「40～49歳」が10人（20.0%）となっている。

年齢	職員数			常勤・非常勤職員 構成比		年齢別職員構成比		
	常勤職員	非常勤職員	合計	常勤職員	非常勤職員	正規職員	非常勤職員	合計
40歳未満	16	1	17	94.1%	5.9%	5.4%	2.0%	4.9%
40～49歳	66	10	76	86.8%	13.2%	22.3%	20.0%	22.0%
50～59歳	118	13	131	90.1%	9.9%	39.9%	26.0%	37.9%
60～69歳	84	23	107	78.5%	21.5%	28.4%	46.0%	30.9%
70歳～	12	3	15	80.0%	20.0%	4.1%	6.0%	4.3%
全体	296	50	346	85.5%	14.5%	100.0%	100.0%	100.0%

（５）ケアマネジャーの経験年数

問 貴事業所の所属のケアマネジャーの経験年数をお答えください。

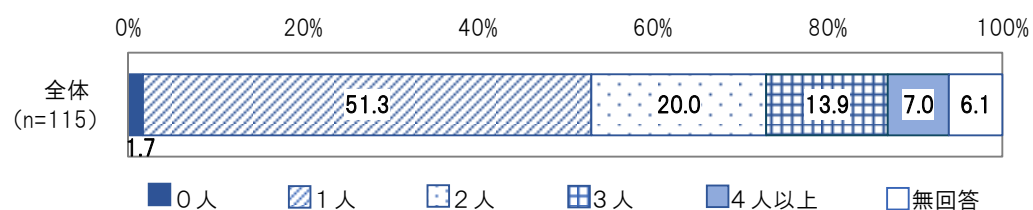
- ケアマネジャーの経験年数は、「5年未満」が最も高く、次いで「10年以上15年未満」、「5年以上10年未満」と「15年以上20年未満」が同率となっている。



（６）主任ケアマネジャー資格保有者数

問 貴事業所の所属のケアマネジャーの中で主任ケアマネジャーの資格を保有している人数をお答えください。

- 主任ケアマネジャー資格保有者数は、「1人」が5割以上で最も高く、次いで「2人」、「3人」の順となっている。



２．職員の採用、人材等について

（１）ケアマネジャーの採用者数と離職者数

問 令和８年１月１日時点で、開設から１年以上を経過している施設等におうかがいします。
過去１年間（令和７年１月１日～令和７年１２月３１日）のケアマネジャーの採用者数と離職者数について、年齢別・常勤・非常勤別にお答えください。（数値を入力）

○採用者は、常勤職員は５０～５９歳が２７人（４２．２％）で最も多く、非常勤職員は６０～６９歳が６人（４０．０％）で最も多くなっている。

○離職者数は、常勤職員は５０～５９歳が１１人（３４．４％）で最も多く、次いで４０～４９歳が１０人（３１．３％）となっている。非常勤職員は５０～５９歳と６０～６９歳がそれぞれ３人（３３．３％）で最も多くなっている。

《採用者数》

年齢 (採用時)	採用者数			常勤・非常勤採用者 構成比		年齢別採用者構成比		
	常勤職員	非常勤職員	合計	常勤職員	非常勤職員	正規職員	非常勤職員	合計
２０～２９歳	１	０	１	１００．０％	０．０％	１．６％	０．０％	１．３％
３０～３９歳	５	２	７	７１．４％	２８．６％	７．８％	１３．３％	８．９％
４０～４９歳	１５	３	１８	８３．３％	１６．７％	２３．４％	２０．０％	２２．８％
５０～５９歳	２７	３	３０	９０．０％	１０．０％	４２．２％	２０．０％	３８．０％
６０～６９歳	１４	６	２０	７０．０％	３０．０％	２１．９％	４０．０％	２５．３％
７０～７９歳	２	１	３	６６．７％	３３．３％	３．１％	６．７％	３．８％
全体	６４	１５	７９	８１．０％	１９．０％	１００．０％	１００．０％	１００．０％

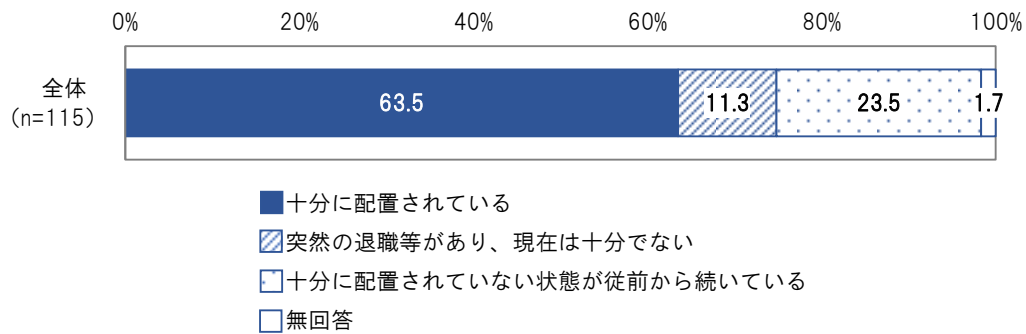
《離職者数》

年齢 (離職時)	離職者数			常勤・非常勤離職者 構成比		年齢別離職者構成比		
	常勤職員	非常勤職員	合計	常勤職員	非常勤職員	正規職員	非常勤職員	合計
２０～２９歳	１	０	１	１００．０％	０．０％	３．１％	０．０％	２．４％
３０～３９歳	３	０	３	１００．０％	０．０％	９．４％	０．０％	７．３％
４０～４９歳	１０	１	１１	９０．９％	９．１％	３１．３％	１１．１％	２６．８％
５０～５９歳	１１	３	１４	７８．６％	２１．４％	３４．４％	３３．３％	３４．１％
６０～６９歳	５	３	８	６２．５％	３７．５％	１５．６％	３３．３％	１９．５％
７０～７９歳	２	２	４	５０．０％	５０．０％	６．３％	２２．２％	９．８％
全体	３２	９	４１	７８．０％	２２．０％	１００．０％	１００．０％	１００．０％

（２）職員の配置状況

問 貴事業所において職員は十分に配置されていると思いますか。（１つに○）

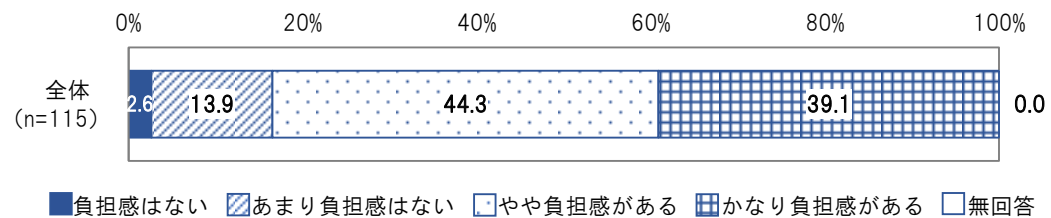
○職員の配置状況は、「十分に配置されている」が６割以上を占めて最も高く、次いで「十分に配置されていない状態が従前から続いている」、「突然の退職等があり、現在は十分でない」の順となっている。



（３）ケアマネジャーの業務全般に関する負担感

問 貴事業所におけるケアマネジャーの業務全般に関する負担感はどうですか。（１つに○）

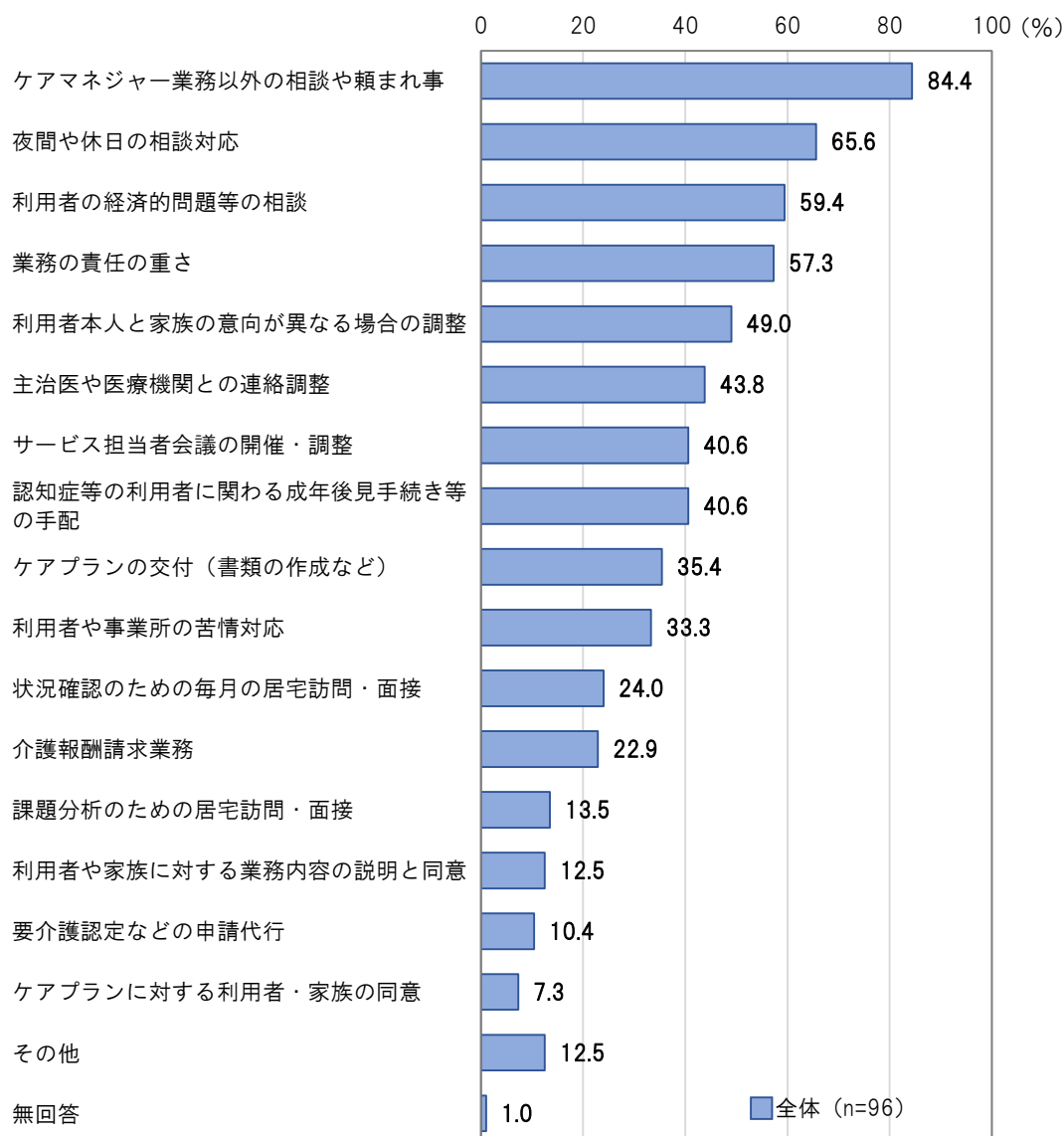
○ケアマネジャーの業務全般に関する負担感は、「やや負担感がある」が最も高く、次いで「かなり負担感がある」で、両者を合わせた『負担感がある』は８割以上を占めている。



(3-1) 負担と感じている内容

(3) で、「やや負担感がある」「かなり負担感がある」と回答した人のみ
問 負担と感じている内容は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

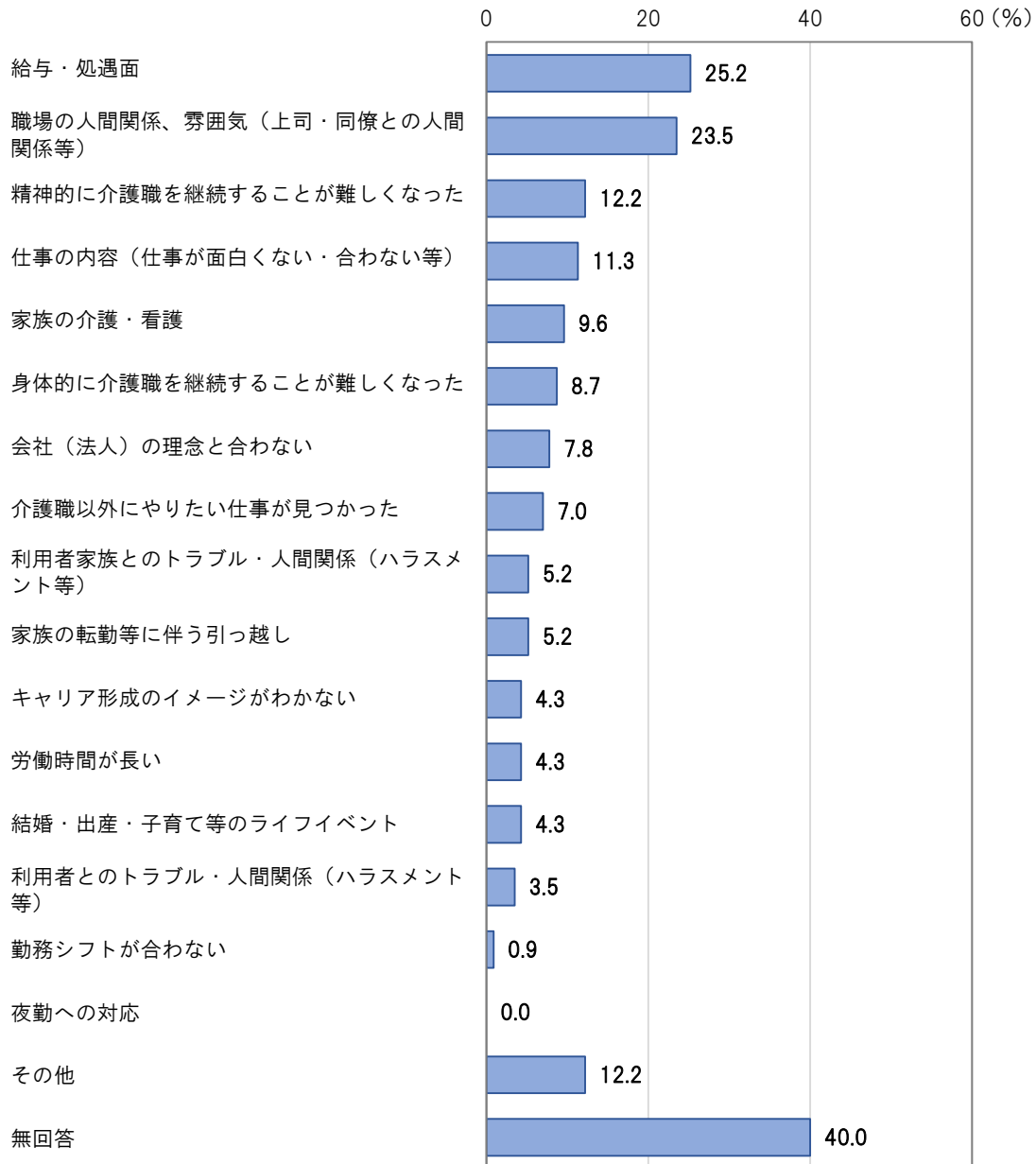
○『負担感がある』と感じている内容については、「ケアマネジャー業務以外の相談や頼まれ事」が最も高く、次いで「夜間や休日の相談対応」、「利用者の経済的問題等の相談」、「業務の責任の重さ」の順となっている。



（４）離職理由

問 過去に離職者がいた事業所等におうかがいします。定年退職を除く離職理由として、多いものを教えてください。（あてはまるものすべてに○）

○離職理由として多いものは、「給与・処遇面」が最も高く、次いで「職場の人間関係、雰囲気（上司・同僚との人間関係等）」、「精神的に介護職を継続することが難しくなった」、「仕事の内容（仕事が面白くない・合わない等）」の順となっている。

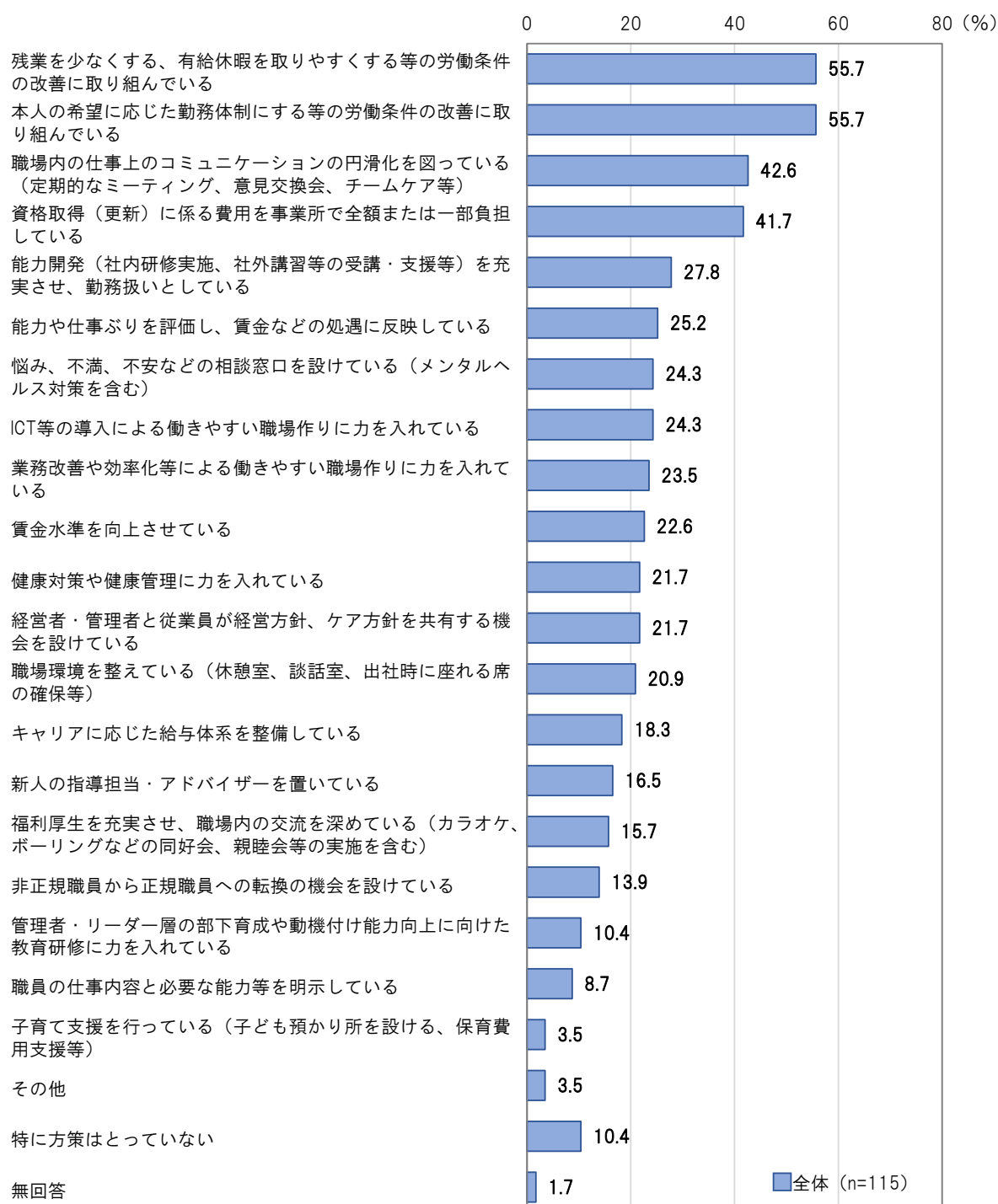


■全体（n=115）

（５）早期離職防止や定着促進を図るための方策

問 貴事業所では、職員の早期離職防止や定着促進を図るために、どのような方策をとっていますか。（あてはまるものすべてに○）

○早期離職防止や定着促進を図るための方策は、「残業を少なくする、有給休暇を取りやすくする等の労働条件の改善に取り組んでいる」と「本人の希望に応じた勤務体制にする等の労働条件の改善に取り組んでいる」がそれぞれ5割を占めて同率で最も高く、次いで「職場内の仕事上のコミュニケーションの円滑化を図っている（定期的なミーティング、意見交換会、チームケア等）」、「資格取得（更新）に係る費用を事業所で全額または一部負担している」となっている。

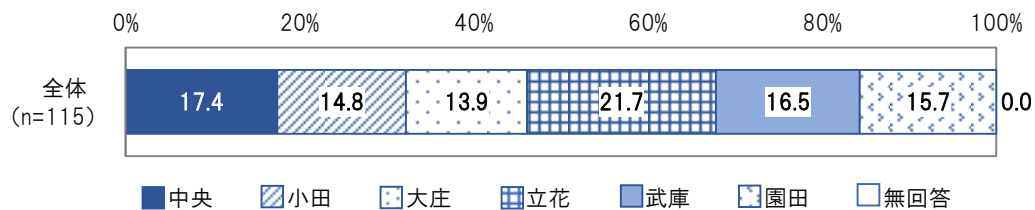


3. 事業運営等について

（1）利用者が最も多い日常生活圏域

問 貴事業所の所属のケアマネジャーで担当している利用者が最も多い日常生活圏域をお答えください。

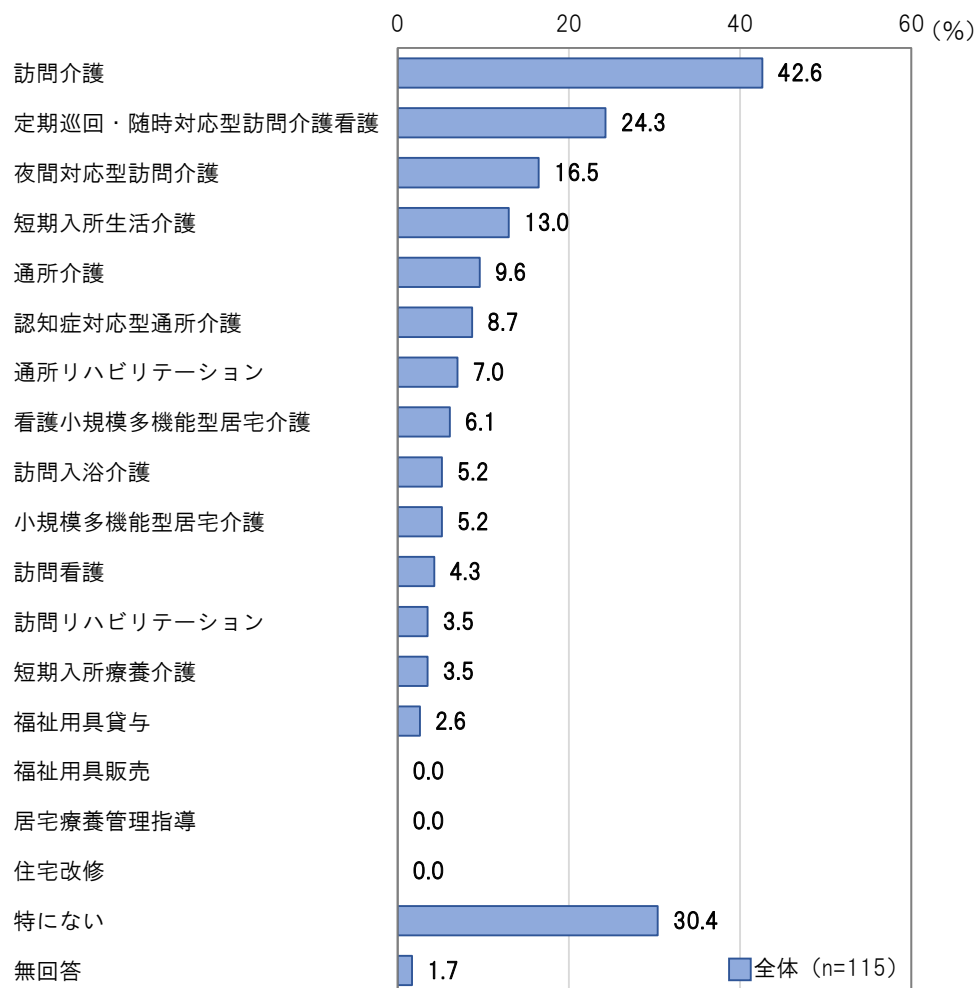
○利用者が最も多い日常生活圏域は、「立花」が2割を占め最も高く、次いで「中央」、「武庫」、「園田」の順となっている。



（2）特に不足している介護保険サービス

問 問12で選択した「担当している利用者が最も多い圏域」について、特に不足していると思われる介護保険サービスは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

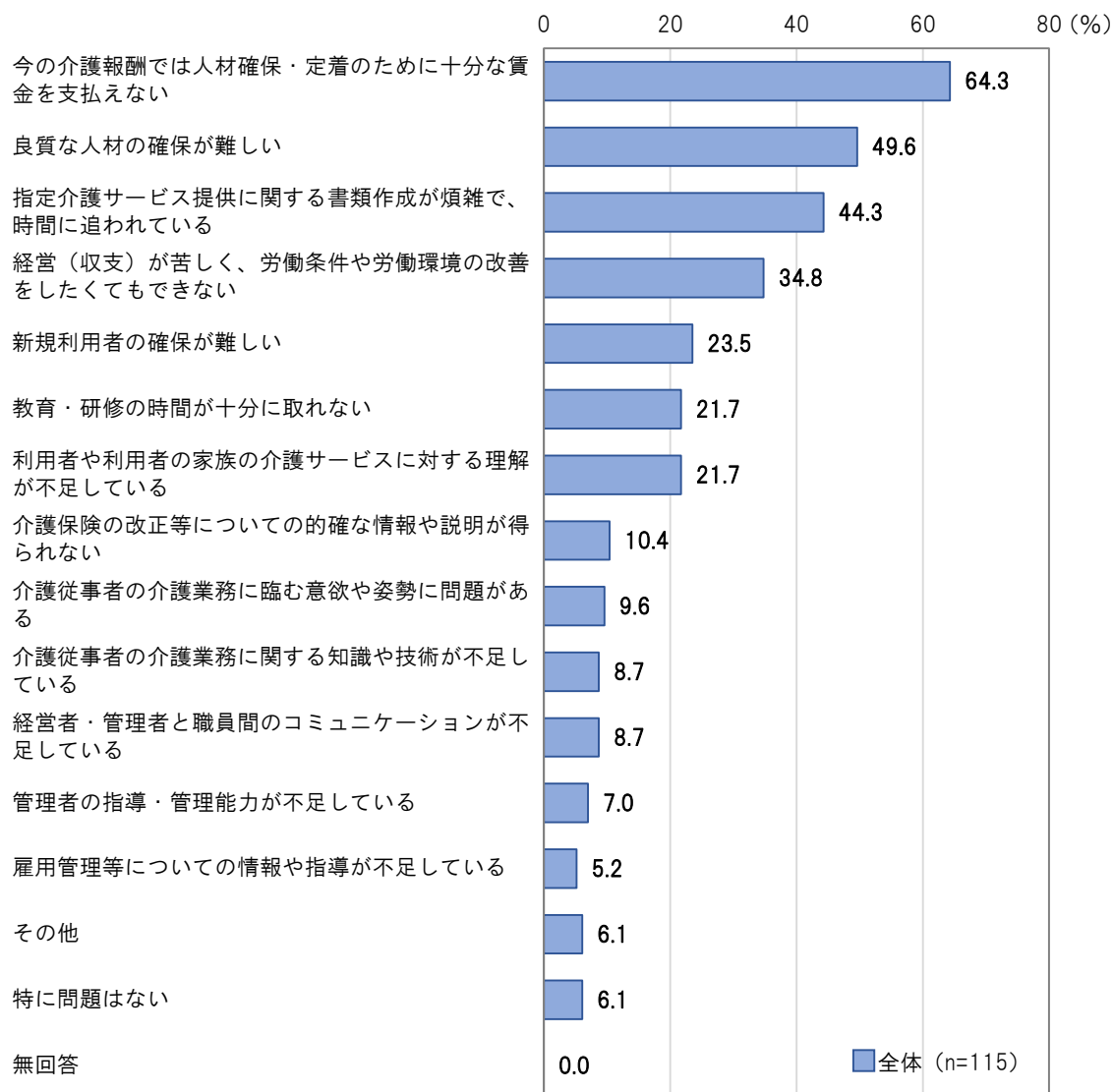
○利用者が多い日常生活圏域で特に不足している介護保険サービスは、「訪問介護」が最も高く、次いで「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」、「夜間対応型訪問介護」、「短期入所生活介護」の順となっている。



(3) 事業を運営する上で問題等

問 事業を運営する上で問題等がありますか。（あてはまるものすべてに○）

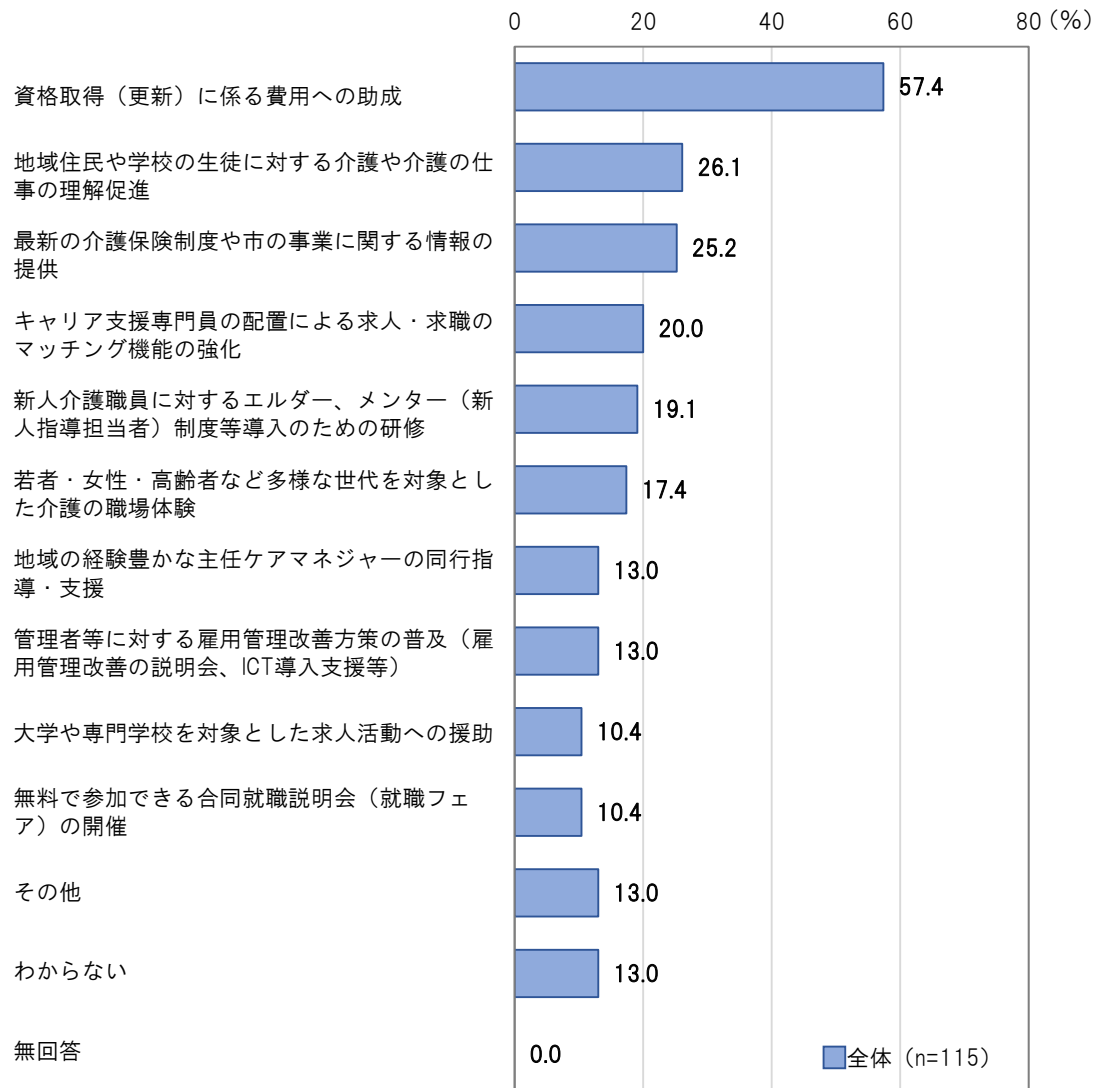
○事業を運営する上での問題等は、「今の介護報酬では人材確保・定着のために十分な賃金を支払えない」が6割以上を占め最も高く、次いで「良質な人材の確保が難しい」、「指定介護サービス提供に関する書類作成が煩雑で、時間に追われている」、「経営（収支）が苦しく、労働条件や労働環境の改善をしたくてもできない」の順となっている。



（４）ケアマネジャーの確保・定着等に対する支援で効果が高いもの

問 ケアマネジャーの確保・定着等に対する支援について、以下の中で効果が高いと思うもの
はありますか。（５つまで○）

○ケアマネジャーの確保・定着等に対する支援で効果が高いものは、「資格取得（更新）に係る費用への助成」が５割以上を占め最も高く、次いで「地域住民や学校の生徒に対する介護や介護の仕事の理解促進」、「最新の介護保険制度や市の事業に関する情報の提供」、「キャリア支援専門員の配置による求人・求職のマッチング機能の強化」の順となっている。



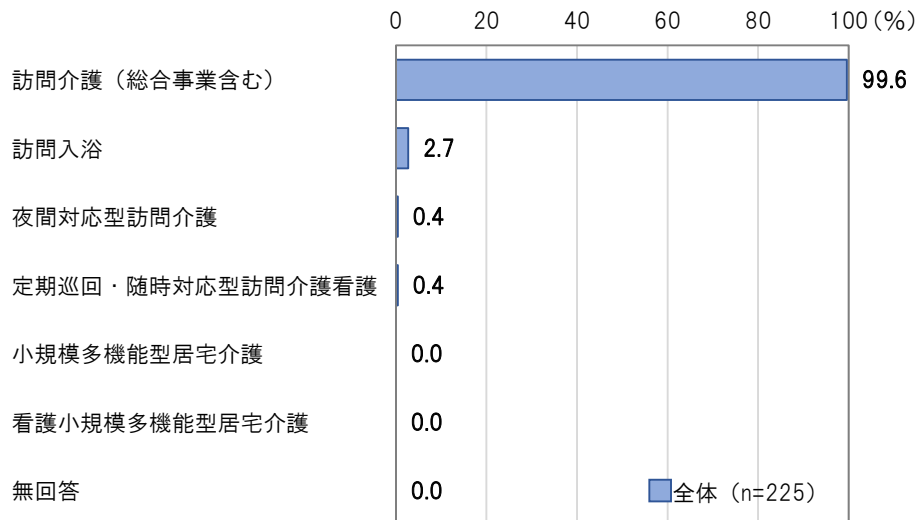
VI 調査結果（介護人材実態調査〔職員〕）

1. サービス提供について

（1）サービス種別

問 あなたが、本調査票を受け取った事業所で提供するサービス種別（介護予防を含む）について、ご回答ください。（あてはまるものすべてに○）

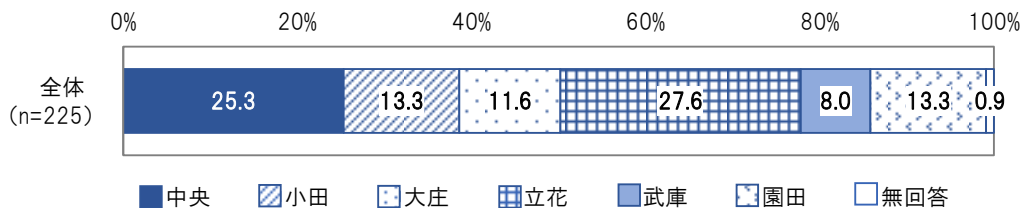
○サービス種別は、「訪問介護（総合事業含む）」がほとんどを占め最も高く、次いで「訪問入浴」となっている。



（2）日常生活圏域

問 貴事業所の所在する日常生活圏域の地区名をお答えください。（1つに○）

○日常生活圏域は、「立花」が最も高く、次いで「中央」、「小田」と「園田」が同率で続いている。

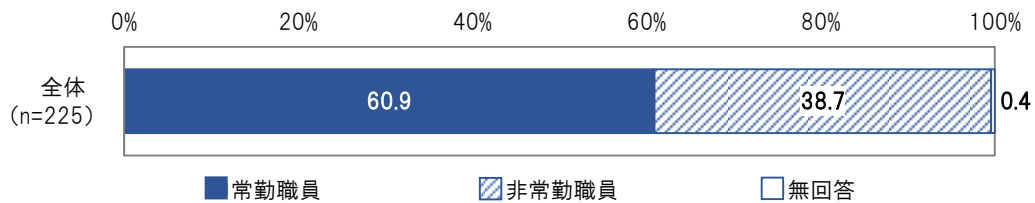


（3）雇用形態、性別、年齢、過去1週間の勤務時間等

問 あなたの雇用形態、性別、年齢、過去1週間の勤務時間等について、ご回答ください。

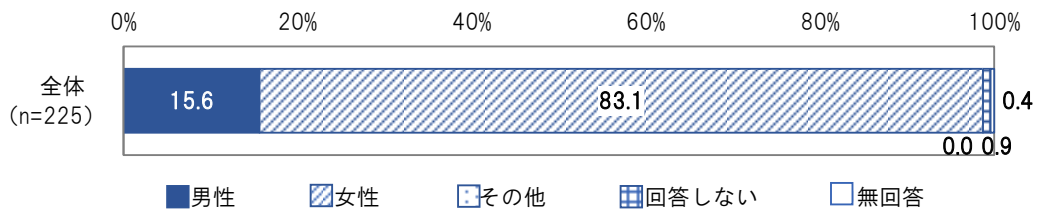
① 雇用形態

○雇用形態は、「常勤職員」が約6割と高く、「非常勤職員」が4割未満となっている。



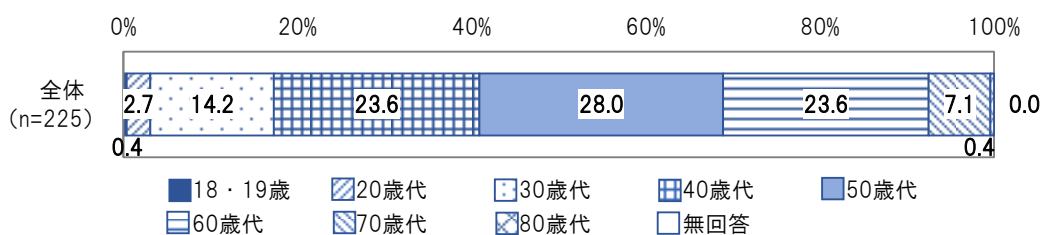
② 性別

○性別は、女性が8割以上を占めており、男性は2割未満となっている。



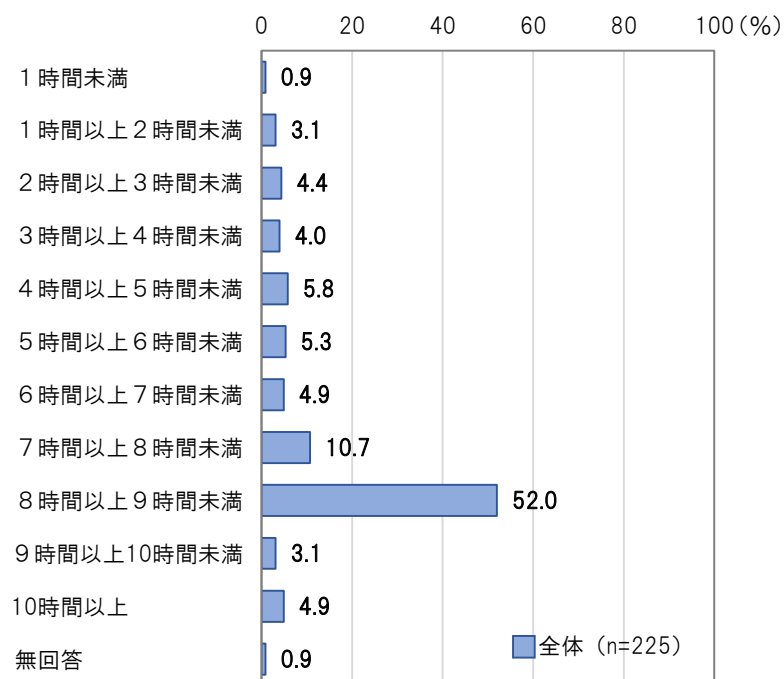
③ 年齢

○年齢は、「50歳代」が最も高く、次いで「40歳代」と「60歳代」（同率）、「30歳代」の順となっている。



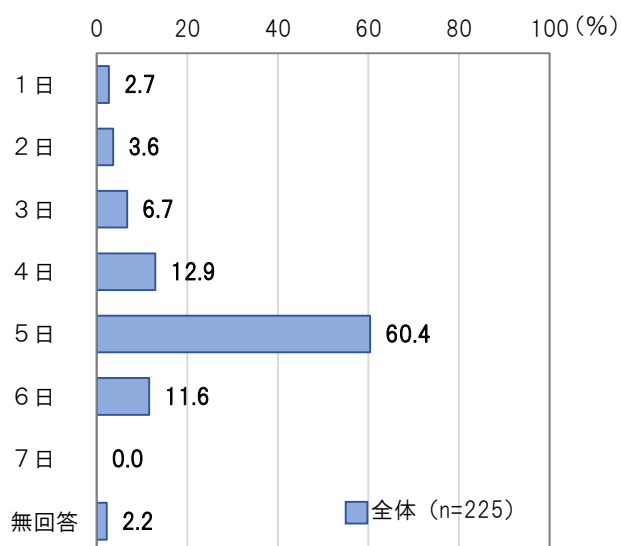
④ 1日あたりの勤務時間

○1日あたりの勤務時間は、「8時間以上9時間未満」が約半数を占め最も高く、次いで「7時間以上8時間未満」、「4時間以上5時間未満」、「5時間以上6時間未満」の順となっている。



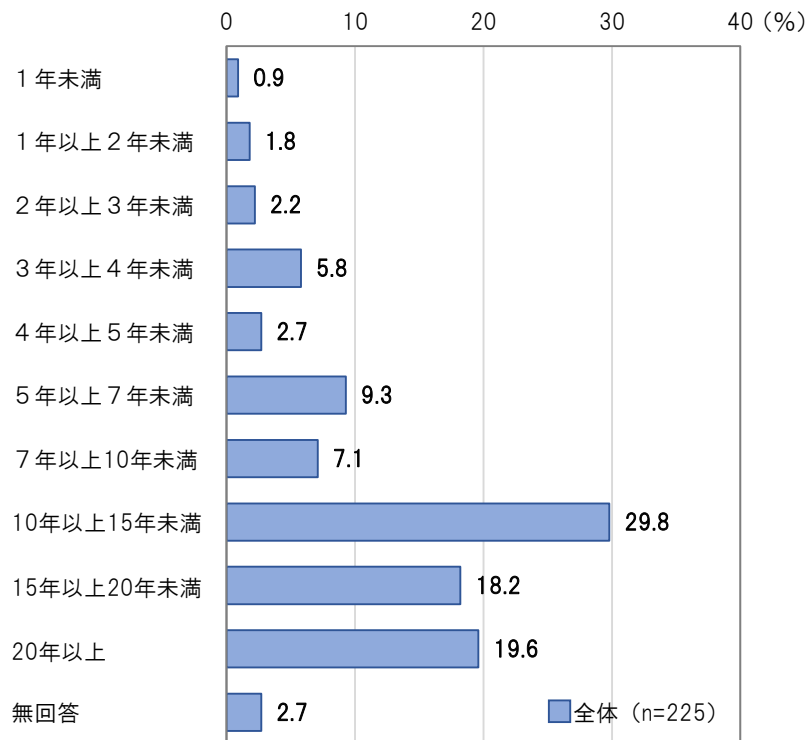
⑤ 週あたりの勤務日数

○週あたりの勤務日数は、「5日」が約6割と最も高く、次いで「4日」、「6日」、「3日」の順となっている。



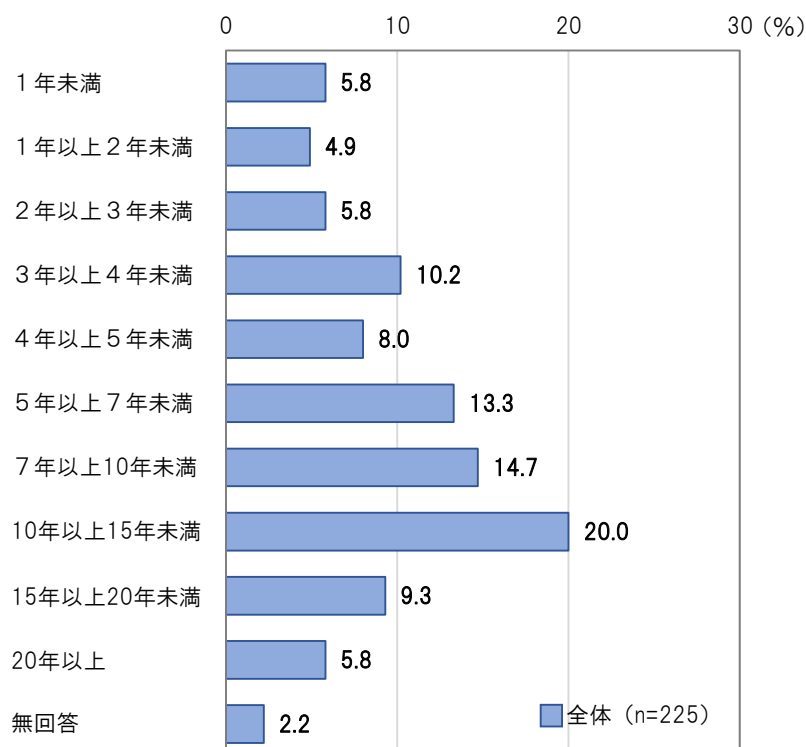
⑥ 介護・福祉の仕事の経験年数

○介護・福祉の仕事の経験年数は、「10年以上15年未満」が最も高く、次いで「20年以上」、「15年以上20年未満」、「5年以上7年未満」の順となっている。



⑦ 現在の事業所での勤務年数

○現在の事業所での勤務年数は、「10年以上15年未満」が最も高く、次いで「7年以上10年未満」、「5年以上7年未満」、「3年以上4年未満」の順となっている。

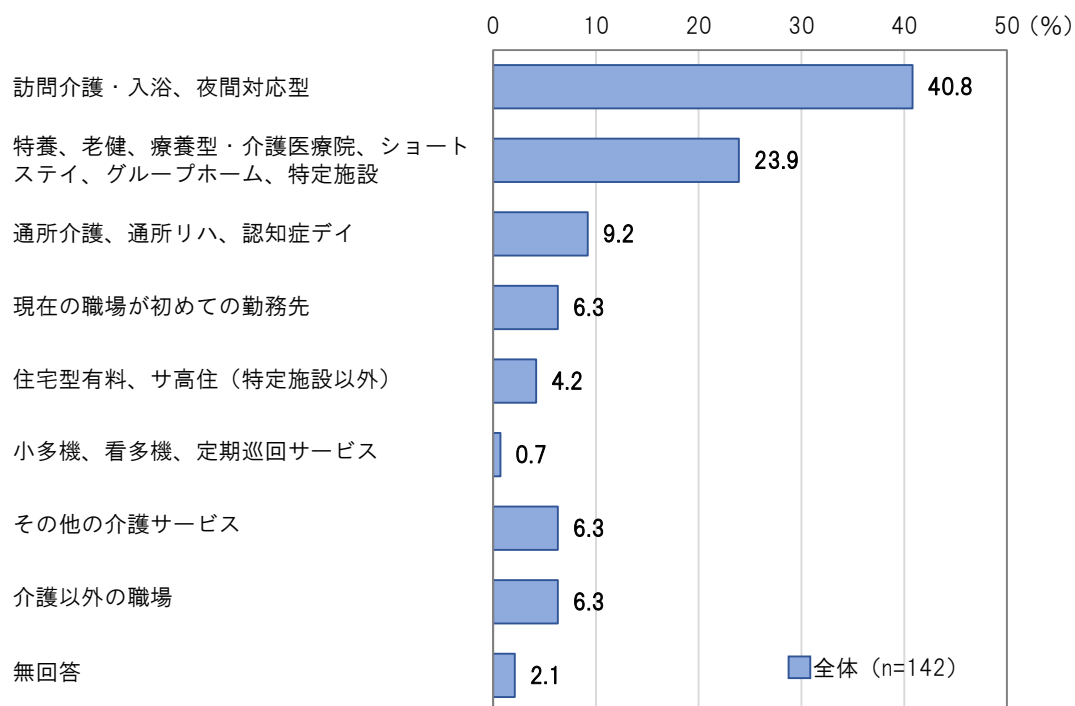


(3-1) 直前の職場

(3) で期間が一致しない人のみ

問 現在の事業所に勤務する直前の職場について、以下にご回答ください。(1つに○)

○直前の職場は、「訪問介護・入浴、夜間対応型」が約4割を占め最も高く、次いで「特養、老健、療養型・介護医療院、ショートステイ、グループホーム、特定施設」、「通所介護、通所リハ、認知症デイ」の順となっている。



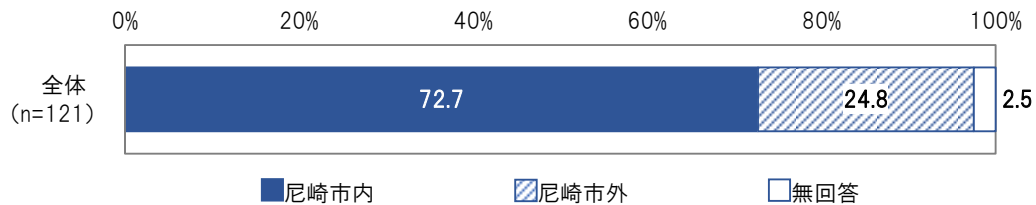
（3-2）直前の職場の場所と法人

（3-1）で「現在の職場が初めての勤務先」以外と回答した人のみ

問 ご回答いただいた直前の職場について、以下にご回答ください。（1つに○）

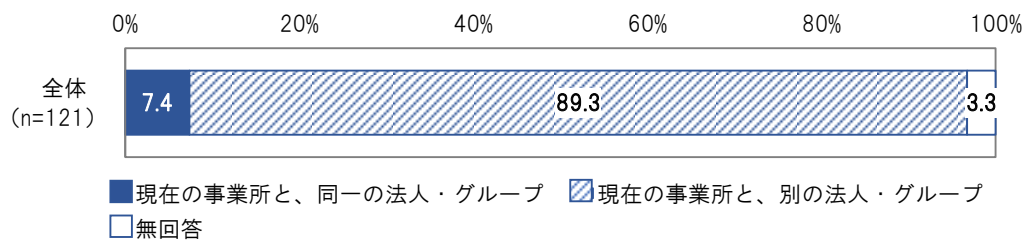
① 場所

○直前の職場の場所は、「尼崎市外」が7割以上を占めており、「尼崎市外」が約2割となっている。



② 法人

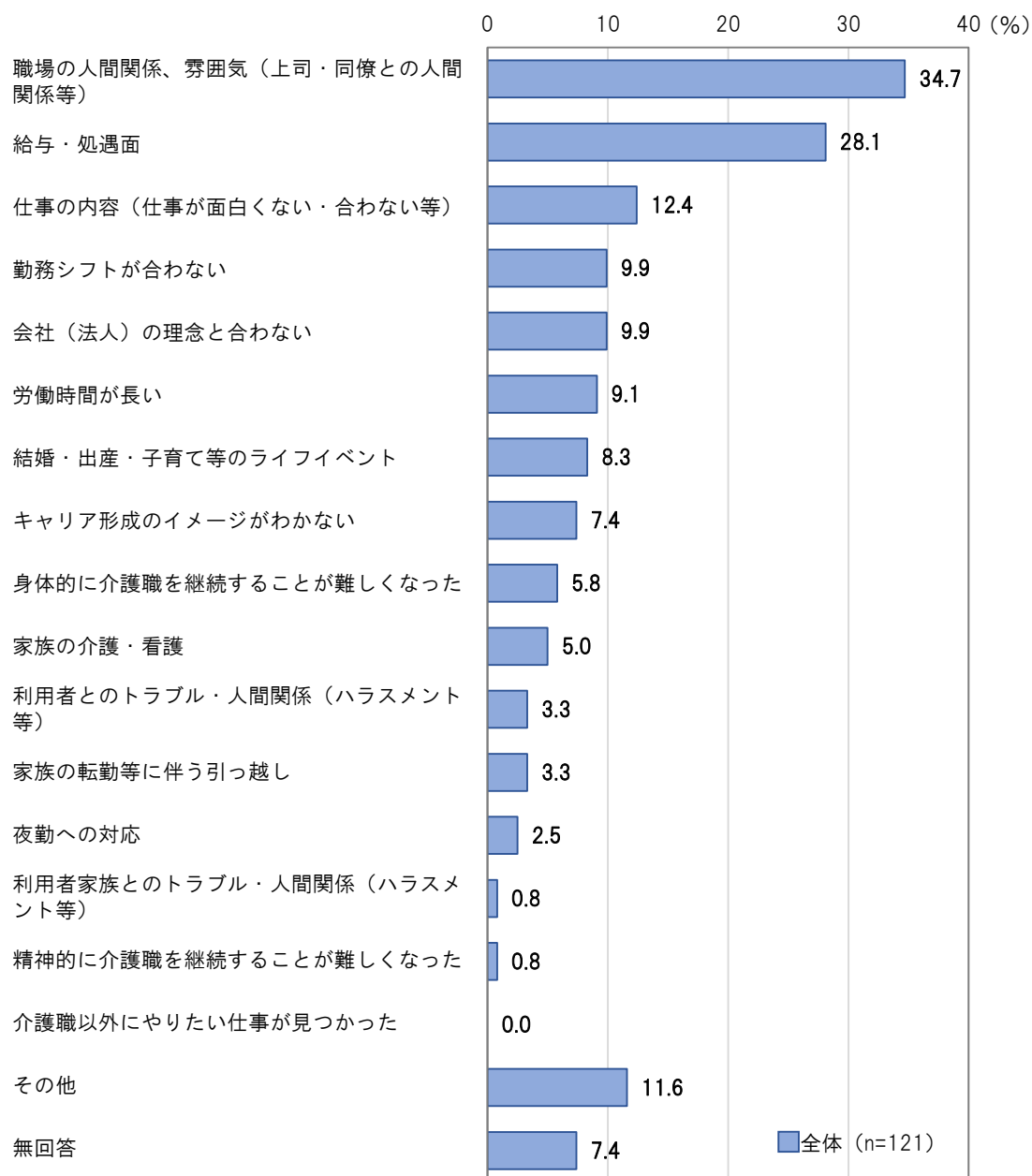
○直前の職場の法人は、「現在の事業所と、別の法人・グループ」が約9割を占めており、「現在の事業所と、同一の法人・グループ」は1割未満となっている。



(3-3) 退職（転職）理由

問 退職（転職）された理由をご回答ください。（あてはまるものすべてに○）

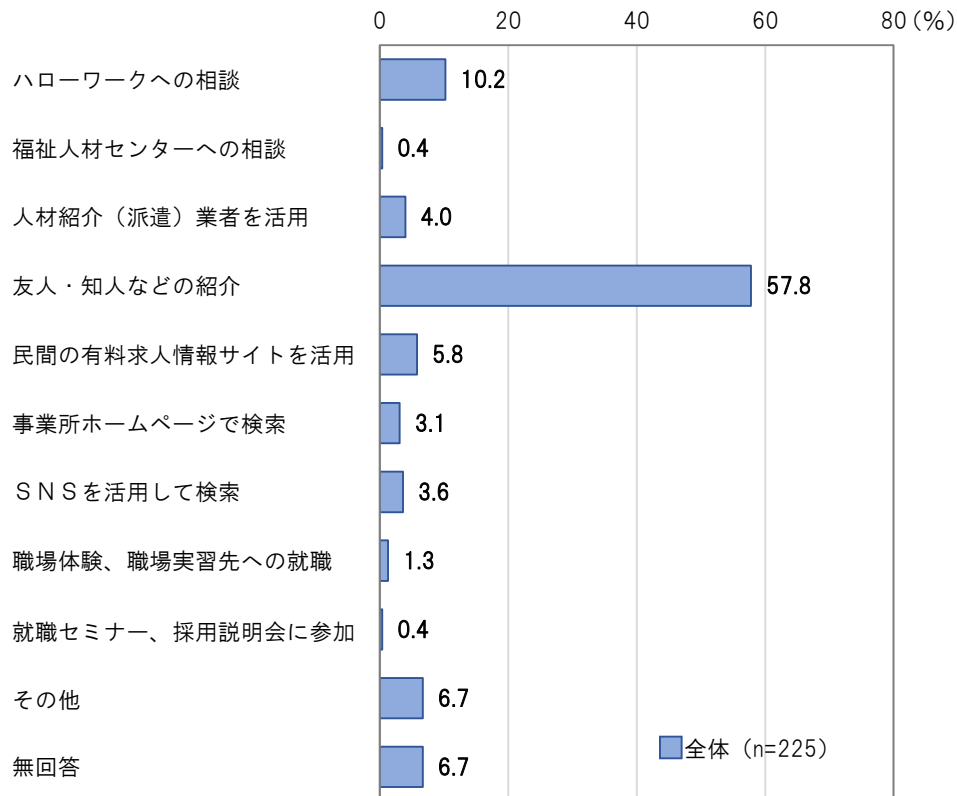
○退職（転職）した理由は、「職場の人間関係、雰囲気（上司・同僚との人間関係等）」が最も高く、次いで「給与・処遇面」、「仕事の内容（仕事が面白くない・合わない等）」の順となっている。



（４）就職、転職（再就職）活動として最も活用して効果的なもの

問 就職、転職（再就職）活動として最も活用し、効果的であったものをご回答ください。
（１つに○）

○就職、転職（再就職）活動として最も活用して効果的なものは、「友人・知人などの紹介」が半数以上を占め最も高く、次いで「ハローワークへの相談」、「民間の有料求人情報サイトを活用」、「人材紹介（派遣）業者を活用」の順となっている。

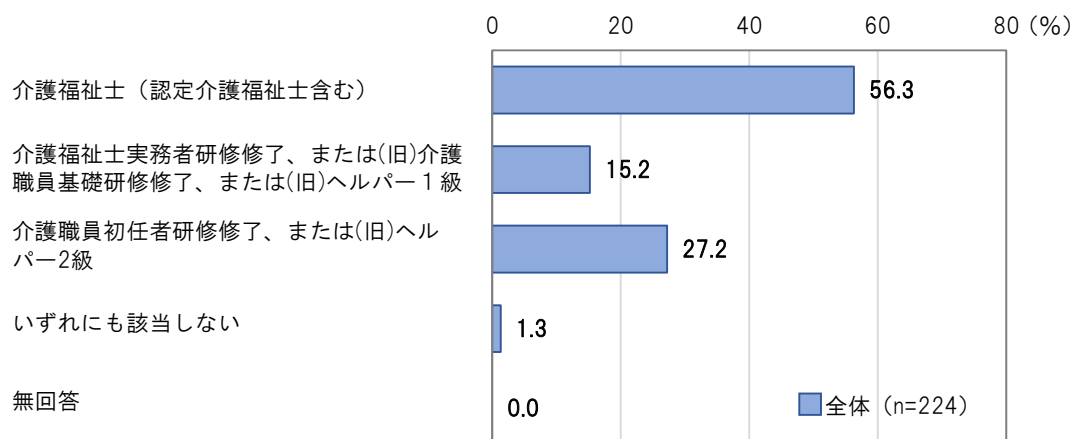


（５）資格の取得、研修の修了の状況

「訪問介護員」のみ

問 あなたの資格の取得、研修の修了の状況について、ご回答ください（１つに○）

○資格の取得、研修の終了の状況は、「介護福祉士（認定介護福祉士含む）」が最も高く、次いで「介護職員初任者研修修了、または(旧)ヘルパー２級」、「介護福祉士実務者研修修了、または(旧)介護職員基礎研修修了、または(旧)ヘルパー１級」の順となっている。

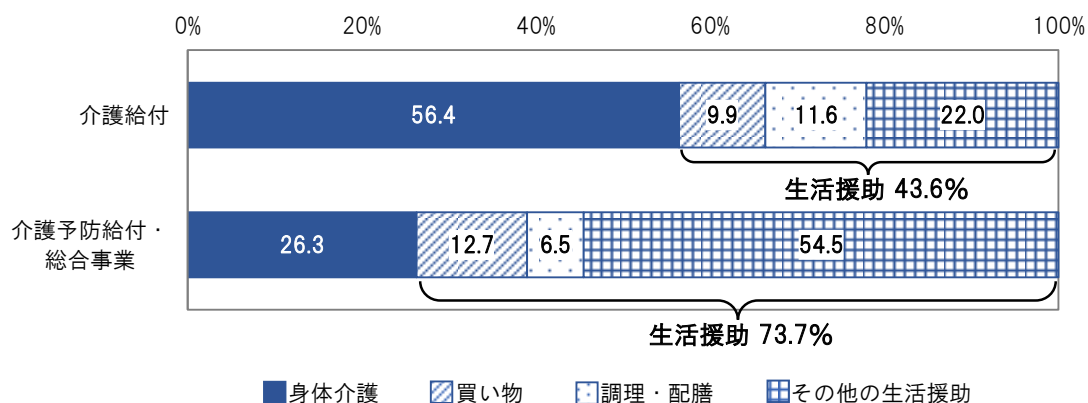


(6) サービス提供時間

「訪問介護員」のみ

問 「訪問介護（総合事業含む）」「訪問入浴」「夜間対応型訪問介護」「小規模多機能型居宅介護」「看護小規模多機能型居宅介護」「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」に従事されている方にお聞きします。

○平均サービス提供時間をみると、週の合計で介護給付の「身体介護」は500分（56.4%）、「生活援助」で386分（43.6%）で、身体介護のほうが長くなっているが、予防給付では「身体介護」が58分（26.3%）、「生活援助」が163分（73.7%）で、「生活援助」のほうが長くなっている。



① 介護給付のサービス提供時間合計と平均サービス提供時間

	サービス提供時間の合計（分）						平均サービス提供時間（分）				
	身体介護	生活援助			生活援助	合計	身体介護	生活援助			生活援助
		買い物	調理・配膳	その他の生活援助				買い物	調理・配膳	その他の生活援助	
月曜日	15,124	3,645	3,370	5,622	12,637	27,761	91	22	20	34	76
火曜日	12,894	1,970	2,825	6,227	11,022	23,916	78	12	17	38	66
水曜日	13,217	2,570	2,685	5,117	10,372	23,589	80	16	16	31	62
木曜日	12,643	2,460	2,610	5,319	10,389	23,032	76	15	16	32	63
金曜日	13,488	2,510	2,785	5,086	10,381	23,869	81	15	17	31	63
土曜日	10,340	1,215	2,160	3,210	6,585	16,925	62	7	13	19	40
日曜日	5,321	250	665	1,804	2,719	8,040	32	2	4	11	16
週の合計	83,027	14,620	17,100	32,385	64,105	147,132	500	88	103	195	386

② 予防給付のサービス提供時間合計と平均サービス提供時間

	サービス提供時間の合計（分）						平均サービス提供時間（分）				
	身体介護	生活援助			生活援助	合計	身体介護	生活援助			生活援助
		買い物	調理・配膳	その他の生活援助				買い物	調理・配膳	その他の生活援助	
月曜日	850	415	125	1,335	1,875	2,725	14	7	2	22	31
火曜日	524	320	100	1,315	1,735	2,259	9	5	2	22	28
水曜日	490	255	230	1,100	1,585	2,075	8	4	4	18	26
木曜日	204	305	290	1,530	2,125	2,329	3	5	5	25	35
金曜日	930	280	95	1,625	2,000	2,930	15	5	2	27	33
土曜日	480	95	20	285	400	880	8	2	0	5	7
日曜日	60	45	20	150	215	275	1	1	0	3	4
週の合計	3,538	1,715	880	7,340	9,935	13,473	58	28	14	120	163

■（参考）曜日ごとのサービス提供時間と1週間のサービス提供時間

① 介護給付の曜日ごとのサービス提供時間と1週間のサービス提供時間

曜日	曜日ごとのサービス提供時間の構成比（横集計）					1週間のサービス提供時間構成比（縦集計）				
	身体介護	生活援助			生活援助	身体介護	生活援助			生活援助
		買い物	調理・配膳	その他の生活援助			買い物	調理・配膳	その他の生活援助	
月曜日	54.5%	13.1%	12.1%	20.3%	45.5%	18.2%	24.9%	19.7%	17.4%	19.7%
火曜日	53.9%	8.2%	11.8%	26.0%	46.1%	15.5%	13.5%	16.5%	19.2%	17.2%
水曜日	56.0%	10.9%	11.4%	21.7%	44.0%	15.9%	17.6%	15.7%	15.8%	16.2%
木曜日	54.9%	10.7%	11.3%	23.1%	45.1%	15.2%	16.8%	15.3%	16.4%	16.2%
金曜日	56.5%	10.5%	11.7%	21.3%	43.5%	16.2%	17.2%	16.3%	15.7%	16.2%
土曜日	61.1%	7.2%	12.8%	19.0%	38.9%	12.5%	8.3%	12.6%	9.9%	10.3%
日曜日	66.2%	3.1%	8.3%	22.4%	33.8%	6.4%	1.7%	3.9%	5.6%	4.2%
週の合計	56.4%	9.9%	11.6%	22.0%	43.6%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

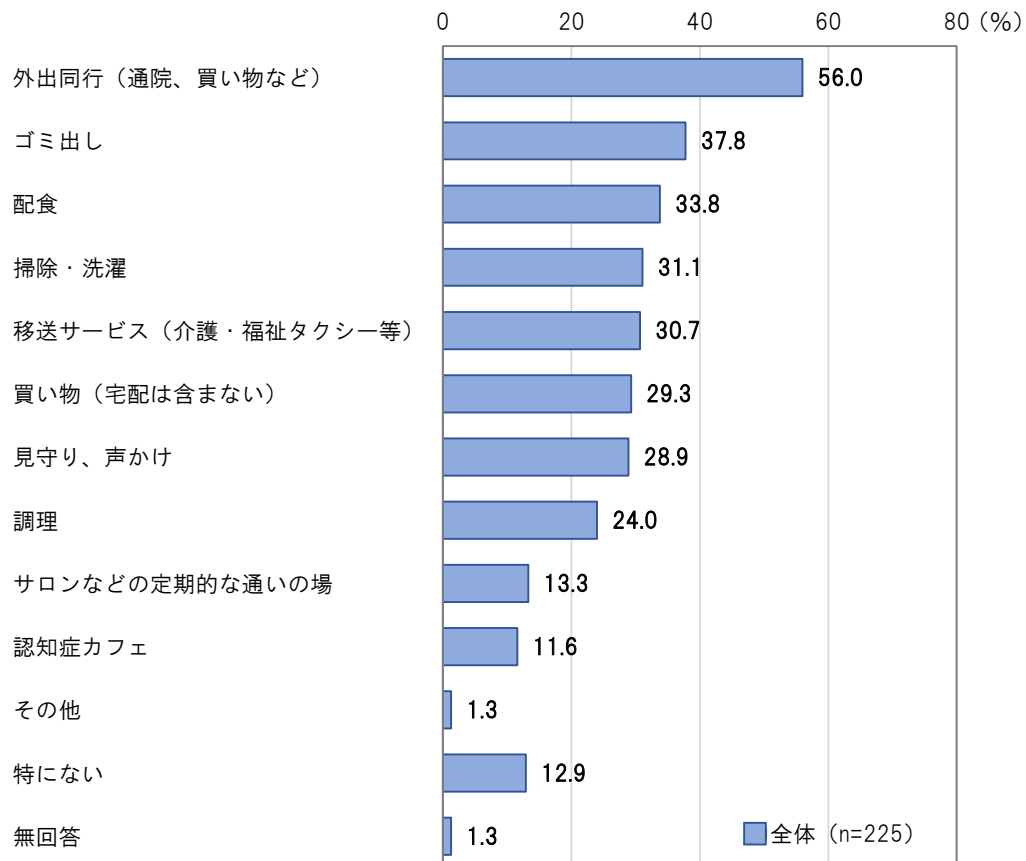
② 予防給付の曜日ごとのサービス提供時間と1週間のサービス提供時間

曜日	曜日ごとのサービス提供時間の構成比（横集計）					1週間のサービス提供時間構成比（縦集計）				
	身体介護	生活援助			生活援助	身体介護	生活援助			生活援助
		買い物	調理・配膳	生活その他の			買い物	調理・配膳	生活その他の	
月曜日	31.2%	15.2%	4.6%	49.0%	68.8%	24.0%	24.2%	14.2%	18.2%	18.9%
火曜日	23.2%	14.2%	4.4%	58.2%	76.8%	14.8%	18.7%	11.4%	17.9%	17.5%
水曜日	23.6%	12.3%	11.1%	53.0%	76.4%	13.8%	14.9%	26.1%	15.0%	16.0%
木曜日	8.8%	13.1%	12.5%	65.7%	91.2%	5.8%	17.8%	33.0%	20.8%	21.4%
金曜日	31.7%	9.6%	3.2%	55.5%	68.3%	26.3%	16.3%	10.8%	22.1%	20.1%
土曜日	54.5%	10.8%	2.3%	32.4%	45.5%	13.6%	5.5%	2.3%	3.9%	4.0%
日曜日	21.8%	16.4%	7.3%	54.5%	78.2%	1.7%	2.6%	2.3%	2.0%	2.2%
週の合計	26.3%	12.7%	6.5%	54.5%	73.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

（７）介護保険外サービスで需要が高まるサービス

問 あなたから見て、以下の介護保険外サービスで、今後需要が高まると思うサービスはありますか。（あてはまるものすべてに○）

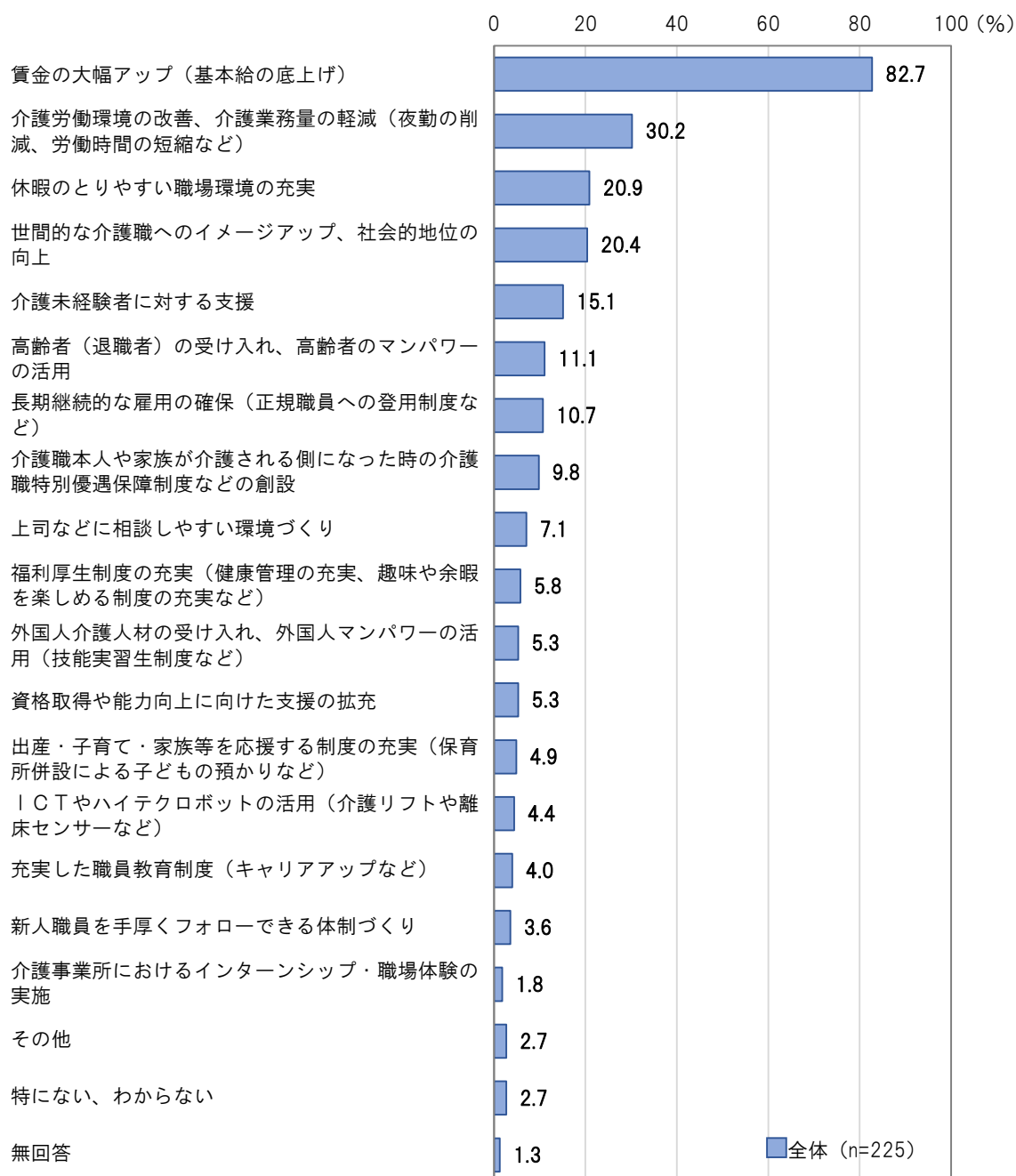
○介護保険外サービスで需要が高まるサービスは、「外出同行（通院、買い物など）」が５割以上で最も高く、次いで「ゴミ出し」、「配食」、「掃除・洗濯」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」の順となっている。



（８）介護人材不足の解決に有効な取組

問 介護人材不足の問題が深刻化していますが、解決に向けて有効と思われる取組は何だと思いませんか。（３つまで○）

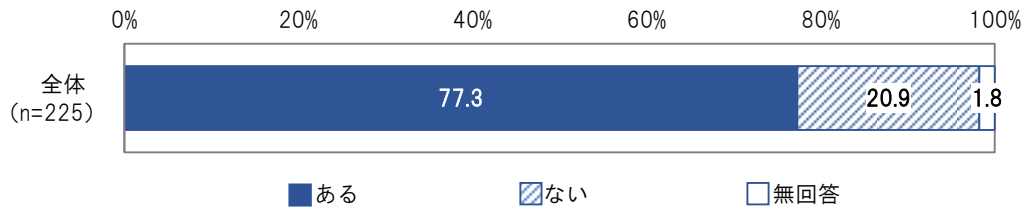
○介護人材不足の解決に有効な取組は、「賃金の大幅アップ（基本給の底上げ）」が８割以上を占め最も高く、次いで「介護労働環境の改善、介護業務量の軽減（夜勤の削減、労働時間の短縮など）」、「休暇のとりやすい職場環境の充実」、「世間的な介護職へのイメージアップ、社会的地位の向上」の順となっている。



（９）介護関係の研修や講習会等の参加有無

問 あなたは、この１年間で介護に関わる研修や講習会（事業所内外問わず）に参加したことがありますか。（１つに○）

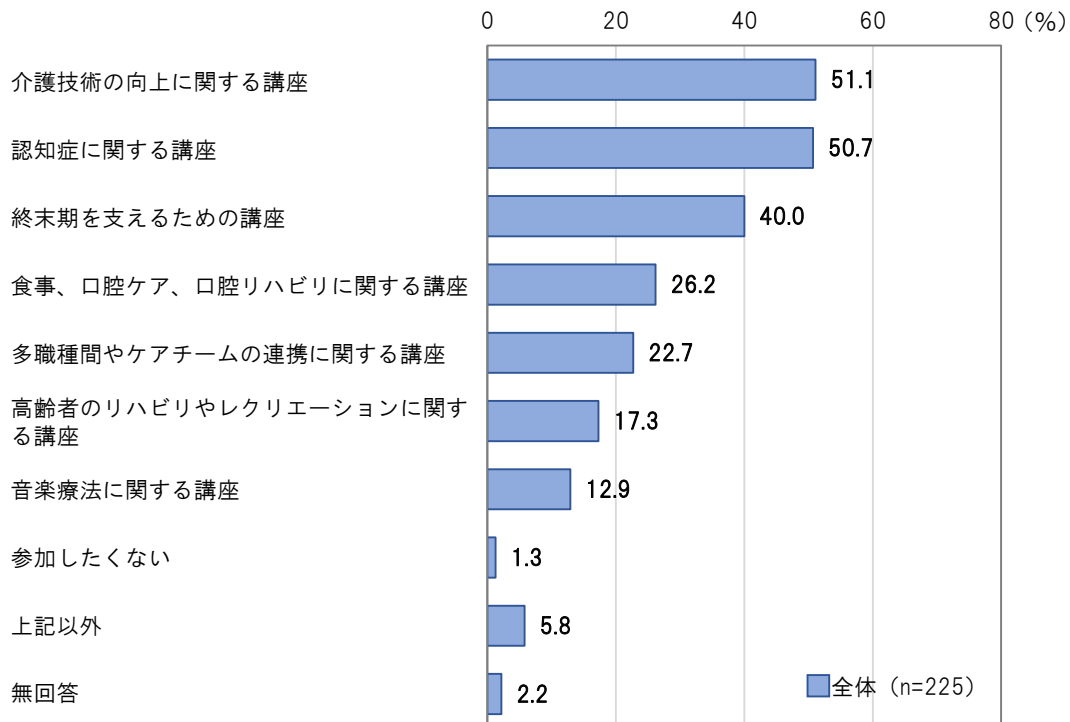
○介護関係の研修や講習会の参加有無は、「ある」が８割近くを占めており、「ない」は約２割となっている。



（10）参加したい研修や講習会等

問 あなたは、以下のような研修や講習会等（事業所内外問わず）があった場合、参加したいものはありますか。（あてはまるものすべてに○）

○参加したい研修や講習会等は、「介護技術の向上に関する講座」が最も高く、次いで「認知症に関する講座」、「終末期を支えるための講座」、「食事、口腔ケア、口腔リハビリに関する講座」の順となっている。



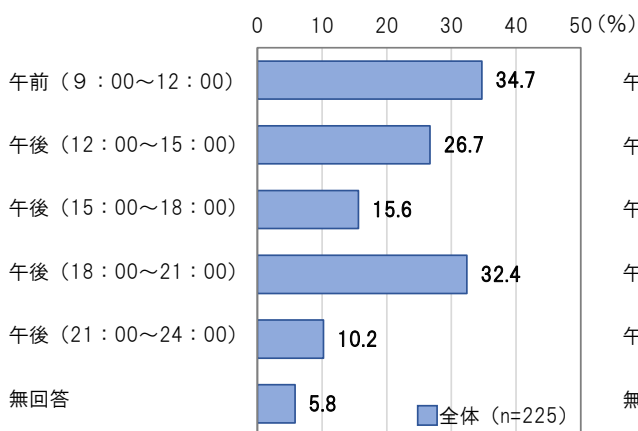
(11) 介護関係の研修や講習会等に参加しやすい時間帯や曜日

問 介護保険に関する研修や講習会等に参加する場合、あなたが参加しやすい時間帯や曜日等について、お答えください。

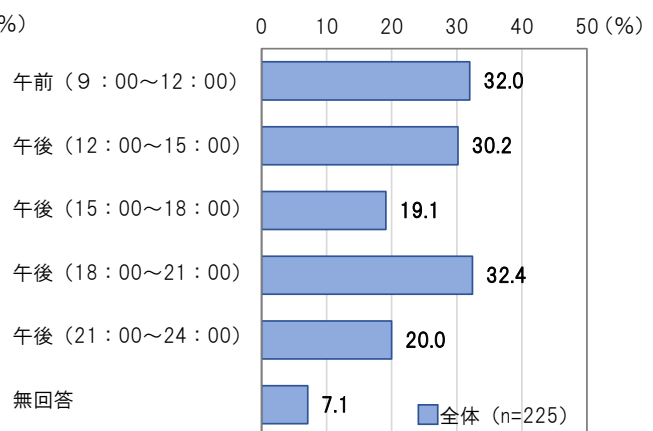
① 時間帯

○参加しやすい時間帯は、対面・参集型開催の場合では「午前（９：００～１２：００）」が最も高く、次いで「午後（１８：００～２１：００）」、「午後（１２：００～１５：００）」の順となっている。オンラインで開催の場合では「午後（１８：００～２１：００）」が最も高く、次いで「午前（９：００～１２：００）」、「午後（１２：００～１５：００）」、「午後（２１：００～２４：００）」の順となっている。

【対面・参集型開催の場合】



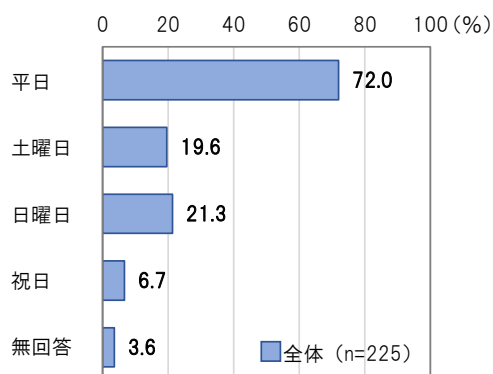
【オンラインで開催の場合】



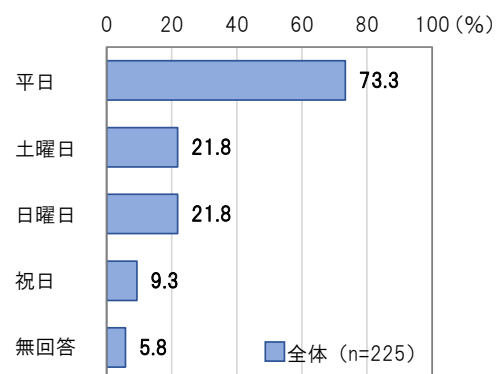
② 曜日

○曜日は、対面・参集型開催の場合では「平日」が最も高く、次いで「日曜日」、「土曜日」の順となっている。オンラインで開催の場合では「平日」が最も高く、次いで「土曜日」と「日曜日」が同率で続いている。

【対面・参集型開催の場合】



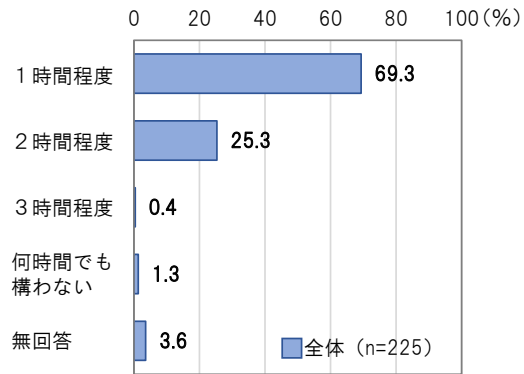
【オンラインで開催の場合】



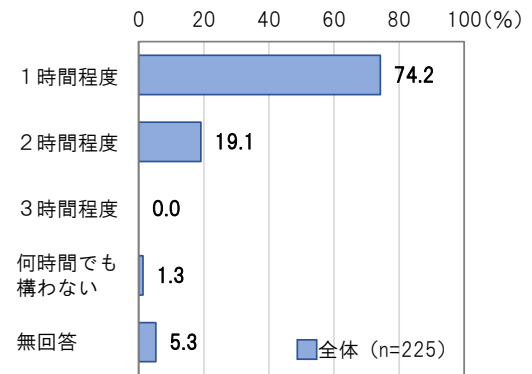
③ 所要時間

○所要時間は、対面・参集型開催の場合では「1 時間程度」が最も高く、次いで「2 時間程度」となっている。オンラインで開催の場合では「1 時間程度」が最も高く、次いで「2 時間程度」となっている。

【対面・参集型開催の場合】



【オンラインで開催の場合】

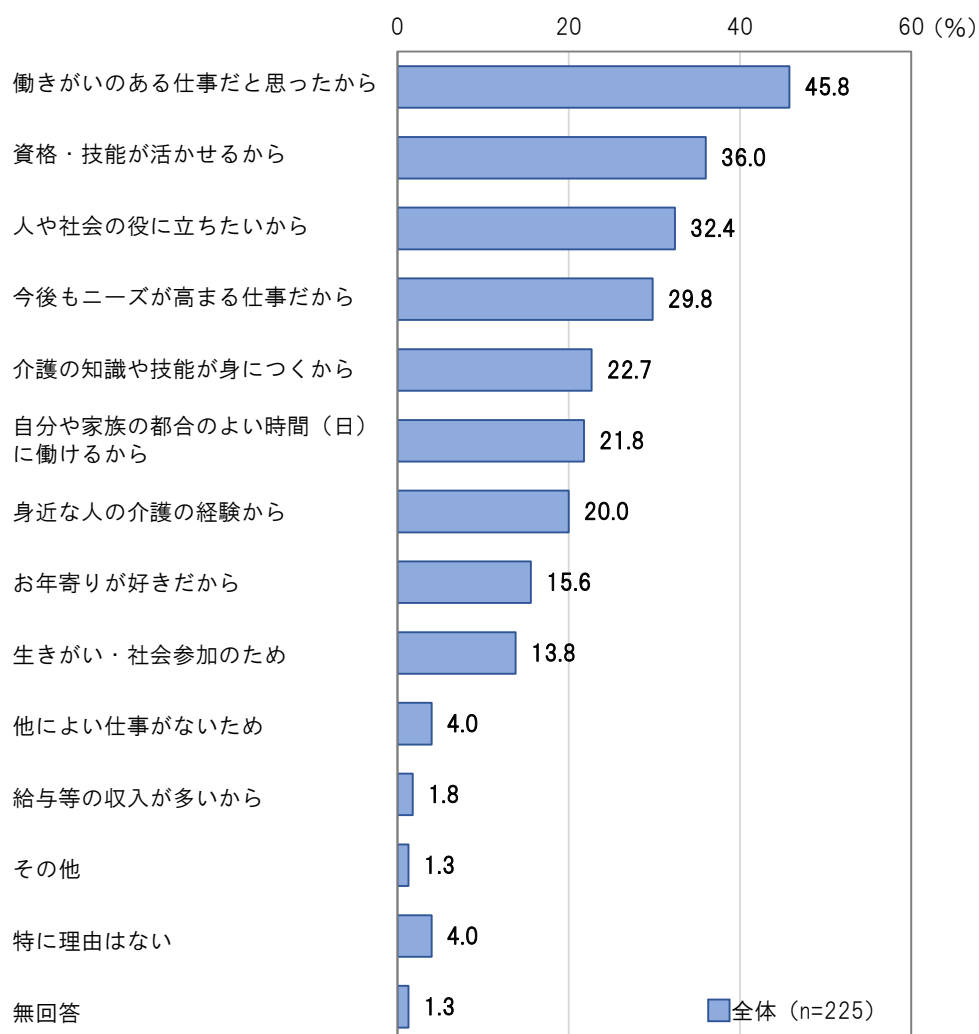


2. 働き方について

(1) 現在の仕事を選んだ理由

問 あなたが現在の仕事を選んだ理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

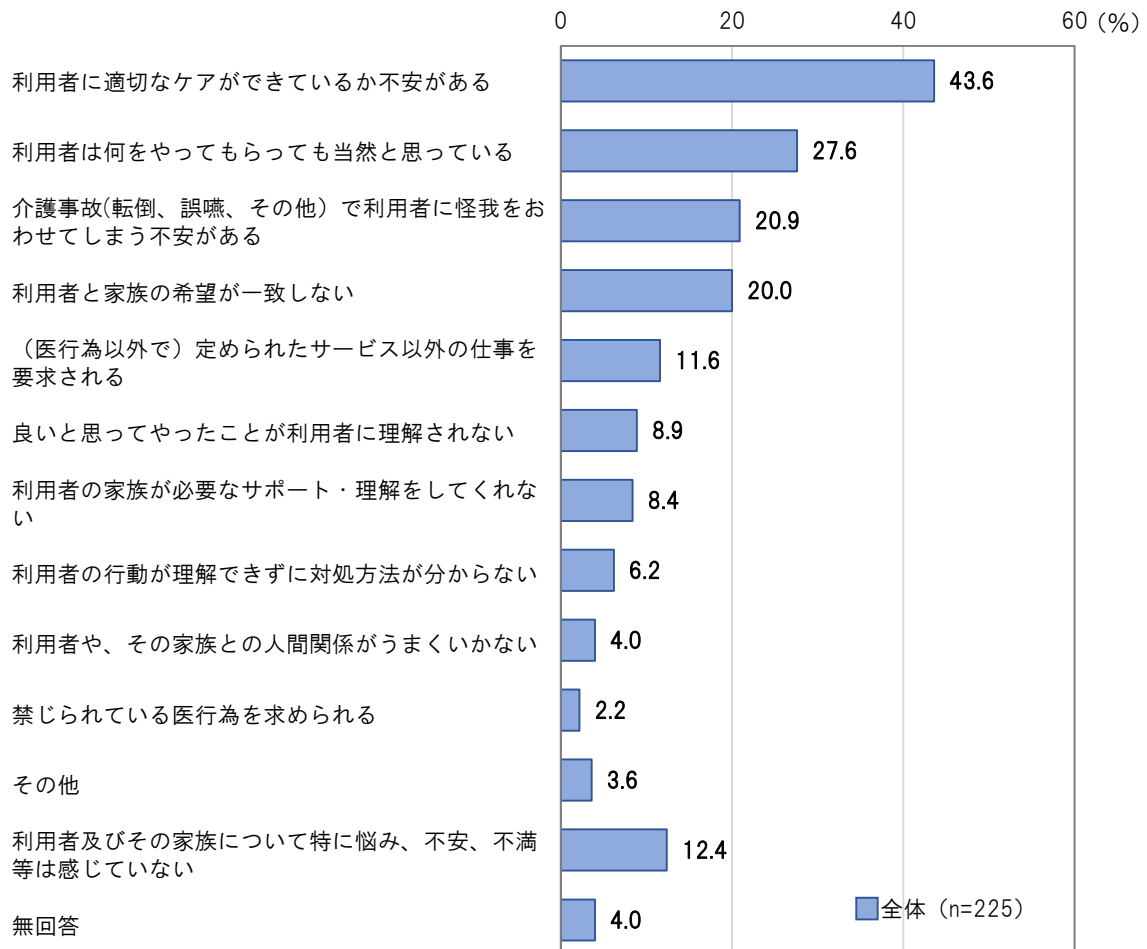
○現在の仕事を選んだ理由は、「働きがいのある仕事だと思ったから」が最も高く、次いで「資格・技能が活かせるから」、「人や社会の役に立ちたいから」、「今後もニーズが高まる仕事だから」の順となっている。



（２）サービス提供にあたっての悩みや不安、不満

問 サービスを提供するにあたっての悩みや不安、不満はありますか。（あてはまるものすべてに○）

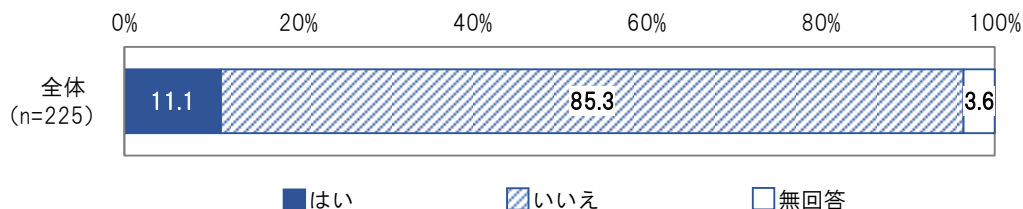
○サービス提供にあたっての悩みや不安、不満は、「利用者に適切なケアができていないか不安がある」が最も高く、次いで「利用者は何をやらせてもらっても当然と思っている」、「介護事故（転倒、誤嚥、その他）で利用者に怪我をおわせてしまう不安がある」、「利用者と家族の希望が一致しない」の順となっている。



(3) ケアマネジャーへの希望有無

問 あなたは今後、ケアマネジャーになりたいと思いますか。(1つに○)

○ケアマネジャーになりたいと思うかについては、「いいえ」が8割以上を占めており、「はい」は1割程度となっている。

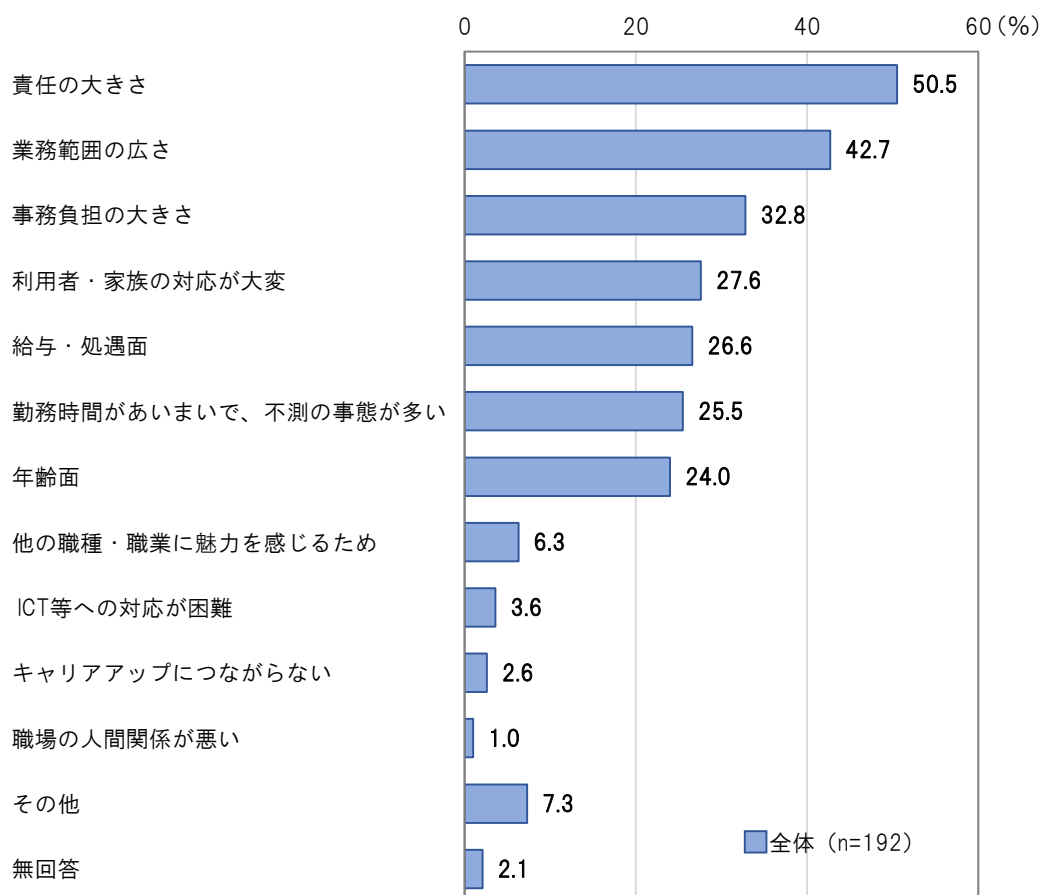


(3-1) ケアマネジャーになりたくない理由

(3) で「いいえ」と回答した人に

問 ケアマネジャーになりたくない理由をご回答ください。(あてはまるものすべてに○)

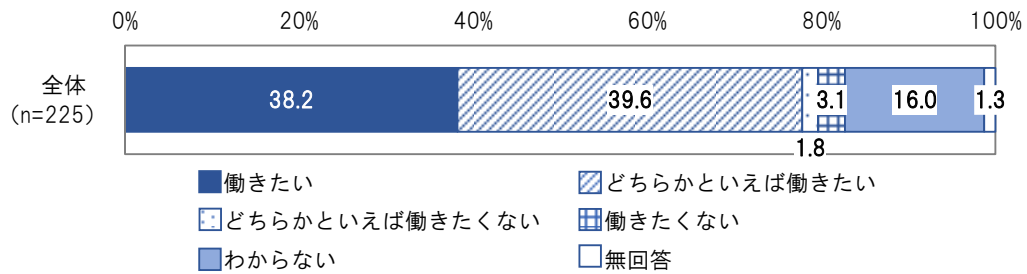
○ケアマネジャーになりたくない理由は、「責任の大きさ」が約半数を占め最も高く、次いで「業務範囲の広さ」、「事務負担の大きさ」、「利用者・家族の対応が大変」の順となっている。



（４）介護に関わる職場の継続意向

問 あなたは、今後も介護に関わる職場で働いていきたいと思いませんか。（１つに○）

○今後も介護に関わる職場で働いていきたいと思うかは、「どちらかといえば働きたい」が最も高く、次いで「働きたい」で、両者を合わせた『働きたい』は約８割を占めている。



＜正誤表＞

ページ	誤	正
13 (5)	コメント2つ目 ○一方で、要支援認定者では「週2～4回」が4割を超えて最も高く、	○一方で、要支援認定者では「週2～4回」が約半数を占めて最も高く、
21 (1)	コメント2行目 ○～「適正（18.5～25.0未満）」が6割を占めている。	○～「適正（18.5～25.0未満）」が約6割を占めている。
53	コメント1つ目 ○未認定者でのボランティア活動をするにあたって必要なことを性別にみると、男性・女性ともに～	○未認定者でのボランティア活動をするにあたって必要なことを性別にみると、「 <u>特にない</u> 」を除いて、男性・女性ともに～
57 (3-1)	コメント1つ目 ○参加したい「しごと」の内容については、未認定者・要支援認定者ともに「内職のような室内での軽作業」が最も高く、未認定者が4割以上、要支援認定者が6割近くを占めている。次いで「食事やカフェのスタッフ（給仕補助、調理補助）」～	コメント1つ目 ○参加したい「しごと」の内容については、未認定者・要支援認定者ともに「内職 <u>作業</u> のような室内での軽作業」が最も高く、未認定者が4割以上、要支援認定者が6割近くを占めている。次いで「 <u>食堂</u> やカフェのスタッフ（給仕補助、調理補助）」～
60 (5)	コメント2つ目 ○一方で、要介護認定者では「ほとんど近所付き合いはない」が約3割で最も高く、近所づきあいをしている人は～	○一方で、要介護認定者では「ほとんど近所付き合いはない」が約3割を <u>占め</u> 、近所づきあいをしている人は～
73	《年齢別（要介護認定者）》 ○要介護認定者での聞き取りづらさのために外出が嫌になることの有無を年齢別にみると、85～89歳で「ある」が5割を超えて最も高くなっている。	○要介護認定者での聞き取りづらさのために外出が嫌になることの有無を年齢別にみると、 <u>65～69歳で「ある」が7割近くを占めて最も高くなっている。</u>
98 (3)①	コメント2つ目 ○また、介護度が高くなるほど「ケアマネジャー」が高くなる傾向がみられる。	○また、介護度が高くなるほど「 <u>かかりつけ医</u> 」や「ケアマネジャー」が高くなる傾向がみられる。
107 (3)	問 主な介護者の方の性別について、ご回答ください。（1つを選択）	問 主な介護者の方の <u>年齢</u> について、ご回答ください。（1つを選択）
117 (1)	コメント5行目 ○～『何かしら働き方について調整等をしている』人が半数以上を占めている。	コメント5行目 ○～『何かしら働き方について調整等をしている』人が半数以上の <u>割合</u> を占めている。